

仙台市文化財調査報告書第226集

南小泉遺跡

第30・31次発掘調査報告書

1998年3月

仙台市教育委員会

仙台市文化財調査報告書第226集

南小泉遺跡

第30・31次発掘調査報告書

1998年3月

仙台市教育委員会

序 文

仙台市若林区にある南小泉遺跡は、昭和初めの霞ノ目飛行場の拡張工事によってその存在が知られるようになりました。遺跡は仙台バイパスを挟んで東西に広がっており、弥生・古墳時代の集落遺跡として仙台を代表する遺跡として知られています。

近年までは田畠が広がる田園地帯でしたが、急速に宅地開発が進みそうした面影もなくなりつつあります。

南小泉遺跡での調査は今回で第31次を数えるまでになりましたが、今回特に注目される発見として、第30次調査では古墳時代中期の大規模な集落の存在が確認され、第31次調査では古墳時代や平安時代の良好な遺物の出土がありました。

先人たちの遺した貴重な文化遺産を次の世代に継承していくことは、現代に生きる私達の大きな責務であると考えます。文化財保護につきましては、地域の皆様の深い御理解と御協力が必要となります。その意味でも今回の発見が、地域の歴史を説き明かしていくための貴重な資料となり、この報告書が学術研究のみならず学校教育や生涯学習の場で活用されれば幸いです。

最後になりましたが、今回の調査や報告書の作成に際しまして御協力いただきました地元の皆様はじめ、関係された方々に心より御礼申し上げます。

1998年3月

仙台市教育委員会

教育長 堀 篠 克 彦

例　　言

- 1 本書は、仙台市若林区遠見塚・南小泉地区での宅地造成工事に伴う、南小泉遺跡第30・31次調査の発掘調査報告書である。
- 2 報告書作成のための遺物整理は、工藤信一郎・渡部 紀・根本光一が担当し、工藤哲司が協力した。本書の編集は工藤・渡部が行い、執筆については、第30次調査については工藤が、第31次調査については根本が、遺物については渡部がそれぞれ分担した。
- 3 陶器・磁器の鑑定は当課の佐藤 洋がおこなった。
- 4 本調査における出土遺物・実測図・写真等の資料は、仙台市教育委員会文化財課で保管しているので活用されたい。
- 5 本遺跡の調査成果については、現地説明会での発表資料および概要報告についての刊行物があるが、本書の記載内容がそれらに優先されるものである。

凡　　例

- 1 本書中で使用した地形図は、建設省国土地理院発行の1:25,000「仙台市東南部」の一部を使用している。
- 2 本書中で使用した航空写真は、建設省国土地理院（1947年米軍撮影）のものを使用している。
- 3 本書中の土色については「新版標準土色帳」（小山・竹原1973）を使用した。
- 4 調査区は、平面直角座標系Xに位置付けている。
- 5 実測図中の水糸高は標高で統一している。
- 6 実測図中の方位は磁北で統一している。仙台市において磁北は真北に対して西偏約7°20'である。
- 7 本書で使用した遺構略号は次のとおりである。
S B：建物跡 S I：竪穴住居跡・竪穴遺構 SD：溝跡 SK：土坑 P：ピット・柱穴
S X：性格不明遺構
- 8 竪穴住居跡内のスクリーントーン部分は、焼土・炭の分布範囲を示している。
- 9 本書で使用した遺物略号は次のとおりで、それぞれ種類別に番号を付した。
B：弥生土器 C：土師器（ロクロ不使用） D：土師器（ロクロ使用） E：須恵器 G：平瓦 I：陶器
J：磁器 K：石器・石製品 N：金属製品 P：土製品
10. 土器・石器の実測図中スクリーントーンを貼付したものは次の状態を示している。



内黒



磨面



敲打面

11. 遺物の「長さ・幅」は、図化した位置での縦・横の長さを計測した。「厚さ」は最大厚である。土玉は、上面観の図における縦横を「長さ・幅」に、側面観の長さを「厚さ」として計測した。石匙は刃部長を長さとした。
12. 石器の石材同定は、職員の肉眼観察による。

調査要項

- 1 対象遺跡 南小泉遺跡（宮城県遺跡登録番号01021 仙台市登録番号C-102）
- 2 遺跡の所在地 第30次調査 仙台市若林区遠見塚1丁目242-4他
第31次調査 仙台市若林区南小泉4丁目27-1他
- 3 調査主体 仙台市教育委員会
- 4 調査担当 仙台市教育局生涯学習部文化財課調査第二係
- 5 担当職員 主事 工藤信一郎 主事 渡部 紀（遺物整理のみ） 文化財教諭 根本光一
- 6 調査期間 野外調査 第30次調査 1996年5月7日～9月13日（実働81日）
第31次調査 1996年9月17日～11月14日（実働36日）
室内整理 1996年11月18日～97年3月25日（実働74日・高砂埋蔵文化財整理室）
- 7 調査面積 第30次調査 調査対象面積 約4,130m² 発掘調査面積 約400m²
第31次調査 調査対象面積 約2,130m² 発掘調査面積 約150m²
- 8 発掘調査参加者
伊藤 房江 泉 美恵子 永野 泰治（桜井 芳子） 小林 悅子（日下 啓子）
高橋 勝恵（鈴木みよ子）（小沼ちえ子）（佐藤 利子） 佐藤 愛子 佐藤ゆう子
佐藤よし子 佐藤リキ子 三浦 市子 横山美智子 根岸 ゆみ（鈴木美代子）
水戸 智 佐藤 久栄（山並 明夫）（村田 健三） 関口 国夫 渡辺 純子
相沢 守 ※（ ）30次調査のみ参加
- 9 整理作業参加者
伊藤 房江 泉 美恵子 高橋 勝恵 佐藤 愛子 横山美智子 根岸 ゆみ
水戸 智 佐藤 久栄 渡辺 純子 相沢 守 青山 謙子 伊藤 幸子
高橋 美香 山田やす子 鈴木 緑子 千葉 基子 境 一美 相沢美佐子
零石 良子
- 10 調査協力 合資会社 泉屋商店（30次調査）
大垣建設株式会社（31次調査）

本文目次

I 調査に至る経過	1
1. 第30次調査	1
2. 第31次調査	1
II 遺跡の位置と環境	1
1. 遺跡の位置と立地	1
2. 周辺の歴史的環境	1
III 第30次調査	6
1. 調査の方法と調査経過	6
2. 調査区の設定	6
3. 調査の概要	7
4. 基本層序	8
5. 発見された遺構と出土遺物	12
(1) 古墳時代	12
①竪穴住居跡・竪穴遺構	12
②竪穴住居跡・土坑出土石製模造品	68
(2) 古代	74
①竪穴住居跡	74
②掘立柱建物跡	80
③小溝状遺構群	83
(3) 中世～近世	84
①屋敷跡	84
(a)区画溝跡	
(b)掘立柱建物跡	
(c)30次調査区周辺の中世の屋敷跡・城館の変遷について	
②墓 壇	89
③階段付地下式坑	89
④溝 跡	93
⑤土坑・その他の遺構	95
(a)土坑	
(b)ピット	
(4) 遺構外出土遺物	103
①弥生土器	103
②弥生時代の石器	103

IV 第31次調査	109
1. 調査の方法と調査経過	109
2. 調査区の設定	109
3. 調査の概要	109
4. 基本層序	110
5. 発見された遺構と出土遺物	110
(1) 古墳時代～奈良時代	110
①堅穴住居跡・堅穴遺構	110
(2) 古代	130
①鍛冶遺構	130
②小溝状遺構群	133
(3) 中世～近世	134
①溝跡	134
②土坑・その他の遺構	139
(a)土坑	
(b)ピット	
(4) 遺構外出土遺物	146
V 考察	150
1. 出土遺物の検討	150
(1) 第30次調査	150
①古墳時代の土師器について	150
②須恵器の技法の認められる土師器について	150
③平安時代の遺物について	150
④黒曜石石器	150
(2) 第31次調査	151
①古墳時代の土師器について	151
②平安時代の遺物について	152
③鍛冶遺構の出土遺物について	152
2. 検出された遺構の検討	152
(1) 第30次調査	152
①堅穴住居跡について	152
②屋敷跡について	152
③墓壙群と階段付地下式坑について	153
(2) 第31次調査	154
①堅穴住居跡について	154
VII まとめ	155

挿 図 目 次

第1図	南小泉遺跡と周辺の遺跡	2	第35図	SI25 積穴住居跡平面図・断面図	36
第2図	第30・31次調査区とこれまでの調査区	5	第36図	SI25 積穴住居跡出土遺物	37
第3図	第30次調査区配置図	6	第37図	SI13 積穴住居跡平面図・断面図	38
第4図	第30次調査区と周辺の調査	7	第38図	SI13 カマド平面図・断面図	39
第5図	調査区基本層序	8	第39図	SI13 積穴住居跡出土遺物	40
第6図	第1トレンチ平面図・断面図	8	第40図	SI32 積穴住居跡平面図・断面図	41
第7図	下層調査区平面図・断面図	9	第41図	SI32 積穴住居跡出土遺物(1)	43
第8図	第30次調査遺構配置図(1)積穴住居跡	10	第42図	SI32 積穴住居跡出土遺物(2)	44
第9図	第30次調査遺構配置図(2)中世遺構	11	第43図	SI14 積穴住居跡平面図・断面図	46
第10図	SI01 積穴住居跡平面図・断面図	12	第44図	SI14 カマド平面図・断面図	47
第11図	SI01 積穴住居跡出土遺物	13	第45図	SI14 積穴住居跡出土遺物(1)	48
第12図	SI30 積穴住居跡平面図・断面図	14	第46図	SI14 積穴住居跡出土遺物(2)	49
第13図	SI30 積穴住居跡出土遺物	14	第47図	SI14 積穴住居跡出土遺物(3)	50
第14図	SI02 積穴住居跡平面図・断面図	15	第48図	SI35 積穴住居跡・出土遺物	51
第15図	SI02 積穴住居跡出土遺物	16	第49図	SI15 積穴遺構平面図・断面図	52
第16図	SI03・04 積穴住居跡平面図・ 断面図・出土遺物	17	第50図	SI15 積穴遺構出土遺物	53
第17図	SI06・07 積穴遺構平面図・断面図	18	第51図	SI16 積穴住居跡・出土遺物	54
第18図	SI06・07 積穴遺構出土遺物	19	第52図	SI23 積穴遺構平面図・断面図	55
第19図	SI08 積穴遺構平面図・断面図・出土遺物	20	第53図	SI31 積穴住居跡平面図・断面図	55
第20図	SI05 積穴住居跡平面図・断面図	22	第54図	SI31 積穴住居跡出土遺物	56
第21図	SI05 カマド平面図・断面図	23	第55図	SI34 積穴遺構平面図・断面図	57
第22図	SI05 積穴住居跡出土遺物	24	第56図	SI18 積穴住居跡・出土遺物	58
第23図	SI09・10 積穴住居跡平面図・断面図	25	第57図	SI19 積穴住居跡平面図・断面図	59
第24図	SI09 積穴住居跡出土遺物	26	第58図	SI19 積穴住居跡出土遺物	60
第25図	SI10 積穴住居跡出土遺物	27	第59図	SI21 積穴住居跡・出土遺物	61
第26図	SI22 積穴住居跡平面図・断面図	28	第60図	SI24 積穴住居跡・出土遺物	62
第27図	SI27・29 積穴住居跡平面図・断面図	29	第61図	SI26 積穴住居跡平面図・断面図	63
第28図	SI27 積穴住居跡出土遺物	30	第62図	SI26 積穴住居跡出土遺物(1)	65
第29図	SI28 積穴住居跡平面図・断面図	30	第63図	SI26 積穴住居跡出土遺物(2)	66
第30図	SI33 積穴遺構平面図・断面図	31	第64図	SI26 積穴住居跡出土遺物(3)	67
第31図	SI11 積穴住居跡平面図・断面図	32	第65図	SI20 積穴住居跡平面図・断面図	68
第32図	SI11 積穴住居跡出土遺物	33	第66図	住居跡・土坑出土石製模造品(1)	70
第33図	SI12 積穴住居跡平面図・断面図	34	第67図	住居跡・土坑出土石製模造品(2)	71
第34図	SI12 積穴住居跡出土遺物	35	第68図	SI17 積穴住居跡平面図・断面図	75
			第69図	SI17 床面検出遺構・断面図	76
			第70図	SI17 燃土遺構・断面図	76
			第71図	SI17 掘り方検出遺構・断面図	77

第72図	SI17 窓穴住居跡出土遺物(1)	78
第73図	SI17 窓穴住居跡出土遺物(2)	79
第74図	SI17 窓穴住居跡出土遺物(3)	80
第75図	SB01・04 建物跡平面図・断面図	81
第76図	SB01・04 建物跡平面図・断面図	82
第77図	小溝状遺構群平面図	83
第78図	屋敷区画溝跡第30・17次調査区合成図	84
第79図	SD01 屋敷区画溝跡平面図・断面図	85
第80図	SD01 屋敷区画溝跡出土遺物	86
第81図	SB02・03 建物跡平面図・断面図	87
第82図	第30次調査区周辺で確認された中世屋敷跡	88
第83図	墓壙・階段付地下式坑配置図	90
第84図	墓壙平面図・断面図	90
第85図	墓壙出土遺物	91
第86図	階段付地下式坑平面図・断面図	92
第87図	SD02 溝跡平面図・断面図	93
第88図	SD02 溝跡出土遺物	94
第89図	SD02・10 溝跡出土遺物	95
第90図	土坑平面図・断面図(1)	98
第91図	土坑平面図・断面図(2)	99
第92図	土坑・ピット出土遺物	100
第93図	遺構外出土遺物(1)	104
第94図	遺構外出土遺物(2)	105
第95図	弥生土器(1)	106
第96図	弥生土器(2)	107
第97図	剥片石器	108
第98図	第31次調査区配置図	109
第99図	第31次調査区と周辺の調査	110
第100図	基本層序	110
第101図	第31次調査遺構配置図	111・112
第102図	SI02 窓穴住居跡平面図・断面図	113
第103図	SI02 窓穴住居跡出土遺物(1)	114
第104図	SI02 窓穴住居跡出土遺物(2)	115
第105図	SI02 窓穴住居跡出土遺物(3)	116
第106図	SI07 窓穴住居跡平面図・断面図	117
第107図	SI07 窓穴住居跡出土遺物	118
第108図	SI11 窓穴住居跡平面図・断面図	119
第109図	SI03 窓穴住居跡・出土遺物	120
第110図	SI09 窓穴住居跡平面図・断面図	121
第111図	SI09 窓穴住居跡・出土遺物	122
第112図	SI04 窓穴住居跡平面図・断面図	123
第113図	SI04 窓穴住居跡出土遺物	124
第114図	SI08 窓穴遺構・出土遺物	125
第115図	SI05 窓穴住居跡平面図・断面図	126
第116図	SI05 カマド平面図・断面図	127
第117図	SI05 窓穴住居跡出土遺物	129
第118図	SI01 床面土壤サンプル採取グリッド配置図	130
第119図	SI01 窓穴遺構平面図・断面図	131
第120図	SI01 窓穴遺構出土遺物	132
第121図	鍛冶遺構関連ピット群平面図	132
第122図	鍛冶遺構関連ピット群出土遺物	133
第123図	小溝状遺構群平面図・断面図	133
第124図	SD02・16 溝跡平面図・断面図	135
第125図	SD03・11・12 溝跡平面図・断面図	136
第126図	溝跡出土遺物(1)	138
第127図	溝跡出土遺物(2)	139
第128図	土坑平面図・断面図(1)	142
第129図	土坑平面図・断面図(2)	143
第130図	土坑・ピット出土遺物(1)	145
第131図	土坑・ピット出土遺物(2)	146
第132図	遺構外出土遺物	149

表 目 次

第1表	南小泉遺跡次数別調査成果一覧(1)	3
第2表	南小泉遺跡次数別調査成果一覧(2)	4
第3表	第30次調査石製模造品遺構別集計表	69
第4表	石製模造品集計表(1)	72
第5表	石製模造品集計表(2)	73
第6表	石製模造品集計表(3)	74
第7表	第30次調査小溝状遺構集計表	83
第8表	第30次調査土坑集計表	96

第 9 表	第30次調査土坑埋土註記表	97
第10表	第30次調査ピット集計観察表(1)	101
第11表	第30次調査ピット集計観察表(2)	102
第12表	第31次調査小溝状遺構集計表	134
第13表	第31次調査土坑集計表	140
第14表	第31次調査土坑埋土註記表(1)	144
第15表	第31次調査土坑埋土註記表(2)	145
第16表	第31次調査ピット集計観察表(1)	147
第17表	第31次調査ピット集計観察表(2)	148
第18表	第31次調査ピット集計観察表(3)	149
第19表	第31次調査石製模造品遺構別集計表	149
第20表	黒曜石の出土状況	151

写真図版目次

写真 1	南小泉遺跡航空写真	157
「30次調査遺構写真」		
写真 2	調査区遠景（西から）	158
写真 3	II区中近世遺構全景（東から）	158
写真 4	I区住居跡群全景（西から）	159
写真 5	II・III区住居跡群全景（東から）	159
写真 6	SI-01 全景（西から）	160
写真 7	SI-30 全景（西から）	160
写真 8	SI-02 全景（西から）	160
写真 9	SI-03・04 全景（西から）	160
写真10	SI-06・07 全景（東から）	160
写真11	SI-08 全景（西から）	160
写真12	SI-05 全景（南から）	160
写真13	SI-05 カマド（南から）	160
写真14	SI-05 カマド遺物出土状況（北から）	161
写真15	SI-09 全景（南から）	161
写真16	SI-10 全景（南から）	161
写真17	SI-22 床面検出状況（南から）	161
写真18	SI-27 全景（南から）	161
写真19	SI-29 床面検出状況（東から）	161
写真20	SI-28 床面検出状況（南から）	161
写真21	SI-33 全景（南から）	161
写真22	SI-11 全景（南西から）	162
写真23	SI-11 遺物出土状況（東から）	162
写真24	SI-12 床面検出状況（南から）	162
写真25	SI-12 遺物出土状況（南から）	162
写真26	SI-25 床面検出状況（南から）	162
写真27	SI-25 遺物出土状況（南から）	162
写真28	SI-13 全景（南から）	162
写真29	SI-13 カマド（南から）	162
写真30	SI-32 全景（南から）	163
写真31	SI-32 遺物出土状況（東から）	163
写真32	SI-32 遺物出土状況（北から）	163
写真33	SI-14 全景（南から）	163
写真34	SI-14 カマド（南から）	163
写真35	SI-14 遺物出土状況（南から）	163
写真36	SI-15 全景（西から）	163
写真37	SI-16 全景（南から）	163
写真38	SI-23 全景（東から）	164
写真39	SI-31 全景（北から）	164
写真40	SI-31 遺物出土状況（北から）	164
写真41	SI-34 全景（南から）	164
写真42	SI-18 全景（北から）	164
写真43	SI-18・SK-1（北から）	164
写真44	SI-19 全景（南から）	164
写真45	SI-21 全景（南から）	164
写真46	SI-24 床面検出状況（北から）	165
写真47	SI-26 全景（南から）	165
写真48	SI-26 遺物出土状況（西から）	165
写真49	SI-20 全景（南から）	165
写真50	SI-17 全景（南から）	165
写真51	SB-01 全景（北から）	165
写真52	SK-17 全景（西から）	165
写真53	SK-18・19 全景（西から）	165
写真54	SK-19 遺物出土状況（南から）	166
写真55	SK-24 全景（北から）	166
写真56	SK-26 全景（北から）	166
写真57	SK-28 全景（南から）	166
写真58	SK-23 全景（南から）	166

写真59 SD-01 全景（北から）	166	写真94 SI-07 床面検出状況（西から）	188
写真60 SD-01 北壁セクション（南から）	166	写真95 SI-11 全景（西から）	188
写真61 SB-02・03 全景（南から）	166	写真96 SI-03 全景（西から）	188
写真62 SD-02 全景（南西から）	167	写真97 SI-09 全景（西から）	188
写真63 SD-02 北壁セクション（南から）	167	写真98 SI-09 遺物出土状況（西から）	188
写真64 SD-02 集石部（南から）	167	写真99 SI-04 全景（西から）	189
写真65 SK-21・22 全景（南から）	167	写真100 SI-08 床面検出状況（西から）	189
写真66 SK-21 全景（南から）	167	写真101 SI-05 全景（西から）	189
写真67 SK-22 全景（南から）	167	写真102 SI-05 カマド（南から）	189
写真68 下層調査区西壁セクション（東から）		写真103 SI-05 カマド（南から）	189
	167	写真104 SI-05 遺物出土状況（南から）	189
写真69 第30次調査参加者	167	写真105 SI-01 全景（西から）	189
「30次調査出土遺物写真」		写真106 SI-01 遺物出土状況（西から）	190
写真70 土師器（1）	168	写真107 SD-02 全景（西から）	190
写真71 土師器（2）	169	写真108 SD-02 西壁セクション（東から）	190
写真72 土師器（3）	170	写真109 SD-16 全景（西から）	190
写真73 土師器（4）	171	写真110 SD-16 セクション（東から）	190
写真74 土師器（5）	172	写真111 SD-03・11・12 全景（南から）	190
写真75 土師器（6）	173	写真112 SD-03・11 全景（西から）	190
写真76 土師器（7）	174	写真113 SD-03・11 西壁セクション（東から）	
写真77 土師器（8）	175		190
写真78 土師器（9）	176	写真114 SD-12 セクション（西から）	190
写真79 土師器・須恵器	177	「31次調査出土遺物写真」	
写真80 須恵器・土師質土器・磁器	178	写真115 土師器・須恵器	191
写真81 古銭・陶磁器・瓦	179	写真116 土師器（2）	192
写真82 踏石器	180	写真117 土師器（3）	193
写真83 踏石器・石製品・土製品	181	写真118 土師器・陶磁器・瓦・弥生土器	194
写真84 鉄製品	182	写真119 踏石器・石臼・羽口・鉄滓など	195
写真85 石製模造品	183	写真120 土製品・石製品・鉄製品・古銭	196
写真86 弥生土器	184		
写真87 弥生土器・剝片石器・管玉・ガラス玉			
	185		
写真88 黒曜石の石器・鉄滓	186		
「31次調査遺構写真」			
写真89 II・III区中近世遺構全景（北から）	187		
写真90 I・II区住居跡群全景（南から）	187		
写真91 SI-02 全景（東から）	188		
写真92 SI-02 遺物出土状況（西から）	188		
写真93 SI-02・SK-3 全景（北から）	188		

I 調査に至る経過

1. 第30次調査

南小泉遺跡内の若林区遠見塚一丁目地内において、菅原輝雄氏により宅地造成工事が計画されたことから事前協議を行い、その後平成6年11月9日付けで発掘届が提出された。計画では盛り土工法となっていることから、調査は道路部分を対象として行い、必要に応じて拡張することとした。平成8年3月に造成計画及び設計の変更と、申請者を及川善夫氏にしたい旨の申し入れがあったことから再度協議を行い、当初の調査対象区を分割してⅠ期工区分について事前調査を行なうこととなった。

調査は、平成8年5月から約4ヶ月の予定で開始した。

2. 第31次調査

南小泉遺跡内の若林区南小泉四丁目地内において、加藤万太氏により集合住宅建築工事が計画されたことから事前協議を行い、その後平成7年7月24日付けで発掘届が提出された。平成7年8月試掘調査を行なった結果、多数の遺構が確認されたことから再び協議を行い、翌年事前調査を行なうこととなった。計画では建物部分は盛り土工法となっていることから、調査は既存道路の拡張部分を対象として行い、必要に応じて拡張することとした。

調査は、平成8年9月から約1ヶ月の予定で開始した。

II 遺跡の位置と環境

1. 遺跡の位置と立地

南小泉遺跡は、JR仙台駅の南東約3.5kmに位置し、仙台市若林区南小泉、遠見塚、古城、霞ノ目の各地区を含む東西約2km、南北約1kmを範囲とする。約135haの面積を有する仙台市内でも最大級の面積をもつ遺跡である。

南小泉遺跡の位置する仙台市東部は「宮城野海岸平野」と呼ばれ、北は宮城郡七ヶ浜町から南は亘理郡山元町まで約40kmにわたって三日月形に広がっている。またこの平野は、地理的条件や成因、地質などから地形区分がなされており、広瀬川と名取川の合流点付近では、川間低地を郡山低地、広瀬川以北を霞ノ目低地、名取川以南を名取低地と呼んでいる。南小泉遺跡は、これらの低地のなかの霞ノ目低地に所在し、主に自然堤防上に立地している。遺跡内の標高は7~14mである。

2. 周辺の歴史的環境

南小泉遺跡は、東北地方における古墳時代中期の土師器の標識遺跡として著名である。本遺跡が広く認識されるようになったのは、昭和10年代前半に行なわれた霞ノ目飛行場拡張工事に際し、弥生時代から古墳時代にかけての多くの遺構や遺物が発見されたことに始まる。その後、昭和52年より当教育委員会において本格的な調査が始まり、これまでに29次を数える発掘調査が実施され、それに伴って遺跡の範囲も西側へと拡大してきている。

これまでの発掘調査地点とその調査概要は第2図と第1・2表に示した通りで、縄文時代から近世に至るまでの幅広い時代の遺構・遺物が発見されている。遺跡範囲の広さとも関わって時期的な地点の違いも認められている。

時期的にみると、弥生時代の遺構は、前述の飛行場拡張工事の際に15基以上の合口土器棺が発見された以後は、遺物は出土するものの、第12次調査で溝跡1条が発見されたほかは遺構は発見されていない。南小泉遺跡周辺の広瀬川北岸の沖積地にある中在家南遺跡からは、中期の土壙墓4基と土器棺1基が発見され、旧河道からは弥生時代中期から中世にいたる各時代の農具等の木製品が出土している。

南小泉遺跡は、古墳時代前期末から中期の集落遺跡として位置付けられているが、周辺の遺跡ではこの時期の集落は発見されていない。遺跡内には幾つかの古墳が知られているが、そのうち最古・最大のものが遠見塚古墳である。二段築成で主軸110mの規模をもち、2基の粘土椁が発見されている。このほかに、埴輪を有する円墳の若林城

内古墳、後期の横穴式石室をもつ円墳である法領塚古墳、猫塚古墳がある。7世紀後半頃から、広瀬川対岸の郡山低地に官衙遺跡とその付属寺院からなる郡山遺跡が造営されると、この時期の集落の中心地域は郡山低地に移り、南小泉遺跡では住居跡が減少している。8世紀初頭、郡山遺跡が廃されるのと前後して多賀城が造営されると、南小泉遺跡の北側に隣接して陸奥国分寺・同尼寺が建立される。奈良時代末から平安時代になると南小泉遺跡でも再び住居跡が増加し、ほぼ9世紀代を中心とする集落が営まれている。この時期の遺跡としては、神棚遺跡・今泉遺跡等がある。神棚遺跡では、郡・郷に隣接した施設と考えられる掘立柱建物跡・掘立柱塀が発見されている。

中世の遺跡としては今泉城跡・沖野城跡・長喜城跡等の沖積地の城跡がある。南小泉遺跡からもこの頃の掘立柱建物跡や溝跡が発見されている。特に第16次調査などで大規模な堀と土塁をもつ城館跡や溝によって区画された屋敷跡などが発見され、屋敷から城館への変遷過程がとらえられている。

近世初頭に政宗の隠居所としての若林城が築城されると、南小泉遺跡の西半部はその城下町としての性格をもつようになり、それに伴う遺構も発見されている。



No	遺跡名	種別	立地	年代	No	遺跡名	種別	立地	年代
1	南小泉遺跡	無基跡	自然地凹	弥生・古墳・良食・平安・中世～近世	16	今泉遺跡	城跡	自然地凹	弥生・古墳・良食・近世
2	蓬見冢古墳	前方後円墳	自然地凹	古度	17	高田遺跡	無基跡	水田跡	自然地凹
3	竹林塚跡	円墳	自然地凹	古度・中世～近世	18	日刈原跡	城跡	自然地凹	古度
4	蓬台原跡	古墳	自然地凹	奈良?	19	仙台大塚山古墳	円	自然地凹	古度 (中軸)
5	陸奥國分寺跡	寺院跡	冲積平野	奈良・平安	20	北羽城跡	城跡	自然地凹	織文・弥生・良食・近世
6	陸奥國分尼寺跡	寺院跡	冲積平野	奈良・平安	21	郡山遺跡	官署・祭祀地	自然地凹	織文・弥生・古墳・近世
7	中在聚落遺跡	古墳跡	自然地凹	弥生・古墳・平安・古昔	22	西台城遺跡	包合地	自然地凹	弥生・古墳
8	浮口遺跡	河川跡	冲積平野	弥生・古墳・奈良・平安・近世	23	大野田水塘跡	円	自然地凹	古度
9	法脈院古墳	古墳	冲積平野	古度 (集落)	24	喜利浦跡	水田跡・排水沟	後半弥生	田心耕作・織文・弥生・近世
10	東垂葉遺跡	古跡・集落	冲積平野	弥生・古墳・山戸	25	大字寺城穴跡	穴	三段削出	古墳 (後期)
11	鶴見古墳	古墳	冲積平野	古度	26	向山城穴跡	穴	三段削出	古墳 (後期)
12	冲野城跡	城	冲積平野	中世	27	茂ヶ丘遺跡	城跡	古	中世
13	神棚遺跡	古跡	佐倉地	自然地凹	28	命民八幡宮跡	円	自然地凹	古度 (後期)
14	藤田新田遺跡	古跡・水田跡	河川	弥生・古墳・平安	29	下飯田遺跡	茶園跡・水田跡	茶園	織文～平安
15	御堀古墳	円	冲積平野	古墳	30	久ノ上遺跡	先	跡	自然地凹

第1図 南小泉遺跡と周辺の遺跡

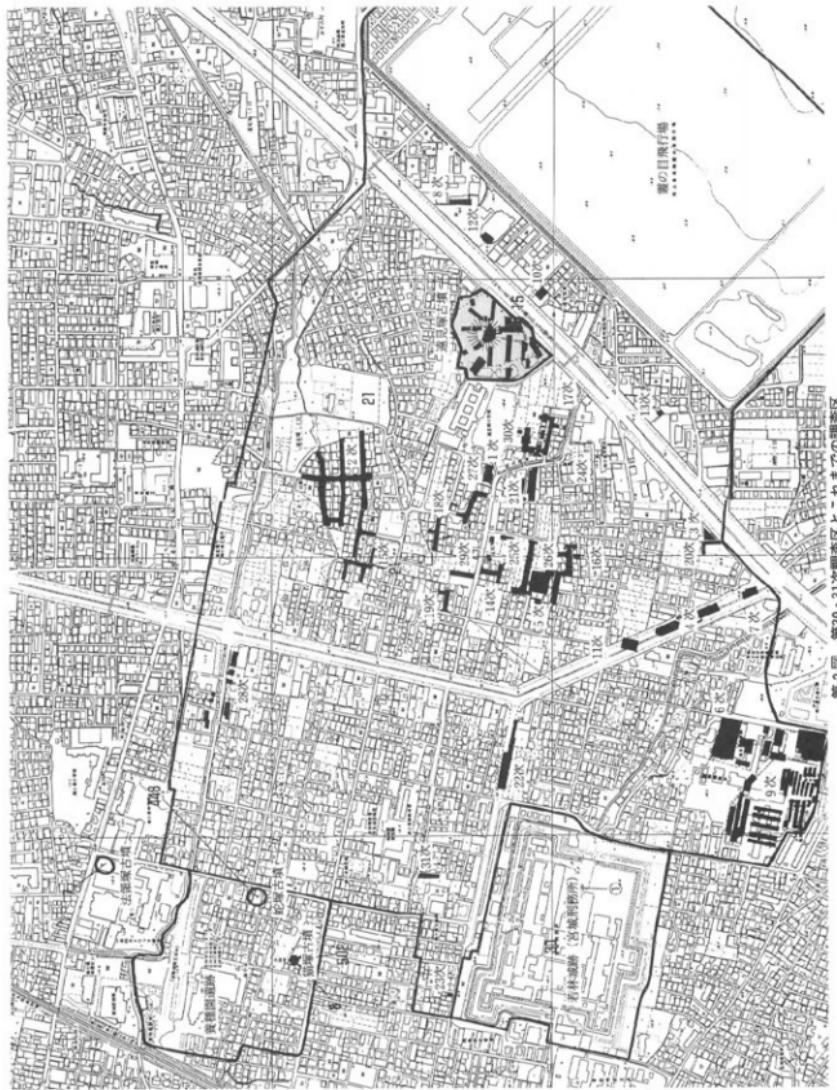
第1表 南小泉遺跡次数別調査結果一覧表(1)

調査次数(調査年)	調査時期	検出遺物	出土遺物	文献
(昭和14年～16年) ※遺構の詳細は不明	弥生時代 中期 吉 墓 時 代 住居跡	住居跡?。合口土器残(15基以上)	弥生土器(表形圓式)。石器(石斧・石刀・石包丁・石鑿・石斧・多頭石斧・石磨)。鉄石・石耕・石耕・石耕。	仙台市史3 (昭和25年)
第1次(昭和52年)	平安時代 不 明	露柱地盤 小湊状遺構	弥生土器(表形圓式)。土器基(周小底式・束口ノ入式)。須磨器。陶器類。瓦。石器(削片)。石製品。石製模造品。鉄製品。	仙文編第13集
第2次(昭和53年)	平安時代 中	住居跡(4軒)	弥生土器。土器基(周小底式)。須磨器。	南小泉遺跡調査団 仙文編第28集
第3次(昭和55年)	平安時代 中	住居跡(1軒)	土器類(表形ノ入式)。須磨器。	仙文編第28集
第4次(昭和56年)	古墳時代 中期 平安時代 中 後 近世 明	住居跡(5軒)。土坑。土坑状遺構。撲土 道跡。溝跡 住居跡(1軒)。土坑。溝跡。 立柱建物跡(4軒)。土坑。溝跡。ピット	弥生時代(大象式?・十三塚式)。土器類(南小底式・表形ノ入式)。須磨器。陶製品(中・近世)。瓦(古式)。土器類(土手・刃口)等。石器(表形・スカラリバー等)。石製品(瓦・小豆・纺錐形・鐵石・鐵等)。石製模造品。鉄製品(土器・刀子・鉤・打等)。銅製品(中國式)。	仙文編第35集
第5次(昭和66年)	不 明	等穴状溝溝。土坑。溝跡。	土器類(周小底式・圓底式・表形ノ入式)。	仙文編第41集
第6次(昭和56年 ～57年)	平安時代 以前 千 变 時 代 近世 明	溝跡。 住居跡(2軒)。獨立柱建物跡(4軒)。 土坑。 立柱立柱建物跡。土坑。井戸跡。溝跡。	弥生時代(大底式)。土器類(周小底式・圓底式・四分下層式・表形ノ入式)。須磨器。土器(表形・周小底式)。須磨器(中世・近世)。瓦(古式)。土器類(瓦等)。石製品(瓦・小豆・鐵石等)。金銀製品(瓦等)。風呂場。鉄製品(須磨・表形・刀子・刀子・鉄等)。銅製品(須磨・瓦等)。動物物遺体。	仙文編第55集
第7次(昭和57年)	平安時代 以前 平安時代 以降 近世 明	土坑。小溝状遺構。溝跡。 住居跡(2軒)。土坑。性格不明須磨。ピット。 溝跡。 井戸跡。 土坑。溝跡。ピット。	弥生土器(表形圓式)。土器基(小世→印田式・表形ノ入式)。須磨器。陶器類(中世・近世)。土器類(瓦)。石製品(瓦等)。石製模造品(須磨・瓦等)。銅製品(須磨・瓦等)。動物物遺体。	仙文編第62集
第8次(昭和57年)	古 墓 時 代 平安時代 中	土坑。	弥生時代。土器類(周小底式)。	仙文編第57集
第9次(昭和57年)	平安時代 以降 世 界 明	住居跡(2軒)。 井戸跡。 独立柱建物跡(2軒)。井戸跡。 明 命	上部跡(表形ノ入式)。須磨器。土器質土器。須磨(小世・近世初期)。瓦(古代)。土器類(瓦)。石器(心臓等)。石製品(筋道車・石臼等)。石製品(須磨・瓦等)。銅製品(須磨・瓦等)。動物物遺体。	県教委
第10次(昭和57年)	古 墓 時 代 中期 不 明	住居跡(4軒)。土坑。溝跡。セット。 独立柱建物跡?。土坑。溝跡。セット。	弥生土器(表形圓式・十三塚式)。土器類(周小底式)。須磨器。瓦(表形等)。石製品(須磨・瓦等)。石製模造品。	仙文編第64集
第11次(昭和58年)	古 墓 時 代 末期 平安時代 中	住居跡(4軒)。 住居跡(1軒)。 独立柱建物跡(2軒)。土坑。 独立柱建物跡(3軒)。土坑。溝跡。瓦砾。 土坑。井戸跡。溝跡。	弥生土器(大底式)。土器類(佐社式・住社式・併行式・平行分母下層式・表形ノ入式)。須磨土器合造。土器質土器。須磨器(中世・近世)。瓦。土器類(土瓶)。石器類(石斧・石刀・石磨・石屋・石屋・石屋・スカラリバー・石臼等)。石製品(瓦等・石磨等)。石製模造品。板鏡。鉄製品(刀子・刀子・鉄等)等。銅製品(船・鉛管・小回回)。骨(加工品)。炭化木。動物物遺体。	仙文編第68集
第12次(昭和59年)	弥生時代 中期 古墳時代 後期 奈良朝 不 明	土坑。 住居跡(1軒)。土坑。溝跡。ピット。 土坑。ピット。 溝跡。ピット。	弥生土器(表形圓式・十三塚式)。天王山房打。土器類(周小底式・圓底式下層式)。須磨器。陶器類(中世・近世)。瓦。土器類(羽口)。石器(石斧・石刀・不定形心臓・石核・削叶等)。石製品(瓦等・石磨等)。石製模造品。板鏡。鉄製品(刀子・刀子・鉄等)。銅製品(款・刀子・須磨器等)。	仙文編第66集
第13次(昭和59年)	古 墓 時 代 明 小	住居跡(1軒)。縁で替えあり。 溝跡。	土器類(周小底式)。須磨器。陶器類。石器(削片)。石製模造品。鉄製品(鍔)。動物物遺体。	仙文編第81集
第14次(昭和61年)	古 墓 時 代 中期 平安時代 中 世 明	住居跡(4軒)。溝跡(2基)。 独立柱建物跡(3軒)。土坑。 独立柱建物跡(1軒)。土坑。溝跡。 独立柱建物跡(3軒)。土坑。溝跡。瓦砾。 土坑。井戸跡。溝跡。	土器類(周小底式)。須磨器。土器(表形・石鏡)。石器(表形・敲打石)。石製品(鶴見・石鏡・石鏡模造品・硯石)。鉄製品(刀子・瓦)。古錢。瓦(立瓦・筒瓦・金瓦)。附器(須磨鏡・美濃高橋丸鏡・吉備源始鏡)。	仙文編第109集
第15次(昭和63年)	古 漢 時 代 中期 不 明	住居跡(3軒)。土坑(1軒)。性格不明 溝跡(1軒)。 溝跡(1軒)。	土器類(周小底式)。須磨器。石製品(砂輪革・石製模造品)。瓦。鉄鋤。石器(表形)。	仙文編第131集
第16次(昭和63年)	古 漢 時 代 中期 中 近 世 明	住居跡(9軒)。土坑(5基)。溝跡(2基)。 世(鏡と屋根)溝跡(11軒)。独立柱建物跡(5軒以上)。土坑(4軒)。土器(1本)。西(鏡)。土器(1基)。須磨(1基)。溝跡(3基)。 独立柱建物跡(4軒)。井戸跡(2軒)。土坑(3基)。	弥生二層(青木宿式・表形圓式・十三塚式・天王山式)。土器類(周小底式・引山式・森原ノ入式)。須磨器(古墳・平式)。土器類(羽口)。石器(スカラリバー・石鏡)。石製品(鶴見・石鏡・石鏡模造品・硯石)。鉄製品(刀子・瓦)。古錢。瓦(立瓦・筒瓦・金瓦)。附器(須磨鏡・美濃高橋丸鏡・吉備源始鏡)。土器質土器。須磨(5c式)。銅製品(金具・鏡文牌?)。銅製鏡玉。中國鏡。瓦(古代・近世)。陶器類(山形鏡・奈良鏡)。須磨(1基)。	仙文編第146集
第17次(昭和63年)	古 漢 時 代 中期 古 漢 時 代 後期 中 近 世 明	住居跡(15軒)。土坑(2軒)。 住居跡(3軒)。溝跡(2軒)。 独立柱建物跡(10軒)。土坑(13軒)。溝跡(7軒)。(1基)。柱穴(1列)。須磨(1基)。 独立柱建物跡(4軒)。土坑(1軒)。溝跡(1軒)。世(7基・古漢時代中期以前)。須磨(1基)。	彌文土器(木本10式～南健式)。須磨土器(青木宿式・表形圓式・十三塚式)。土器類(周小底式・住社式・表形ノ入式)。須磨器(5c・平式)。土器類(昭和・羽口・瓦)。石器(スカラリバー・石鏡・敲打石)。石製品(鶴見・石鏡・石鏡模造品・硯石)。鉄製品(刀子・瓦子)。銅製品(金具・鏡文牌?)。銅製鏡玉。中國鏡。瓦(古代・近世)。陶器類(山形鏡・奈良鏡)。須磨(1基)。	仙文編第146集

第2表 南小泉遺跡次数別調査成果一覧表(2)

調査次数(調査年)	遺跡時期	検出遺物	出土遺物	文献
第18次(昭和63年)	奈良～平安時代	埋没川河川(1条)。土坑(1基)。溝跡(4条)。堅穴道標(1条)。土坑(2基)。石製品(石製模造品・鐵製切子玉)。瓦(古代・近世)。陶器。土質貝土(9基)。鐵製品(3条)。堅穴道標(2ヶ所)。	弥生土器(柳形式以前・十一瓣式・天王山式)。土師器(南小泉式・往社式・四分守下式・表杉ノ入式)。須恵器(5～6世紀)。石器(スライバー)。石製品(石製模造品)。鐵製品(鐵・幻)。瓦。陶器。土質貝土。	仙文報第140集
中	近世	堅穴道標(4条)。		
近	不明	堅穴道標(1基・直径5m)。		
不		住居跡(1軒)・古墳時代?)・土坑(2基)。		
第19次(平成元年)	绳文時代中期～後世	包含層。	調査土器(大輪穴)。土師器(南小泉式・表杉ノ入式)。須恵器。石器(網片・石器)。石製品(石製模造品)。鐵製品(鐵・幻)。瓦。陶器。土質貝土。	仙文報第141集
近	不明	堅穴道標(2条)。獨立柱建物跡(3條)。ビット多摩。		
不		井戸跡(1条)。土坑(4基)。溝跡(1条)。性格不明遺構(3条)。		
第20次(平成2年)	古墳時代前期～平安時代	住居跡(1軒)。土坑(2軒)。獨立柱建物跡(1軒)。土坑(2軒)。堅穴道標(1条)。	土器器(板足式・表杉ノ入式)。須恵器。石器(有角石斧・石岸片・石塊)。石製品(瓦刀片・棒状)。土製品(切妻草)。陶器。	仙文報第153集
中	食	堅穴道標(1条)。斜穴施設(1条)。土坑(3基)。		
近	不明	堅穴道標(1条)。		
不		溝跡(5条)。土坑(5基)。		
第21次(平成3年)	古墳時代中期～平安時代	住居跡(7条)。土坑(3条)。堅穴道標(5条)。土坑(4条)。性格不明遺構(1条)。	弥生土器(柳形式)。石器(石器・斜穴石器)。土師器(埴輪式・青小泉式・往社式・表杉ノ入式)。須恵器(5～6世紀)。石製品(石製模造品・蟹玉・小玉)。鐵製品(鉄)。中國鏡。瓦(古代)。陶器。	仙文報第164集
中	食	獨立柱建物跡(1軒)。斜穴施設(1条)。土坑(2基)。		
近	不明	堅穴道標(3条)。溝跡(1条)。土坑(3基)。		
不		溝跡(5条)。		
第22次(平成4年)	古墳時代中期～平安時代	住居跡(11条)。堅穴道標(2条)。溝跡(12条)。土坑(1基)。住居跡(12条)。獨立柱建物跡(1軒)。土坑(2条)。堅穴道標(4条)。區画施設(2条)。土坑(2基)。	舟形土器(天王山式)。堅穴道標石器。土師器(南小泉式・往社式・四分守下式・表杉ノ入式)。須恵器。瓦(古代・中近世)。陶器。土器(中近世)。金製品(鐵鎌・鐵斧・刀子・鎌・鋤齒車)。石器。石製品(石製模造品・籠石・臼玉)。土製品(土玉・土製軽轆轤)。土質貝土。	仙文報第192集
中	近世	堅穴道標(1条)。溝跡(4条)。土坑(9条)。		
不	不明	性格不明遺構(1条)。		
第23次(平成4年)	古墳時代後期～平安時代	住居跡(1軒)。堅穴道標(4条)。	土師器(堀堤式)。石製模造品。	仙文報第192集
中	近世	住居跡(3条)。土坑(1条)。		
不				
第24次(平成5年)	古墳時代中期～平安時代	住居跡(5条)。溝跡(3条)。土坑(2条)。	土師器(南小泉式)。	仙文報第199集
中	食	堅穴道標(2ヶ所)。		
不		堅穴道標(1条)。溝跡(10条)。井戸跡(2条)。土坑(11条)。		
第25次(平成6年)	古墳時代中期～平安時代	住居跡(7条)。堅穴道標(2条)。土坑(1条)。	弥生土器(柳形式)。土師器(埴輪式・青小泉式)。須恵器(5～6世紀)。石器(石器・石碑・板状石器・斜穴石器・黑曜石)。石製品(玉・小玉・石製模造品)。土製品(土玉・土器)。鐵製品(鉄・刀子)。陶器(荒削・中世)。青磁。白磁。	仙文報第225集
中	食	堅穴道標(1条)。		
不		堅穴道標(1条)。溝跡(7条)。		
第26次(平成7年)	古墳時代中期～平安時代	埋没川河川(1条)。堅穴道標(2条)。獨立柱建物跡(6条以上)。溝跡(7条)。土坑(1条)。	弥生土器(柳形式)。土師器(埴輪式・青小泉式)。須恵器(5～6世紀)。石器(石器・石碑・板状石器・斜穴石器・黑曜石)。石製品(玉・小玉・石製模造品)。土製品(土玉・土器)。鐵製品(鉄・刀子)。陶器(荒削・中世)。青磁。白磁。	仙文報第225集
中	近世	堅穴道標(5条)。		
不		堅穴道標(3条)。		
第27次(平成7年)	古墳時代後期～平安時代	堅穴道標(11条)。ビット。	弥生土器。土師器(南小泉式以降)。石製模造品。鐵製品。磁器。	仙文報第222集
中	近世	堅穴道標(7条)。		
不		堅穴道標(2条)。		
第28次(平成8年)	古墳時代中期～平安時代	住居跡。堅穴道標(2条)。土坑(1条)。	弥生土器。土師器(南小泉式)。須恵器。土質貝土器。瓦質土器。石製品(石製模造品・菅笠)。石器。土器(土玉)。金製品(紅・刀子・鉄鎌)。鐵製品(鉄)。人骨。動植物遺体。	仙文報第224集
中	近世	堅穴道標(2条)。植物殻。茎葉。井戸跡?		
不		瓦。		
第29次(平成8年)	古墳時代中期～平安時代	住居跡(1軒)。土坑(1条)。	弥生土器。土師器(南小泉式)。須恵器。土質貝土器。瓦質土器。石製品(石製模造品・菅笠)。石器。土器(土玉)。金製品(紅・刀子・鉄鎌)。鐵製品(鉄)。人骨。動植物遺体。	仙文報第224集
中	近世	堅穴道標(1条)。		
不		瓦。		
第30次(平成8年)	古墳時代中期～平安時代	住居跡。堅穴道標(2条)。植物殻。茎葉。井戸跡?	弥生土器。土師器(南小泉式)。須恵器。土質貝土器。瓦質土器。石製品(石製模造品・菅笠)。石器。土器(土玉)。金製品(紅・刀子・鉄鎌)。鐵製品(鉄)。人骨。動植物遺体。	仙文報第224集
中	近世	堅穴道標(2条)。		
不		瓦。		
第31次(平成8年)	古墳時代中期～平安時代	住居跡。堅穴道標(1条)。土坑(1条)。	弥生土器。土師器(南小泉式・往社式・圓窓式)。須恵器。土製品(引口)。石製品(石製模造品・石臼)。石器(斜片)。金製品(紅・鉄鎌)。鐵製品(中近世)。瓦(古代)。陶器(引・近世)。動植物遺体。	仙文報第224集
中	近世	堅穴道標(1条)。		
不		土坑。		

※第28次調査は現在調査継続中。



第2図 第30・31次調査区とこれまでの調査区

III 第30次調査

1. 調査の方法と調査経過

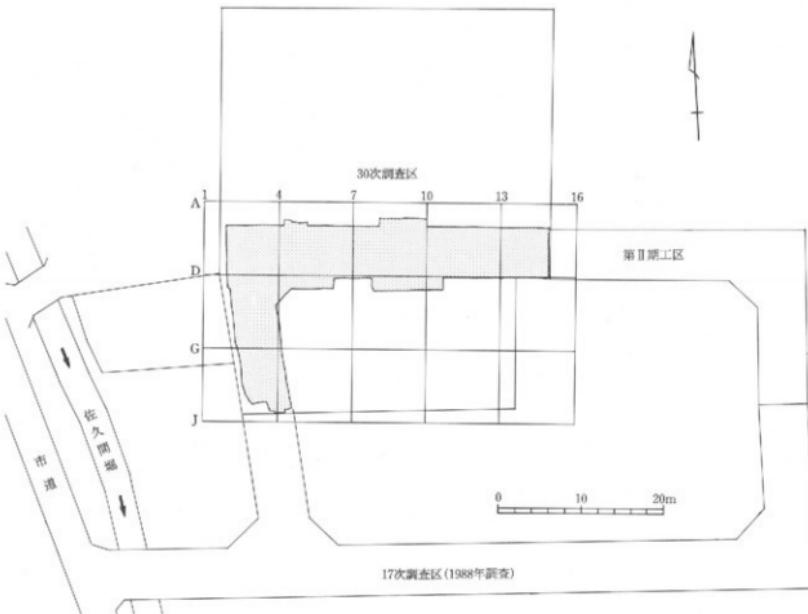
今回の調査地点は、南小泉遺跡のほぼ中央部、仙台市立遠見塚小学校の南側に隣接するところである。調査区の現状は南に向かって緩やかな傾斜をもつ標高11~12m前後の畠地であり、開発対象面積は約4,130m²である。このうちⅠ期工区分の道路予定地約400m²を調査した（第3図）。

表土の排除は重機によって行い、その後人力により遺構検出作業を行ないながら、一部調査区を拡張するとともに、中世の屋敷地を区画する溝跡の北辺を検出する目的で第Ⅰトレンチを設定した（第6図）。

発掘調査は平成8年5月7日に開始された。このうちⅠ区とした東側では、天地返しによる搅乱が著しく、遺構の残存状況は良好ではない。またⅢ区とした西側では、調査区内にあった駐車場工事による搅乱が深く遺構面は失われていた。遺構調査終了後、調査区中央部に基本層序の確認と下層調査を目的として6×6mのグリットを設定し、掘り下げを行ない9月13日に調査を終了した。

2. 調査区の設定

対象区は、第3図のように設定した。調査区の北西部を原点として、これから調査区の方向にあわせて基準線を設け、これを元にして調査区内に3×3mのグリットを設定し、遺構実測を行なったほか、基準線で3mに区画されるグリットを遺構外遺物の取り上げ単位とした。グリット名称は、原点から東に1、2、3……、南にA、B、C……とした。南北基準線は、真北に対してN-5°-Wである。また、便宜的に調査区を区分するために4ラインを境として西側をⅢ区、東側をⅡ区とし、さらにSD01を境にしてⅡ区東・Ⅱ区西とし、10ラインの東側をⅠ区としている。



第3図 第30次調査区配置図

その後基準点測量を委託し、国家座標に位置付けている。

B-13 X=-195950.780878 km Y=7224.432938 km

B-3 X=-195945.165008 km Y=7198.022522 km

3. 調査の概要

今回の調査区は南小泉遺跡のほぼ中心部にあたり、遠見塚古墳の南西約300mに位置している。これまでに、南側に隣接して第17次調査、西側で佐久間堀を挟んで第21次調査が行なわれている（第4図）。

調査区は畑地であったこともあり、東側の約1/3については遺構確認面におよぶ深い天地返しを受けていたほか、西側のⅢ区では工事等による擾乱により遺構面が失われていた。しかし、調査区中央部では耕作等による影響が少なく、遺構面が良好な形で検出された。

検出された遺構は、古墳時代中期と平安時代の竪穴住居跡及び竪穴遺構35軒、鎌倉時代の屋敷跡、古代から近世にかけての掘立柱建物跡4棟、溝跡2条、土坑40基、墓塚6基、小溝状遺構群、ピット約160基があった。この他、県内では数少ない調査例である階段付地下式坑2基が並んで検出されている（第8・9図）。

鎌倉時代の屋敷跡については、以前行なわれた第17次調査で検出されていた屋敷地を区画している溝跡の西辺を検出し、屋敷跡が約半町（55m）規模であったことが確認された。

遺物は、平箱で約70箱出土している。ほとんどは土器類の破片であるが、遺構には伴わないものの、弥生時代の遺物も少量認められる。また、仙台市内では初めて南小泉式期の竪穴住居跡から黒曜石製のランドスクレイバーが出土しているほか、ガラス小玉なども出土している。

今回の調査は、南小泉遺跡において1977年の第1次調査以来30次を数える調査であり、今後とも本遺跡内において開発行為に伴う発掘調査が予想されることから、地域住民の文化財への理解と協力が求められている。そこで調査途中ではあったが、今回の調査概要とあわせてこれまでの約10年間の調査成果について、一般市民対象の現地説明会を7月7日（土）に行ない、約200名の参加者があった。

また、8月2日（金）には市立仙台高等学校社会研究部の生徒6名と引率教諭2名による発掘体験学習を行い、竪穴住居跡の床面検出作業などを行なっている。

調査は、予想以上の竪穴住居跡が検出されたことから、当初予定していた期間を越えて9月中旬までとなった。

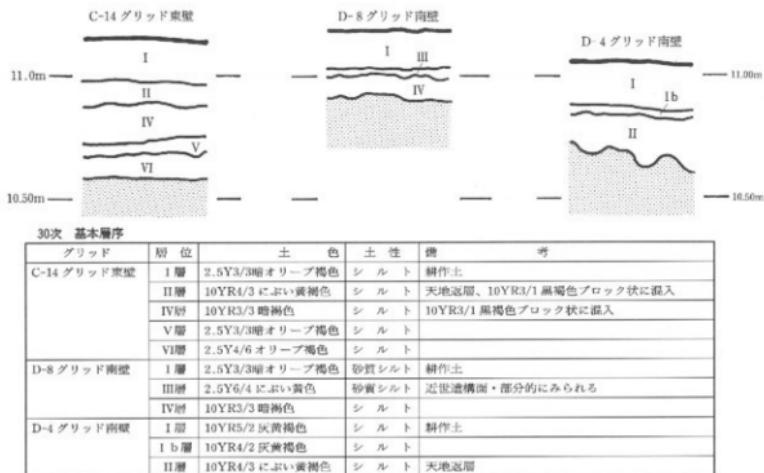


第4図 第30次調査区と周辺の調査

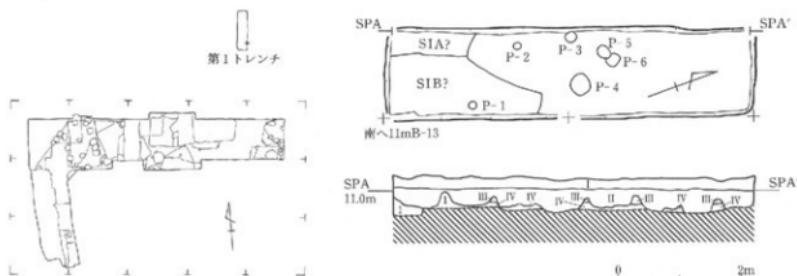
4. 基本層序 (第5~7図)

南小泉遺跡の立地する地域は、一般的にはシルト質の土壤が主体をなしている。調査区の現況は畑地であり、I a・b層は耕作土、II層は天地返し層であり、調査区全域に共通した層である。

I~II区東にかけてIII層とした黄褐色土がみられるが部分的で、IV層上面が遺構検出面である。下層については、B・C-8・9区に下層調査区を設定して観察を行なった。にぶい黄褐色～にぶい黄橙色のシルト層と砂質シルトが互層になって連続しておりグライ化もよわい。遺構検出面下1.8m(標高9m)でも礫層には達しなかった(第7図)。



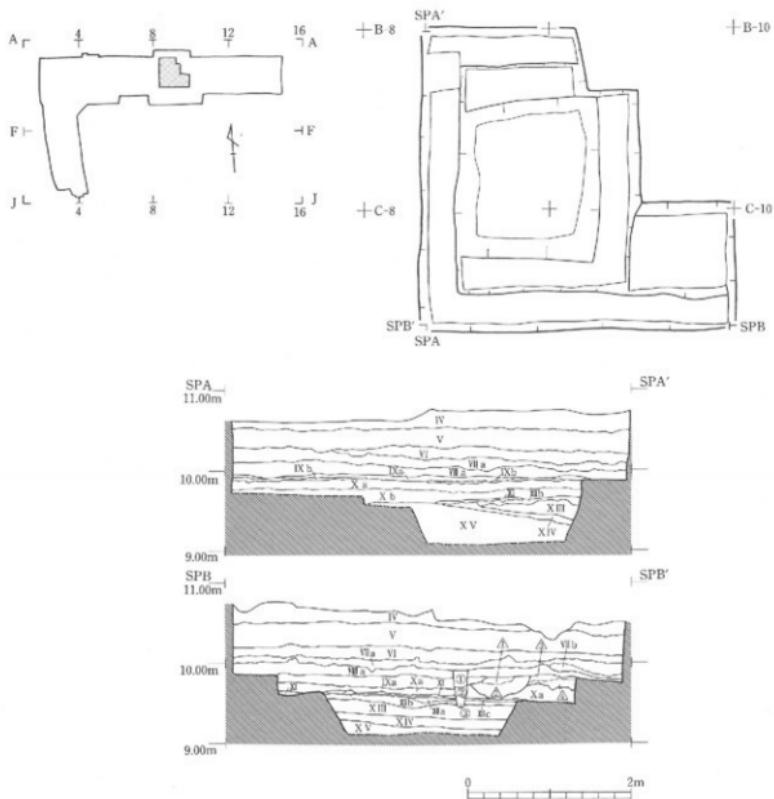
第5図 調査区基本層序



第1トレンチ土層記表

層位	土 色	土 性	備 考
I 層	2.5Y3/3暗オリーブ褐色	砂質シルト	耕作土
II 層	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	天地返層
III 層	10YR5/4 にぶい黄褐色	シルト	
IV 層	10YR5/6 黄褐色	シルト	
埋1層	10YR3/2 黒褐色	シルト	上層部に部分的に10YR2/2 が混る。遺構埋土の可能性あり。

第6図 第1トレンチ平面図・断面図

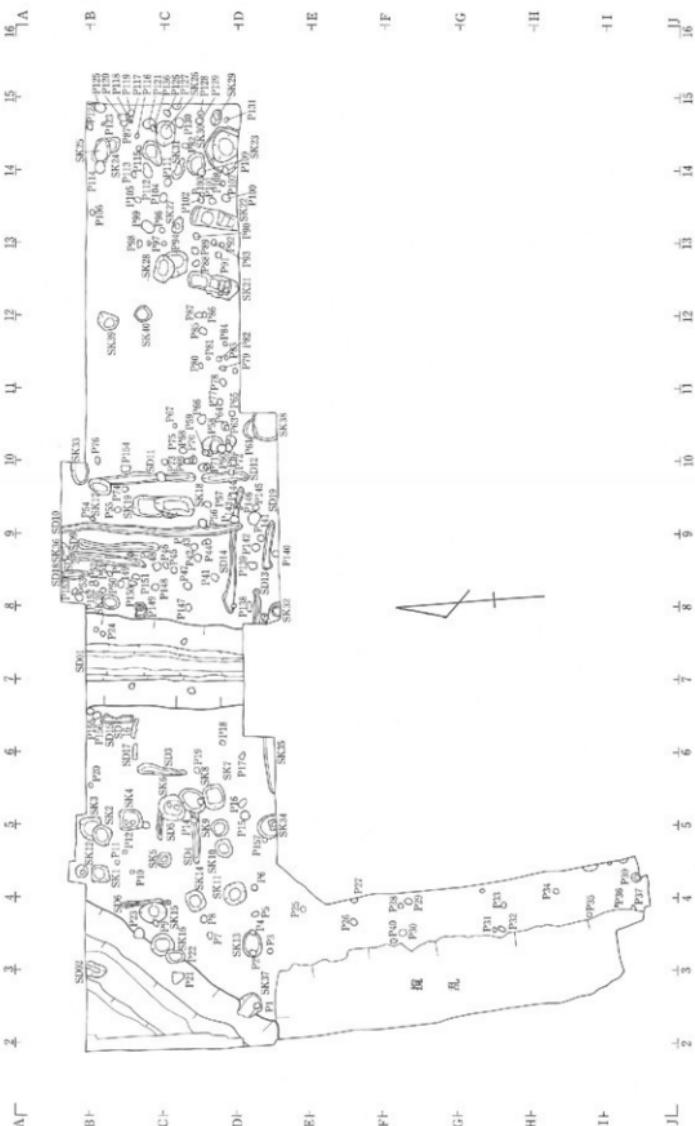


層位	土色	土性	参考	層位	土色	土性	参考
IV 層	10YR3/4 黄褐色	粘質シルト	10YR3/2 ブロック状に組入	Ⅳ 層	2.5Y3/1 黄褐色	砂	7.5Y3/3 砂ブロック状に組入
V 層	2.5Y3/3 黄オーリーブ褐色	粘質シルト		Ⅴ 層	2.5Y3/1 黄褐色	砂	7.5Y3/3との互層
VI 層	2.5Y4/3 オリーブ褐色	粘質シルト		Ⅵ 層	2.5Y3/1 黑褐色	砂	Ⅴ 层と同層
VIa 層	2.5Y3/2 黑褐色	砂質シルト		Ⅶa 层	7.5Y3/3 黄オーリーブ	砂	5 Y3/2との互層
VIb 层	2.5Y3/2 黑褐色	砂質シルト	2.5Y5/3 ブロック状に組入	Ⅷa 层	7.5Y5/3 黄オーリーブ	砂	5 Y2/2との互層
VIb 层	2.5Y4/2 黄灰褐色	砂質シルト		Ⅸ 層	7.5Y5/2 黄オーリーブ	砂	
VIb 层	10YR3/3 黑褐色	粘質シルト	10YR2/3 砂の混合層	Ⅹ 层	7.5Y3/2 黄オーリーブ	砂	
IXa 层	5 Y4/2 黑オーリーブ色	砂質シルト		Ⅹa 层	5 Y3/2 黄オーリーブ色	砂質シルト	
IXb 层	10YR5/3 に近い黄褐色	砂質シルト	酸化鉄鉻層	Ⅺ 层	5 Y4/2 黄オーリーブ色	砂質シルト	
Xa 层	5 Y4/2 黄オーリーブ色	砂質シルト		Ⅻ 层	2.5Y6/3 黄褐色	粘質シルト	
Xb 层	5 Y4/2 黄オーリーブ色	砂質シルト	酸化鉄鉻層	Ⅼ 层	2.5Y5/3 黄褐色	粘質シルト	酸化鉄鉻層
XI 层	10YR5/3 に近い黄褐色	粘土シルト		Ⅽ 层	2.5Y4/4 黄褐色	粘質シルト	

第7図 下層調査区平面図・断面図



第8図 第30次調査遺構配置図(1) 竪穴住居跡



第9図 第30次調査遺構配置図(2) 中・近世遺構

5. 発見された遺構と出土遺物

前述のとおりI区は天地返しによる影響が大きく、ほとんどの遺構は壁面が失われており、床面の一部が残存するだけのものもあった。II区は中央部に検出されたSD01で東西に分かれている。東側は遺構の密度が濃く、しかも遺存状況も良好であった。西側では、後世の遺構による影響が大きく遺存状況はよくなかった。III区は調査区西側半分が近年の工事による搅乱をうけ遺構は失われていた。

(1) 古墳時代

古墳時代に属する遺構としては、堅穴住居跡28軒、堅穴遺構7基、土坑1基等がある。

①堅穴住居跡・堅穴遺構

SI 01 堅穴住居跡 (第10・11図)

【位置】 III区 (H・I-4) に位置し、SI30を切っている。

【平面形・規模】 北壁と西壁の一部を検出したのみで、そのほとんどは調査区外にかかっているが平面形は方形を呈すると考えられる。規模は北壁140cm、西壁350cm以上を計る。方向は西壁でN-0°-Wである。

【堆積土】 埋土は4層に分けられた。

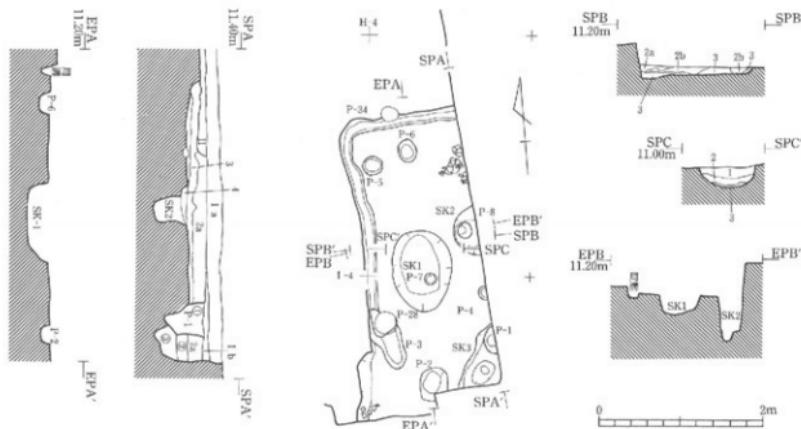
【壁・床面】 床面の南西壁側約40cmの範囲で焼土が検出されている。壁はほぼ垂直に立ち上がり、残存する壁高は北壁7~12.6cm、西壁5~8cmである。

【柱穴・ピット】 ピットは8基検出された。P-1・7・8はこの住居よりは新しいピットである。

【周溝】 周溝は、北壁側で幅10~12cm、深さ4~8cm、西壁側で幅12~18cm、深さ5~10cmを計る。

【床面施設】 土坑は3基検出されている。このうちSK1は貯蔵穴と考えられるもので、平面形は長楕円形を呈し、規模は長軸100×短軸76cm、深さ29cmを計る。

【出土遺物】 堆積土、床面より土師器(非クロコ)・須恵器・土製品・石製模造品・弥生土器が出土している。出土量は少ない。



第10図 SI01 堅穴住居跡平面図・断面図

番号	地区・層位	深さ	器種	大きさ (cm)	重さ (kg)	長さ (cm)	幅	発見	外　面	内　面	備　考	登録	写真
1	堆　土	土師罐	壺	(15.0)				1/4	(1)ヨコナデ (体)ヘラナデ→ヘラガキ	(口)ヨコナデ (体)ナデ→ミガキ		C 1	
2	堆　土	土師器	壺?						(口)オサエ→ヨコナデ			C 2	
3	床　土	土師器	壺	(16)				1/4	(1)ヨコナデ	(口)ヨコナデ (体)ナゲ		C 3	
番号	地区・層位	深さ	器種	大きさ (cm)	重さ (kg)	長さ (cm)	幅	発見	特　徴	測　定	登録	写真	
4	床　土	上質品	土　玉	26.0	31.0	21.5	15.4		孔径6.0mm		P 1	83-16	

第11図 SI01 積穴住居出土遺物

SI01 埋土記表

層位	土　色	土性	備　考
基本 1 層	10YR4/3 に近い黄褐色	シルト	
1 b 層	10YR5/2 灰黄褐色	シルト	
II 層	10YR4/3 に近い黄褐色	シルト	天地返層
2 a 层	10YR3/1 黒褐色	シルト	
2 b 层	10YR4/3 に近い黄褐色	シルト	10YR5/4 に近い黄褐色を斑状に混入
3 层	10YR2/2 黑褐色	シルト	
4 层	10YR2/3 黑褐色	シルト	
①層	10YR2/1 黒　色	シルト	10YR5/4 に近い黄褐色をブロック状に混入
②層	10YR2/2 黑褐色	シルト	
③層	10YR2/2 黑褐色	シルト	10YR5/4 に近い黄褐色とのブロック層

SI01 床面検出遺構觀察表

遺構名	平面形	規模(cm)	深さ (cm)	層位	土　色	土性	備　考
土坑	長楕円形	100×76	-28.7	1 層	10YR3/3 深褐色	シルト	10YR6/6 明黄褐色とのブロック層
				2 層	10YR3/3 深褐色	シルト	10YR6/2 灰黄褐色をブロック状に混入
				3 層	10YR3/2 黑褐色	シルト	炭化物混入
SK 2		60×(30)	-56.2	1 層	10YR2/2 黑褐色	シルト	10YR5/5 黄褐色をブロック状に混入
				2 層	10YR2/2 黑褐色	シルト	10YR5/4 に近い黄褐色とのブロック層
SK 3		(73)×(52)	-58.3	1 層	10YR2/2 黑褐色	シルト	10YR5/4 に近い黄褐色とのブロック層
				2 層	10YR2/2 黑褐色	シルト	10YR5/4 に近い黄褐色とのブロック層
柱穴 (Cyl)	P - 1 円形(?)	35×(13)	-30.4		10YR2/1 黒　色	シルト	10YR5/4 に近い黄褐色ブロック状に含む
	P - 2 方　形	35×(30)	-11.0		10YR3/1 黑褐色	シルト	炭化物粒子混入
	P - 3 円　形	28×28	-13.5		10YR3/2 黑褐色	シルト	10YR4/3 に近い黄褐色斑状に混入
	P - 4 円　形 ?	18×(10)	-22.3		10YR3/2 黑褐色	シルト	2.5Y5/6 黄褐色斑状に混入
	P - 5 円　形	24×22	-23.5		10YR3/2 黑褐色	シルト	炭化物粒子若干混入
	P - 6 痘　形	30×25	-14.7		10YR3/2 黑褐色	シルト	炭化物粒子若干混入
	P - 7 円　形	15×15	-30.8		10YR3/2 黑褐色	シルト	炭化物粒子若干混入
	P - 8 円　形	20×18	-15.1		10YR3/3 深褐色	シルト	

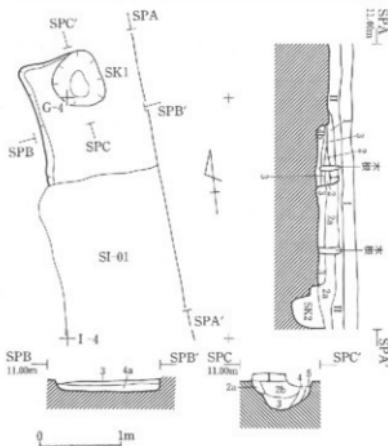
SI 30 穹穴住居跡 (第12・13図)

【位置】 III区 (G・H-3・4) に位置し、SI01 に切られている。

【平面形・規模】 北壁から西壁にかけてのコーナー部を検出したのみであるが¹、平面形は方形を呈すると考えられる。方向は西壁で N-10°-W である。

【堆積土】 埋土は 4 層に分けられた。

【壁・床面】 壁はほぼ垂直に立ち上がり、残存する壁高は北壁 5~8 cm、西壁 8~13 cm である。



【柱穴・周溝】 柱穴・周溝は検出されなかった。

【床面施設】 土坑 1 基が検出された。平面形は不整円形を呈し、規模は長軸 70 × 短軸 60 cm、深さ 35 cm を計る。

【出土遺物】 堆積土、土坑より土師器（非ロクロ）が出土している。第13図 1・2 は、SK1 土坑出土の土師器である。

SI30 墓土計表

層位	土色	土性	備考
1 層	2.5Y3/1 黒褐色	シルト	
2 層	10YR2/2 黑褐色	シルト	
3 層	10YR3/2 黑褐色	シルト	10YR5/4 に赤褐色を斑状に混入
4 a 層	10YR3/3 喧褐色	シルト	
4 b 层	10YR2/2 黑褐色	シルト	10YR4/3 に赤褐色をブロック状に混入

SI30 床面検出遺構観察表

造構名	平面形	奥 深 (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	附 位	土 色	土 性	備 考		
					1 層	2 a 層	2 b 层	3 層	4 层	5 層
土坑 SK 1	円 形	70×60	-	34.7	1 層	10YR3/2 黑褐色	シルト			
					2 a 層	10YR3/3 喧褐色	シルト			
					2 b 层	10YR2/3 黑褐色	シルト			
					3 層	10YR2/3 黑褐色	シルト	10YR5/6 黄褐色をブロック状に混入		
					4 层	10YR5/6 黄褐色	シルト			
					5 层	10YR4/6 紫 色	シルト			

第12図 SI30 穹穴住居跡平面図・断面図



番号	地区・層位	種別	面積	口径 (cm)	底径 (cm)	高さ (cm)	既存	外 面	内 面	備 考	空隙	写真
1	SK 1	土庫部	坪									C12
2	SK 1	土師部	坪					[1] ロココザ [2] ワカツアリ、ヘラスガキ、底内凹陷	ヘラスガキ 黑色処理			C14

第13図 SI30 穹穴住居跡出土遺物

SI 02 穫穴住居跡 (第14・15図)

【位置】 III区 (F・G-3・4) に位置している。西側は擾乱により失われ、東側は調査区外にかかる。

【平面形・規模】 北壁と南壁の一部と想定されるプランを検出したのみで、平面形は不明である。

【堆積土】 埋土は3層に分けられた。

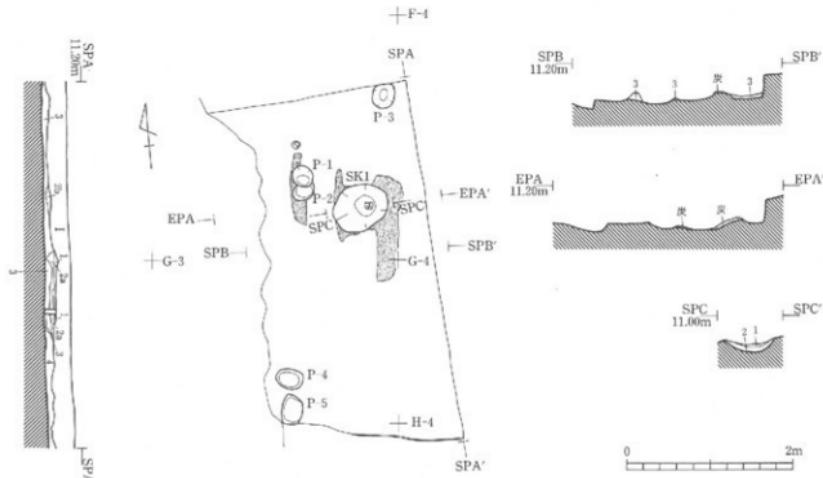
【壁・床面】 摆乱と天地返しにより床面の一部しか残存していない。床面北側 SK1 土坑を中心として焼土と炭化材が検出されている。壁はほとんど残っていない。

【柱穴・ピット】 ピットは5基検出された。

【周溝】 周溝は検出されなかった。

【床面施設】 焼土に伴う土坑が検出されている。平面形は長楕円形を呈し、規模は長軸67×短軸67cm、深さ17cmを計る。上面の炭化材を取り除いたところ検出され、埋土中に焼土ブロックを含んでいる。第15図1の高坏が埋土上面から出土している。

【出土遺物】 堆積土・床面より土師器（非クロ）・礫石器・石製模造品・剥片石器・弥生土器が出土している。第15図6は黒曜石の剥片石器である。側縁部・端部に急角度の刃部が作出されている。



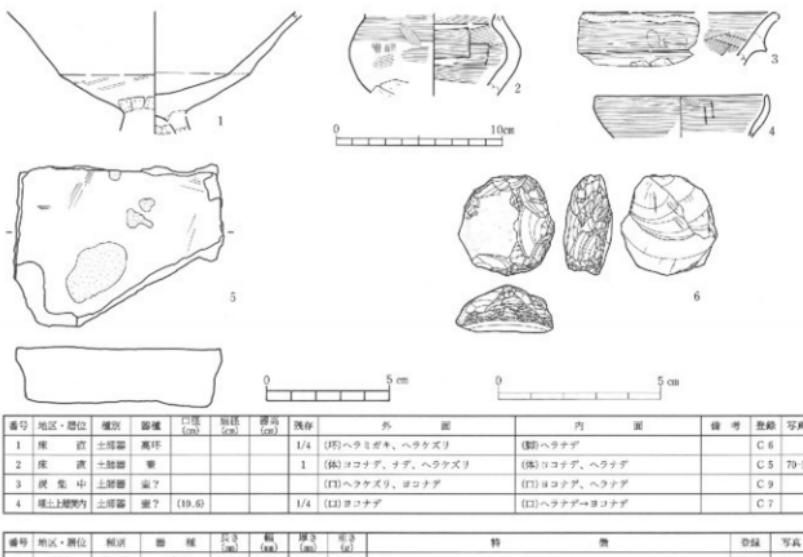
SI02 墓土跡記表

層位	土色	土性	備考
1層	10YR4/3 に赤い黄褐色	シルト	
2a層	10YR2/1 黒色	シルト	10YR3/2 黒褐色混入、炭化入
2b層	2.5Y5/4 黄褐色	シルト	
3層	10YR3/3 暗褐色	シルト	10YR5/2 暗黄褐色ブロック状に混入、炭化物混入

SI02 床面検出遺構観察表

遺構名	平面形	規模(cm)	深さ(cm)	層位	土色	土性	備考	
							上机	SK 1
柱穴 (P)	円形	27×26	-26	1層	10YR4/2 黄褐色	シルト	炭化物混入	
	円形(推定)	28×(17)	-31	10YR3/2 黑褐色	シルト	炭化物粒子混入	10YR5/2 黄褐色混入	
	方形	(30)×26	-20	10YR3/1 黑褐色	シルト			
	椭円形	34×25	-2	10YR3/1 黑褐色	シルト			
	方形	35×27	-3.5	10YR3/2 黑褐色	シルト			

第14図 SI 02 穫穴住居跡平面図・断面図



第15図 SI02 穫穴住居跡出土遺物

SI 03 穫穴住居跡（第16図）

【位置】III区（C-2・3）に位置し、SI04と重複しているが新旧関係は不明である。

【平面形・規模】南壁と東壁の一部を検出したのみでそのほとんどはSD02に切られているが、平面形は方形を呈すると言われられる。方向は東壁でN-11°-Eである。

【堆積土】埋土は単層であった。

【壁・床面】壁はほぼ垂直に立ち上がり、残存する壁高は東壁7～13cm、南壁6cmである。

【柱穴・周溝】柱穴・周溝は検出されなかった。

【出土遺物】土師器（非ロクロ）がごく少量出土している。図示できる遺物はない。

SI 04 穫穴住居跡（第16図）

【位置】III区（D-2）に位置し、SI03と重複しているが新旧関係は不明である。

【平面形・規模】東壁の一部を検出したのみで、西側をSD02に切られ、南側は搅乱により失われている。方向は東壁でN-10°-Eである。

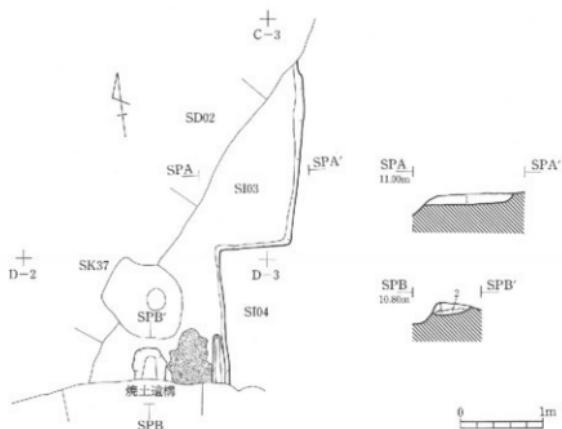
【堆積土】埋土は単層であった。

【壁・床面】壁はほぼ垂直に立ち上がり、残存する壁高は4～7cmである。

【柱穴・周溝】柱穴は検出されなかった。周溝の一部が検出された。幅10～17cm、深さ10cmを計る。

【床面施設】床面南側で焼土を伴う土坑が検出された。径40cm以上のもので、その東側に炭が拡がっていた。

【出土遺物】土師器（非ロクロ）がごく少量出土している。第16図1は焼土出土の土師器壺である。



SI03 埋土註記表

層位	土色	土性	備考
1 潜	10YR2/3 黒褐色	砂質シルト	10YR5/4 に近い黄褐色を混入、炭化物混入

SI04 埋土註記表

層位	土色	土性	備考
1 潜	10YR3/3 暗褐色	砂質シルト	2.5Y3/3 暗オリーブ褐色を混入

SI04 焼土遺構埋土註記表

層位	土色	土性	備考
1 潜	10YR2/2 黒褐色	シルト	焼土ブロック・炭化物混入
2 潜	10YR3/4 暗褐色	砂質シルト	焼土粒・炭化物粒混入



番号	地区・層位	種別	形態	口径(cm)	深度(cm)	高さ(cm)	残存	外観	内面	備考	登録	写真
1	SI04-地上中 土解器	?						(口)ヨコナメ (体)ヨコナメ、ヘラミガキ	(口)ヨコナメ (体)ヘラケヅリ		C23	

第16図 SI03・04 穫穴住居跡平面図・断面図・出土遺物

SI 06・07 穫穴遺構 (第17・18図)

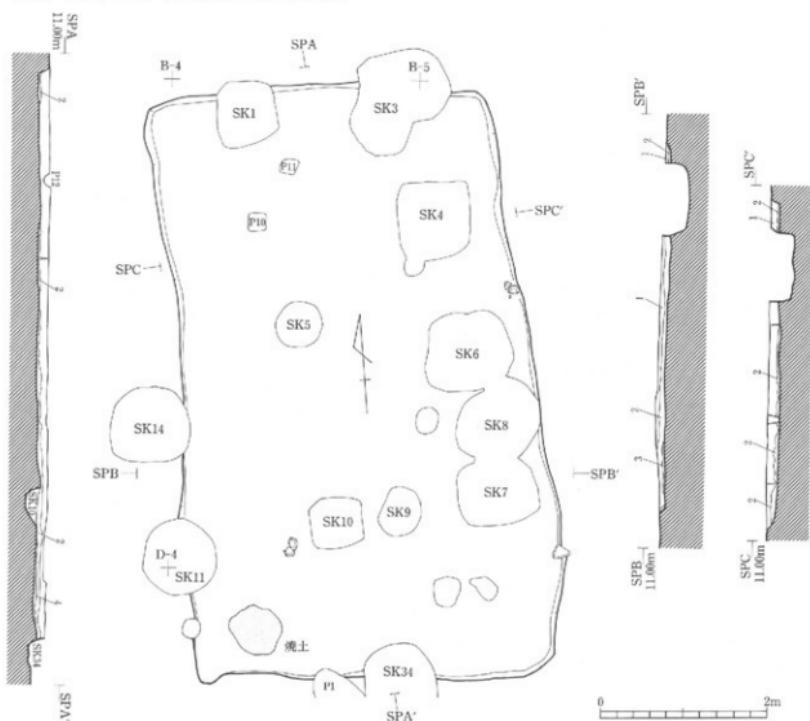
【位置】II区西 (B-D-3~5) に位置し、SB01・04 に切られている。当初は遺構の重複と考え調査に入ったが、埋土・壁面の状況により同一の遺構と判断した。

【平面形・規模】平面形は長方形を呈する。規模は南北軸長で約 7 m、東西軸長で約 4 m を計る。方向は東壁で N-S-W である。

【堆積土】埋土は 4 層に分けられた。

【壁・床面】壁はほぼ垂直に立ち上がり、残存する壁高は北壁 10~14cm、西壁 2~11cm、南壁 2~11cm、東壁 4~12 cm である。

【柱穴・周溝】柱穴・周溝は検出されなかった。



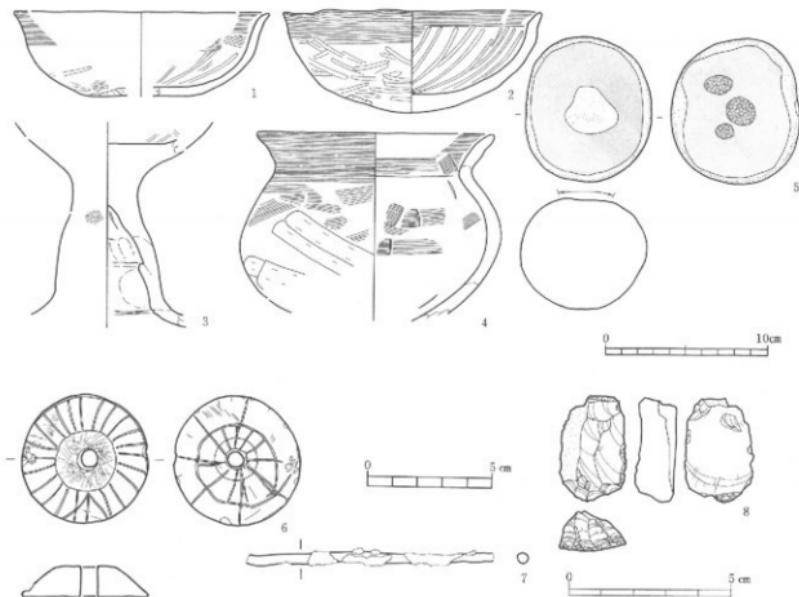
SI 06・07 埋土記表

層位	土色	土性	備考
1 層	10YR3/2 黒褐色	シルト	炭化物粒子を若干混入
2 層	2.5YR3/2 濃褐色	シルト	若干砂質シルトに近い
3 層	2.5YR4/3 オリーブ褐色	砂質シルト	
4 層	10YR3/3 暗褐色	シルト	炭化物粒子を若干混入

第17図 SI 06・07 穫穴遺構平面図・断面図

【床面施設】床面南西コーナー部に径40cmの範囲で焼土が検出された。

【出土遺物】堆積土・床面より、土器類(非ロクロ)・須恵器・砾石器・石製品・鉄製品・石製櫻造品・剝片石器・弥生土器が出土している。第18図6は石製鍛錘車で、7はその軸と考えられる鉄製品である。8は黒曜石の剝片石器で、端部に急角度の刃部が作出されている。



番号	地区・部位	種別	断面	直径 (cm)	高さ (cm)	幅 (cm)	操作	外　面	内　面	備　考	登録　写真
1	P 2	土器器	环	15.8	5.2	1/4	(C)ヨコナデ (体)ナア、ヘラミガキ (横)ヘラケズリ			C75	
2	堆土	土器器	环	15.9	5.4	3/4	(C)ヨコナデ (体)ヘラミガキ、ヘラケズリ (横)ヨコナデ	(L)ヨコナデ (横)ヘラミガキ (横)HSC		C74	70-2
3	堆土	土器器	高环			1/4	(W)ヨコナデ	(横)ヘラミガキ (横)シボリメ、オサエ		C82	
4	土器器	壺	14.6			1/2	(C)ヨコナデ (体)ナア、ヘラケズリ (横)ヨコナデ→ヘラナデ (体)ヘラナデ			C81	70-3

番号	地区・部位	種別	断面	高さ (mm)	幅 (mm)	幅 (mm)	重さ (g)	特　徴	備　考	登録　写真
5		砾石器	骨+巴	90	78	69.3	717.7		Kd302	82-2
6	堆土	石製品	筋輪車	52.3	50.0	12.0	45.2	孔径 4 mm	Kd 37	83-8
7		鉄製品	筋鍛錘車	100	径 4		4.7	両端欠損	N 2	84-1
8	堆土	剝片石器	スクレイバー	31.7	20.4	11.7	8.4	黒曜石	Ka 45	88-2

第18図 SI06・07 積穴遺構出土遺物

SI 08 穫穴遺構 (第19図)

【位置】 III区(D-4)に位置し、南半部分が調査区外にかかっている。

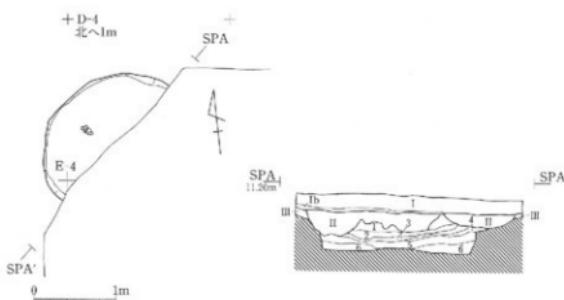
【平面形・規模】 平面形は円形を呈する。規模は南北軸長約80cm、東西軸長約200cmを計る。

【堆積土】 墓土は6層に分けられた。下層部の4~6層にかけて炭化物が多く混入していた。

【壁・床面】 壁はほぼ垂直に立ち上がり、残存する壁高は23~38cmである。床面は平坦で固くしまっていた。

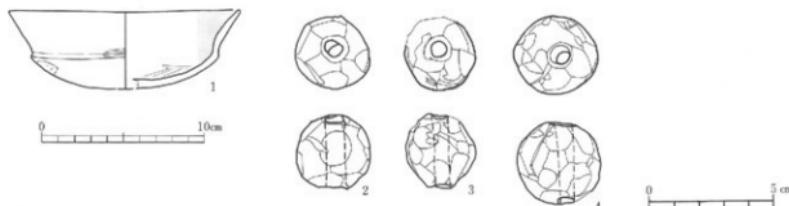
【柱穴・周溝】 柱穴・周溝は検出されなかった。

【出土遺物】 堆積土・床面より、土師器(非ロクロ)・土製品・弥生土器が出土している。



SI 08 墓土鉢記表

層位	土色	土性	備考
I層	10YR5/2 灰黄褐色	シルト	耕作土
I b層	10YR5/2 灰黄褐色	シルト	基本層
II層	10YR5/3 にぶい黄褐色		天地返層
III層	2.5Y6/4 にぶい黄色	シルト	
1層	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	
2層	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	炭化物粒子混入
3層	10YR3/2 黒褐色	シルト	炭化物粒子混入
4層	10YR3/2 黒褐色	シルト	10YR6/4 にぶい黄褐色ブロック状に混入、炭化物粒子混入
5層	10YR3/3 黒褐色	シルト	炭化物粒子混入、土面剥落
6層	10YR3/4 零褐色	シルト	炭化物粒子混入、南側上層部分で10YR7/2 にぶい黄褐色がブロック状に混入



番号	地区・層位	種別	器種	口径cm	底径cm	器高cm	残存	外 面	内 面	備考	登録	写真
1	床底	土師器	环	(14.4)	4.9	1/3	(口)ヨコナデ (体)ヘラケヅリ (体)ヘラミガキ			C18	70 4	

番号	地区・層位	種別	器種	長さcm	幅cm	厚さcm	通さ	特 徴	登録	写真
2	埋土上層	土製品	土玉	30	20	29	21.9	孔径7.5mm	P2	83-17
3	埋土上層	土製品	土玉	29.5	28.5	30	22.2	孔径6.5mm	P3	83-18
4	床面層下	土製品	土玉	32	34	33.5	33.9	孔径8.0mm	P4	83-19

第19図 SI 08 穫穴遺構平面図・断面図・出土遺物

SI 05 穫穴住居跡（第20~22回）

【位置】II区西（B・C-5・6）に位置し、東壁側をSD01に切られている。SI09・10・22・33を切っている。

【平面形・規模】平面形は方形を呈する。規模は北壁440cm以上、西壁460cmを計る。方向は西壁でN-17°-Wである。

【堆積土】埋土は3層に分けられた。

【壁・床面】壁はほぼ垂直に立ち上がり、残存する壁高は北壁15~18cm、西壁12~18cm、南壁15~19cmである。

【柱穴・ピット】北西コーナー部でピット2基が検出された

【周溝】周溝は北壁沿いカマドの両側で検出された。幅18~20cm、深さ6~8cmを計る。

【床面施設】土坑は7基検出された。カマド東側で貯蔵穴と考えられるSK1・2を検出した。SK1は南北軸長80cm、東西70cm以上で平面形は方形を呈すると思われ、SK2を切っている。ほぼ同じ位置で下面からSK6・7が検出されおり、何度も造り替えが行なわれている可能性がある。SK3・5は平面形が不整形で掘り込みの浅い凹地状のもので、底面には凹凸がみられる。

【カマド】北壁のほぼ中央部で燃焼部と煙道の一部が検出された。天井部ではなく、両側壁が残存している。規模は幅82cm、長さ109cmである。煙道部は幅35cm、長さ35cmである。カマド内から土器類の甕が横位の状態で出土しており、支脚にのせられていた可能性がある。カマド下周辺東西200cm、南北100cmの範囲に焼土・炭化物が広がっていた。カマド西側に焼土1があり、その下に径45cmの円形の浅い掘り込みがみられた。

【出土遺物】堆積土・床面・土坑・カマドより、土器類（非ロクロ）・須恵器・石製模造品・剥片石器・弥生土器が出土している。第22回11は堆積土出土の壺である。体部中央に段を持ち、内面は黒色処理される。2・3・7~10は床面出土の遺物である。カマドからは4・5の甕が出土している。1・6は土坑出土の遺物で、1の壺は有段で、内面は黒色処理される。12は黒曜石の剥片石器である。長軸の両端にツブレがみられる。

SI05 埋土鉢記表

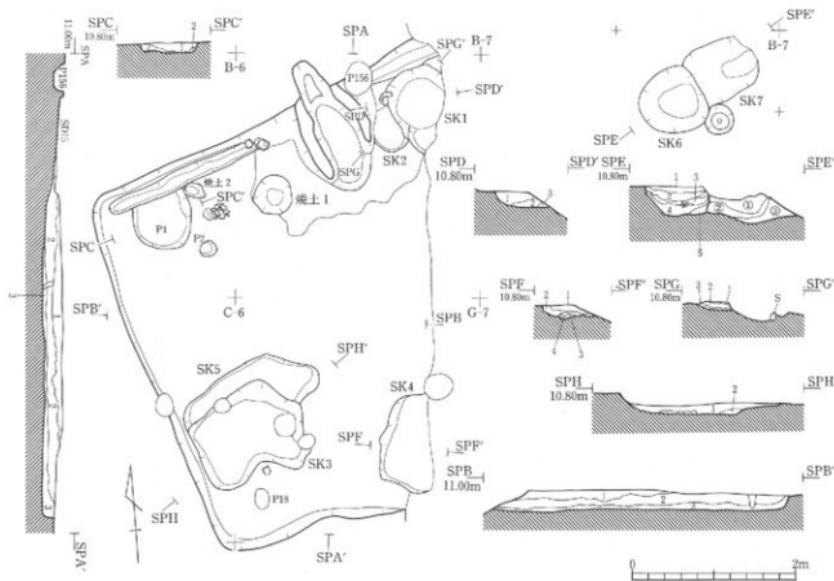
層位	土 色	土 性	備 考
1層	10YR3/1 黒褐色	シルト	10YR4/3 に赤い黄褐色ブロック状に混入
2層	10YR3/2 黒褐色	シルト	炭化物粒若干混入
3層	10YR3/3 深褐色	シルト	炭化物粒若干混入、10YR6/4 に赤い黄褐色が斑状に混入

SI05 周溝埋土鉢記表

遺構名	平面形	規 模	深 き	層 位	土 色	土 性	備 考
北壁周溝		460cm以上	-6~8cm		10YR3/1 黒褐色	シルト	炭化物混入

SI05 燃土2埋土鉢記表

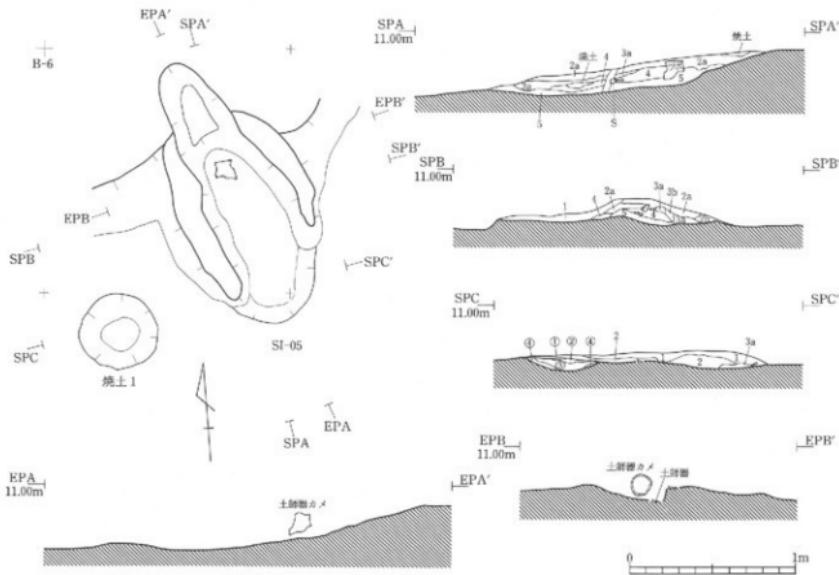
層位	土 色	土 性	備 考
1層	2.5YR3/6 暗赤褐色	シルト	純土
2層	2.5YR2/2 極暗赤褐色	シルト	純土、炭化物混入、2.5Y3/2 黑褐色混入



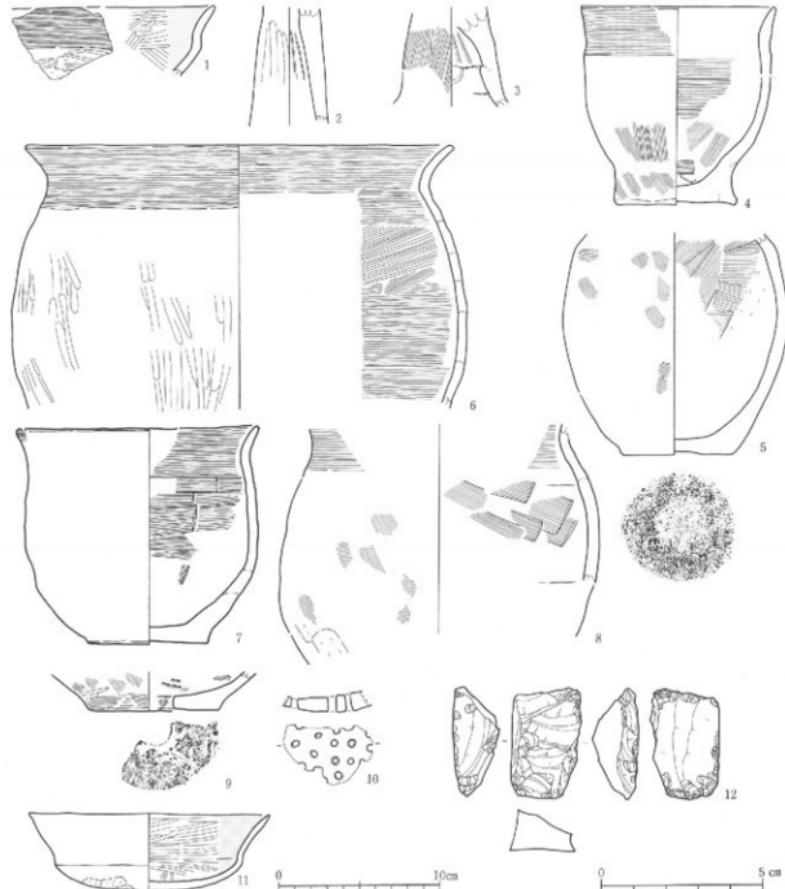
SI05 床面検出造構製表

	造構名	平面形	規模(cm)	深さ(cm)	層位	土色	土性	備考
SK 1	楕丸方形	(80×70)	-17.8~25.5	1層	10YR2/2 黒褐色	シルト	炭化物粒子混入	
				2層	10YR3/2 黒褐色	シルト		
				3層	10YR2/2 黒褐色	シルト	埋1層に比べ暗い色調	
SK 2	円形	60×(36)	9.5~13.1	1層	2.5Y5/4 黄褐色	シルト	炭化物粒子混入	
				2層	10YR2/1 黒褐色	シルト	燒土・炭泥入	
				3層	2.5Y5/4 黄褐色	シルト	燒土粒子、炭化物粒子混入	
SK 3	不整形	140×90	-42~-11	1層	2.5Y3/2 黑褐色	シルト	炭化物粒子混入	
				2層	10YR3/2 黑褐色	シルト		
				3層	2.5Y3/4 黄褐色	シルト	燒土粒子混入	
SK 4	不整形	120×(60)	-11.2~13.8	1層	2.5Y3/2 黑褐色	シルト	炭化物粒子若干混入	
				2層	7.5YR2/2 黑褐色	シルト	燒土ブロック状に混入	
				3層	SYR2/2 楊暗赤褐色	シルト	燒土層	
SK 6	不整形	180×(70)	-1.8~-7	1層	7.5Y2/2 黑褐色	シルト	燒土・炭化物混入	
				2層	10YR4/3 にひい黄褐色	シルト		
				3層	10YR4/1 深灰色	シルト	漂物包含、炭化物混入	
SK 7				4層	2.5Y7/7 灰黄色	粘土		
				5層	2.5Y8/2 灰白色	粘土	漂物・粘化鉄混入	
				①層	2.5Y7/7 灰黄色	粘土	2.5Y3/1 黑褐色上をブロック状に混入	
柱火 化(?)	P - 1	楕丸方形	74×(64)	-11.5	1層	2.5Y3/2 黑褐色	シルト	
					2層	2.5Y3/2 黑褐色	シルト	2.5Y5/4 黄褐色ブロック状に混入
					3層	10YR3/2 黑褐色	シルト	炭化物粒子混入
P - 2					4層	10YR3/2 黑褐色	シルト	

第20図 SI05 穫穴住居跡平面図・断面図



第21図 SI05 カマド平面図・断面図



番号	地区・層位	種別	器種	口径cm	底径cm	厚さcm	残存	外 面	内 面	参考	登録	写真
1	SK6	土師器	环					(体)ヘラミガキ→ヘラミガキ	ヘラミガキ 黒色処理		C64	
2	P 2	土師器	高環					(体)ヘラミガキ	(脚)シボリメ		C27	
3	P 8	土師器	高環				1	ナデ	シボリメ オサエ		C56	
4	カマ下内、P1	土師器	甕	(12)	7.4	12.3	1/1	(口)ヨコナデ (体)ナデ	(体)ヘラナデ		C24	70-5
5	カマF内、P2	土師器	甕		6.7	1	1	(体)ナデ	(体)ヨコナデ→ヘラケズリ		C25	
6	SK5	土師器	甕	(26.4)			1/4	(口)ヨコナデ (体)ヘラミガキ	(口)ヨコナデ (体)ナデ		C31	70-6
7	P 4	土師器	甕	(14.9)	(7.2)	13.4	1/1	(口)ヨコナデ	(口)ヨコナデ (体)ヘラケズリ		C38	70-7
8	P 1	土師器	甕				1	(体)ヨコナデ、ヨカケヌリ	(体)ヨコナデ (口)ナデ		C167	
9	灰窓	土師器	甕	(7.8)		1/3	ナデ→ヘラミガキ	(体)ヘラナデ (孔)ナデ		C36		
10	灰窓	土師器	甕							SH15と 組合	C40	70-9
11	埋土	土師器	甕	14.8		4.8	1	(体)ヘラケズリ	ヘラミガキ、黒色処理		C108	70-8

番号	地区・層位	種別	器種	長さcm	幅cm	厚さcm	重さ	特 徴	登録	写真
12	埋土上層	貝石	貝石	23.3	20.5	13.1	9.2	黒曜石、長範内端つぶれ		Ka44 88-3

第22図 SI05 穴竪住跡出土遺物

SI 09 穫穴住居跡 (第23・24図)

【位置】 II区西 (B・C-5・6) に位置し、SI05・06・07に切られている。

【平面形・規模】 北東コーナー部と南壁の一部を検出しているが、平面形は方形を呈すると考えられる。規模は北壁320cm、南壁80cmを計る。

【堆積土】 埋土は2層に分けられた。

【壁・床面】 壁はほぼ垂直に立ち上がり、残存する壁高は北壁11~15cm、南壁5cmである。

【柱穴・周溝】 柱穴・周溝は検出されなかった。

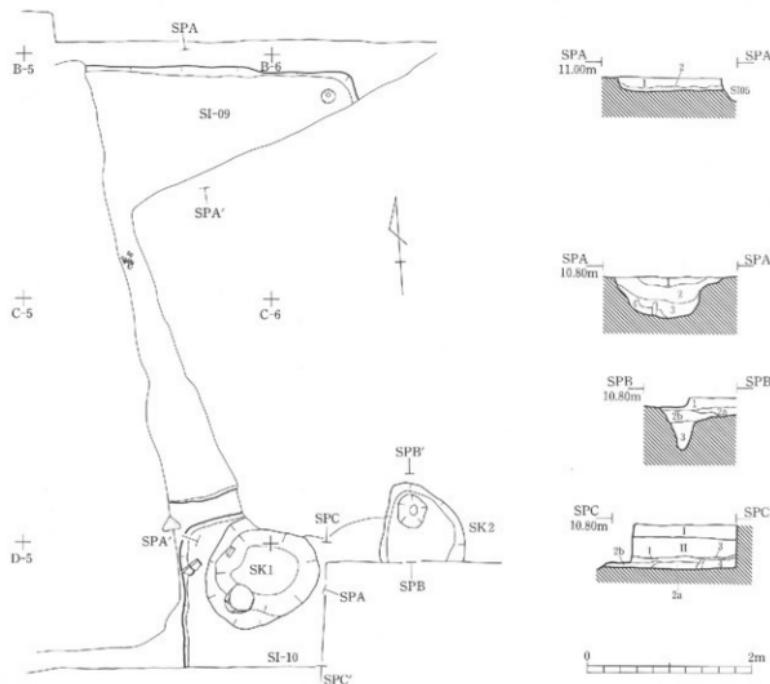
【出土遺物】 堆積土より、土師器（非ロクロ）・須恵器・礫石器・石製模造品・弥生土器が出土している。

SI 10 穫穴住居跡 (第23・25図)

【位置】 II区西 (C・D-5・6) に位置し、SI05に切られている。ほとんどは調査区外にかかっている。

【平面形・規模】 北西コーナー部のみが検出されたが、平面形は方形を呈すると考えられる。規模は北壁80cm、西壁170cmを計る。

【堆積土】 埋土は4層に分けられた。



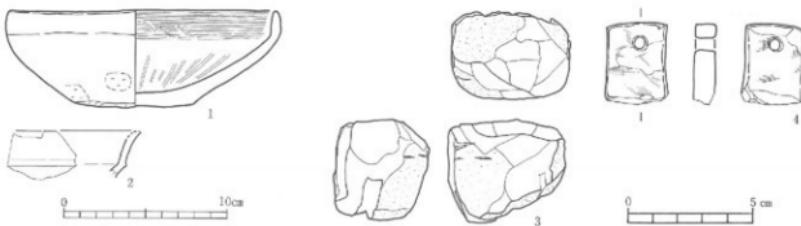
第23図 SI09・10 穫穴住居跡平面図・断面図

【壁・床面】壁はほぼ垂直に立ち上がり、残存する壁高は北壁7~9cm、西壁3~7cmである。

【柱穴・周溝】柱穴・周溝は検出されなかった。

【床面施設】土坑2基が検出された。SK1は径125cmで、平面形はほぼ円形を呈しており、埋土上面から第25図1の壺と5の甕が出土している。SK2の平面形は不整形を呈し、底面に40×35cmのピットがあった。

【出土遺物】堆積土・床面・ピット・土坑から、土器類(非ロクロ)・土製品・石製模造品・弥生土器が出土している。第25図5の甕は、外面はハケメの後ナデ調整されており、所々にハケメがかすかに見られる。内面は大部分をヘラ状の工具で調整しているが、木目痕が明瞭な部分とそうでない部分がある。前者をハケメ、後者をヘラナデとして図示している。



番号	地区・層位	種別	器種	口径cm	底径cm	壁高cm	残存	外 面	内 面	備考	登録 写真
1	埋土	土器類	壺	16.4	7.4	5.0	1	(壺) ハケメ	(壺) ハケメ (ナデ付)	C41 70-10	
2	埋土+半壺(消滅部)							ロクロナデ		E80 79-10	
番号	地区・層位	種別	器種	長さmm	幅mm	厚さmm	重さg	特 徴		登録 写真	
3	埋土中層	礫石類	砾石	41	42	41	28.5			Kd204 82-3	
4	埋土	礫石類	砾石	33.8	25.9	9	11.8			Kd42 82-4	

第24図 SI09 積穴住居跡出土遺物

SI09 埋土記表

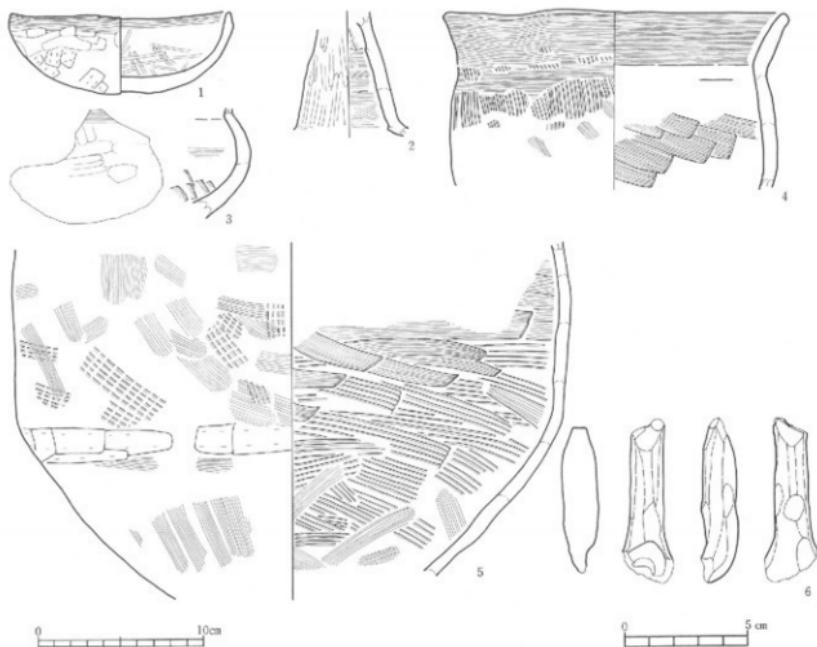
層位	土 色	土 性	備 考
1層	10YR3/2 黒褐色	シルト	炭化物粒子若干混入
2層	10YR3/2 黑褐色	シルト	10YR6/4 に於い黄褐色がブロック状に混入、若干砂質

SI10 埋土記表

層位	土 色	土 性	備 考
1層	10YR3/2 黑褐色	シルト	10YR5/4 に於い黄褐色土ブロック状に混入、2.5Y8/1灰白色土斑状に混入
2 a層	10YR3/3 暗褐色	シルト	10YR5/4 に於い黄褐色土とのブロック層
2 b層	10YR3/2 黑褐色	シルト	
3層	2.5Y8/1 灰白色	シルト	
4層	10YR6/6 明黄褐色	シルト	

SI10 床面検出遺構観察表

遺構名	平面形	横幅(cm)	深さ(cm)	層位	土 色	土 性	備 考
土坑	SK 1	100×100	-2.5~-6.6	1層	2.5Y3/2 黑褐色	シルト	炭化物粒子混入
				2層	10YR3/2 黑褐色	シルト	若干ナデ付、10YR6/3に於い黄褐色土斑状に混入、炭化物粒子混入
				3層	10YR2/3 黑褐色	シルト	炭化物粒子混入
				4層	10YR2/3 黑褐色	シルト	10YR5/8 黄褐色土とのブロック層
SK 2	長方形	100×100	-4.9~-27.3	1層	10YR3/2 黑褐色	シルト	下辺部に薄く黄の粘稠層が部分的にに入る
				2 a層	10YR3/3 暗褐色	シルト	10YR6/6 黄褐色土ブロック状に混入、2.5Y7/1灰白色土斑状に混入
				2 b層	10YR3/3 暗褐色	シルト	炭化物混入、2.5Y7/1灰白色土斑状に混入
				3層	10YR2/2 黑褐色	シルト	



番号	地区・層位	種別	器種	口径cm	底径cm	器高cm	残存	外 面		内面	備考	登録	写真
								(口)ココナデ	(底)ハラミガキ				
1 P 2	土師器	壺	壺	13.4		5.0	1	(口)ココナデ	(底)ハラミガキ	(口)ココナデ (体) ハラミガキ	C46	70-11	
2 SK2 縁部 ピット	土師器	壺						ハラミガキ		オサエ、ナデ	C48		
3 SK1+1 層	土師器	壺?						(口)ココナデ		(体)ナデ、ハラナデ	C49		内外赤影
4 P 1	土師器	壺	壺	21			1/2	(口)ハケメーネココナデ		(口)ココナデ	C45	70-12	
5 P 3	土師器	壺						(口)ハケメーネデ、ヘラクズリ、ナデ	ハケメーネナデ、ヘラナデ	ハケメーネナデ、ヘラナデ	C47	70-13	

番号	地区・層位	種別	器種	長さmm	幅mm	厚さmm	重さg	特 性		登録	写真
								(口)ココナデ	(底)ハラミガキ		
6	土製品	土製品	土製品	67.5	19.0	14	13.8			P12	83-15

第25図 SI10 穫穴住居跡出土遺物

SI 22 穫穴住居跡（第26図）

【位置】 II区西（C・D-6）に位置し、SI05の床面下で検出された。床面のほとんどがSD01に切られている。

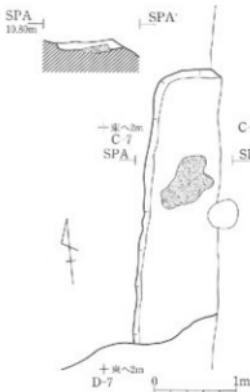
【平面形・規模】 北西コーナー部が検出されたが、平面形は方形を呈すると考えられる。規模は北壁70cm、西壁320cmを計る。方向は西壁でN-10°-Eである。

【堆積土】 埋土は単層であった。

【壁・床面】 壁はほぼ垂直に立ち上がり、残存する壁高は北壁5～8cm、西壁7～10cmである。

【柱穴・周溝】 柱穴・周溝は検出されなかった。
【床面施設】 床面北側で炭化物が集中して検出されたが、焼土は伴っていない。

【出土遺物】 堆積土より土師器（非ロクロ）・石製模造品・弥生土器がごく少量出土している。図示できる遺物はない。



SI 22 埋土記表

層位	土 色	土 性	備 考
1層	10YR3/2 黒褐色	シルト	2.5Y5/4 黄褐色をブロック状に混入

第26図 SI 22 穫穴住居跡平面図・断面図

SI 27 穫穴住居跡（第27・28図）

【位置】 II区西（B～D-4・5）に位置し、SI06・07の床面下で検出された。

【平面形・規模】 北西コーナー部が検出されたが、平面形は方形を呈すると考えられる。規模は北壁60cm、西壁570cmを計る。方向は西壁でN-30°-Eである。

【堆積土】 埋土は4層に分けられた。

【壁・床面】 壁はほぼ垂直に立ち上がり、残存する壁高は北壁2cm、西壁2～6cmである。

【柱穴・ピット】 ピットは3基検出された。P-1は不整形で、長軸75×短軸60cm、深さ50cmを計る。底面から第28図1の高杯が出土している。

【周溝】 周溝は検出されなかった。

【床面施設】 SK1は不整円形を呈し、10～20cmと浅く、底面には凹凸がみられる。

【出土遺物】 堆積土、床面より土師器（非ロクロ）・石製模造品・弥生土器が出土している。

SI 29 穫穴住居跡（第27図）

【位置】 II区西（C・D-3～5）に位置し、SI06・07の床面下で検出された。

【平面形・規模】 南西コーナー部が検出されたが、平面形は方形を呈すると考えられる。規模は南壁150cm、西壁360

cmを計る。方向は西壁でN-2°-Eである。

【堆積土】埋土は単層であった。

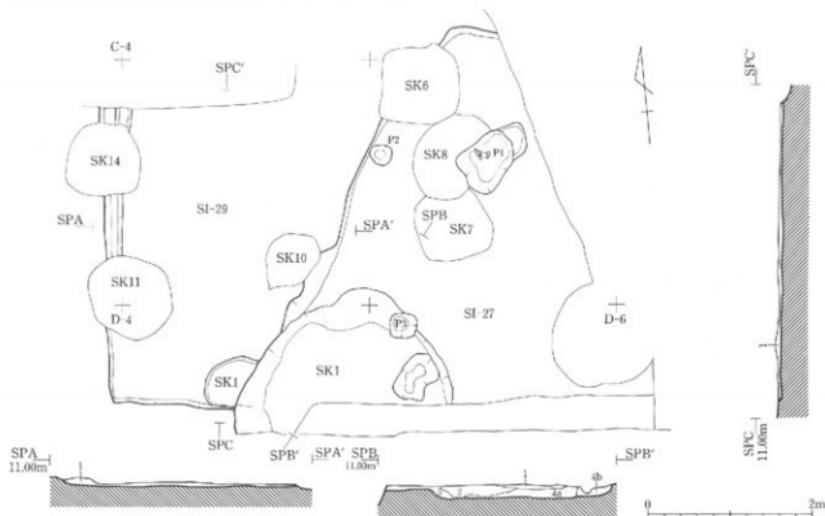
【壁・床面】壁はほぼ垂直に立ち上がり、残存する壁高は南壁1.5~3cm、西壁2~5.5cmである。

【柱穴・ピット】ピットは検出されなかった。

【周溝】周溝は西壁沿いで検出された。幅20cm、深さ7~10cmを計る。

【床面施設】南壁に接して土坑1基が検出された。深さ10cmと浅い掘りこみであった。

【出土遺物】堆積土より土師器(非黒クロ)・弥生土器がごく少量出土している。図示できる遺物はない。



SI27 埋土記表

層位	土色	土性	備考
1層	10YR3/3 喧褐色	シルト	
2層	10YR5/4 にぶい黄褐色	シルト	10YR3/3 喧褐色土ブロック状に混入
3層	10YR3/2 黒褐色	シルト	
4a層	10YR6/4 にぶい黄褐色	シルト	10YR3/3 喧褐色土とのブロック層
4b層	10YR6/4 にぶい黄褐色	シルト	若干砂質、2.5Y7/1 灰白色土ブロック状に混入

SI27 床面検出遺構観察表

遺構名	平面形	規模(cm)	深さ(cm)	層位	土色	土性	備考
土坑	SK 1 不整形	(26×14)	7.8~19.9				
P-1	不整形	94×62	-6.4~27.6	10YR3/3 喧褐色	シルト	10YR6/3 ブロック状に混入、炭化物粒混入	
柱穴	P-2 円形	28×26	-11.7~36.1	10YR3/2 黒褐色	シルト		
(挖)P-3	楕丸形	32×30	-12.7~22	10YR3/2 黒褐色	シルト		

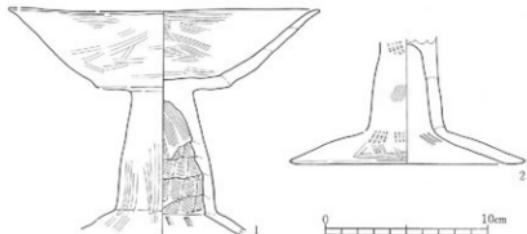
SI29 埋土記表

層位	土色	土性	備考
1	2.5Y3/2 黑褐色	シルト	若干砂質、部分的に10YR3/2 黑褐色土をブロック状に含む

SI29 床面検出遺構観察表

遺構名	平面形	規模(cm)	深さ(cm)	層位	土色	土性	備考
土坑	SK 1 円形	60×(50)	6.9~9.5	10YR3/3 喧褐色	シルト	10YR6/3 にぶい黄褐色ブロック状に混入、炭化物粒混入	

第27図 SI27・29 穴竪遺構平面図・断面図



番号	地区・層位	種別	口径cm	底径cm	厚高cm	残存	外　面	内　面	備考	登録	写真
1	P 1	土師器	高环 (19.2)		1/3	[15.0] ハツガハナ [15.0] ハツガハナ	ハツガハナ ハツガハナ	ハツガハナ ハツガハナ		C302	71-1
2	床直	土師器	高环 (14.5)		1/4	ハツガハナ	ハツガハナ	ハケメ		C313	

第28図 SI27 積穴住居跡出土遺物

SI 28 積穴住居跡（第29図）

【位置】II区西（B-3・4）に位置し、西側をSD02に切られ、SI06・07に切られるが、SI29を切っている。

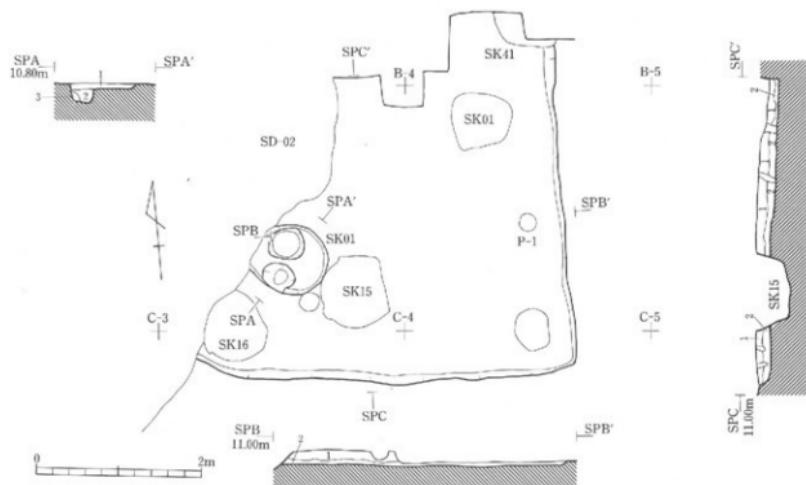
【平面形・規模】南東コーナー部が検出されたが、平面形は方形を呈すると考えられる。規模は南壁460cm、東壁390cmを計る。方向は東壁でN-1-Eである

【堆積土】埋土は2層に分けられた。

【壁・床面】壁はほぼ垂直に立ち上がり、残存する壁高は南壁8~18cm、東壁7~12cmである。

【柱穴・周溝】柱穴・周溝は検出されなかった。

【床面施設】土坑1基が検出された。径85×95cmの円形で、深さ6cmと浅いが、底面にピット状の落ち込みが2ヵ所みとめられ、深さは14cm程度であった。



第29図 SI28 積穴住居跡平面図・断面図

【出土遺物】堆積土より土師器（非ロクロ）・石製模造品・弥生土器がごく少量出土している。図示できる遺物はない。

SI28 堆積土記表

層位	土 色	土 性	備 考
1層	5Y3/1 オリーブ黒色	砂質シルト	
2層	10YR3/3 増褐色	砂質シルト	

SI28 床面検出遺構觀察表

遺構名	平面形	規模(cm)	深さ(cm)	層 位	土 色	土 性	備 考
土坑	円 形	86×(94)	-2.9~-6.5	1層	10YR3/4 増褐色	砂質シルト	
				2層	10YR3/3 增褐色	砂質シルト	
				3層	10YR5/2 灰 黄褐色	砂質シルト	
柱穴	P-1	円 形	20×20		10YR2/2 黑褐色	砂質シルト	

SI 33 竪穴遺構（第30図）

【位置】II区西（C・D-5・6）に位置している。SI05・10・27に切られている。

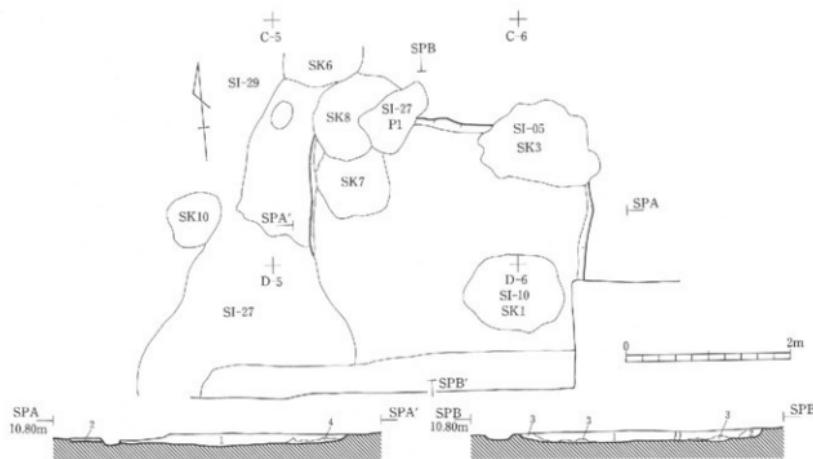
【平面形・規模】平面形は方形を呈すると考えられる。規模は北壁90cm、東壁120cm、西壁150cmを計る。

【堆積土】埋土は4層に分けられた。

【壁・床面】壁はほぼ垂直に立ち上がり、残存する壁高は北壁5~8cm、東壁3~10cm、西壁4~9cmである。床面はほとんど残っていない。

【柱穴・周溝】柱穴・周溝は検出されなかった。

【出土遺物】堆積土・床面より土師器（非ロクロ）・弥生土器がごく少量出土している。図示できる遺物はない。



SI33 堆積土記表

層位	土 色	土 性	備 考
1層	10YR3/3 増褐色	シルト	炭化物粒子混入、10YR3/2 をブロック状に含む
2層	10YR2/3 黑褐色	シルト	10YR7/1、10YR3/3 が混入
3層	2.5YR3/3 増オリーブ褐色	シルト	
4層	2.5YR5/3 黄褐色	シルト	炭化物粒子混入、10YR7/1、10YR2/3 が混入

第30図 SI33 竪穴遺構平面図・断面図

SI 11 穫穴住居跡（第31・32図）

【位置】 II区東（C-7）に位置している。

【平面形・規模】 SD01に西側を切られており、東壁と南壁の一部を検出した。平面形は隅丸方形を呈すると考えられる。規模は南壁160cm、東壁280cmを計る。方向は、東壁でN-23°-Wである。

【堆積土】 墓上は3層に分けられた。

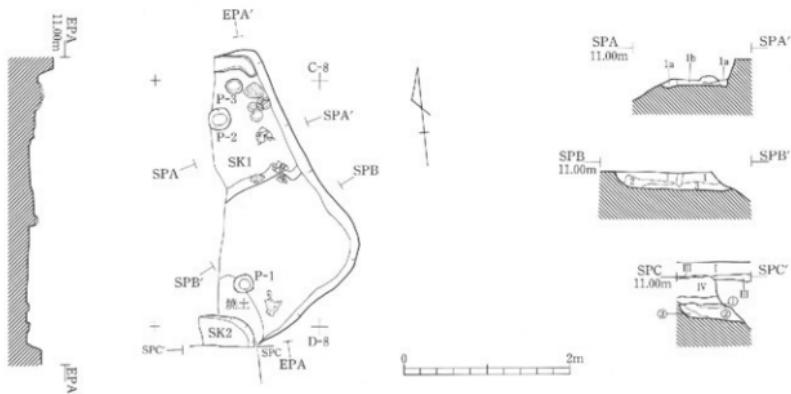
【壁・床面】 壁はほぼ垂直に立ち上がり、残存する壁高は南壁15~20cm、東壁22~27cmである。図示した遺物は床面からまとめて出土している。

【柱穴・ピット】 ピットは3基検出された。

【周溝】 周溝は北壁側でわずかに検出されている。幅17cm、深さ3~7cmである。

【床面施設】 床面には部分的に炭化材がみられ、特に南側に焼土・炭化物の抜がりがみとめられた。床面北側に10cm程の段差があり、これをSK1としている。調査区南壁に接してSK2とした土坑の一部を検出した。深さ15cmを計る。

【出土遺物】 堆積土・床面より、土師器（非クロクロ）・土製品・弥生土器が出土している。第32図1~3は外面に段を持ち、口縁部が1・3は外反し、2は直立気味である。4は段を持たない。



SI11 墓土記表

層位	土 色	土 性	備 考
1層 10YR2/2 黒褐色	シルト		
2層 10YR4/3 オリーブ褐色	シルト	若干砂質、10YR2/2 黒褐色ブロック状に混入	
3層 10YR3/2 黒褐色	シルト	炭化物粒子混入、西側に10YR6/4 に於く黄褐色ブロック状に混入	

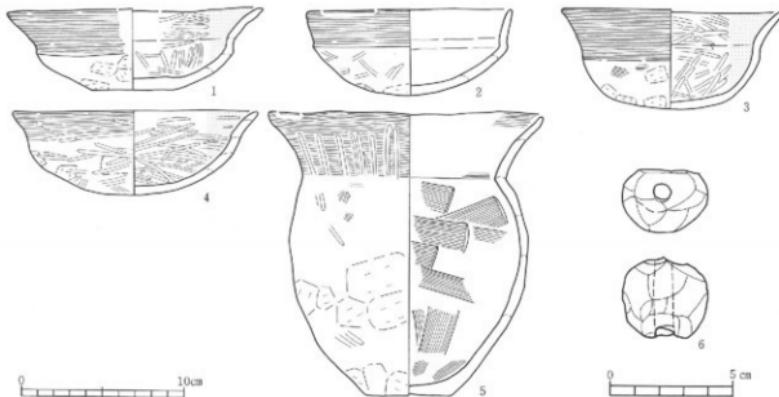
SI11 床面検出遺物観察表

遺構名	平面形	規模(cm)	深さ(cm)	層 位	土 色	土 性	備 考	
							1a 層	1b 層
土坑	SK 1		-9.1		10YR3/2 黒褐色	シルト	炭化物粒子混入	
	SK 2		-18.9	1層	10YR3/2 黒褐色	シルト	炭化物粒子混入、2.5Y4/3 オリーブ褐色小ブロック状に混入	
				2層	10YR3/1 黒褐色	シルト	10YR5/1 グライ土が混入、炭化物粒子若干混入	
				3層	10YR3/1 黒褐色	シルト		
柱穴	P-1	円形	24×22	-14.3	10YR2/2 黒褐色	シルト	炭化物粒子混入	
	P-2	円形	20×18	-15.0	10YR3/2 黒褐色	シルト	炭化物粒子若干混入	
	P-3	円形	26×26	-10.0				
周溝			-3~ -3.6		10YR3/2 黒褐色	シルト	炭化物混入	

SI11 焼土遺構

樹種	土 色	土 性	備 考
10YR3/2 黒褐色		焼土、炭化物、灰混入	

第31図 SI11 穫穴住居跡平面図・断面図



番号	地区・層位	種別	器種	口径cm	底径cm	高さcm	残存	外 面	内 面	備考	登録	写真
1	P1+P2	土師器	环	15.7	5.0	5.1	1	(1)ヨリノマテ、(2)ナヂ(?)	ヘラミガキ、墨色処理		C145	71-3
2	P 4	土師器	环	12.6		5.4	1	(1)ヘラクズリ	ヘラミガキ		C147	71-4
3	P 6	土師器	环	13.7		6.2	1	(1)ヨリノマテ	ヘラミガキ、墨色処理		C148	71-5
4	P 5	土師器	环	15.1		5.3	1	(1)ヘラクズリ	ヘラミガキ、墨色処理		C193	71-6
5	P 3	土師器	甕	16.8	5.4	17.6	1	(1)ヘラクズリ、(2)ナヂ(?)	ヘラミガキ、(1)ナヂ? (2)ヘラナヂ、ナヂ		C146	71-2

番号	地区・層位	種別	器種	持さmm	φmm	厚さmm	底さR	特 徴	備考	登録	写真
6	土製品	土玉		25	35	32	26.0	孔径7.0		P 5	83-20

図32 SI11 穫穴住居跡出土遺物

SI 12 穫穴住居跡 (第33・34図)

【位置】II区東(A-C-9・10)に位置している。SI17に東側を切られているが、SI13・25を切っている。検出面のプランや埋土ではSI25との重複関係はわからなかった。

【平面形・規模】平面形は北・南壁がやや外側に開いた台形状を呈すると考えられる。規模は北壁180cm、南壁280cm、西壁340cmを計る。方向は、西壁でN-20°-Wである。

【堆積土】埋土は3層に分けられた。

【壁・床面】壁はほぼ垂直に立ち上がり、残存する壁高は北壁10~16cm、南壁9~16cm、東壁9~15cmである。床面は平坦で固くしまっている。床面全体に炭化材・炭化物が検出されている。特に北側では床面直上に焼土混じりの炭化物の集積があり、遺物の多くはこの中に入っていることから焼失家屋の可能性がある。焼土遺構の西側床面に粘土塊が検出された。

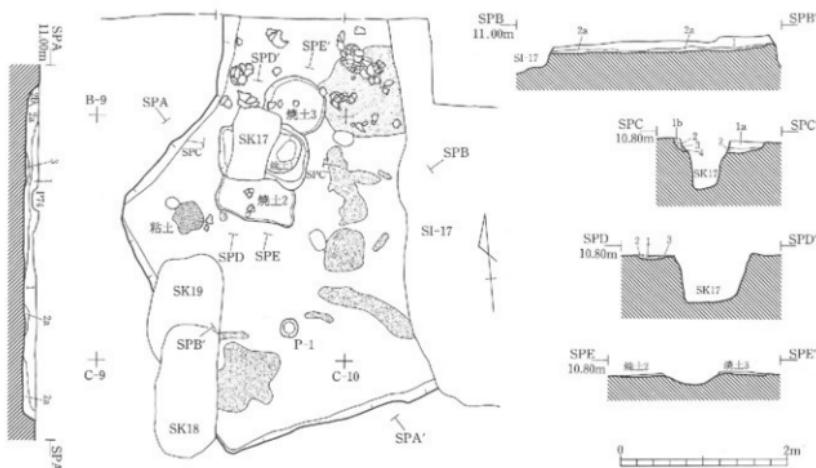
【柱穴・ピット】ピットは1基検出された。

【周溝】周溝は検出されなかった。

【床面施設】焼土遺構が重複して検出されたが、その中心はSK17によって切られている。焼土1は不整形形を呈し、その規模は長軸110×短軸70cm、深さ17cmを計る。底面に厚さ7cmの焼土層があり、焼成による赤変がみられた。焼土2は不整形形を呈し、規模は長軸95×短軸40cm、深さ3cmの浅い凹み状のものである。焼土3は径75cmの円形を

呈し、深さ4cmの浅い凹み状のものである。ともに焼土1からかきだされた焼土によるものと考えられる。

【出土遺物】堆積土・床面より、土師器（非ロクロ）・須恵器・石製模造品・弥生土器が、掘り方より疊石器・鉄製品が出土している。第34図1は壙であり、外面に段を持ち、内面には赤彩の痕跡がある。5は、口唇部が平坦である。6は体部が丸みを持つ甕である。体部下半の外面調整は、砂粒が動くいわゆるヘラケズリであるが、面取り状ではなく仕上がりが平滑にされている。



SI12 墓土財記表

層位	土色	土性	備考
1層	2.5Y3/2 黒褐色	シルト	炭化物粒子混入
2a層	10YR3/2 黒褐色	シルト	炭化物粒子混入
2b層	10YR3/3 暗褐色	シルト	
3層	2.5Y3/1 黒褐色	シルト	炭化物粒子混入

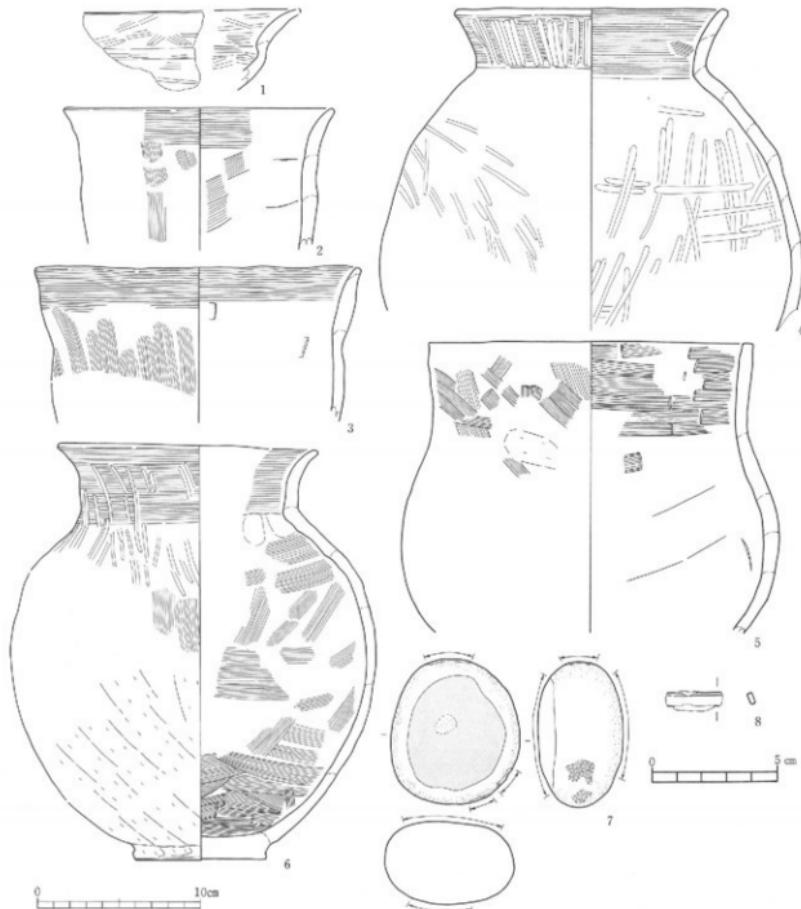
SI12 烧土遺構観察表

遺構名	平面形	規模(cm)	深さ(cm)	層位	備考		
					土色	土性	備考
焼土1	不整形	110×70	-8.3~-13.4	1a層	7.5YR2/2 黒褐色	シルト	骨片混入、焼土斑状に混入、炭化物粒子混入
				1b層	2.5Y3/3暗オリーブ褐色	シルト	
				2層	SYR4/6 赤褐色		焼土
				3層	7.5YR2/2 暗褐色	シルト	
				4層	2.5Y3/2 黑褐色	シルト	焼土若干混入
				焼土2	10YR3/2 黑褐色	シルト	炭化物粒子混入
焼土3	円形	94×(50)	-2.3~-5.0	1層	7.5YR2/3 施暗褐色	シルト	焼土混入、炭化物粒子混入
				2層	2.5Y3/3暗オリーブ褐色	シルト	
				3層	10YR3/3 暗褐色	シルト	

SI12 床面検出遺構観察表

遺構名	平面形	規模(cm)	深さ(cm)	層位	土色	土性	備考
柱穴	P-1	円形	25×22	-28.2	10YR3/3 暗褐色	シルト	

第34図 SI12 穴柱住居跡平面図・断面図



番号	地区・層位	種別	器種	口径cm	底径cm	高さcm	残存	外		内		備考	登録	写真	
								長さ	幅	長さ	幅				
1	床面	土器	环				1/4	ヘラミガキ		ヘラミガキ、一部ナデ		【図】ヘラミガキ 【図】ナデ	C623		
2	P 2	土器	甕	(16.6)			1/4	(口)ヨコナデ(体)ナデ		(口)ヨコナデ(体)ヘラナデ			C591		
3	P 2	土器	甕	20.2			1/2	(口)ヨコナデ(体)ナデ		(口)ヨコナデ(体)ヘラナデ			C592	71-7	
4	P 1	土器	甕	(16.5)			1/4	(口)ヨコナデ(体)ヘラミガキ		(口)ヨコナデ(体)ヘラミガキ		【図】ヨコナデ(体)ヘラミガキ 【図】ヨコナデ(体)ヘラミガキ	C590	71-8	
5	P 9	土器	甕	(20.0)			1/4	(口)ヘラナデ(一部ヘラケズリ)		ヘラナデ			C593	71-9	
6	P3+P6	土器	甕	16.0	8.1	25.8	1/4	(口)ヘラミガキ		(口)ヨコナデ(体)ナデ、ヘラナデ			C595	72-1	
番号															
7	掘り方	石器	磨+敲	9.1	7.8	52	560.7						Kd303	82-5	
8	掘り方	鉄製品	釘?	(23)	5	2	2.2						N 4	84-2	

第34図 SI12 積穴住居跡出土遺物

SI 25 穫穴住居跡（第35・36図）

【位置】II区東（A・B-9・10）に位置している。SI17・12に切られている。SI12の北側床面及び壁面の精査中に検出された。

【平面形・規模】西壁の一部が検出されただけで平面形は不明である。SI12の床面下で検出されたプランをSI25のものと想定すると、規模は推定で南壁200cm、西壁450cm以上を計ると考えられる。方向は、西壁でN-2°-Wである。

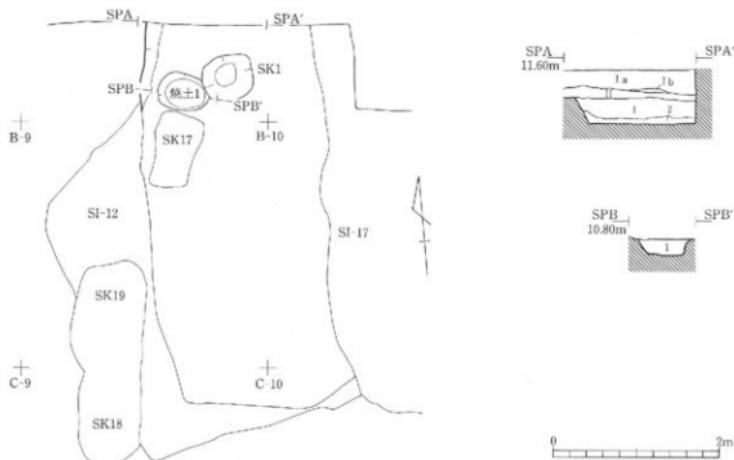
【堆積土】埋土は2層に分けられた。

【壁・床面】壁はほぼ垂直に立ち上がり、残存する壁高は西壁6cmである。

【柱穴・周溝】柱穴・周溝は検出されなかった。

【床面施設】床面北側に65×50cmの範囲で焼土が検出され、その下に浅い掘り込みも検出されている。焼土の西側で土坑1基が検出された。平面形は隅丸方形を呈し、規模は長軸64×短軸54cm、深さ40cmを計る。

【出土遺物】堆積土、床面より土師器（非クロロ）・石製模造品・ガラス玉が出土している。



SI25 埋土跡記表

層位	土色	土性	備考
1層 2.5Y3/2 黒褐色	シルト	炭化物を多く混入、とくに下部にかけて炭が多く含まれる	
2層 10YR3/2 黒褐色	シルト	炭化物を多く混入、炭とともに土師器を多く含む	

SI25 床面検出遺構簡表

遺構名	平面形	規模(cm)	深さ(cm)	層位	土色	土性	備考
土坑 SK1	不整円形	64×54	-40.0		10YR3/3 暗褐色	シルト	焼土粒、炭化物混入
焼土 焼土1	椭円形	65×46	-22.0		7.5YR2/2 黑褐色	シルト	焼土粒、炭化物、骨片を多く混入

第35図 SI25 穫穴住居跡平面図・断面図



番号	地区・層位	種別	器種	口径cm	底径cm	高さcm	容積cm	残存	外 面	内 面	備考	登録	写真
1	P18+19	土師器	壺	15.0	(5.5)	1	(1)	ヨコナデ (口)ナデ (底)ヘラミガキ	ヘラミガキ		C621	72-2	
2	P 8	土師器	壺	19.2	6.3	3/4	(口・底)ナデ	(底)ヘラケズリ	ヘラミガキ	内裏・底部 剥離	C616	72-3	
3	P9+5+E+R	土師器	壺	21.2	12.6	6.3	1	(体)ヘラケズリナデ (底)ヘラケズリ	ヨコナデ・ヘラミガキ(放射状)		C619	72-4	
4	P14	土師器	甕	12.4	4.8	11.3	1	(口)ヨコナデ (底)ヘラケズリナデ	(体)ナデ?		C620	72-5	
5	P13	土師器	甕	(14.8)	7.6	13.8	(底)13	(口)ヨコナデ (底)ヘラケズリ	(1)ヨコナデ (体)ヘラナデ		C618	72-6	
6	P15	土師器	甕	(23.8)	7.0	22.0	1/3	(口)ヨコナデ (底)ナデ	ヘラナデ→ナデ		C622	72-7	
7	P11	土師器	甕	(15.7)			1/4	(口)ヨコナデ (体)ナデ	(口)ヨコナデ (体)ヘラナデ		C594		
8	P 2	土師器	甕	(16.2)			1/4	ヨコナデ→ナデ	(1)ヨコナデ (体)ナデ		C612		

番号	地区・層位	種別	器種	大きさ(m)	幅(cm)	厚さ(cm)	重さ(kg)	特 徴	登録	写真
9	ガラス玉白玉			長軸8.4 短軸7.7	6.8	0.5	孔徑2.5mm、緑色		ガラス2	87-31

第36図 SI25 壁穴住居跡出土遺物

SI 13 穹穴住居跡（第37～39図）

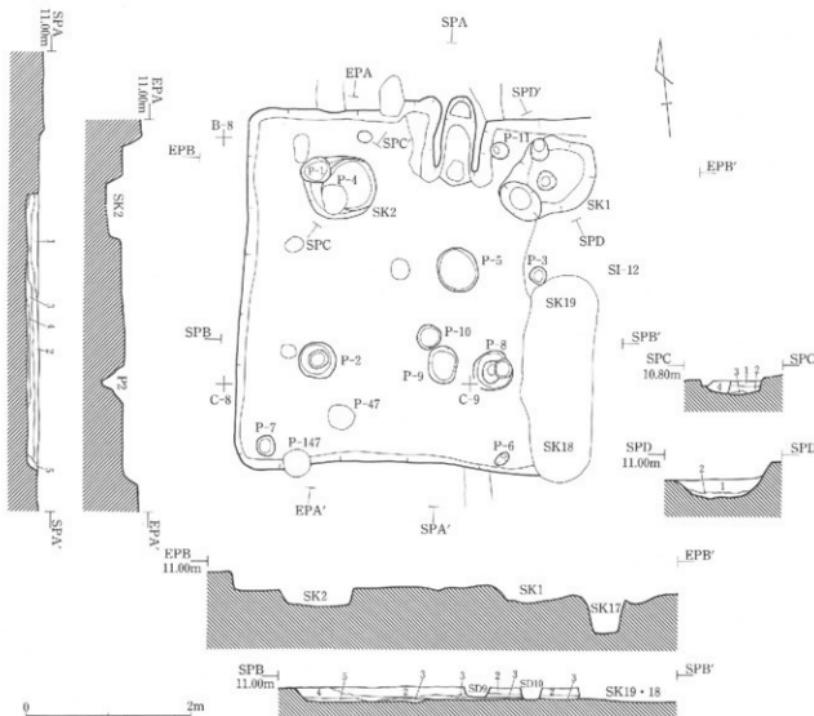
【位置】II区東（B・C-8・9）に位置している。SI12に東側を切られている。

【平面形・規模】平面形は方形を呈すると考えられる。規模は北壁180cm、南壁280cm、西壁340cmを計る。方向は、西壁でN-8°-Eである。

【堆積土】埋土は5層に分けられた。

【壁・床面】壁はほぼ垂直に立ち上がり、残存する壁高は北壁19～26cm、南壁8～17cm、西壁18～23cmである。

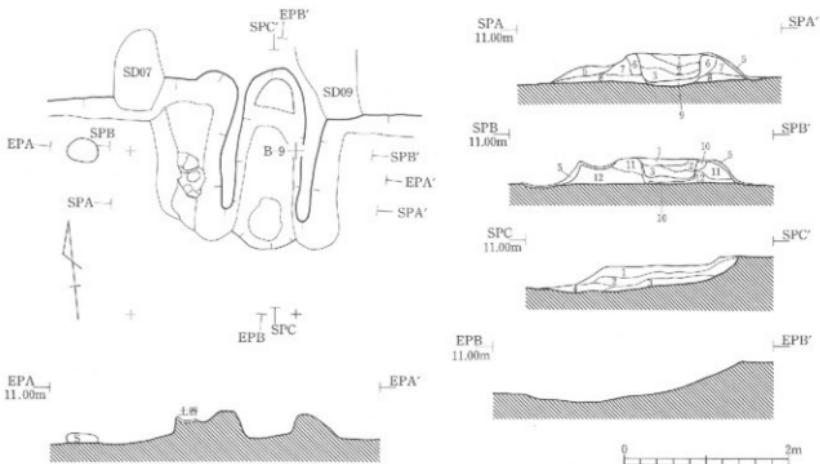
【柱穴・ピット】ピットは13基検出された。位置や規模からみてP-1・2・8が主柱穴と考えられる。P-2・8の底面には柱痕跡もみとめられる。SK1を切っているピットも柱穴の可能性がある。



SI13 埋土記表

層位	土 色	土 性	備 考
1層	10YR3/2 黒褐色	シルト	炭化物粒子混入
2層	2.5Y3/2 黒褐色	シルト	カマド側に骨片、焼土粒子混入
3層	10YR3/3 暗褐色	シルト	
4層	2.5Y3/2 黑褐色	シルト	炭化物粒子混入、西壁側で10YR4/1 初灰色が斑状に混入、2層よりは暗く10YR3/2 黑褐色に近い色調
5層	10YR3/3 暗褐色	シルト	2.5Y4/3 オリーブ褐色が混入

第37図 SI13 穹穴住居跡平面図・断面図



カマド埋土計測表

層位	土色	土性	備考
1層	2Y3/2 黒褐色	シルト	純土混入
2層	10YR2/2 黑褐色	シルト	燒土・骨片混入
3層	7.5YR3/2 黑褐色	シルト	燒土混入
4層	7.5YR2/1 黒色	シルト	燒土粒・炭化物粒・骨片混入
5層	10YR3/2-10YR4/1ブロック層	シルト	燒土粒・炭化物粒混入
6層	5YR3/3 暗褐色	シルト	純土をブロック状に混入
7層	2.5Y4/3 オリーブ褐色	シルト	燒土混入 カマド油
8層	2.5Y3/2 黑褐色	シルト	
9層	7.5YR3/2 黑褐色	シルト	カマド燃焼部底面、焼成によりやや赤変している
10層	7.5YR2/3 柚子褐色	シルト	焼成により赤変している
11層	10YR5/3 にじい黄褐色	シルト	炭化物粒混入
12層	10YR3/2 黑褐色	シルト	炭化物粒混入

第38図 SI13 カマド平面図・断面図

SI13床面検出遺構観察表

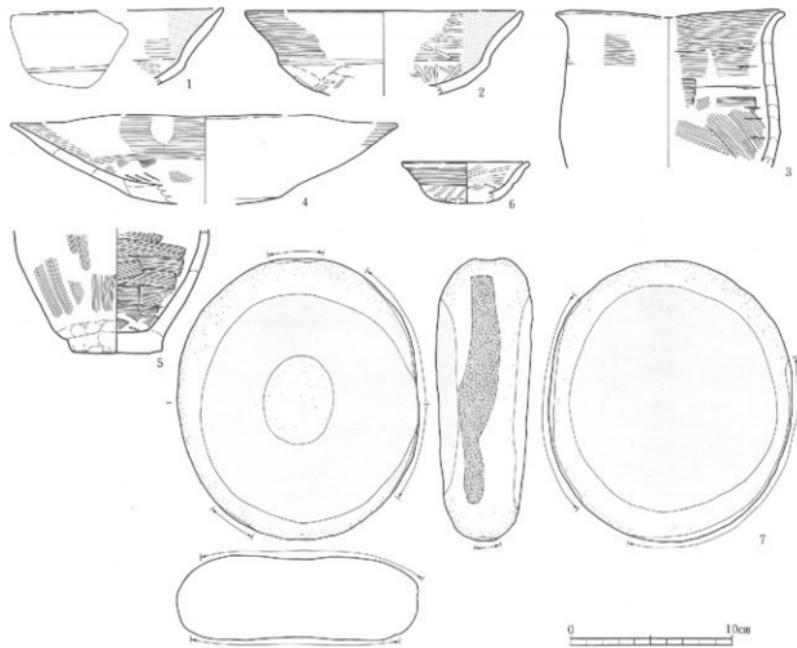
遺構名	平面形	規模(cm)	深さ(cm)	層位	土色	土性	備考
土坑	SK1	不整形	130×98	-26.3	1層 10YR3/2 黑褐色 2層 5YR2/2 黑褐色	シルト	炭化物粒子若干混入
P-4	円形	60×64	-20.9	1層 10YR3/2 黑褐色 2層 10YR2/3 黑褐色 3層 5YR3/4 柚子褐色 4層 10YR2/2 黑褐色	シルト	燒土ブロック状に混入 南側上部に燒土ブロック状に混入 燒土層	
P-1	円形	36×32	-15.9	10YR3/2 黑褐色	シルト	炭化物粒子混入	
P-2	円形	46×44	-18.2	10YR3/2 黑褐色	シルト	炭化物混入	
P-3	円形	22×22	-19.3	10YR3/2 黑褐色	シルト	炭化物混入	
P-5	円形	50×54	-6.9	10YR3/3 黑褐色	シルト	10YR6/3 にじい黄褐色が混入	
P-6	円形	20×14		10YR3/1 黑褐色	シルト		
P-7	円形	22×26	-9.8	10YR3/2 黑褐色	シルト		
P-8	円形	48×48	-21.5	10YR3/2 黑褐色	シルト		
P-9	円形	34×44	-8.0	10YR3/3 柚子褐色	シルト		
P-10	円形	30×30	-7.5	10YR3/3 暗褐色	シルト		
P-11	円形	36×40	-18.2	10YR4/3 にじい黄褐色	シルト	2.5Y6/3 にじい黄褐色が混入	

【周溝】周溝は検出されなかった。

【床面施設】カマドの両側に土坑が検出され、貯蔵穴の可能性がある。ともに柱穴と考えられるピットに切られている。SK1は不整形を呈し、長軸125×短軸90cm、深さ20cmを計る。SK2は不整円形を呈し、長軸85×短軸75cm、深さ20cmを計る。

【カマド】北壁のほぼ中央部で燃焼部と煙道の一部が検出された。天井部ではなく、両側壁が残存している。規模は幅110cm、長さ90cmである。煙道部はほとんど残存していない。カマド周辺に焼土・炭化物が拡がっていた。

【出土遺物】堆積土・床面・カマド・ピットより、土器類（非ロクロ）・疊石器・石製模造品・剣片石器・弥生土器が出土している。第39図1・2は壺で、外面に段を持ち、口縁部は外反し、内面は黒色処理される。



番号	地区・層位	種別	器種	口径cm	底径cm	厚さcm	残存	外 面		内 面		備考	登録	写真
								横	縦	横	縦			
1	床直	土器器	环							ヘラミガキ、黒色処理		C96		
2	ピット1	土器器	壺	(17.2)				1/2	1/2	(口)ココナデ+ヘラミガキ		C87		
3	P 3	土器器	壺	(14.0)				1/2	1/2	(口)ココナデ	(口)ココナデ (体)ヘラナデ	C89	72-9	
4	ピット4	土器器	高壺	(23.8)				1/4	1/4	ココナデ	ココナデ、ヘラナデ	C91		
5	カマド	土器器	壺	5.6			1	(体)ココナデ		(体)ヘラナデ		C84		
6	5層	土器器	小形	7.9		2.6	1	(口)ココナデ+ヘラミガキ		ヘラナデ→ヘラミガキ		C99	72-8	

番号	地区・層位	種別	器種	長さmm	幅mm	厚さmm	重さg	特 徴	登録	写真
7	床直	疊石器	磨+敲	175	150	57	2,400		Kd305	82-6

第39図 SI13 積穴住居跡出土遺物

SI 32 穫穴住居跡（第40～42図）

【位置】II区東（A・B-7・8）に位置している。SI13の床面下で検出され、SD01に西側を切られている。北側は調査区外にかかっている。

【平面形・規模】平面形は方形を呈すると考えられる。規模は南壁350cm、東壁340cmを計る。方向は、東壁でN-5°-Eである。

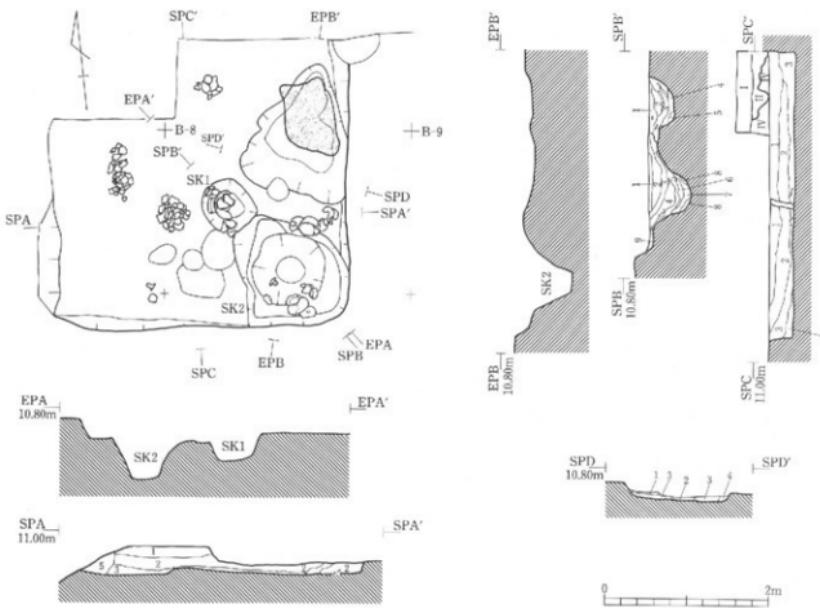
【堆積土】埋土は5層に分けられた。

【壁・床面】壁はほぼ垂直に立ち上がり、残存する壁高は南壁12～28cm、東壁13～17cmである。床面は平坦で固くしまっており、灰白色シルトによる貼床がされていた。床面西側に6～10cmのわずかな段差がみられたが全体のプランは不明である。

【柱穴・周溝】柱穴・周溝は検出されなかった。

【床面施設】床面東壁側で南北90cm、東西60cmの範囲に焼土・炭化物が検出され、その下に浅い掘り込みが伴っていた。平面形は三角形状を呈し、東西125×南北160cm、深さ7cmを計る。断面形は浅い皿状を呈し、中央部に焼土がみられた。位置的にカマド燃焼部の掘り込みである可能性も考えられる。

南東コーナー部で土坑2基を検出し、ほとんどの遺物はこの2基の土坑から出土している。SK1は平面形は不整形で、規模は長軸85×短軸58cmで、深さは32cmである。SK2は平面形は隅丸方形を呈している。規模は長軸140×短軸120cmで、深さは57cmである。



第40図 SI32 穫穴住居跡平面図・断面図

【出土遺物】堆積土・床面・土坑より土師器（非ロクロ）・須恵器・砾石器・石製模造品・剥片石器・弥生土器が出士している。第41図6・7は土師器の蓋で、ともにSK2から出土している。6は口径16cm、高さ6.2cmで、つまみは凹状になっている。

SI32 塗土鉢記表

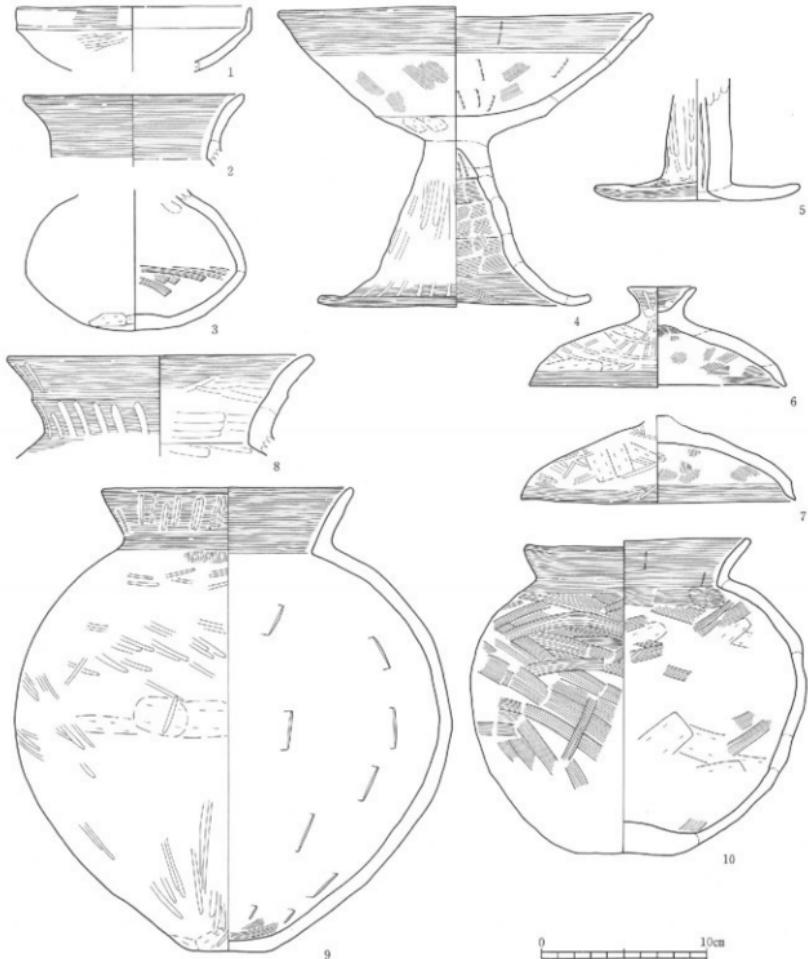
層位	土色	土性	備考
1層	10YR3/2 黒褐色	シルト	炭化物粒子混入
2層	10YR3/3 暗褐色	シルト	10YR7/1 灰白が斑状に混入
3層	10YR2/3 暗褐色	シルト	
4層	10YR3/2 暗褐色	シルト	10YR5/6 黄褐色
5層	10YR2/3 黒褐色	シルト	10YR7/1 灰白が斑状に混入、酸化鉄混入

SI32 床面検出遺構観察表

遺構名	平面形	規模(cm)	深さ(cm)	層位	土色	土性	備考
SK1	橢円形	35×58	-32	1層	10YR4/3 にぼい黄褐色	シルト	10YR6/4 にぼい黄色、ブロック状に混入、炭化物
				2層	10YR5/3 にぼい黄褐色	シルト	粒子を混入
				3層	10YR3/3 暗褐色	シルト	炭化物粒子若干混入
				4層	10YR4/3 暗褐色	シルト	炭化物粒子若干混入
				5層	10YR6/4 にぼい黄褐色	シルト	ブロック層
土坑	不整形	140×121	-57	1層	10YR4/3 にぼい黄褐色	シルト	炭化物粒子若干混入
				2層	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	10YR6/4 にぼい黃褐色のブロック状に混入、炭化
				3層	10YR3/3 暗褐色	シルト	物層
				4層	10YR4/1 灰黄褐色	シルト	10YR7/1 灰白色斑状に混入、マンガン斑状に混
				5層	10YR4/2 黑褐色	シルト	入
				6層	10YR5/2 灰黄褐色	シルト	ブロック層
				7層	10YR4/1 灰褐色	シルト	炭化物粒子若干混入
				8層	10YR6/1 灰褐色	シルト	
				9層	10YR7/1 にぼい黄褐色	シルト	ブロック層、上面に炭化物粒子集中

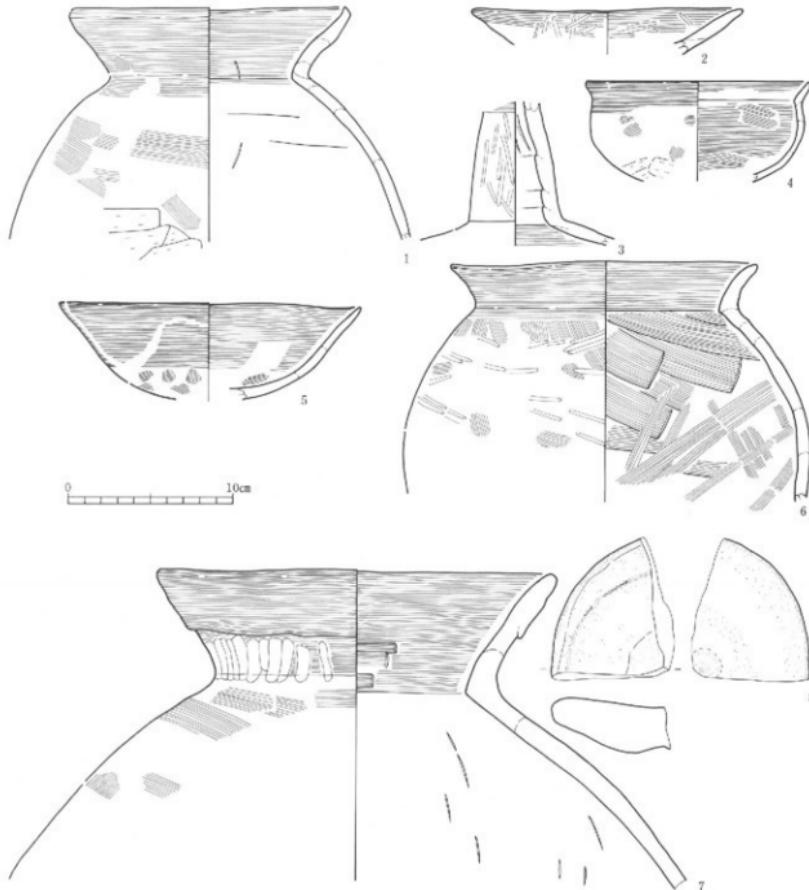
SI32 烟土漬積柱記表

層位	土色	土性	備考
1層	10YR3/2 黒褐色	シルト	炭化物粒子混入、焼土粒混入
2層	5YR4/3 にぼい赤褐色	シルト	燒土層、骨片混入、炭化物粒子混入
3層	10YR5/3 にぼい黄褐色	シルト	炭化物粒子混入、焼土粒若干混入
4層	7.5YR6/2 暗褐色 5YR5/3 にぼい黄褐色	シルト	ブロック層、炭化物粒子混入



番号	地区・局位	種別	器種	口径cm	底径cm	器高cm	残存	外 面	内 面	参考	登録 写真
1 P 2	土師器	环	(14.4)				1/4	(1)ヨコナデ(体)ヘラミガキ			C110
2 P 1	土師器	甕	13.6				1	ヨコナデ			C109
3 P 3	土師器	甕				1	(体)ヘラケズリ	(体下)オサエ(体下)ヘラナデ			C111 72-10
4 P 4	土師器	高环	23.1	16.8	18.7	19.5	(ヨコナデ)ヨコナデ、サギヘラケズリナシ (ヨコナデ)ヨコナデ、サギヘラケズリナシ	(ヨコナデ)ヨコナデ、ヘラドードテ (ヨコナデ)ヨコナデ			C112 73-1
5 P17	土師器	高环		12.7		1	(ヨコナデ)ヨコナデ、ヘラミガキ	(ヨコナデ)ヘラミガキ			C131
6 P14	土師器	甕	16.0	6.2	約1	10.5	(ヨコナデ)ヨコナデ、ヘラミガキ (ヨコナデ)ヨコナデ、ヘラミガキ	(ヨコナデ)ヨコナデ、ヘラミガキ (ヨコナデ)ヨコナデ、ヘラミガキ			C118 72-11
7 P19	土師器	甕	17.0			3/4	(体)ヨコナデリヘラミガキ	(体)ナデ(口)ヨコナデ			C119 72-12
8 P 5	土師器	甕	19.0				1/2	ヨコナデヘラミガキ			C113 73-2
9 P 8	土師器	甕	(15.5)	5.2	28.6	19.3	(ヨコナデ)ヨコナデ (ヨコナデ)ヨコナデ	(ヨコナデ)ヨコナデ、ナゲ (ヨコナデ)ヨコナデ			C144 73-3
10 P12	土師器	甕	(13.6)	19.7	19.1		1/4	(1)ヨコナデ(体)ヘラナデ (2)ヘラケズリヨコナデ			C116 73-6

第41図 SI32 積穴住跡出土遺物（1）



番号	地区・層位	種別	断面	口径cm	底径cm	厚さcm	残存	外 面	内 面	備考	登録 写真
1	P13	土師器	甕	16.4		1	1/2	ヨコナデ・シケヌリ	ヨコナデ→ヨコナデ		C117 74-1
2	SK2	土師器	高环	16.4		3/4	ヨコナデ・ヘラミガキ	ヨコナデ→ヨコナデ		C125	
3	P10	土師器	高环			1	(底)ナデ・ヘラミガキ	(脚)シボリメ(台)ナデ		C114	
4	埋土下層	土師器	环	(13.6)		1/4	ヨコナデ・シケヌリ→ナデ	ヨコナデ(体)ナデ		C132 73-4	
5	埋土下層	土師器	高环	18.2		1/2	(口)ヨコナデ(体)ナデ	(口)ヨコナデ(体)ナデ		C133 73-5	
6	P18	土師器	甕	18.6		1	ヨコナデ・シケヌリ・ヘラミガキ	ヨコナデ・ナデ		C120 74-2	
7	P25	土師器	甕?	23.7		1	ヨコナデ・ヘラミガキ	ヨコナデ・ヘラミガキ		C122 73-7	

番号	地区	層位	種別	断面	長さmm	幅mm	厚さmm	重さkg	特 徴	登録 写真
8			砾石層	石皿?	86	72	37.3	220.7		Kd312 82-8

第42図 SI32 穫穴住跡出土遺物（2）

SI 14 積穴住居跡（第43～47図）

【位置】II区東（C・D-8～10）に位置し、南側が調査区外にかかっている。SI15に西側を切られているが、SI16・23を切っている。改築が行なわれており、古段階のSI35の西側を拡張し、床を上げている。

【平面形・規模】平面形は方形を呈すると考えられる。規模は北壁450cm、西壁200cmを計る。方向は、西壁でN-24°-Eである。

【堆積土】埋土は3層に分けられた。

【壁・床面】壁はほぼ垂直に立ち上がり、残存する壁高は北壁5～20cm、西壁5.5～9.5cmである。床面は古い段階の住居を埋めて床面としている。

【柱穴・ピット】ピットは3基検出された。P-1・2が柱穴となる可能性がある。P-3は埋土上面に骨片混じりの焼土があり、カマドからかき出された焼土溜と考えられる。

【周溝】周溝は検出されなかった。

【床面施設】SK1 埋土上面東壁側と、P-1とP-2の間の床面で粘土塊を検出している。焼土1～3はいずれも下に掘り込みを伴っている。それぞれ径40～50cmで、平面形は円形を呈し、深さは15～20cmを計る。P-3と同様にカマドの焼土溜と考えられる。

カマドの両側で土坑を検出している。東側のSK1は約1/2が調査区外にかかるが方形を呈し、東西120×南北80cm以上、深さ60cmを計る。断面形は逆台形を呈し、埋土上面に土師器甕を中心として遺物が多く出土している。西側のSK2は不整円形を呈し、長軸110×短軸70cm、深さ22cmを計る。断面形は舟底形を呈し、埋土上面に焼土・炭混じり層がある。P-3に切られている。

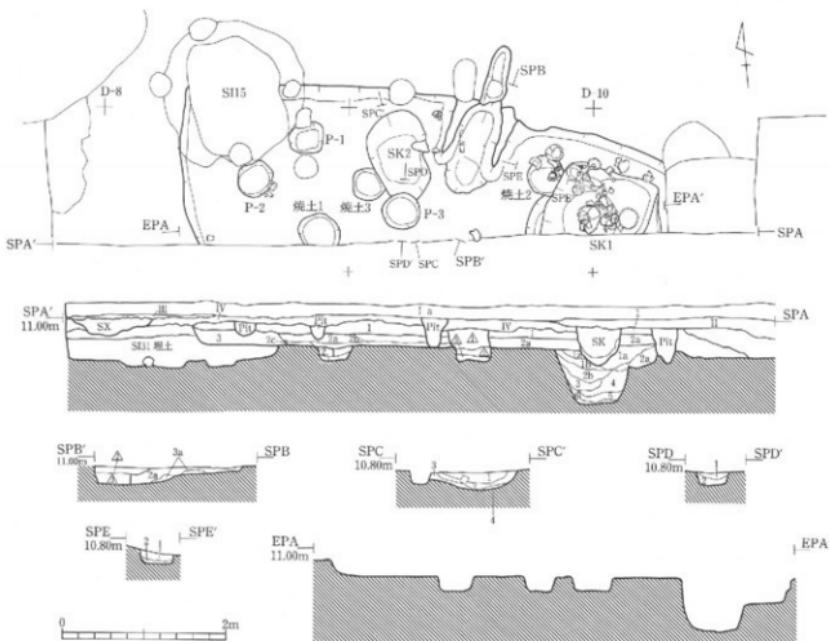
【カマド】北壁のほぼ中央部で燃焼部と煙道の一部が検出された。カマドは改築された痕跡がなく新しく作られたものと考えられる。天井部ではなく、両側壁が残存している。規模は幅110cm、長さ80cmである。煙道部は幅28cm、長さ80cmである。カマドの周辺東西200cm、南北100cmの範囲に焼土・炭化物が広がっていた。

SI14 床面検出遺構觀察表

遺構名	平面形	規模(cm)	深さ(cm)	層位	土 色	土 性	備 考
土坑	方形	120×80		1a 層	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	炭化物粒子混入
				1b 層	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	2.5Y5/3 小ブロック状に混入
				2a 層	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	
				2b 層	2.5Y3/2 黒褐色	シルト	
				3 層	10YR3/2 黒褐色	シルト	10YR5/6 ブロック状に混入、炭化物混入
				4 层	2.5Y3/1 黒褐色	シルト	2.5Y5/3 ブロック状に混入
				5 层	2.5Y3/2 黒褐色	シルト	
				6 层	2.5Y4/2 暗灰黄色	砂シルト	
SK 2	副丸方形	76×106		1 層	10YR3/2 黒褐色	シルト	上層部に焼土、炭化物混入
				2 层	10YR2/2 黒褐色	シルト	焼土粒・炭化物粒子混入
				3 层	10YR2/2 黒褐色	シルト	炭化物粒子混入
				4 层	10YR4/3 によい黄褐色	シルト	炭化物粒子混入
柱穴 (付)	P-1	方形	45×35	-23	2.5Y3/2 黒褐色	シルト	炭化物粒子混入
				-23	2.5Y3/2 黒褐色	シルト	炭化物粒子混入
				P-2	45×40		
				P-3	46×44		
焼土	焼土 1	円形	50×(40)	1 层	7.5Y2/2 黒褐色	シルト	焼土・骨片混入
				2 层	2.5Y3/2 黒褐色	シルト	焼土粒子混入
	焼土 2	円形	50×(45)	1 层	7.5YR2/2 黒褐色	シルト	焼土・ブロック状に混入、炭化物粒子混入
				2 层	2.5Y3/2 黒褐色	シルト	焼土粒子・焼土粒子混入
	焼土 3	円形	40×40		7.5YR3/2 黒褐色	シルト	焼土・骨片・炭化物混入

【出土遺物】堆積土・床面・土坑より、土師器（非ロクロ）・須恵器・鉄製品・礫石器・石製模造品・剝片石器・弥生土器が出土している。第45図11の甕は、底部が丸く、胴部が球形で、口縁部は直立する。体部上半部にはロクロの回転力を利用したと考えられる回転ハケメが施され、内面にはハケメ施文の際手を添えた痕と考えられるロクロ目が認められる。ロクロ目の後、底部外面には平行タタキがのこり、同内面には当て目が残る。下部の当て目は大きめで無文であるが、上部の当て目は小さめで一部に木目のような痕跡がある。

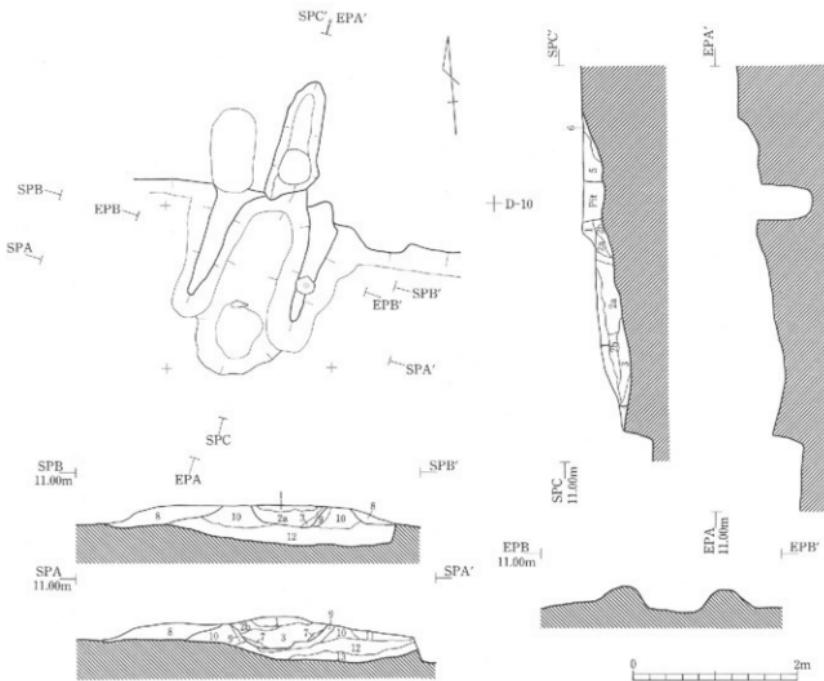
第46図12は須恵器二重底である。住居堆積土と基本層から出土しており、図示した土師器には伴わない。第47図1は砾石であるが、周縁に二次加工が施されており、全体の形状から本来は石鏡であった可能性が高い。転用されたものであろう。3は黒曜石の剝片石器で、剝片の折れ面に細かな二次加工が施されている。



SI14 墓土記表

層位	土色	土性	備考
1層	10YR3/2 黒褐色	シルト	炭化物粒子若干混入
2a層	10YR2/3 黒褐色	シルト	炭化物粒子混入
2b層	2.5Y3/2 黒褐色	シルト	若干砂質シルトに近い
2c層	2.5Y3/1 黒褐色	シルト	
3層	7.5YR2/2 黒褐色	シルト	焼土粒・炭化物粒子混入

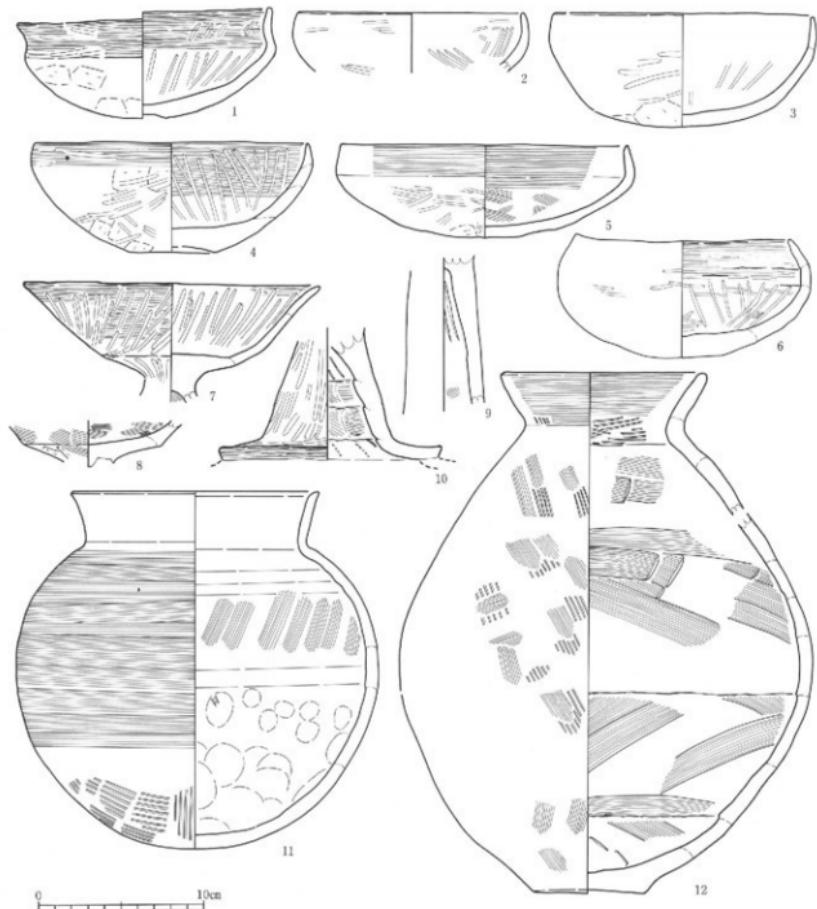
第43図 SI14 穴住居跡平面図・断面図



SI14 カマド埋土柱記表

層位	土色	土性	備考
1層	10YR3/3	暗褐色	シルト 礫土粒混入
2a層	5YR3/2	暗赤褐色	シルト 焼土・骨片混入
2b層	5YR3/3	暗赤褐色	シルト 焼土混入
3層	7.5YR3/2	黒褐色	シルト 焼土粒混入
4層	10YR3/2	黒褐色	シルト
5層	10YR2/3	黒褐色	シルト 10YR3/3 暗褐色土混入
6層	10YR3/3	暗褐色	シルト
7層	5YR2/3	暗暗赤褐色	焼成により赤変している シルト
8層	7.5YR3/2	黒褐色	焼土粒・炭化物粒混入 シルト
9層	5YR3/3	暗赤褐色	焼成により赤変している シルト
10層	10YR5/3	にぶい黄褐色	シルト
11層	10YR4/3	にぶい黄褐色	シルト
12層	10YR3/3	暗褐色	炭化物粒・焼土粒混入 シルト
13層	10YR4/4	褐色	焼土が斑状に若干混入、炭化物粒混入 シルト

第44図 SI14 カマド平面図・断面図

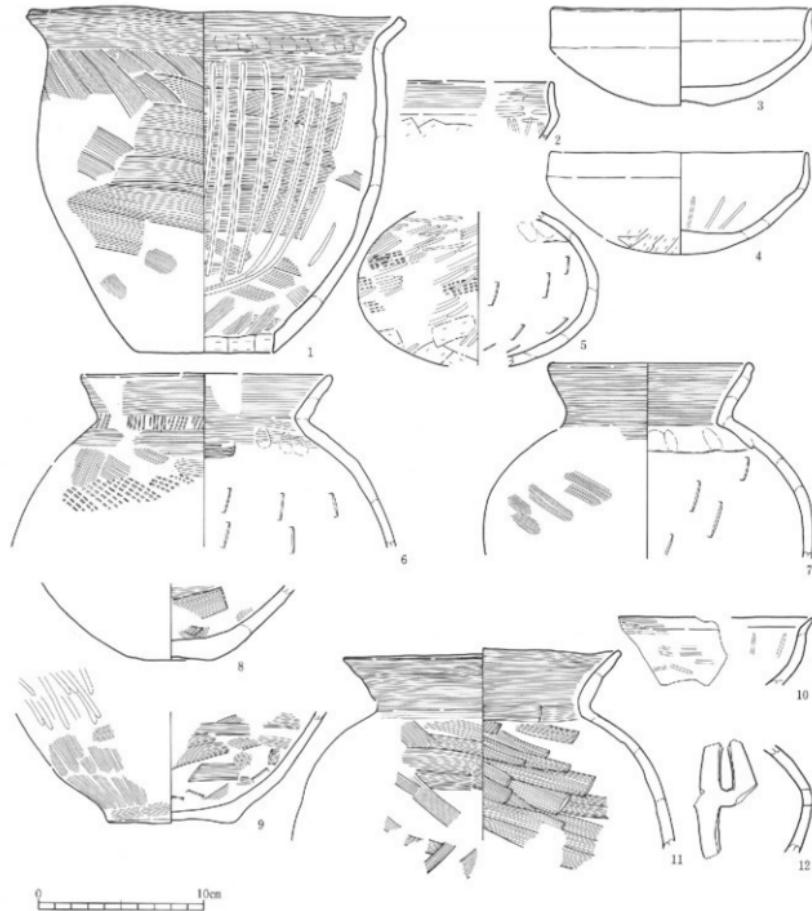


0

10cm

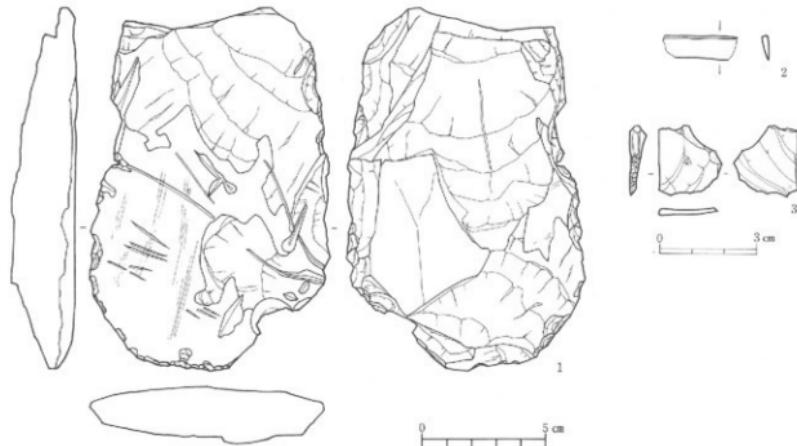
番号	地区・層位	種別	口径cm	底径cm	高cm	残存	外 面	内 面	備考	登録	写真
1 P 6	土師器	环	(15.5)	(2.8)	(6.8)	1/4	(1/6)ヨコナダ→ヘラミガキ (体)ヘラミガキ(放射状)			C215	74-3
2 床直	土師器	环	(13.5)			1/5	ヘラミガキ			C236	
3 P12	土師器	环	(15.7)		(7.0)	1/4	ヘラミガキ、ヘラケズリ			C219	74-4
4 カマ下舟+P5	土師器	环	(16.6)	(5.2)	(6.8)	1/3	(1/6)ヨコナダ→ヘラミガキ (体)ヘラミガキ(放射状)			C214	74-5
5 P10	土師器	环	(17.3)		(5.7)	1/3	(1/6)ヨコナダ→ヘラミガキ (体)ヘラミガキ(放射状)			C217	
6 P18	土師器	环	(13.0)	4.2	7.2	1/12	(体)ヘラミガキ			C222	74-6
7 P 7	土師器	高环	18.1			1	ヨコナダ→ヘラミガキ			C216	
8 カマF、P26	土師器	高环					ナデ、ヘラケズリ→ナデ			C234	
9 P 3	土師器	高环						ナデ		C213	
10 P11	土師器	高环					ヘラミガキ、ヨコナダ			C218	
11 P23	土師器	甕	15.0	21.8	1	1/13	(1/6)ヨコナダ→ヘラミガキ (体)ヘラミガキ(放射状)			C230	75
12 P21	土師器	甕	(12.4)	6.8	32	1/13	(1/6)ヨコナダ→ヘラミガキ (体)ヘラミガキ(放射状)			C266	74-9

第45図 Si14 積石住跡出土遺物（1）



番号	地区・層位	種別	器種	口径cm	底径cm	器高cm	保存	外 面		内 面	備考	登録 写真
								(口)	(底)			
1	P-17	土師器	罐	22.3	8.4	21.2 (15.5)	(15.5) (底)	(口)ヨコナダ ¹ (底)ヘラナデ、ナダ	(口)ヨコナダ ¹ ヘラナデ、ナダ→クレタ		C229 76-1	
2	SK1	土師器	环					(11)ヨコナダ ¹ (体)ヘラケズリ	ヨコナダ ¹ 、ヘラミガキ		C245	
3	SK1, P24	土師器	环	15.8	3.5	6.0	1/2				C231 74-7	
4	SK1+P2+P2	土師器	环	(15.5)		(6.3) (底)	(口)ヨコナダ ¹ (底)ヘラケズリ	(体)ヘラケズリ	ヘラミガキ(放射状)		C224	
5	SK1, P25	土師器	壺					(口)ヨコナダ ¹ ヘラナデ	ヘラナデ		C232 74-8	
6	SK1, P21	土師器	壺	15.3		1	(15.5) (底)	(15.5)ヨコナダ ¹ (底)ヘラナデ	(口)ヨコナダ ¹ ヘラナデ、ヘラナデ		C225 76-3	
7	SK1, P21	土師器	壺	12.4			(口)1	(11)ヨコナダ ¹ (体)ナダ	(口)ヨコナダ ¹ (体)ヘラナデ		C227 76-2	
8	SK1, P21	土師器	壺			5.2	1			ヘラナデ		C228
9	SK1, P19	土師器	壺			7.9	1	(体)ヘラミガキ、ナダ	ヘラナデ		C223	
10	SK2	土師器	环					ヨコナダ ¹ 、ヘラミガキ	ヘラミガキ		C250	
11	SK1+P2+P2	土師器	壺	16.8 (18.0)		1	(口)	ヨコナダ ¹ (体)ヘラナデ	(口)ヨコナダ ¹ (体)ヘラナデ		C233 76-4	
12	埋土	須磨器	二重罐								E37 79-13	

第46図 SI14 積穴住跡出土遺物（2）



番号	地区・層位	種別	器種	長さmm	幅mm	厚さmm	重さg	特徴	登録	写真
1	S 2	鍛石器	砥 石	14.8	9.8	2.6	369	石盤の転用か?	Kd306	82-7
2		鉄製品		33.7	11.4	7.8	3.2		N 5	84-3
3	埋土中～下剥削片石器	不定形石器		21.1	19.3	4.1	1.3	黒曜石	Ka47	88-4

第47図 SI14 住居跡出土遺物（3）

SI 35 積穴住居跡（第48図）

【位置】II区東（C・D-9・10）に位置し、南側が調査区外にかかっている。SI14の床面下ではほぼ同じ位置で検出されたことからSI14の改築前のプランと考えられ、床面積はSI14よりも小さい。床面のレベルはSI14よりも約17cm下がっている。

【平面形・規模】平面形は方形を呈すると考えられる。規模は北壁340cm、西壁200cmを計る。

【堆積土】埋土は3層に分けられた。

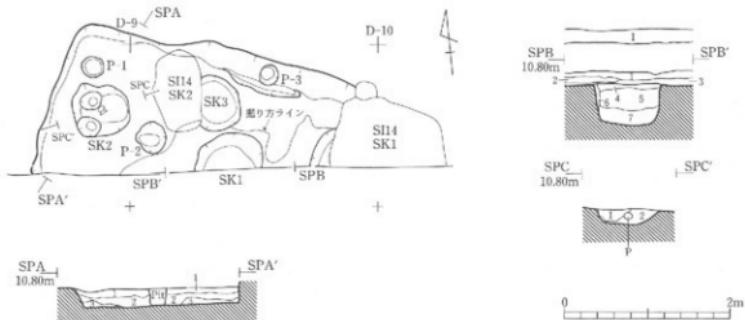
【壁・床面】壁はほぼ垂直に立ち上がり、残存する壁高は北壁7～21cm、西壁5.5～9.5cmである。壁沿いに幅60～150cm、深さ8～10cmの周溝状の掘り方が検出されている。この部分では掘り方上面を床面としている。

【柱穴・ピット】ピットは3基検出された。P-2は位置や規模からみて柱穴と考えられる。

【周溝】周溝は検出されなかったが、北壁の中央部に溝状の浅い凹みがみとめられた。

【床面施設】土坑が3基が検出された。SK1は南半分が調査区外にかかっている。平面形は不整円形を呈するとおもわれる。東西80×南北50cm以上、深さ47cmを計る。SK2は不整円形を呈し、70×60cm、深さ17cmを計る。第48図2の小臺が出土している。底面に径25cm、深さ20～30cmのピット2基が検出された。

【出土遺物】堆積土・床面から土師器（非クロロ）・石製模造品・弥生土器がごく少量出土している。

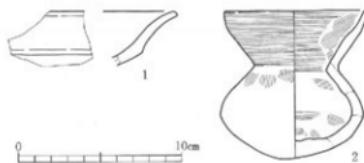


SI35 墓土性記表

層位	土色	土性	備考
1層	10YR3/2 黒褐色	シルト	炭化物粒子混入、10YR4/2 灰黃褐色土混入
2層	10YR3/3 暗褐色	シルト	炭化物粒子・燒土粒子混入、10YR6/3 による黄褐色土混入
3層	10YR4/4 褐色	シルト	炭化物粒子混入

SI35 床面検出遺構概観表

遺構名	平面形	規模(cm)	深さ(cm)	層位	備考		
					土色	土性	備考
SK1	不整形円形	80×(50)	-47	4層	10YR6/4 による黄褐色	シルト	上層に厚さ 1cm 程の10YR4/1 黑灰色土の堆積
				5層	2.5Y6/4 黄灰色	粘質シルト	酸化鉄が斑状に混入
				6層	2.5Y5/1 黄灰色	粘質シルト	酸化鉄が斑状に混入
				7層	2.5Y4/2 暗灰黄色	粘質シルト	
SK2	円形	70×60	-17	1層	10YR3/2 黑褐色	シルト	炭化物粒子混入
				2層	10YR3/3 暗褐色	シルト	炭化物粒子混入
SK3	椭円形	60×(60)	-16		2.5Y3/2 黑褐色	シルト	燒土粒・炭化物粒混入
P-1	I'形	24×24	5.4		10YR3/2 黑褐色	シルト	炭化物粒子混入
P-2	不整形	42×36	-35		10YR3/2 黑褐色	シルト	炭化物粒子混入
P-3	円形	23×22	-20.3		10YR3/2 黑褐色	シルト	炭化物粒子混入



番号	地区・層位	種別	口径cm	底径cm	高さcm	残存	外 面	内 面	備考	番號	写真
1	床底	土器								C279	
2	P-1	土器	8.8		9.1	1	(口)ヨコナダ (体)ナダ	ヨコナダ、ナダ		C276	76-5

第48図 SI35 積穴住居跡・出土遺物

SI 15 穫穴造構（第49・50図）

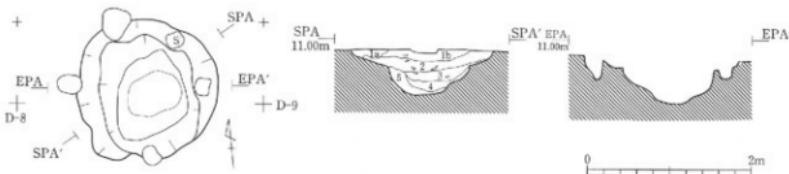
【位置】II区東（C・D-8）に位置している。SI14を切っている。

【平面形・規模】平面形は不整円形を呈している。規模は、長軸174×短軸170cm、深さ60cmを計る。

【堆積土】埋土は5層に分けられた。

【壁・床面】壁は緩やかに立ち上がりっている。断面形は上端のひらいたU字形で、途中に段がついている。底面は40×70cmの小さな隅丸方形を呈し、平坦ではなく浅い凹み状になっている。底面からの壁高は約60cm程である。

【出土遺物】堆積土より土器類（非ロクロ）・須恵器・鉄製品・石製模造品・管玉・剝片石器・弥生土器が出土している。図示した2点の环は外面に段を持つものであり、1は内面が黒色処理される。6は胴部が丸みを持ち、外面に平行タキ、内面に当て目が施されており須恵器塗の技法で製作されている。しかし、色調が黄橙色で焼き上がりが軟質であり、一部に黒斑が認められるものである。13は黒曜石の剝片石器で、両極削離痕がみられる。



SI15 埋土柱記表

層位	土 色	土 性	備 考
1a層	10YR3/1 黒褐色	シルト	
1b層	2.5Y3/2 黒褐色	シルト	炭化物粒子若干混入
2層	10YR3/2 黒褐色	シルト	炭化物粒子混入、西壁側に10YR3/1 黒褐色がブロック状に混入
3層	10YR2/3 黒褐色	シルト	炭化物粒子混入、2.5Y5/3 黄褐色がブロック状に混入
4層	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	2.5Y5/3 黄褐色がブロック状に混入
5層	2.5Y3/2 黒褐色	シルト	2.5Y4/3 オリーブ褐色がブロック状に混入

第49図 SI15 穫穴造構平面図・断面図

SI 16 穫穴住居跡（第51図）

【位置】II区東（C-9・10）に位置している。南西側およそ1/2がSI14に切られている。

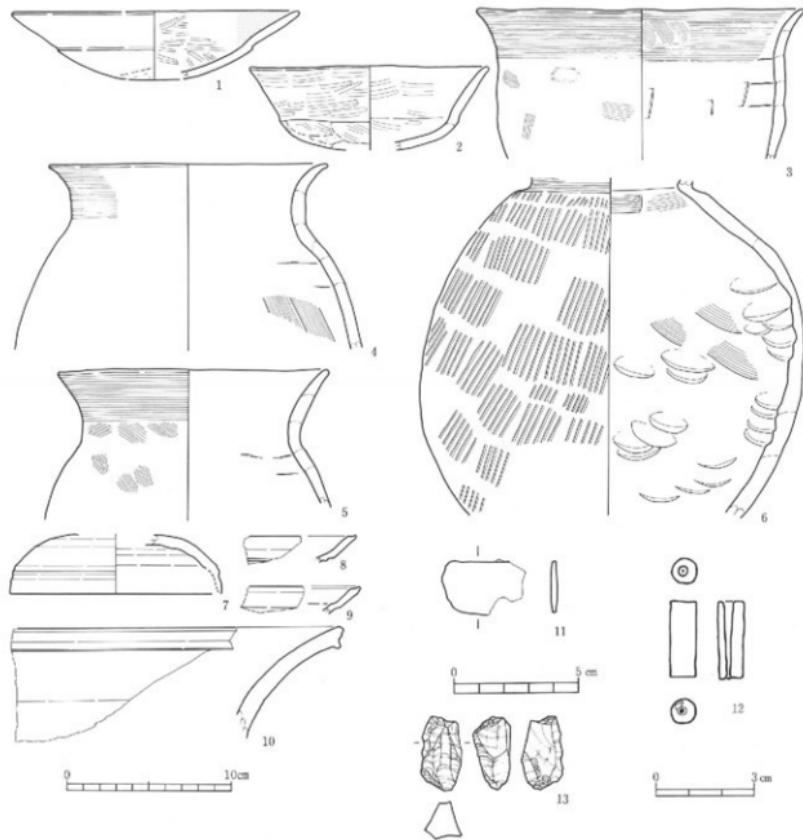
【平面形・規模】平面形は方形を呈すると考えられる。規模は北壁360cm、東壁330cmを計る。方向は東壁でN-21°-Wである。

【堆積土】埋土は4層に分けられた。

【壁・床面】壁はほぼ垂直に立ち上がり、残存する壁高は北壁10~22cm、東壁6~11cmである。

【柱穴・周溝】柱穴・周溝は検出されなかった。床面は平坦で固くしまっていた。

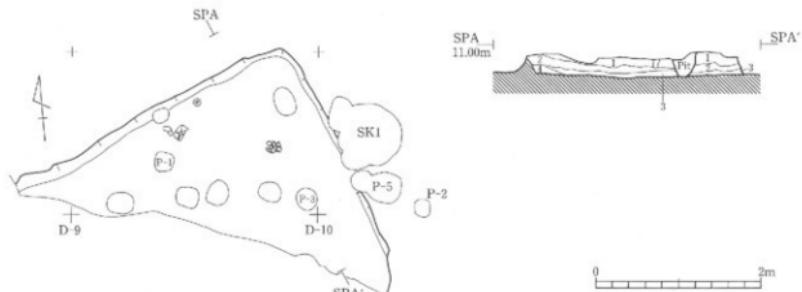
【出土遺物】堆積土・床面・ピットより土器類（非ロクロ）・礫石器・鉄製品・石製模造品・ガラス玉・弥生土器が出土している。7の鉄鏃は埋3層から出土している。有茎鏃で長三角形を呈している。長さ4.4cm、幅2.4cmで、ほぼ完形である。県内の出土例としては、山元町の合戦原遺跡4号住居跡の床面から出土したものがあり、共伴する土器から南小泉式期のものとされている（岩見：1991）。今回の鉄鏃は住居内からの出土例として希少なものとなった。



番号	地区・層位	種別	器種	口径cm	底径cm	器高cm	残存	外 面	内 面	備考	登録	写真
1	3層 土師器	壺	(17.5)			1/4>	(体)ヘラケツリ	ヘラミガキ、黒色処理		C167		
2	埋土中・下層 土師器	壺	(14.6)		1/3	{(体)ヘラミガキ}・ヘラミガキ			C169	76-6		
3	埋土上層	土師器	壺	16.4		1/2	(口)ヨコナデ (体)ナデ			C180		
4	埋土中層	土師器	壺	(17)		1/4>	(口)ヨコナデ	(体)ヘラナデ		C171		
5	埋土上層	土師器	壺	(20)		1/3	(口)ヨコナデ (体)ナデ	(口)ヨコナデ (体)ヘラナデ		C179		
6	1・2層 土師器	壺				1/2	(口)ヨコナデ (体)平行タキ	ヘラナデ、アメ		C181	76-7	
7	埋土	須恵器	壺	(13.0)	(3.7)	1/4>	ロクロナデ	ロクロナデ		E50		
8	埋土上層	須恵器					ロクロナデ	ロクロナデ、口唇に比線		E56	79-11	
9	埋土中・下層 須恵器						ロクロナデ	ロクロナデ		E46	79-12	
10	埋土上層	須恵器	壺				ロクロナデ	ロクロナデ		E45	79-14	

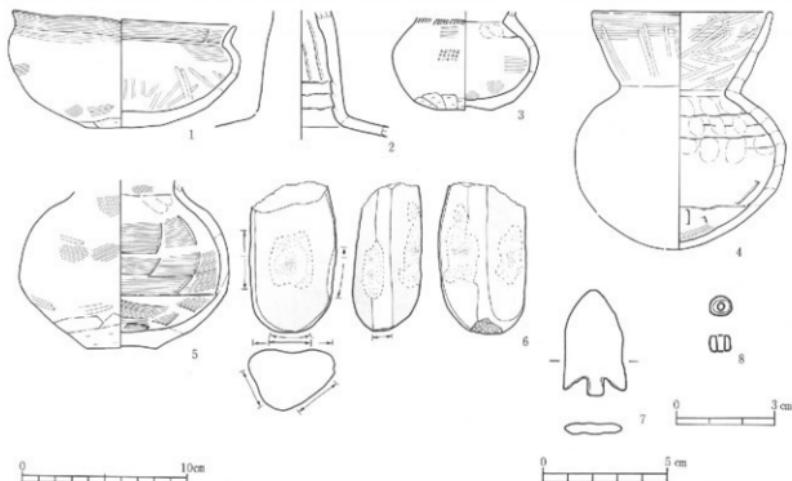
番号	地区・層位	種別	器種	長さmm	幅mm	厚さmm	重さg	特 徴	登録	写真
11	埋土中・下層 鉄製品			(34)	(22)	1~2.5	5.7	片端欠損	N 8	84-4
12		石製品	管玉	23.3	8.1		2.8	孔径大3.2mm、小1.0mm、濃緑色、片方からの穿孔	Kd75	87-29
13	埋土中・下層 鉄製品		片石	21.6	11.8	10.4	2.8	黒曜石、長範囲端つぶれ	Ka48	88-5

第50図 SI15 積穴構造出土遺物



SI16 埋土柱記表

層位	土色	土性	備考
1層	10YR3/4 暗褐色	シルト	
2層	10YR3/2 黒褐色	シルト	
3層	10YR4/3 にぼい黄褐色	シルト	
4層	10YR3/3 暗褐色	シルト	10YR5/4 にぼい黄褐色混入



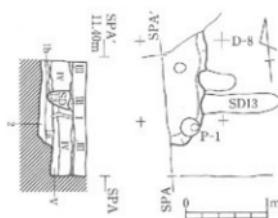
番号	地区・層位	種別	器種	口径cm	底径cm	厚さcm	残存	外観	内観	備考	登録	写真
1	ビット4	土器	环	13.6	7.2	1	(1) ハラミズリ (2) ナダ	(1) ヘラナデ、ナデ、ヘラミガキ		C330	76-8	
2	ビット4	土器	高环			1					C331	
3	P 2	土器	壺	3.5		1	(1) ハラミズリ	ナダ		C329	76-9	
4	P 1	土器	壺	11.0	14.6	1	(1) ヨコナデ、ヘラミガキ	(2) ヘラミズリ		C326	77-1	
5	土器	壺		4.3		1	(1) ハラミズリ	ナデ、ヘラナデ		C341	77-2	

番号	地区・層位	種別	器種	長さmm	幅mm	厚さmm	概要	特徴	登録	写真	
6	埋土下層	鍬石器	磨+凹+敲	93	52.2	40.9	268.4		Kd307	82-9	
7	3層	鉄製品	鉄劍	44	24	4	10.1	完形	N 9	84-6	
8	ガラス玉	白玉	長軸7.1短軸6.9	5.6	0.3	孔径2.5mm、あい色			ガラス1	87-32	

第51図 SI16 穫穴住居跡・出土遺物

SI 23 穫穴遺構 (第52図)

【位置】II区東(D-7)に位置しているが、南東コーナーの一部が検出されただけでほとんどは調査区外にかかっていることから竪穴遺構とした。北側をSI11に切られている。



【平面形・規模】規模・平面形は不明で、東壁140cmを計る。

【堆積土】埋土は3層に分けられた。

【壁・床面】壁はほぼ垂直に立ち上がり、残存する壁高は東壁で約20cmである。

【柱穴・周溝】周溝は検出されなかったが、ピット1基がある。平面形は径23cmの円形を呈し、深さは20cm程度である。

【出土遺物】遺物は出土しなかった。

SI23 埋土柱記表

層位	土色	土性	備考
1a層 10YR3/2 黒褐色	シルト		
1b層 2.6Y3/1 黒褐色	シルト	10YR4/2 黄褐色土ブロック状に混入	
2層 2.6YR4/3 オリーブ褐色	シルト	10YR3/2 黑褐色土ブロック状に混入	

SI23 床面検出遺構統察表

遺構名	平面形	規模(cm)	深さ(cm)	層位	土色	土性	備考
ピット P-1	円形	22×22	-21.6	10YR2/2 黑褐色	シルト		

第52図 竪穴住居跡平面図・断面図

SI 31 穫穴住居跡 (第53・54図)

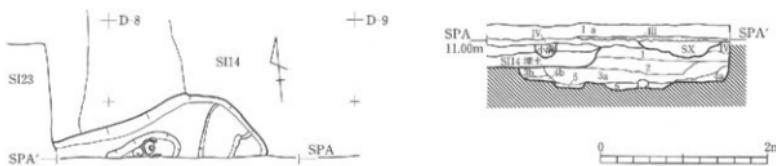
【位置】II区東(D-7・8)に位置しているが、北東側のコーナーの一部を検出しただけでほとんどは調査区外にかかっている。東側をSI14に切られている。

【平面形・規模】平面形は隅丸方形を呈すると考えられる。規模は北壁180cm、東壁120cmを計る。

【堆積土】埋土は6層に分けられた。

【壁・床面】壁はほぼ垂直に立ち上がり、残存する壁高は北壁約27cm、東壁約17cmである。

【柱穴・周溝】柱穴・周溝は検出されなかった。



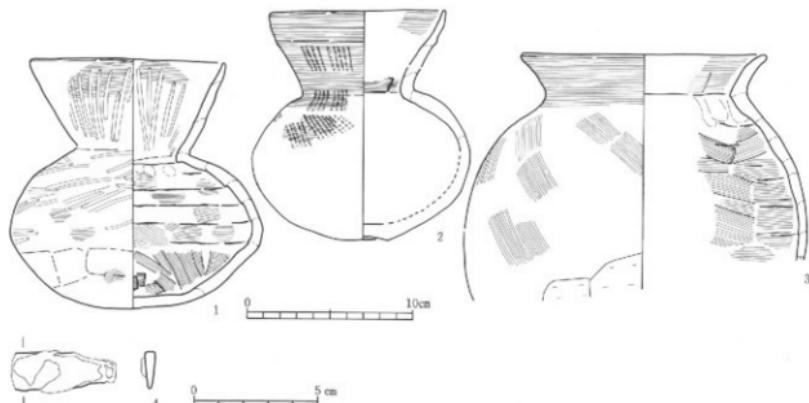
SI31 埋土柱記表

層位	土色	土性	備考
1層 10YR3/2 黒褐色			
2層 10YR3/3 暗褐色			
3a層 10YR4/2 黄褐色	炭化物粒子多く混入、10YR6/1 斧状に混入		
3b層 10YR3/3 暗褐色	炭化物粒子混入		
4a層 7.5YR2/2 黒褐色	純土鉢層		
4b層 10YR4/3 にぼい黄褐色	若干砂質シルト	炭化物粒子混入、10YR3/2 ブロック状に混入	
5層 10YR5/4 にぼい黄褐色			
6層 10YR2/3 黒褐色			

第53図 SI31 穫穴住居跡平面図・断面図

【床面施設】床面東壁側に幅約45cmで、深さ4～6cmの浅い帯状の凹みがある。その西側に大部分が調査区外にかかる土坑がある。平面形は長楕円形を呈すると考えられ、深さは10cm程で浅いがここから図示した遺物が出土している。

【出土遺物】堆積土・床面より土師器（非ロクロ）・鉄製品・弥生土器が出土している。第54図2の壺は全体の形状と口縁部の段の形状から、須恵器甌を模したものと考えられる。



番号	地区・層位	種別	口径cm	底径cm	器高cm	残存	外	内	備考	登録	写真
1	P 1	土師壺	腹 (12.0)		(15.3)	4/5	(1)ヨコナダ・ハラズリ (2)アゲハラミガキ (3)ヨコナダ・ハラズリ (4)アゲハラミガキ	(1)ヨコナダ・ハラズリ (2)アゲハラミガキ (3)ヨコナダ・ハラズリ (4)アゲハラミガキ		C194	77-3
2	P 3	土師壺	腹 (10.7)	3.0	14.1	0.5/5	(1)ヨコナダ (2)ヨコナダ (3)ヨコナダ (4)ヨコナダ	(1)ヨコナダ・ハラズリ (2)ヨコナダ・ハラズリ (3)ヨコナダ・ハラズリ (4)ヨコナダ・ハラズリ		C196	77-4
3	P 2	土師壺	腹 15.0			3/4	(1)ヨコナダ (2)ヨコナダ (3)ヨコナダ (4)ヨコナダ	(1)ヘタナダ (2)ヘタナダ (3)ヘタナダ (4)ヘタナダ		C195	77-5

番号	地区・層位	種別	基盤	長さmm	幅mm	厚さmm	重さkg	特	微	登録	写真
4	埋土上層	鉄製品	刀子	(43)	15	4	7.9	両端欠損		N17	84-5

第54図 SI31 穹穴住居跡出土遺物

SI 34 穹穴住居跡（第55図）

【位置】II区東（C-D-7・8）に位置している。SI11・13・15に切られている。

【平面形・規模】規模・平面形は不明である。検出されたのは、南壁60cm、東壁140cm程度である。

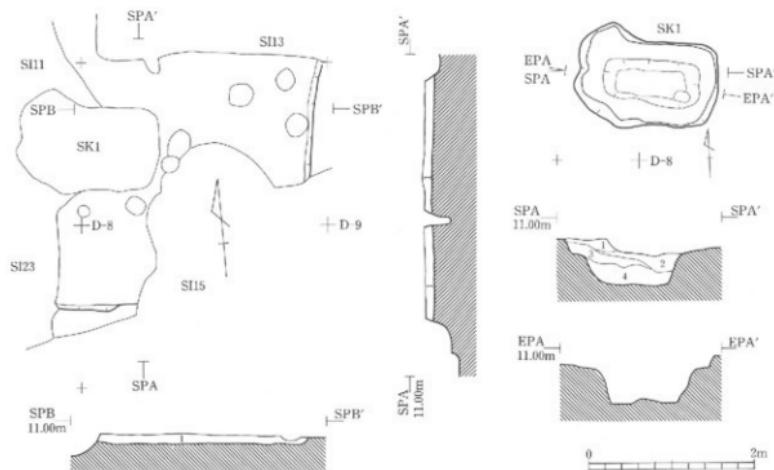
【堆積土】埋土は単層である。

【壁・床面】壁はほぼ垂直に立ち上がり、残存する壁高は南壁約8cm、東壁6～9cmである。

【柱穴・周溝】柱穴・周溝は検出されなかった。

【出土遺物】堆積土・土坑より土師器（非ロクロ）・石製模造品・弥生土器がごく少量出土している。図示できる遺物はない。

【SI11-34を切る土坑SK1】検出時はSI11に伴う土坑と考え調査に入ったが、埋土の状態や壁面の検討によりこれらの住居より新しい遺構と判断した。平面形は隅丸方形を呈し、規模は長軸170×短軸100cm、深さ60cmを計る。断面形は逆台形状を呈している。底面に厚さ5～7cmの焼土・炭の集積層が検出された。壁や底面には焼成による赤変や硬化はみられなかった。



SI13 墓土柱記表

層位	土色	土性	備考
1層	2.5Y3/2 黒褐色	シルト	

SI11・34 を切る土坑 (SK1) 観察表

土坑	遺構名	平面形	規模(cm)	深さ(cm)	層位	土色	土性	備考	
								1層	2層
	SK1	隅丸方形	170×110	-48	1層	10YR4/3 に赤い黄褐色	シルト	上層に炭化物粒子混入	
					2層	2.5Y4/4 オリーブ褐色	シルト	10YR4/3 に赤い黄褐色、ブロック状に混入	
					3層	10YR3/2 黒褐色	シルト	東壁側及び下部底面に炭化物粒子混入	
					4層	灰土、炭集積層			

第55図 SI13 穴内遺構平面図・断面図

SI 18 穴内住居跡（第56図）

【位置】 I 区 (C-10・11) に位置している。北側の大部分を SI12・17 に切られ、さらに天地返しにより床面はほとんど残っていない。

【平面形・規模】 南西コーナー部と東壁の一部を検出しているが、平面形は方形を呈すると考えられる。残存しているのは南壁で180cm程度である。

【堆積土】 墓土は単層である。

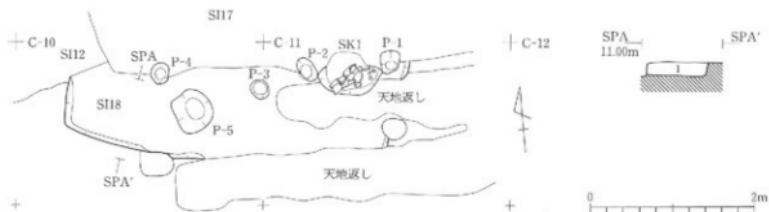
【壁・床面】 壁はほぼ直立に立ち上がり、残存する壁高は南壁12~15cm、東壁7~10cm、西壁7~16cmである。

【柱穴・ピット】 ピットは4基検出された。

【周溝】 周溝は検出されなかった。

【床面施設】 北半分を SI17 に切られている SK1 を検出している。平面形は不整円形を呈するとおもわれる。東西 80×南北50cm以上、深さ25cmを計る。埋土下層に厚さ2cmの炭の集積層があり、遺物の多くはこの下から出土している。

【出土遺物】 堆積土・床面・土坑より土師器（非ロクロ）・須恵器・石製模造品が出土している。1は内面黒色処理の壺である。

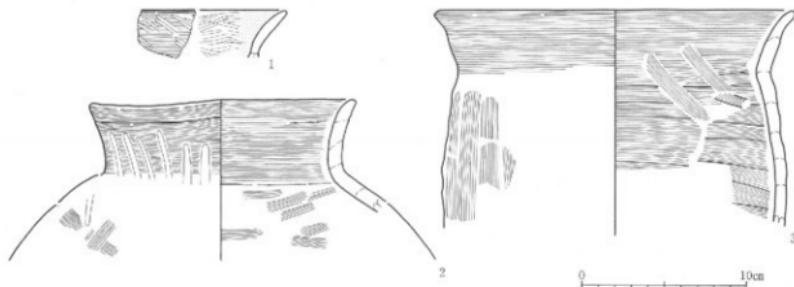


SI18 塵土柱記表

層位	土色	土性	備考
1層	10YR3/2 黒褐色	シルト	炭化物粒子混入

SI18 床面検出遺構観察表

遺構名	平面形	規模(cm)	深さ(cm)	層位	土色	土性	備考
柱穴	SK1 (不整形)	80×50	-23.6		10YR3/2 黒褐色	シルト	埋下層に厚1~2cm程の炭化層
	P-1 圓丸方形	20×28	-50.2		10YR3/2 黒褐色	シルト	炭化物粒子混入
	P-2 長椭円形	20×30	-50.9		10YR3/2 黒褐色	シルト	炭化物粒子混入
	P-3 円形	22×23	-18.2		10YR3/2 黒褐色	シルト	炭化物粒子混入
	P-4 円形	22×26	-49.7		10YR3/2 黒褐色	シルト	炭化物粒子混入
	P-5 不整形	50×50	-13.0		10YR3/2 黒褐色	シルト	炭化物粒子混入



番号	地区・層位	種別	土被り	口径cm	底径cm	層高cm	残存	外	内	備考	登録	写真
1	SK1	土器部	环					ヨコナダ→ヘラミガヤ	ヘラミガヤ、黒色処理	C544		
2	1+2+3+4+5+6	土器部	壁	16.2		1/2	(口)ヨコナダ→ヘラミガヤ	(口)ヨコナダ (体)ナダ	(口)ヨコナダ (体)ナダ	C542	77-6	
3	P2+4	土器部	壁	22.0		1/4	(口)ヨコナダ (体)ナダ	(口)ヨコナダ (体)ヘラナダ	(口)ヨコナダ (体)ヘラナダ	C543	77-7	

第56図 SI18 穴住居跡・出土遺物

SI 19 穴住居跡 (第57・58図)

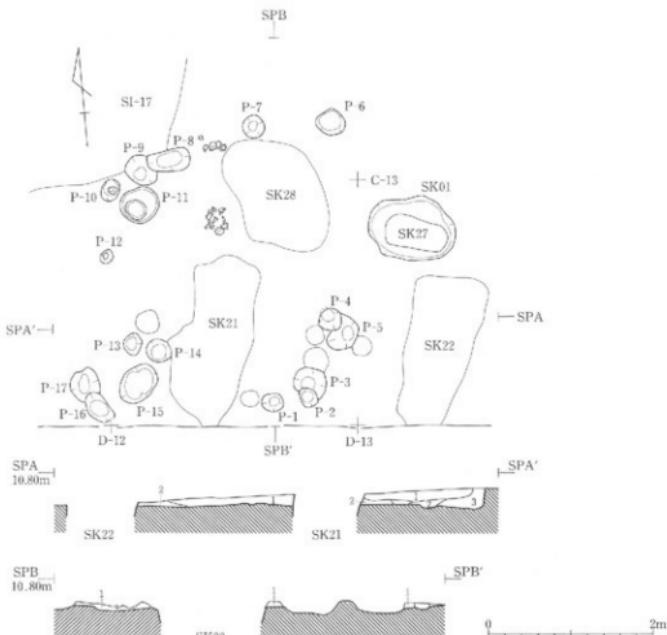
【位置】 I 区 (B・C-11~13) に位置している。SK21・22・27・28 に切られ、さらに天地返しにより床面はほとんど残っていない。

【平面形・規模】 ピットが径 4 m の規模で円形に巡っていることから住居跡と認定したが、平面形・規模は不明である。

【堆積土】 堆土は 3 層に分けられた。

【壁・床面】 壁・床面はほとんど残っていない。東西方向に走る天地返しの間に細長く帯状に残った部分の断面に壁の立ち上がりとみられるラインがある。

【柱穴・ピット】 ピットは 17 基検出された。位置や規模から P-3・9・15 が柱穴となる可能性がある。



SI19 塗土柱記載

層位	土色	土性	備考
1層	10YR2/2 黒褐色	シルト	炭化物粒子混入、特にベルト東側で多く含む
2層	10YR3/2 黒褐色	シルト	炭化物粒子若干混入
3層	2.5Y3/2 黒褐色	シルト	10YR2/2 黒褐色土をブロック状に混入

SI19 床面検出濃度観察表

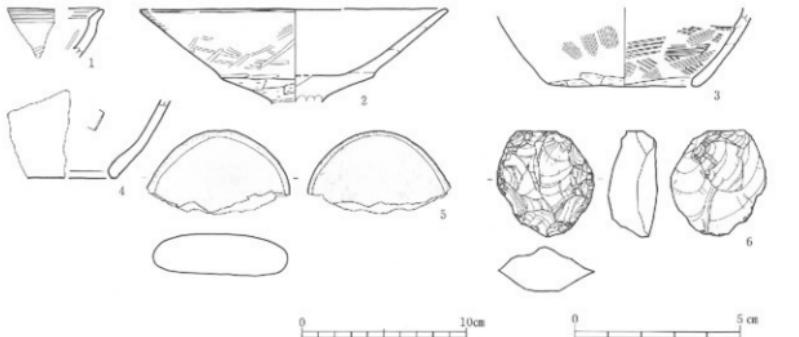
床構名	平面形	規模(cm)	深さ(cm)	層位	土色	土性	備考
柱穴 柱(1)	SK1	不整形	100×80	-8.4	10YR2/2 黒褐色	シルト	炭化物粒子混入、SK27 に切られている
	P-1	楕円形	28×22	-32.8	10YR3/1 黒褐色	シルト	
	P-2	楕円形	25×21	-38.8	10YR2/1 黒褐色	シルト	
	P-3	角円方形	42×35	-27.9	10YR3/2 黒褐色	シルト	
	P-4	円形	30×30	-47.9	10YR3/2 黒褐色	シルト	P-5 を切る
	P-5	不整形	42×30	-44.5	10YR3/2 黒褐色	シルト	10YR5/6 黄褐色土がブロック状に混入
	P-6	円形	32×30	-28.4	10YR3/2 黒褐色	シルト	
	P-7	円形	28×28	-45.2	10YR2/2 黒褐色	シルト	
	P-8	長梢円形	52×30	-40.9	10YR2/2 黒褐色	シルト	P-9 を切る
	P-9	円形	40×35	-71.9	10YR2/2 黒褐色	シルト	
	P-10	楕円形	28×24	-23.3	10YR2/2 黒褐色	シルト	炭化物粒子混入
	P-11	円形	45×45	-6.8	10YR2/2 黒褐色	シルト	10YR5/6 黄褐色土がブロック状に混入
	P-12	円形	18×15	-12.6	10YR3/2 黒褐色	シルト	
	P-13	楕円形	30×22	-36.6	10YR3/2 黒褐色	シルト	
	P-14	円形	30×28	-29.3	10YR3/2 黒褐色	シルト	
	P-15	楕円形	55×40	-29.2	10YR3/2 黒褐色	シルト	
	P-16	不整円形	40×26	-22.7	10YR3/2 黒褐色	シルト	P-17 を切る
	P-17	不整形	36×30	-23.8	10YR3/2 黒褐色	シルト	

第57図 SI19 穴柱住跡平面図・断面図

【周溝】周溝は検出されなかった。

【床面施設】SK27 に切られている SK1 を検出している。平面形は不整方形を呈するとおもわれる。東西106×南北80cm、深さ 8 cm を計る。

【出土遺物】堆積土・床面より土師器（非ロクロ）・須恵器・砾石器・石製模造品・剝片石器・弥生土器が出土している。第58図 6 は黒曜石の剝片石器である。周縁に二次加工が施されている。



番号	地区・層位	種別	基標	基標	長径cm	短径cm	厚さcm	残存	外 面	内 面	備考	登録	写真
1	床直	土師器	坏						(口)ココナデ (体)ヘラミガキ	(口)ココナデ (体)ヘラミガキ		C456	
2	P 2	土師器	高环	18.6			1/2	[中]スミナギリ、ヘラミガキ				C441	
3	床直	土師器	楕	(9)			1/4	ナゲ、ヘラケズリ	ハケメ・ナゲ、ヘラケズリ		C449		
4	灰直	土師器	楕					ナゲ	ヘラナゲ		C455		

番号	地区・層位	種別	基標	長さmm	幅mm	厚さmm	重さg	特 徴	登録	写真
5	ピット3	砾石器	磨石	85.4	51.6	25.1	151.6		Kd310 82-10	
6	床直	剥片石器	スタイルバー	32.4	29.4	14.3	12.2	黒曜石	Ku11 88-6	

第58図 SI19 穫穴住居跡出土遺物

SI 21 穫穴住居跡（第59図）

【位置】 I 区 (B-12・13) に位置している。

【平面形・規模】 ピットの配列と焼土・遺物の出土状況などから住居跡と認定した。規模・平面形は不明である。

【堆積土】 埋土はほとんど残っていない。

【壁・床面】 天地返しの影響により壁・床面はほとんど残っていない。

【柱穴・ピット】 ピットは 5 基検出された。

【周溝】 周溝は検出されなかった。

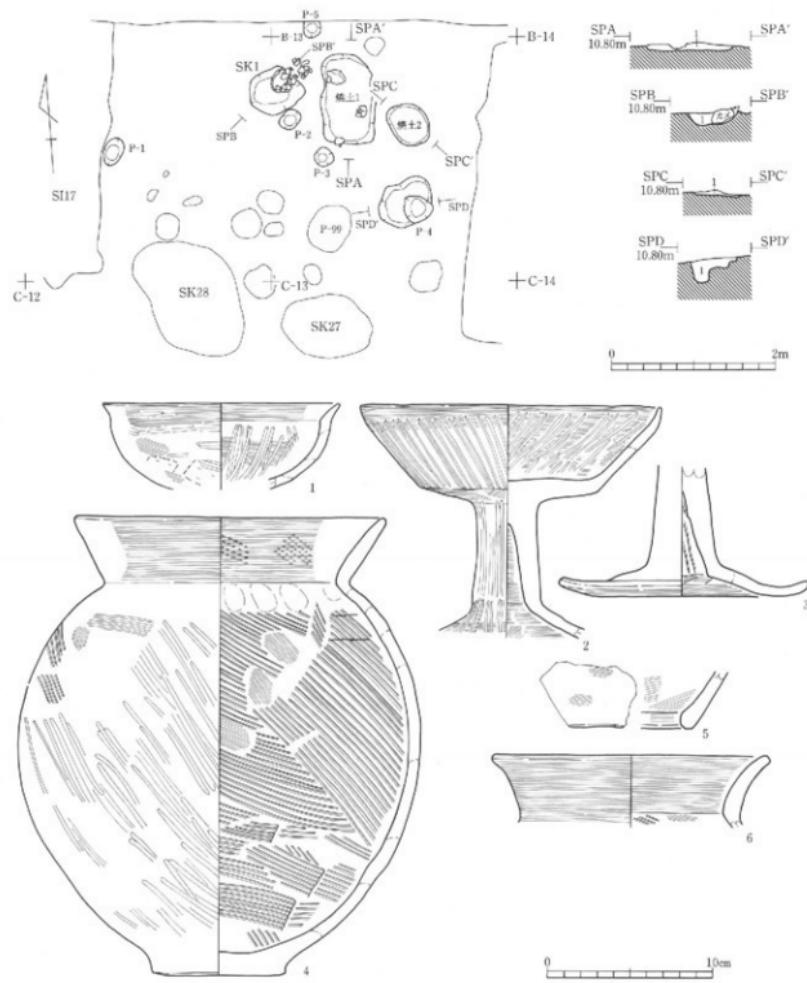
SI21 床面検出遺構観察表

	遺構名	平面形	規模(cm)	深さ(cm)	層位	土 色	土性	備 考
柱穴 付近	土坑	不整形	33×30	-17.0		2.5Y3/2 黒褐色	シルト	炭化物粒子若干混入
	P-1	椭円形	11×18	-16.0		10YR3/1 黒褐色	シルト	
	P-2	楕丸方形	11×14	-15.6		10YR2/2 黒褐色	シルト	
	P-3	円形	12×12	-23.7		10YR2/2 黒褐色	シルト	
	P-4	不整形	33×30	-37.2		10YR3/2 黒褐色	シルト	10YR6/6 明黄褐色 ブロック状に混入
焼土	P-5	円形	10×(10)	-18.8		10YR3/1 黒褐色	シルト	
	焼土 1	楕丸方形	110×68	-5.0		5YR3/2 明赤褐色	シルト	骨片
	焼土 2	不整形	60×45	-5.0		10YR3/2 黒褐色	シルト	焼土混入

【床面施設】焼土遺構 2 基と土坑 1 基を検出している。焼土 1 は隅丸方形のプランを呈し、南北 110 × 東西 65cm を計る。焼土 2 は不整円形のプランを呈し、南北 55 × 東西 45cm を計る。

焼土 1 の西側で SK1 を検出した。平面形は不整形を呈するとおもわれる。南北 55 × 東西 65cm、深さ 15cm を計る。第 59 図 4 の土師器の甕が土坑内北壁側から出土している。

【出土遺物】堆積土・床面より土師器（非クロロ）・石製模造品・弥生土器が出土している。



第 59 図 SI21 積穴住居跡・出土遺物

SI21 出土物調査表 (第59回)

番号	地区・層位	種別	器種	口径cm	底径cm	高さcm	残存	外 面	内 面	備考	登録	写真
1	P-2	土師器	壺	(14.4)			1/4	(1)ヨコナデ、ヌカ文うがへラヌガ	(1)ワフリダ (2)アーベフミガキ(施用土)	C570		
2	P+6+K直上	土器	高環	18.4			1	(1)ヌカ文うがへラヌガ	(1)アーベフミガキ	C551	78-1	
3	P-6	土師器	高環	15.2			3/4		(1)ヌカ文うが	C552	77-8	
4	P-9	土師器	壺	(19.0)	8.0	28.0	1/2	(1)マツナギ (2)ハケヌ	(1)ハシタ、ラヌガ (2)ハシタ、ラヌガ	C553	77-9	
5	床直	土器	壺					ナデ	ヘラナデ? ナデ	C566		
6	P土+P3	土師器	壺	(17.0)			1/4	ヨコナデ	(1)ヨコナデ (体)ハケヌ、ナデ	C554		

SI 24 穹穴住居跡 (第60回)

【位置】 I 区 (C-13・14) に位置している。南半部分が調査区外にかかっている。

【平面形・規模】 北半部分の壇の一部と考えられるプランが検出されたことや、焼土遺構などから住居跡と認定した。平面形は方形を呈すると考えられる。方向は東壁で N-13°-E である。

【堆積土】 埋土は 2 層に分けることができた。

【壁・床面】 北・東・西壁を検出しているが、西壁の方向が西側にひらいており住居跡のプランを反映しているものか不明である。残存する壇高は、それぞれ 5 ~ 8 cm 程度である。天地返しの影響により床面はほとんど残っていない。

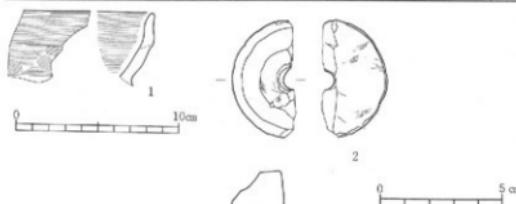


SI24 埋土記表

層位	土 色	土 性	備 考
1	10YR3/2 黒褐色	シルト	炭化物粒混入
2	10YR2/2 黒褐色	シルト	炭化物粒子混入、下層中央部に焼土粉混入、10YR3/3 に黄土ブロック状に混入

SI24 床面検出遺構観察表

遺構名	平面形	規模(cm)	深さ(cm)	層 位	土 色	土 性	備 考
P-1	円形	34×32	-13.8	10YR2/2 黒褐色	シルト	炭化物混入、焼土粉混入	
ピッタ	円形	44×50	-18.8	10YR3/2 黒褐色	シルト	炭化物粒子混入	
P-3	円形	20×20	-11.8	10YR3/1 黒褐色	シルト	炭化物粒子混入	
焼土	不整形	75×45	-7.0	1層 2層	10YR3/2 黒褐色 2.5YR3/4 暗赤褐色	シルト 焼土層	



番号	地区・層位	種別	器種	口径cm	底径cm	高さcm	残存	外 面	内 面	備考	登録	写真
1	A 区・埋下土師跡	?						(1)ヨコナデ (体)ナデ	ヨコナデ		C495	

番号	地区・層位	種別	器種	長さmm	幅mm	厚さmm	底さmm	特 徴	備 考	登録	写真
2	石製品	研削車		48	25.5	16	12.6			Kd128	83-9

第60回 SI24 穹穴住居跡・出土遺物

ない。

【柱穴・ピット】ピットは3基検出された。P-3はSK23に切られ、底面がわずかに残っている。

【周溝】周溝は検出されなかった。

【床面施設】想定される床面のほぼ中央で焼土遺構を検出した。梢円形のプランを呈し、南北75×東西45cmで浅い掘り込みをもっている。

【出土遺物】堆積土より土師器（非ロクロ）・石製品・石製模造品が出土している。

SI 26 穫穴住居跡（第61～64図）

【位置】I区（B-C-14）に位置している。SI20を切っている。東半部分が調査区外にかかっている。当初SI20のプランを検出し調査に入ったが、途中で主軸方向を異にするSI26のプランが検出され、調査区壁の断面等を検討したところ新旧関係が逆であると判断された。

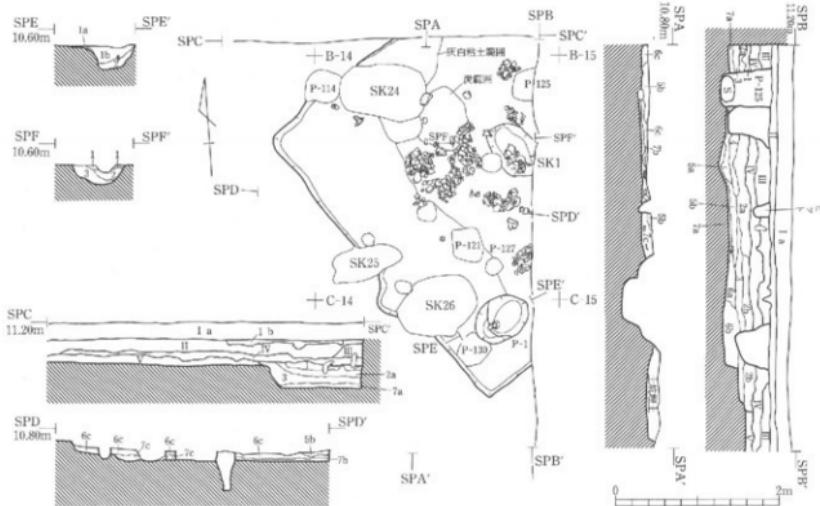
【平面形・規模】平面形は方形を呈すると考えられる。規模は北壁200cm、西壁420cmを計る。方向は西壁でN-32°-Wである。

【堆積土】埋土は7層に分けることができた。

【壁・床面】西壁と南・北壁の一部を検出している。残存する壁高は、北壁3～20cm、西壁4.5～15cm、南壁約14cm程度である。床面はSI20の床面よりも8cm下がる。床面全体から炭化物・焼土が検出され、多くの遺物はこの中から出土している。床面壁側の幅50～100cmの範囲をのこして中央部に灰白色粘土による貼床が検出された。

【柱穴・ピット】ピットは北西コーナー部で1基検出された。70×50cmの梢円形を呈し、深さは35cmである。位置的にみて柱穴である可能性がある。

【周溝】周溝は検出されなかった。



第61図 SI 26 穫穴住居跡平面図・断面図

【出土遺物】SI26と20は重複しており、当初は切合い関係を逆にとらえたため遺物の取り上げで混乱した面もあり、両者で接合している遺物もある。そのようなものについては、大部分の破片が出土した遺構に所属させた。

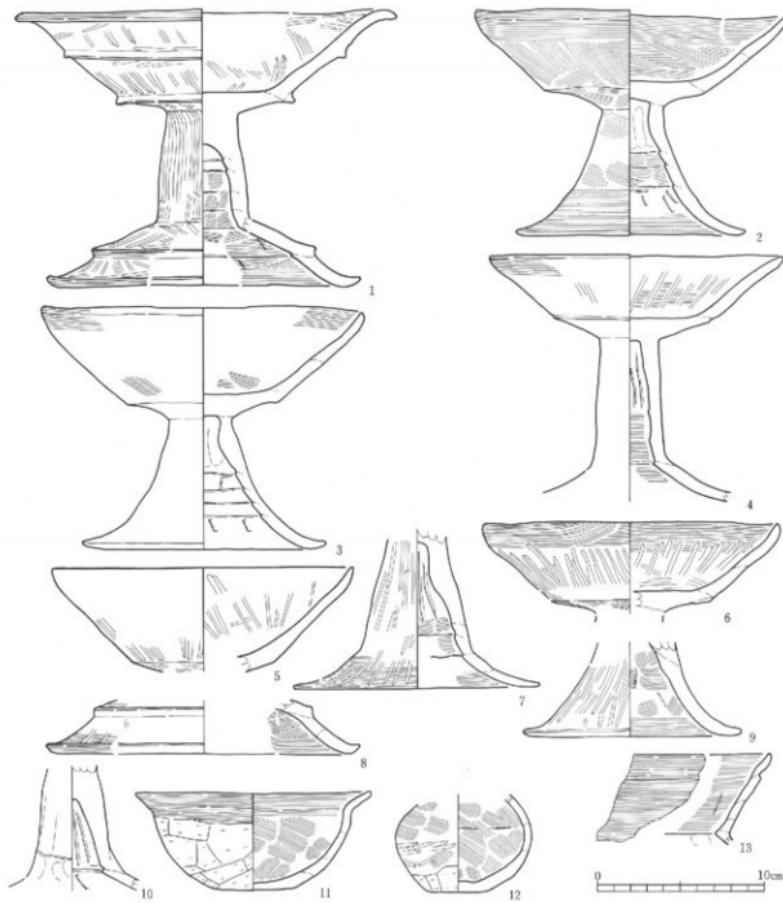
堆積土・床面・土坑より土師器（非ロクロ）・鉄製品・剝片石器・礫石器が出土している。土師器には器形が復元できるような大きな破片が多い。第63図11は無底の壺である。内外面の調整はヘラナデとして表現しているが、砂粒が動くくらい強いものもあり、ヘラケヅリとしてもおかしくない。仕上がりが平滑な点とヘラの当たりが見られる事からヘラナデの表現をしている。第64図5は黒褐色の剝片石器で、一部につぶれた部分があることから、ビエス・エスキューの可能性がある。

SI26 墓土封記表

層位	土 色	土 性	備 考
I a 層 2.5Y3/3 暗オリーブ褐色土	シルト	耕作土	
I b 層 10YR5/3 暗褐色土	シルト	I a 層土がブロック状に混る	
II 層 10YR4/3 にぼい黄褐色土	シルト	天地返層	基本層
III 層 10YR3/2 黒褐色土	シルト	10YR2/2 黑褐色土がブロック状に混る	
IV 層 10YR3/4 暗褐色土	シルト	10YR3/3 黑褐色土が斑状に混る	
V 層 2.5Y4/3 オリーブ褐色	シルト		
1 層 10YR3/1 黑褐色土	シルト	炭化物を多く含む	
2a 層 10YR4/3 にぼい黄褐色土	シルト	炭化物混入	
2b 層 10YR3/3 暗褐色土	シルト		
3 層 2.5Y3/3 暗オリーブ褐色土	シルト		
4 层 10YR3/1 黑褐色土	シルト	炭化物の集積層、土面を多く含む	
5a 層 10YR4/2 暗黄褐色土	シルト	炭化物を多く含む	
5b 層 10YR4/2 暗黄褐色土	シルト	10YR6/3 にぼい黄褐色土が混る	
6a 层 10YR4/2 暗黄褐色土	シルト	炭化物粒子混入	
6b 层 2.5Y3/2 黑褐色土	シルト	炭化物粒子混入	
6c 层 10YR3/2 黑褐色土	シルト	炭化物粒子混入	
7a 层 10YR7/1 暗白色土	粘質シルト		
7b 层 10YR4/1 暗灰色土	シルト	下層部に炭化層、炭化物混入	
7c 层 10YR2/3 黑褐色	シルト	炭化物粒子混入	

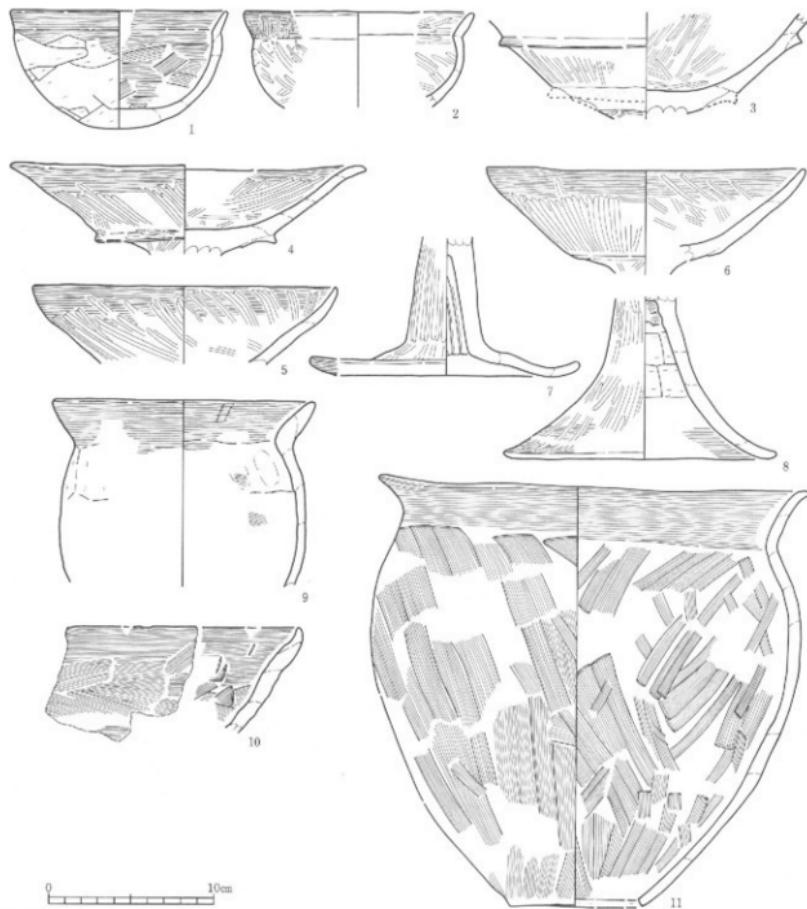
SI26 床面検出遺構觀察表

遺構名	平面形	規模(cm)	深さ(cm)	層 位	土 色	土 性	備 考
上坑	SK1	梢円形	2.5×3.0	1 a 層 -33.5	2.5Y5/1 黄灰色	シルト	
				1 b 層 -33.5	2.5Y3/2 黑褐色	シルト	炭化物粒子混入、2.5Y4/3 ブロック状に混入
				2 層 -36.2	2.5Y3/1 黑褐色	シルト	2.5Y4/1 黄灰色斑状に混入
柱穴	P-1	円形	26×35	1 層 -36.2	10YR3/2 黑褐色	シルト	
				2 層 -36.2	10YR3/2 黑褐色	シルト	10YR5/1 黄灰色斑状に混入
				3 層 -36.2	2.5Y3/2 黑褐色	シルト	炭化物粒子混入、下層部に2.5Y6/2 斑状に混入



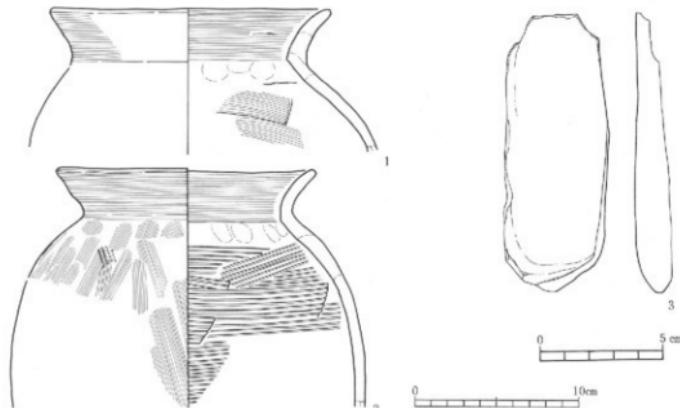
番号	地区・層位	種類	口径cm	底径cm	高さcm	残存	外 面	内 面	備考	登録 年	写真
1	P7+11+15 土師器	高环	23.3	(19.2)	17.0	1/2	(口) ヘラミガキ、ヨコナデ (脚) ココナデ・ナデ、ヨコナデ	(口) ココナデ・ナデ、ヨコナデ (脚) ヘラミガキ、ヨコナデ	C385	78-2	
2	SK1P5+16+17 土師器	高环	18.8	14.0	13.9	1/4	(口) ヨコナデ・ナデ (脚) ヨコナデ・ナデ	(口) ヨコナデ・ナデ (脚) ヘラミガキ、ヨコナデ	C366	78-3	
3	SK1P5+16+17 土師器	高环	17.0	15.0	15.0	1	(口) ヨコナデ、ナデ?	(口) ヨコナデ、ナデ?	C369	78-4	
4	SI26 P 7 土師器	高环	17.9		9.1	1/2	(口) ヨコナデ、ヘラミガキ	(脚) ナデ・ヘラミガキ	C351		
5	SI26 P 7 土師器	高环	(18.4)		1/4		ヘラミガキ		C388		
6	SI 1 P17 土師器	高环	(18.0)		1/3	1/2	ヨコナデ、ナデ	(口) ヨコナデ(体)・ヘラミガキ	C370		
7	P 5 土師器	高环	(15.0)		1/4		ヘラミガキ、ヨコナデ・ヘラミガキ		C355	78-5	
8	SI26 P 7 土師器	高环	(19.1)		1/4		ヨコナデ、ヘラミガキ	ナデ、ヨコナデ	C366		
9	P 9 土師器	高环	13.3		1		ヘラミガキ	ヘラナデ・ナデ、ヨコナデ	C360		
10	P13 土師器	高环			1		ナデ	ヘラナデ	C364		
11	P12 土師器	环	(14.4)	(5.0)	(6.0)	1/2	(口) ヨコナデ(体)・ヘラケズリ	(口) ヨコナデ(体)・ナデ	C363	78-6	
12	P14 土師器	壺		3.6	1		ヨコナデ・ヘラミガキ		C365	78-7	
13	SK 1 土師器	壺					ヨコナデ	ヘラナデ・ヨコナデ	C368		

第62図 SI26 積穴住居跡出土遺物（1）



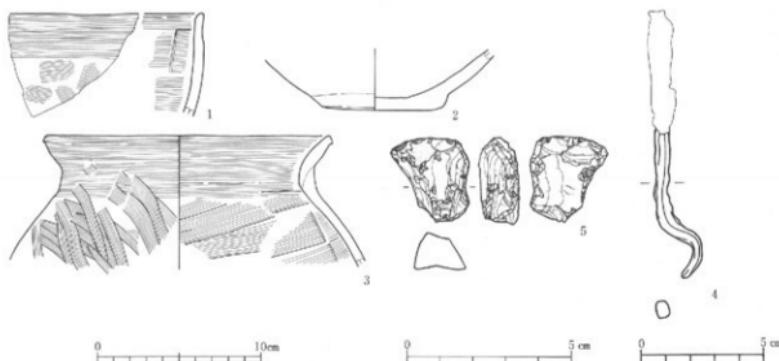
番号	地区・層位	種別	器幅	口径cm	底径cm	高さcm	残存	外 面	内 面	備考	参考	写真
1	P7+P15	土師器 环	13.2		7.3	3/4	(口)ヨコナデ(体)ヘラクズリ	(口)ヨコナデ(体)ヘラナデ		C384	79-1	
2	P 3	土師器 环	(14.0)			1/5	{(口)ヨコナデ(体)ヘラミガキ}	ヘラミガキ		C383b		
3	P 8	土師器 高环				1/4>	ナデ→ヘラミガキ	ヨコナデ→ヘラミガキ		C404		
4	P 7+P15	土師器 高环	21.7		7/8		ヨコナデ→ヘラミガキ	ヨコナデ→ヘラミガキ		C391	79-2	
5	P 9	土師器 高环	(18.6)		1/4		ヨコナデ→ヘラミガキ	ヨコナデ→ヘラミガキ		C387		
6	P9+床直	土師器 高环	19.4		1/2		ヨコナデ→ヘラミガキ	ヨコナデ→ヘラミガキ		C386	79-3	
7	P 1	土師器 高环	(16.4)		1/2		ヘラミガキ	ヨコナデ		C381		
8	P 3	土師器 高环	(16.7)		1/3		ヘラミガキ、ヨコナデ→ヘラミガキ	ナデ、ヘラケズリ、ヨコナデ		C383a		
9	P10	土師器 豪	(16.0)		1/4		(口)ヨコナデ(体)ヘラケズリ?	{(口)ヨコナデ(体)ヘラナデ}		C392		
10	床直	土師器 豪					ナデ	(口)ヨコナデ(体)ヘラナデ		C407		
11	P-15	土師器 豪	26.2	8.0	25.8	1	(口)ヨコナデ(体)ヘラナデ、ナデ	{(口)ヨコナデ(体)ヘラナデ}		C380	79-4	

第63図 SI26 積石住跡出土遺物（2）



番号	地区・層位	種別	器種	口径cm	底径cm	器高cm	残存	外 面	内 面	備考	登録 写真
1	P 2	土師器	壺			17.0	1/2	(□) ヨコナデ	(□) ヨコナデ (体) ヘラナデ		C353 78-8
2	P 8	土師器	壺	15.5			1	(□) ヨコナデ (体) ハケメナデ	(□) ヨコナデ (体) ハケメ		C358 78-9

番号	地区・層位	種別	器種	長さmm	幅mm	厚さmm	重さkg	特 徴	登録 写真
3		磨石器	砾石	114.6	42.7	17.1	113.9		Kd133 82-11



番号	地区・層位	種別	器種	口径cm	底径cm	器高cm	残存	外 面	内 面	備考	登録 写真
1	床直	土師器	甌?					(□) ヨコナデ (体) ナダ	(□) ヨコナデ (体) ヘラナデ		C405
2	P16	土師器	甌			7.5	1				C403
3	SK2	土師器	甌	(17.3)			1/4	(□) ヨコナデ (体) ヘラナデ	(□) ヨコナデ (体) ヘラナデ		C422

番号	地区・層位	種別	器種	長さmm	幅mm	厚さmm	重さkg	特 徴	登録 写真
4		鉄製品		(110)	5	7	22.0	片端欠損	N13 84-7
5	床直	磨片石器	(25.2×2.4-27)	26.9	24.2	11.7	6.4	黒曜石	Ka12 88-7

第64図 SI26 積穴住跡出土遺物 (3)

SI 20 壁穴住居跡（第65図）

【位置】 I 区 (B・C-13・14) に位置している。床面のほとんどを SI26 に切られている。東半部分が調査区外にかかっている。

【平面形・規模】 平面形は方形を呈すると考えられる。規模は北壁120cm、西壁260cmを計る。方向は西壁で N-11°-E である。

【堆積土】 埋土は2層に分けることができたが、SI26 や他の遺構に切られほとんど残っていなかったことから図化はおこなわなかった。

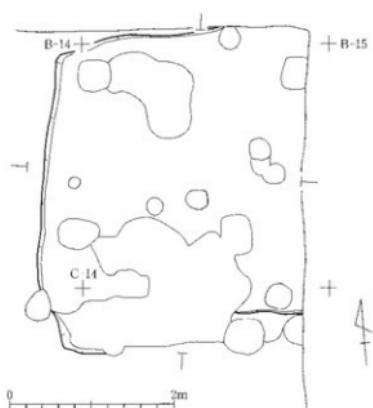
埋1層 2.5Y3/3 暗オリーブ褐色 シルト

埋2層 2.5Y3/2 黒褐色 シルト

【壁・床面】 西壁と南・北壁の一部を検出している。残存する壁高は、北壁 6~10cm、西壁 7~10cm、南壁約 7cm 程である。SI26 や中近世の遺構と天地返しにより床面はほとんど残っていない。

【柱穴・周溝】 柱穴・周溝は検出されなかった。

【出土遺物】 堆積土・床面より土師器（非ロクロ）・石製模造品・弥生土器が出土している。



第65図 SI20 壁穴住居跡平面図

②壁穴住居跡・土坑出土石製模造品（第66・67図／第3～6表）

30次調査では壁穴住居跡から127点、土坑などから107点、合計234点の石製模造品が出土している。その内訳は、壁穴住居跡から剣型9点・円板型14点・勾玉型4点・臼玉100点、土坑などからは剣型2点・円盤型3点・勾玉型1点・臼玉101点となっている。（第3表）

石製模造品はほとんどの壁穴住居跡から出土しているが、SI5・6・7・17からの出土が多い。

土坑については、SK38 から臼玉が84点出土している（写真85）。調査中に臼玉が集中出土したことから埋土を探取し、箭を使って水洗選別を行なっている。この土坑については、調査区外にかかるところから全体の4/1程度しか調査していない。遺構の性格を考えるうえでは出土状況について、埋土中～下層において一部並ぶようにして出土したという発掘者の報告があった。

分類 白玉を除いて、分類は平面形態でおこない、それぞれタイプ別に分類されたうちの良好な資料を図示している。残りのものについては集計表を参照されたい。

【剣型】 壁穴住居跡から9点、土坑などからは2点出土している。

A類：細長い五角形状を呈するもので、鏡が作出されているもの。

B類：細長い五角形状を呈するもので、鋲が作出されていないもの。

C類：側辺が明確な屈曲点をもたずに湾曲し長楕円形状を呈し、鋲が作出されていないもの。

D類：細長い三角形状を呈するもので、鋲が作出されていないもの。

堅穴住居跡・土坑ともに、A類がそれぞれ5点・2点と全体の過半数を占めている。

【円板型】堅穴住居跡から14点、土坑などからは3点出土している。

平面形態でみると、ほぼ正円形を呈するもの、楕円形を呈するもの、隅丸長方形を呈するものがあるが、ここでは孔の数によって分けている。

A類：双孔 B類：単孔 C類：孔無

堅穴住居跡・土坑ともに、A類がそれぞれ9点・1点、B類が5点・2点となっている。

【勾玉型】堅穴住居跡から4点、土坑などからは1点出土している。

A類：断面形が平板なもの

B類：断面形が楕円形のもの

【白玉】堅穴住居跡からは100点、土坑などからは101点出土している。遺構別出土状況でみると、調査区外にかかり完掘していないSK38から84点出土している。

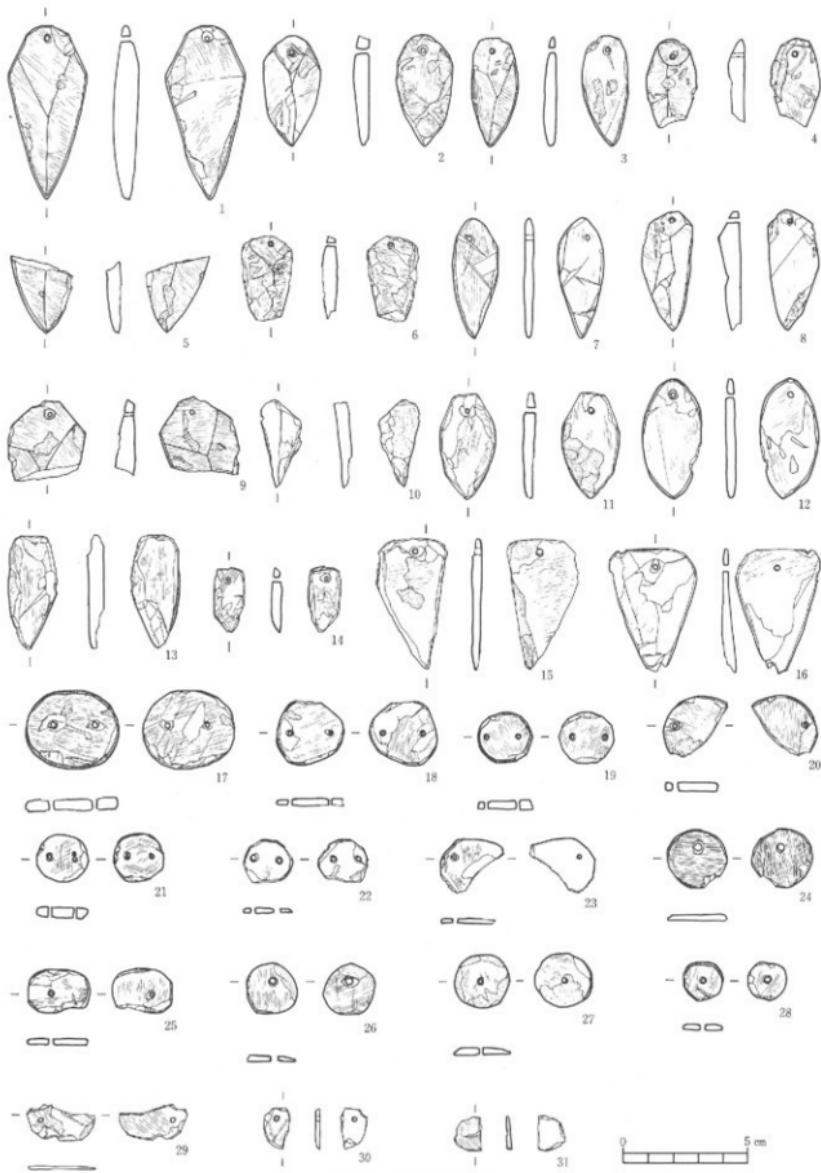
遺構と石製模造品の関係 住居跡から出土した石製模造品の組合せでみると次のようになっている。

- (a)剣+円板 SI01・13
(b)剣+円板+勾玉 SI02
(c)円板+勾玉 SI17
(d)剣+勾玉 SI14
(e)円板のみ SI15・18・21・26・32・35
(f)剣のみ SI05・06・07

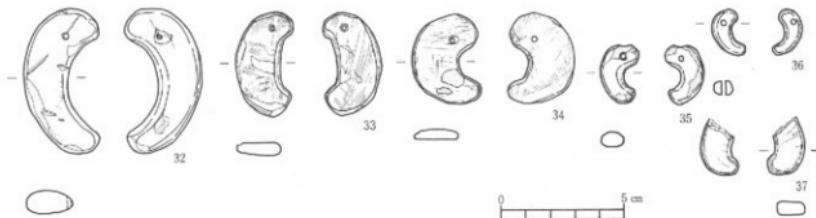
多量の白玉が出土したSK38土坑からは、剣型（A類）2点が出土している。

遺構名	円板			剣形			勾玉形			ウス玉		備考
	双孔A	单孔B	孔無C	A	B	C	D	A	B	ウス玉		
SI01	1				1				1			
SI02	1			1				1	1			
SI05		1										
SI06-07					2			16				
SI08												
SI09								4				
SI10								2				
SI11								4				
SI12												
SI13	2	2						7				
SI14		2					2	8				
SI15	1									曾玉1		
SI16								1	ガラス玉1			
SI17	2	1					1	13				
SI18	1											
SI19								4				
SI20								5				
SI21	2							2				
SI22								1				
SI24								6				
SI25								2	ガラス玉1			
SI26	1							2				

第3表 石製模造品遺構別集計表



第66図 石製模造品（1）



第67図 石製模造品 (2)

石製模造品観察表 (第66・67図)

番号	地区・層位	分類	長さ mm	幅 mm	厚さ mm	重さ g	特徴	登録 号	写真
1	SI14 カマド裏面	倒形A	70.6	31.5	9.0	25.1	完形	Kd71	85-1
2	SI17	倒形A	45.3	22.4	6.2	8.6	完形	Kd105	85-2
3	SK38	倒形A	45.0	18.8	5.4	5.9	完形	Kd287	85-3
4	SK38 墓土	倒形A	36.3	20.7	5.8	6.1	破損	Kd182	85-4
5	SI13	倒形A	28.2	23.9	5.8	4.5	破損	Kd60	85-5
6	SI17 床直	倒形A	34.0	20.7	5.7	6.0	ほぼ完形	Kd80	85-6
7	SD02 5層	倒形B	48.9	18.3	3.6	5.5	完形	Kd188	85-7
8	SI05	倒形A	47.9	19.9	7.7	8.6	完形	Kd18	85-8
9	SI14	倒形A	31.4	30.5	6.1	9.0	破損	Kd72	85-9
10	SI13 墓土上層	倒形A	35.4	16.1	5.2	2.7	ほぼ完形	Kd59	85-10
11	SI01 墓土	倒形B	42.5	22.9	4.5	6.2	完形	Kd3	85-11
12	SD01	倒形B	48.2	23.8	3.6	7.8	完形	Kd184	85-12
13	SI17	倒形B	46.0	19.9	5.8	8.1	ほぼ完形	Kd104	85-13
14	SI02 墓土(灰内)	倒形B	25.5	12.7	4.0	2.5	ほぼ完形	Kd6	85-14
15	SI06・07	倒形D	53.0	27.5	3.5	7	完形	Kd35	85-15
16	SI06・07	倒形D	50.5	34.9	4.0	8.3	ほぼ完形	Kd36	85-16
17	SI18	円板A	32.1	37.0	5.6	12.1	完形	Kd107	85-17
18	C12 2層	円板A	27.5	36.0	3.7	4.2	完形	Kd198	85-18
19	SI26	円板A	20.2	22.6	3.1	2.8	完形	Kd132	85-19
20	SI21 ピット4	円板A	30.0	19.2	3.9	3.6	破損	Kd120	85-20
21	SI15 墓土中～下層	円板A	19.5	20.9	4.1	3.5	完形	Kd74	85-21
22	SI21	円板A	17.0	20.0	2.7	1.2	完形	Kd119	85-22
23	SI01 墓土	円板A	27.2	15.8	2.6	1.6	破損	Kd2	85-23
24	SI32 墓土中層	円板B	23.6	24.5	2.4	2.8	完形	Kd89	85-24
25	SI13 2層	円板B	24.8	17.9	2.5	2.4	破損	Kd58	85-25
26	SI35	円板B	21.0	21.2	2.9	2.3	完形	Kd154	85-26
27	SD02 10層以下	円板B	23.2	22.8	3.4	2.8	完形	Kd187	85-27
28	SI13 床直	円板B	16.3	15.8	2.6	1.3	完形	Kd57	85-28
29	SI17 床直	石製品	27.1	13.5	1.6	0.9	破損	Kd79	85-29
30	SK21	円板A	16.8	10.3	1.5	0.4	破損	Kd211	85-30
31	SK38 墓土	円板(不等)	14.0	10.9	1.8	0.3	破損	Kd207	85-31
32	SI17	勾玉形B	59.0	19.4	10.2	24.3	完形	Kd106	85-32
33	SI14	勾玉形A	42.2	18.1	5.5	7.4	完形	Kd69	85-33
34	C11 III層	勾玉形A	36.9	18.7	3.1	5.8	完形	Kd197	85-34
35	SD01 3層	勾玉形B	24.2	10.5	5.5	3.0	完形	Kd185	85-35
36	SI02 床直	勾玉形A	19.3	7.5	5.6	1.6	完形	Kd7	85-36
37	SI14	勾玉形A	18.5	11.7	5.2	3.3	破損	Kd70	85-37

登録番号	地名・属性	分類	販賣者	総面積	耕地面積	畠数	地主	所有者	裏番地番	地区・施設	台地	斜面	谷地	河川	湖沼	海岸	山地	森林	特	自	固	写真
Kd1	S10 地土	丘陵	白玉	4.7	4.6	2.2	0.1	完形	K053	S114	丘陵	5.3	5.3	2.5	0.1	完形						
Kd2	S10 地土	円盤A	27.2	15.8	2.0	1.6	破損	K054	S114	丘陵	4.6	4.3	2.4	0.1	完形							
Kd3	S10 地土	圓盤B	42.5	22.9	4.9	4.2	完形	K055	S114 S106	丘陵	4.5	4.1	1.6	0.3	完形							
Kd4	S10 地土	丘玉	4.5	4.5	2.8	0.1	完形	K056	S114	丘陵	4.9	4.8	3.1	0.1	完形							
Kd5	S10 地土	円盤A	13.9	9.8	3.2	0.2	破損	K057	S114	丘陵	4.5	4.4	3.2	0.1	完形							
Kd6	S10 地土	圓盤B	25.5	12.7	4.8	2.3	試験完形	K058	S114 地面	丘陵	—	—	2.1	—	破損							
Kd7	S10 地土	丘玉	29.3	7.9	5.6	1.6	完形	K059	S114	丘陵A	42.3	38.1	9.5	7.4	完形					67-23		
Kd8	S105 地下	丘玉	4.3	4.3	1.5	0.1	完形	K060	S114	丘陵A	18.6	11.7	9.2	3.9	破損					67-37		
Kd9	S105 地土	丘玉	4.8	4.9	3.6	0.1	完形	K071	S105 9号窓	圓盤A	79.6	23.9	9.0	25.1	破損					66-1		
Kd10	S105 9号窓	丘玉	5.0	4.9	1.3	0.1	はげ完形	K072	S114	圓盤A	34.4	20.5	0.1	9.8	破損					66-9		
Kd11	S105 地面	丘玉	4.7	4.6	3.3	0.1	完形	K074	S105 地下+1層	四輪A	19.5	20.9	6.1	3.5	完形					66-21		
Kd12	S105 SK3	丘玉	4.5	4.2	1.8	0.1	はげ完形	K078	S105 地下+1層	石材	18.5	4.5	7.7	0.3								
Kd13	S105 SK3	丘玉	4.6	4.6	1.6	0.1	完形	K079	S107 地面	四輪A	27.1	13.5	1.6	0.9	破損					66-29		
Kd14	S105 地上土面	丘玉	5.8	5.8	3.3	0.2	完形	K080	S107 地面	圓盤A	34.0	20.7	5.7	6.0	試験完形					66-6		
Kd15	S105 地上土面	丘玉	5.4	5.3	2.2	0.1	完形	K088	S107 地土	石材	26.4	19.4	2.2	1.5								
Kd16	S105 地上土面	丘玉	4.3	4.3	1.4	0.1	完形	K088	S105	丘陵	4.1	3.0	1.9	0.1	破損							
Kd17	S102 地土	丘玉	—	—	—	—	破損	K089	S102 地土+1層	四輪B	23.8	24.5	2.4	2.4	完形					66-24		
Kd18	S105 地土	圓盤A	47.9	19.9	7.7	8.6	完形	K091	S104 ピット4	丘陵	3.2	3.2	2.9	0.1	記形							
Kd19	S106-07 地土	丘玉	4.0	4.0	1.6	0.1	完形	K092	S107 地土	丘陵	3.4	3.8	2.3	0.1	完形							
Kd20	S106-07 地土	丘玉	3.9	3.9	2.1	0.1	完形	K093	S107 地下	丘陵	5.6	3.6	2.2	0.1	完形							
Kd21	S106-07	丘玉	4.1	4.9	0.9	0.1	完形	K094	S106-07 S104	丘陵	8.6	6.3	4.0	0.2	完形							
Kd22	S106-07 地上	丘玉	4.3	4.2	1.2	0.1	完形	K095	S107 地下+1層	丘陵	4.7	2.9	1.5	0.1	破損							
Kd23	S106-07 地土	丘玉	4.0	4.0	2.5	0.2	完形	K096	S107 ピット4	丘陵	4.5	4.4	2.5	0.1	完形							
Kd24	S106-07 地上	丘玉	4.2	4.1	2.9	0.1	完形	K097	S107 地下+1層	丘陵	5.3	4.9	1.6	0.1	完形							
Kd25	S106-07 地土	丘玉	4.0	2.8	2.4	0.1	完形	K098	S107 1-2層	丘陵	1.6	4.5	2.9	0.1	記形							
Kd26	S106-07 地土	丘玉	4.6	4.5	3.3	0.1	完形	K099	S107 休眠	丘陵	5.5	5.5	3.3	0.2	完形							
Kd27	S106-07 地土	丘玉	4.1	4.0	1.7	0.1	完形	K100	S107	丘陵	8.0	7.9	8.7	0.2	はげ完形							
Kd28	S106-07 地土	丘玉	4.6	1.6	1.8	0.1	破損	K101	S107	丘玉	4.5	4.2	1.9	0.1	完形							
Kd29	S106-07 地上	丘玉	4.0	4.0	4.1	0.1	完形	K102	S107	丘玉	6.0	6.0	3.8	0.2	完形							
Kd30	S106-07 地土	丘玉	4.8	4.7	2.5	0.1	完形	K103	S107	丘玉	2.5	2.5	1.3	0.1	完形							
Kd31	S106-07	丘玉	4.7	4.7	1.3	0.1	完形	K104	S107	圓盤A	46.0	39.9	5.8	8.1	はげ完形					66-13		
Kd32	S106-07	丘玉	4.0	3.9	3.4	0.1	完形	K105	S107	圓盤A	49.3	32.4	6.2	8.6	完形					66-2		
Kd33	S107 地土	丘玉	4.0	2.9	3.8	0.1	完形	K106	S117	勾玉	59.0	19.4	10.2	24.3	完形					67-32		
Kd34	S106-07	丘玉	3.5	3.7	2.0	0.1	はげ完形	K107	S108	四輪A	32.1	37.0	5.6	12.1	完形					66-17		
Kd35	S106-07	圓盤D	53.0	27.3	3.5	7.9	完形	K108	S119 1層	丘陵	5.5	5.5	2.5	0.1	完形							
Kd36	S106-07	圓盤D	50.0	34.9	4.8	8.3	試験完形	K109	S119 底面	丘陵	3.3	3.3	2.5	0.1	完形							
Kd37	S109	丘玉	5.0	5.0	2.2	0.1	完形	K110	S119 ピット15	丘陵	5.5	4.0	2.6	0.1	完形							
Kd38	S109	丘玉	4.8	4.8	2.8	0.1	完形	K111	S119 ピット15	丘陵	4.5	2.9	4.0	0.2	破損							
Kd39	S109(S145)	丘玉	3.9	3.8	4.2	0.1	完形	K112	S120	丘陵	3.9	3.8	2.7	0.1	完形							
Kd40	S109	丘玉	4.0	4.0	2.6	0.1	破損	K113	S120	丘玉	4.7	4.3	2.2	0.2	はげ完形							
Kd41	S108 S109	丘玉	4.5	4.3	1.3	0.1	完形	K114	S120	丘玉	4.9	4.8	2.0	0.1	完形							
Kd42	S110	丘玉	4.0	4.0	4.1	0.1	破損	K115	S120	丘玉	4.8	2.9	1.2	0.1	破損							
Kd43	S112 地上	丘玉	4.9	4.8	2.1	0.1	完形	K116	S120	丘玉	—	—	2.1	0.1	完形							
Kd44	S112 地下	丘玉	4.2	4.1	2.5	0.1	完形	K117	S121 地底	丘玉	4.7	4.7	2.4	0.1	はげ完形							
Kd45	S112 地下	丘玉	3.6	5.0	1.4	0.1	完形	K118	S121 地底	丘玉	3.3	3.2	1.9	0.1	完形							
Kd46	S112 地下	丘玉	3.4	3.3	2.5	0.1	完形	K119	S211	汚泥A	17.0	39.0	2.7	1.2	完形					66-22		
Kd47	S112 地下	丘玉	4.1	4.0	1.9	0.1	完形	K120	S212 ピット4	汚泥A	80.0	19.2	2.9	3.4	破損					66-30		
Kd48	S113	丘玉	4.0	4.0	5.7	0.1	完形	K121	S22 地底	丘玉	5.3	4.4	2.7	0.5	完形							
Kd49	S113	丘玉	5.0	4.8	2.1	0.1	完形	K122	S22 地底	丘玉	5.1	5.0	2.8	0.1	完形							
Kd50	S113	丘玉	4.7	4.7	2.0	0.1	破損	K123	S22 地底	丘玉	4.7	4.6	2.3	0.1	完形							
Kd51	S113	丘玉	4.8	4.8	2.8	0.1	完形	K124	S22 地底	丘玉	4.0	3.8	2.0	0.1	完形							
Kd52	S113	丘玉	4.5	4.5	2.5	0.1	完形	K125	S22 地底	丘玉	—	—	2.1	0.1	完形							
Kd53	S113	丘玉	4.2	4.1	2.5	0.1	完形	K127	S22 地底	丘玉	4.7	4.7	2.4	0.1	はげ完形							
Kd54	S112 地下	丘玉	3.6	5.0	1.4	0.1	完形	K128	S22 地底	丘玉	3.3	3.2	1.9	0.1	完形							
Kd55	S112 地下	丘玉	3.4	3.3	2.5	0.1	完形	K129	S22 地底	丘玉	4.2	4.1	2.5	0.1	はげ完形							
Kd56	S112 地下	丘玉	4.1	4.0	1.9	0.1	完形	K130	S22 地底	丘玉	4.2	4.1	2.5	0.1	はげ完形							
Kd57	S112 地下	丘玉	4.3	3.8	2.8	0.1	完形	K131	S22 地底	丘玉	4.9	4.8	2.9	0.1	完形							
Kd58	S112 地下	丘玉	34.8	17.9	7.3	2.4	破損	K132	S22 地底	丘玉	4.9	4.3	2.3	0.1	はげ完形							
Kd59	S112 地土	圓盤A	35.1	36.1	5.2	2.7	12.0	K133	S22 地底	丘玉	4.2	4.1	2.5	0.1	はげ完形							
Kd60	S112 地土	圓盤A	29.2	23.9	5.8	4.5	破損	K134	S22 地底	丘玉	4.9	4.8	2.9	0.1	完形							
Kd61	S114	丘玉	4.9	4.8	2.1	0.1	完形	K135	S22 地底	四輪A	20.2	22.6	3.1	2.8	完形					66-19		
Kd62	S114	丘玉	4.6	4.5	1.7	0.1	完形	K136	S22 地底	石炭島	—	—	—	—								

第4表 石製模造品集計表(1)

登録番号	地区・海位	分類	形状	幅mm	厚mm	種別	側	面	写真	登録番号	地区・海位	分類	形状	幅mm	厚mm	種別	側	面	写真	
Kd124	SI27	白玉	4.4	4.2	3.6	0.1	完形			Kd198	C-17 日置	門附A	27.5	26.6	3.7	4.2	完形			60-10
Kd115	SI27	白玉	4.4	4.2	3.1	0.1	完形			Kd199	I-4	白玉	3.6	3.5	2.1	0.1	完形			
Kd136	SI27	白玉	4.3	4.2	4.8	0.1	完形			Kd200	下区日置	白玉	4.3	4.2	1.5	0.1	完形			
Kd137	SI27	白玉	4.0	4.5	2.8	0.1	完形			Kd201	山區奥伊	白玉	4.2	4.1	1.6	0.1	完形			
Kd138	SI28	白玉	4.4	4.3	2.2	0.1	完形			Kd202	IE区	白玉	5.4	5.3	2.2	0.1	完形			
Kd139	SI28	白玉	4.4	4.3	1.9	0.1	完形			Kd203	IE区日置	石材	18.0	16.1	7.6	0.4				
Kd140	SI28	白玉	4.5	4.4	2.9	0.1	完形			Kd207	SK38 墓上	門附(40)	34.0	10.9	3.8	0.3	破損			66-31
Kd141	SI28	白玉	4.3	4.2	2.2	0.1	完形			Kd210	SK21	白玉	-	-	2.3	0.1	破損			
Kd142	SI28 墓土	白玉	3.1	1.8	2.8	0.1	完形			Kd211	SK21	門附A	16.8	10.3	1.5	0.4	破損			66-30
Kd143	SI28	白玉	4.1	4.1	2.7	0.1	完形			Kd212	SK22	白玉	4.5	4.3	2.7	0.1	完形			
Kd144	SI22 SK02	白玉	9.0	8.6	2.4	0.1	完形			Kd213	SK22	白玉	9.0	8.5	2.1	0.1	完形			
Kd145	SI22	白玉	4.5	4.7	2.1	0.1	完形			Kd214	SK23	白玉	3.7	3.7	2.7	0.1	完形			
Kd146	SI22	白玉	4.4	4.4	2.5	0.1	完形			Kd215	SK23	白玉	3.5	3.5	1.8	0.1	完形			
Kd147	SI24	白玉	4.9	4.7	2.5	0.1	完形			Kd216	SK27	白玉	5.0	5.0	2.6	0.2	完形			
Kd148	SK24 地上層	白玉	5.5	4.8	0.9	0.1	球状形			Kd217	SK23	白玉	5.0	4.6	1.4	0.1	球状形			
Kd149	SK24 墓土上層	白玉	5.5	5.4	1.4	0.1	完形			Kd218	SK23	白玉	4.2	4.2	1.8	0.1	完形			
Kd150	SK24 墓土中層	白玉	4.7	4.7	4.2	0.1	球状形			Kd219	SK23	白玉	3.7	3.7	2.1	0.1	完形			
Kd151	SK24 墓土中層	白玉	4.6	4.1	2.0	0.1	完形			Kd220	SK17	白玉	3.7	3.7	2.7	0.1	完形			
Kd152	SK24	白玉	5.4	5.3	2.2	0.1	完形			Kd221	SK17	白玉	5.1	5.0	2.3	0.1	完形			
Kd153	SK24	白玉	5.8	5.7	2.2	0.1	完形			Kd222	SK38	白玉	5.9	5.8	2.3	0.1	完形			
Kd154	SK24	白玉	4.5	4.5	2.1	0.1	完形			Kd223	SK28	白玉	5.9	5.6	2.5	0.1	完形			
Kd155	SK24 墓土	白玉	3.6	3.9	1.9	0.1	完形			Kd224	SK28	白玉	6.1	6.1	2.6	0.1	完形			
Kd156	SK24 墓土	白玉	4.5	4.5	3.5	0.2	完形			Kd225	SK38	白玉	4.3	4.3	2.7	0.1	完形			
Kd157	SK24 墓土	白玉	4.3	4.5	4.4	0.1	完形			Kd227	SK28	白玉	4.0	4.0	3.4	0.1	完形			
Kd158	SK24 墓土	白玉	2.9	3.9	1.9	0.1	完形			Kd228	SK28	白玉	5.9	5.6	2.5	0.1	完形			
Kd159	SK24 墓土	白玉	4.5	4.5	3.5	0.2	完形			Kd229	SK28	白玉	4.3	4.3	2.9	0.1	完形			
Kd160	SK24 墓土	白玉	4.3	4.5	4.1	0.1	完形			Kd230	SK28	白玉	4.3	4.3	3.4	0.1	完形			
Kd161	SK24 墓土	白玉	2.9	3.8	2.9	0.1	完形			Kd232	SK28	白玉	4.3	4.1	2.1	0.1	完形			
Kd162	SK24 墓土	白玉	4.5	4.5	2.1	0.1	完形			Kd233	SK28	白玉	4.4	4.3	2.1	0.1	完形			
Kd163	SK24 墓土	白玉	4.5	4.4	2.2	0.1	完形			Kd234	SK28	白玉	4.0	4.5	2.8	0.1	完形			
Kd164	SK24 墓土	白玉	4.1	4.1	3.2	0.1	球状形			Kd235	SK28	白玉	6.1	6.1	2.6	0.1	完形			
Kd165	SK24 墓土	白玉	4.9	4.8	1.7	0.1	完形			Kd236	SK28	白玉	6.4	4.4	1.9	0.1	完形			
Kd166	SK24 墓土	白玉	4.8	4.7	2.1	0.1	完形			Kd237	SK28	白玉	4.4	4.4	3.1	0.1	完形			
Kd167	SK24 墓土	白玉	4.7	4.6	2.2	0.1	完形			Kd238	SK28	白玉	6.4	6.3	2.6	0.1	完形			
Kd168	SK24 墓土	白玉	4.5	4.9	1.6	0.1	完形			Kd239	SK28	白玉	4.1	4.1	2.4	0.1	完形			
Kd169	SK24 墓土	白玉	4.5	4.4	2.2	0.1	完形			Kd240	SK28	白玉	4.2	4.1	2.9	0.1	球状形			
Kd170	SK24 墓土	白玉	4.5	4.3	2.0	0.1	完形			Kd241	SK28	白玉	4.5	4.1	3.2	0.1	球状形			
Kd171	SK24 墓土	白玉	4.5	4.4	2.3	0.1	完形			Kd242	SK28	白玉	4.3	4.3	2.3	0.1	完形			
Kd172	SK24 墓土	白玉	4.0	4.0	3.5	0.1	球状形			Kd243	SK28	白玉	4.5	4.5	3.1	0.1	完形			
Kd173	SK24 墓土	白玉	4.8	4.8	2.1	0.1	完形			Kd244	SK28	白玉	4.9	4.8	2.2	0.1	完形			
Kd174	SK24 墓土	白玉	4.7	4.6	2.0	0.1	完形			Kd245	SK28	白玉	4.6	4.5	2.7	0.1	完形			
Kd175	SK24 墓土	白玉	4.5	4.4	2.6	0.1	球状形			Kd246	SK28	白玉	4.5	4.3	3.3	0.1	完形			
Kd176	SK24 墓土	白玉	4.7	4.7	2.1	0.1	完形			Kd247	SK28	白玉	4.6	4.6	2.4	0.1	完形			
Kd177	SK24 墓土	白玉	4.5	4.2	2.5	0.1	完形			Kd248	SK28	白玉	4.6	4.6	2.4	0.1	完形			
Kd178	SK24 墓土	白玉	4.5	2.7	2.3	0.1	破損			Kd249	SK28	白玉	4.6	4.6	3.0	0.1	完形			
Kd179	SK24 墓土	白玉	4.6	2.4	-	0.1	破損			Kd250	SK28	白玉	4.5	4.3	3.3	0.1	完形			
Kd180	SK24 墓土	白玉	4.3	4.2	2.5	0.1	完形			Kd251	SK28	白玉	4.4	4.4	1.7	0.1	完形			
Kd181	SK24 墓土	白玉	4.5	4.4	4.0	0.1	球状形			Kd252	SK28	白玉	4.4	4.4	1.5	0.1	完形			
Kd182	SK24 墓土	白玉	4.3	4.2	5.8	0.1	破損			Kd253	SK28	白玉	4.3	4.3	2.9	0.1	完形			
Kd183	SD01	砂岩	22.0	23.8	3.9	0.5	完形			Kd254	SK28	白玉	4.6	4.5	3.4	0.1	完形			
Kd184	SD01	砂岩	14.2	19.0	5.5	0.3	完形			Kd255	SK28	白玉	4.8	4.8	2.1	0.1	完形			
Kd185	SD01 5層	砂岩	22.0	22.8	3.4	0.8	完形			Kd256	SK28	白玉	4.7	4.6	3.2	0.1	完形			
Kd186	SD02	不明	16.9	9.5	3.2	0.8	破損			Kd257	SK28	白玉	4.6	4.6	3.0	0.1	完形			
Kd187	SD02	白玉	5.9	3.8	2.2	0.1	破損			Kd258	SK28	白玉	4.6	4.5	2.4	0.1	完形			
Kd188	SD09	石材	23.0	9.6	2.0	0.5				Kd259	SK28	白玉	4.4	4.4	2.8	0.1	完形			
Kd189	SD11	白玉	3.7	3.7	2.4	0.1	完形			Kd260	SK28	白玉	4.6	4.6	4.0	0.2	完形			
Kd190	SD12	白玉	4.1	4.0	3.6	0.2	完形			Kd261	SK28	白玉	4.3	4.3	2.5	0.1	完形			
Kd191	B-C11 山頂層	白玉	4.2	4.2	4.4	0.2	完形			Kd262	SK28	白玉	4.6	4.6	2.7	0.1	完形			
Kd192	B-C11 山頂層	白玉	5.6	5.5	3.6	0.2	完形			Kd263	SK28	白玉	4.6	4.6	3.9	0.1	完形			
Kd193	B-C11 山頂層	白玉	4.6	4.6	2.3	0.1	完形			Kd264	SK28	白玉	4.3	4.3	2.5	0.1	完形			
Kd194	B-C11 山頂層	白玉	4.2	4.2	4.4	0.2	完形			Kd265	SK28	白玉	4.4	4.4	2.8	0.1	完形			
Kd195	B-C11 山頂層	白玉	4.6	4.6	2.3	0.1	完形			Kd266	SK28	白玉	4.6	4.6	3.9	0.1	完形			
Kd196	B-C11 山頂層	白玉	4.6	4.6	2.3	0.1	完形			Kd267	SK28	白玉	4.3	4.3	2.5	0.1	完形			
Kd197	CH 区組層	白玉A	26.9	18.7	3.1	0.8	完形			Kd268	SK28	白玉	4.6	4.6	2.7	0.1	完形			
Kd198	CH 区組層	白玉A	26.9	18.7	3.1	0.8	完形			Kd269	SK28	白玉	4.6	4.6	3.3	0.2	完形			

第5表 石製模造品集計表(2)

登録番号	地区・部位	分類	長さmm	幅mm	高さmm	寸法	箇	回	写真	登録番号	地区・部位	分類	長さmm	幅mm	高さmm	寸法	箇	回	写真
Kd283	SK38	口 矢	4.6	4.6	2.2	0.1	丸形			Kd279	SK38	口 矢	4.2	4.2	2.4	0.1	丸形		
Kd284	SK38	口 玉	4.5	4.5	2.1	0.1	丸形			Kd280	SK38	口 玉	4.4	4.4	3.2	0.1	丸形		
Kd285	SK38	口 矢	4.5	4.5	3.4	0.1	丸形			Kd281	SK38	口 矢	4.5	4.5	2.5	0.1	丸形		
Kd286	SK38	口 玉	4.5	4.5	2.4	0.1	丸形			Kd281	SK38	口 玉	4.7	4.7	2.8	0.1	丸形		
Kd287	SK38	口 玉	4.3	4.2	2.3	0.1	丸形			Kd282	SK38	口 玉	4.2	4.2	2.0	0.1	丸形		
Kd288	SK38	口 矢	4.3	4.3	3.8	0.1	丸形			Kd283	SK38	口 矢	4.3	4.3	2.0	0.1	丸形		
Kd289	SK38	口 玉	4.3	4.3	2.6	0.1	丸形			Kd284	SK38	口 玉	4.4	4.4	2.7	0.1	丸形		
Kd290	SK38	口 玉	4.2	4.2	2.1	0.1	丸形			Kd285	SK38	口 玉	4.8	3.2	1.5	0.1	丸形		
Kd291	SK38	口 玉	4.6	4.6	3.7	0.1	丸形			Kd287	SK38	船形A	45.0	38.8	2.4	2.8	丸形	66	3
Kd292	SK38	口 玉	4.6	4.6	3.0	0.1	丸形			Kd288	口区II層	不規	27.2	15.7	3.1	1.9	複数		
Kd293	SK38	口 矢	4.6	4.6	2.4	0.1	丸形			Kd289	口区II層	不規	38.7	19.7	2.6	1.5	複数		
Kd294	SK38	口 玉	4.3	4.3	2.8	0.1	丸形			Kd290	口区ゴット40	口 玉	6.3	2.6	3.5	0.1	丸形		
Kd295	SK38	口 玉	4.7	4.7	3.5	0.1	丸形			Kd291	口区I層側面	口 玉	6.3	4.0	3.4	0.1	丸形		
Kd296	SK38	口 玉	3.8	3.6	2.4	0.1	丸形			Kd292	口-C4層	不規	13.7	30.7	2.2	0.5	複数		
Kd297	SK38	口 玉	4.3	4.3	1.7	0.1	丸形			Kd293	口区II層	不規	35.9	33.1	3.8	1.7	複数		

第6表 石製模造品集計表(3)

(2) 古代

① 竪穴住居跡

SI 17 竪穴住居跡(第68~74図)

【位置】 I 区(A~C-10~12)に位置し、SI12・18・21を切っている。

【平面形・規模】 北半部分が調査区外にかかっているが、平面形は隅丸方形を呈する。壁面や床面施設の検出状況から、床を上げて拡張する改築をおこなっていると考えられる。規模は南壁600cm、西壁460cm、東壁320cmを計る。方向は西壁でN-0°-Wである。

【堆積土】 埋土は5層に分けられた

【壁・床面】 壁はほぼ垂直に立ち上がり、残存する壁高は南壁9~22cm、西壁9~24cm、東壁18~32cmである。壁際に、西壁で幅25~30cm、東壁で幅20~40cmの床面からのテラス状の段差があり、改築時の拡張によるものと考えられる(第68図)。

SI17 墓土柱記表

層位	土 色	土 性	備 考
I層	7.5YR3/2 オリーブ黒色	シルト	
II層	2.5YR3/3 雰オーリーブ褐色	シルト	
III層	5YR4/2 反オリーブ色	シルト	
1層	10YR3/2 黒褐色	シルト	炭化物粒子混入
2層	10YR2/3 黑褐色	シルト	炭化物粒子混入
3a層	10YR2/2 黑褐色	シルト	炭化物粒子混入
3b層	10YR3/3 暗褐色	シルト	炭化物粒子混入
3c層	10YR3/2 黑褐色	シルト	炭化物粒子混入
4a層	10YR3/2 黑褐色	シルト	4 a 層よりも明るい
4b層	10YR2/2 黑褐色	シルト	3 a 層に近似、炭化物粒子混入、漂土粒子混入
4c層	10YR3/2 黑褐色	シルト	
5a層	10YR2/2 黑褐色	シルト	2.5YR5/4 ブロック状に混入、炭化物粒子混入
5b層	2.5YR3/5 暗オリーブ褐色	シルト	
6層	10YR3/2 黑褐色	シルト	掘り去り埋土、10YR5/6 黄褐色ブロック状に混入、炭化物混入

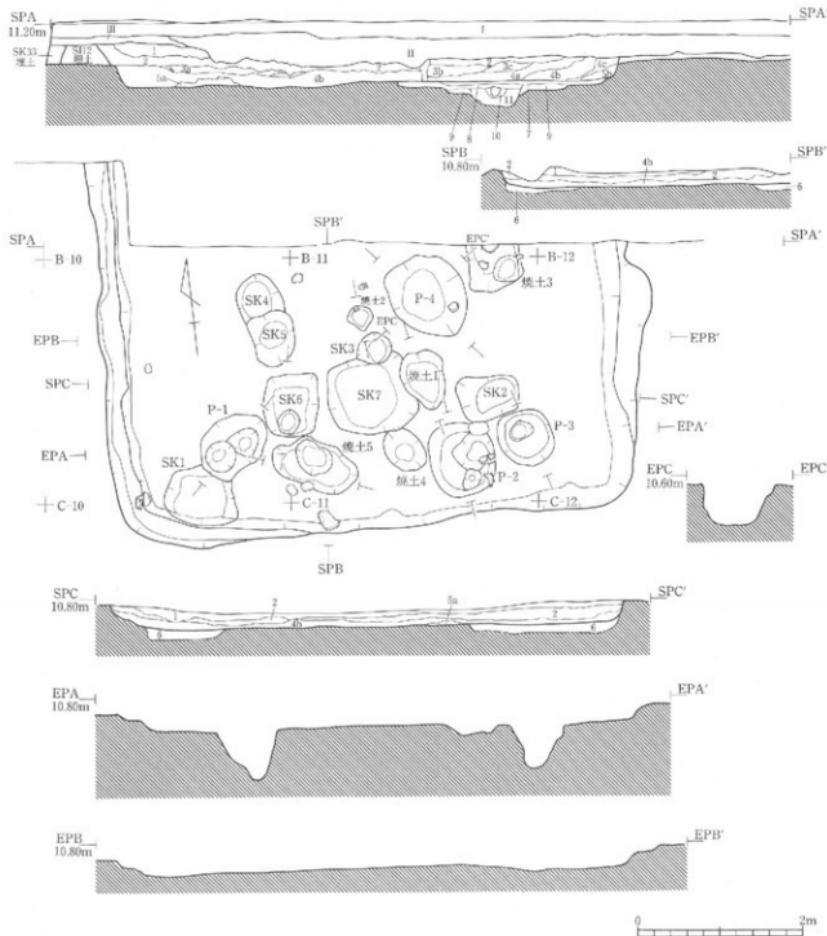
焼土3 墓土柱記表

7層	10YR3/3 黒褐色	シルト	
8層	10YR2/2 黑褐色	シルト	
9層	10YR3/3 黒褐色	シルト	10YR5/6 黄褐色ブロック状に混入
10層	10YR4/2 黄褐色	シルト	焼土粒・炭化物混入
11層	7.5YR3/1 黑褐色	シルト	

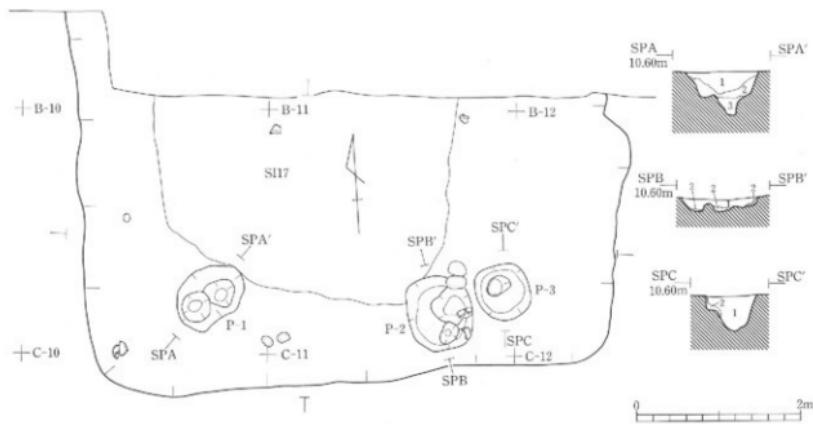
壁沿いに幅70~150cm、深さ7~20cmの周溝状の掘り方が検出されている（第70図）。この部分では掘り方埋土上面を床面としている。掘り方の西側は浅いが、東側は深く埋土中の遺物も多い。

【柱穴・ピット】新旧2時期の柱穴が考えられる。新期の住居跡では、P-1・3が主柱穴と考えられる（第69図）。P-1は不整円形を呈し、規模は90×65cm、深さ25cmを計る。底面にピット2基がある。円形で径38cm、深さ30cmのものと、不整円形で径28cm、深さ20cmのものである。P-3は不整形を呈し、規模は70×65cm、深さ40cmを計る。底面に不整形で30×20cm、深さ15cmを計るピットがある。

古期の住居跡ではSK2・6が主柱穴と考えられる（第71図）。SK2は不整方形を呈し、規模は70×55cm、深さ40cmを計る。SK6は方形を呈し、規模は78×68cm、深さ48cmを計る。断面には柱痕跡がみられ、底面に径28cm、深さ10



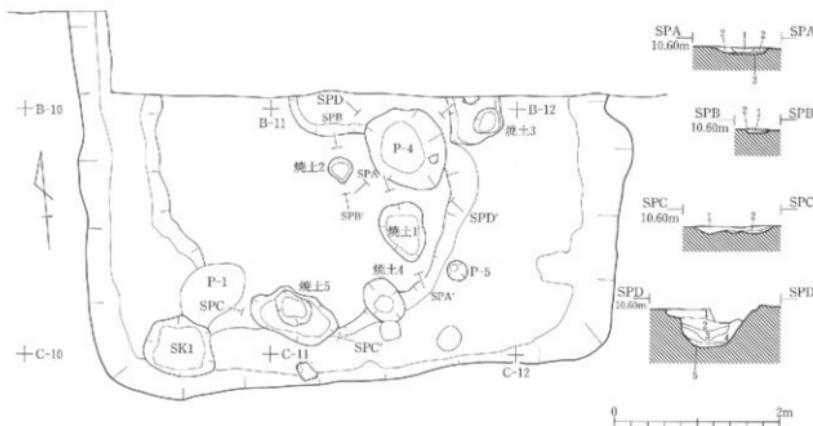
第68図 SI17 竪穴住居跡平面図・断面図



SI17 床面検出遺構断面図

性別	遺物名	平面形	周縁(cm)	深さ(cm)	層位	土色	土性	備考	
								1層	2層
性火	P-1	楕円形	76×90	-56	1層	10YR2/2 黒褐色	シルト	炭化物粒子若干混入、10YR5/6 ブロック状に混入	
					2層	10YR3/2 黒褐色	シルト	炭化物粒子若干混入	
					3層	10YR3/2 黒褐色	シルト	2.5Y4/2 ブロック状に混入	
性火	P-2	円形	80×90	-19.7	1層	10YR2/2 黒褐色	シルト	10YR5/6 ブロック状に混入、炭化物粒子混入	
					2層	10YR3/2 増褐色	シルト	若干砂質	
	P-3	円形	64×70	-60.4	1層	10YR2/2 黒褐色	シルト	10YR5/6 ブロック状に混入、炭化物粒子を若干混入	
					2層	10YR2/2 黃褐色 10YR5/6 ブロック層	シルト		

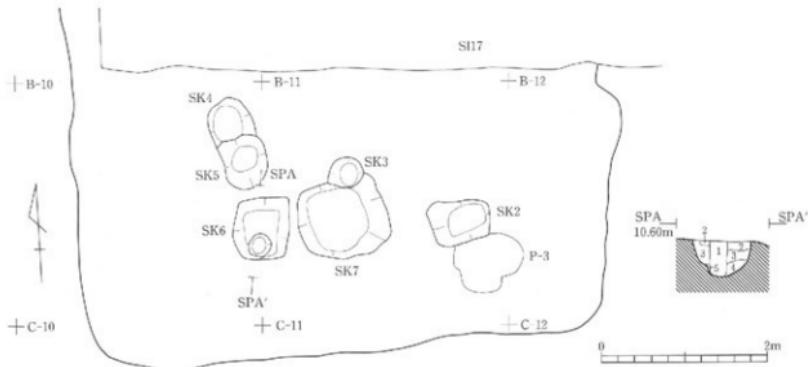
第69図 SI17 床面検出遺構平面図・断面図(新段階)



第70図 SI17 焙土遺構平面図・断面図

SI17 床面検出遺構観察表(第70回)

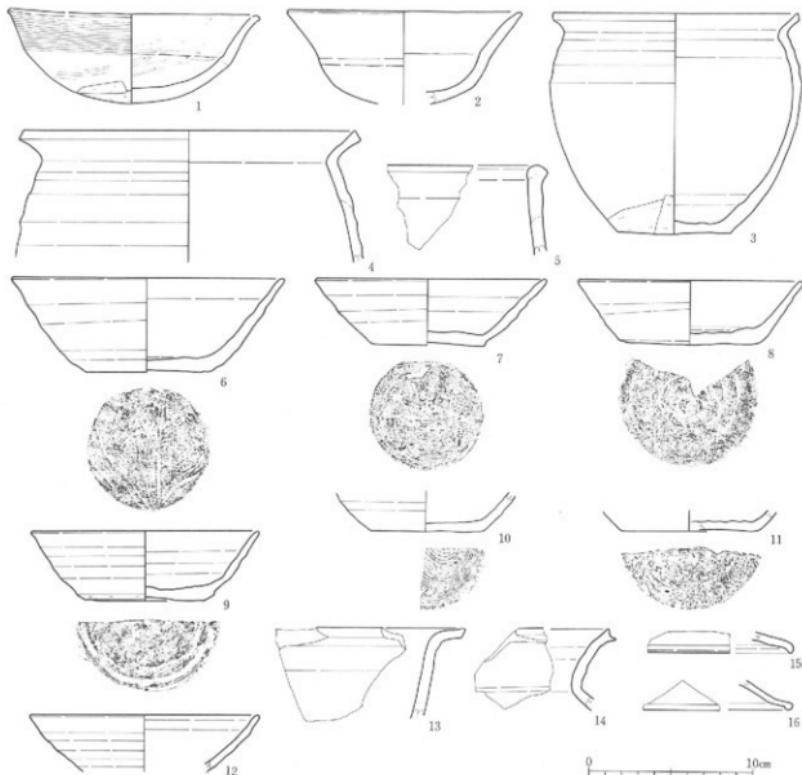
遺構名	平面形	規模(cm)	深さ(cm)	層位	土色	土性	備考
柱跡	焼土 1 不整形	56×76	-7.2	1層	5YR3/3 暗赤褐色	シルト	焼土層、炭化物混入
				2層	10YR3/3 暗褐色	シルト	焼土粒・炭化物粒混入
				3層	2.5Y4/4 オリーブ褐色	シルト	
焼土 2	不整形	30×34	-4.5	1層	7.5Y2/3 棕褐色	シルト	焼土ブロック状に混入
				2層	10YR2/2 黒褐色	シルト	10YR6/6 ブロック状に混入
焼土 4	橢円形	58×42	-18.6		7.5Y2/2 黑褐色	シルト	焼土ブロック状に混入
焼土 5	不整形	104×60	-15.0	1層	7.5Y2/2 黑褐色	シルト	焼土ブロック状に混入、炭化物混入
土坑	SK1 P-4	84×74 92×90	-12.4 -51.2	1層	10YR3/1 黑褐色	シルト	SI17 とは別遺構か
				2層	2.5Y3/2 黑褐色	シルト	5Y7/1 ブロック状に混入、炭化物粒子混入
				3層	10YR4/2 黄褐色	シルト	10YR5/4 塊状に混入、炭化物粒子混入
				4層	10YR3/2 黑褐色	シルト	10YR5/4 塊状に混入、炭化物粒子混入
				5層	2.5Y7/4 浅黄色	粘土	下面に箇所器片
					2.5Y3/2 黑褐色	粘シルト	炭化物粒子若干混入



SI17 掘り方検出遺構(古層段)観察表

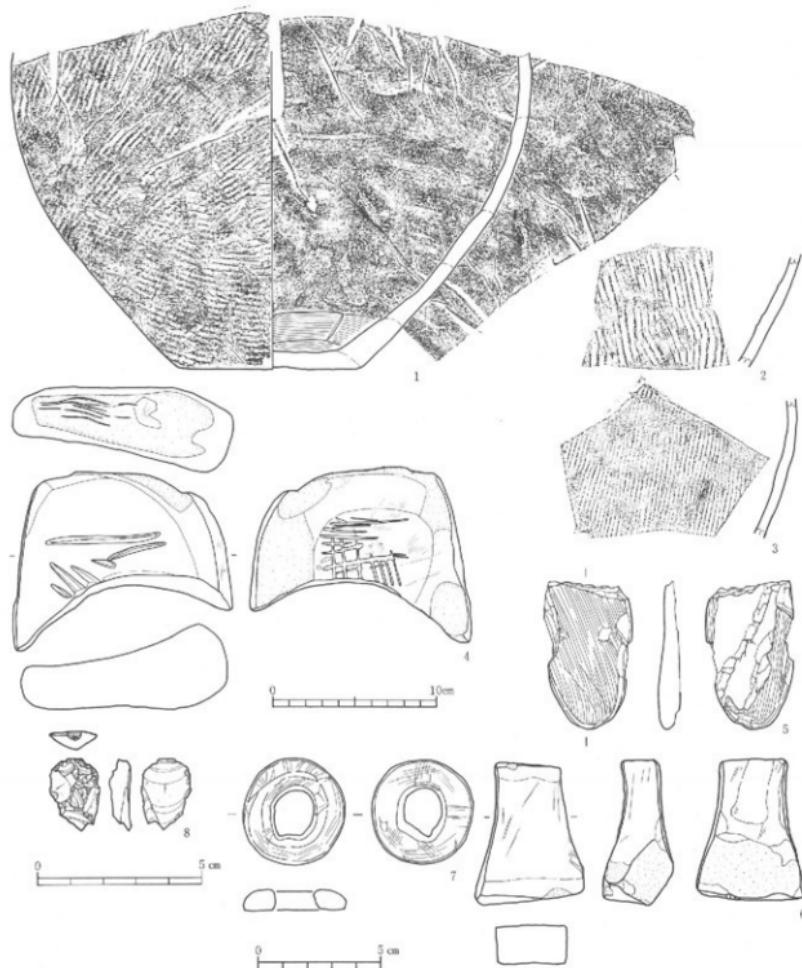
遺構名	平面形	規模(cm)	深さ(cm)	層位	土色	土性	備考	
柱穴	SK2 不整形	70×60	-43	1層	10YR3/3 暗褐色	シルト	焼土・炭化物混入	
				1層	10YR2/1 黑褐色	シルト	焼土・炭化物混入	
				2層	7.5YR2/3 棕褐色	シルト	焼土混入、10YR6/4 ブロック状に混入	
土坑	SK4 椭丸方形	54×(48)	-17.4	1層	10YR3/2 黑褐色	シルト	焼土・炭化物混入	
				1層	10YR3/1 黑褐色	シルト	10YR6/6 とのブロック層	
柱穴	SK6 方形	68×74	-56.1	1層	10YR3/2 黑褐色	シルト	炭化物粒子混入、下部に焼土粒若干混入	
				2層	10YR3/2 黑褐色	シルト	10YR6/4 塊状に混入	
				3層	10YR3/2 黑褐色	シルト	10YR6/4・10YR5/3 ブロック状に混入	
				4層	10YR3/2 黑褐色	シルト	10YR5/3 砂がブロック状に混入	
				5層	10YR6/6 明黄褐色	粘シルト		
土坑	SK7	方形	84×86	-14.8	1層	10YR3/1 黑褐色	シルト	10YR6/6・10YR5/3 砂ブロック状に混入

第71図 SI17 掘り方検出遺構平面図・断面図(古層階)



番号	地区・層位	種別	器幅 口徑cm	底径cm	器高cm	残存	外 面	内 面	備考	登録 写真
1	SK1	土師器	坪	15.3	5.5	1/2	(口) メラミガキ、ヘラケヅリ	ヘラミガキ	C527	79-5
2	SK1	土師器	坪	(14.4)		1/4	(口) ヘラミガキ		C528	
3	P 3	土師器	甕	(15.0)	13.6 (13.7)	(13.7)	(全体) メラミガキ (底) ナグ	ロクロナデ	D28	79-6
4	P 3	土師器	甕	(20.2)		1/4	ロクロナデ	ロクロナデ		D13
5	床底	土師器	甕				ロクロナデ	ロクロナデ		D 3
6	P 1	須恵器	坪	(16.5)	7.7	5.8 (5.7)	ロクロナデ (底) 切り離し後半もヘラケヅリ	ロクロナデ	E 1	80-1
7	P 2	須恵器	坪	(14.1)	7.0	4.2 2/3	(口) メラミガキ +ナグ	ロクロナデ	E 3	80-2
8	P 3	須恵器	坪	13.7	8.6	4.0 3/4	ロクロナデ (底) ヘラ切り	ロクロナデ	E 4	80-3
9	埋土+割り方	須恵器	坪	(13.9)	(7.2)	4.3 1/4	ロクロナデ (底) 切り離し底凹凸ケヅリ	ロクロナデ	E31	
10	床底	須恵器	坪		(6.8)	1/4	ロクロナデ (底) 切り離し切口ナグ	ロクロナデ	E14	
11	埋土+割り方	須恵器	坪		(8.4)	1/3	ロクロナデ (底) 切り離し底凹凸ケヅリ	ロクロナデ	E32	
12	埋土中層	須恵器	坪	(14.0)		1/4	ロクロナデ	ロクロナデ	E20	
13	P 4	須恵器	甕				タタキ→ロクロナデ	ロクロナデ	E 5	
14	P 2	須恵器	甕				ロクロナデ	ロクロナデ	E 7	
15	P 1, 2, 3	須恵器	盤				ロクロナデ	ロクロナデ	E 6	
16	割り方	須恵器	盤				ロクロナデ	ロクロナデ	E28	

第72図 SI17 竪穴住居出土遺物（1）



番号	地区・層位	種別	器種	口径cm	底径cm	高さcm	現存	外 面	内 面	備考	登録 写真
1	P2+P5	消磨器	擦			11	(2)	平行タタキ、ヘラタツリ・平行タタキ (既)西路・カクスリ、中央ナメ	アメ・ナメ・ヘラタツリ(既)ナメ (既)色・いたて形)	E57	80-4
2	堆土中層	消磨器	擦					平行タタキ	アメ(無文)		E25
3	掘り方	削刃器	擦					平行タタキ	アメメ・ナメ		E26
番号	地区・層位	種別	器種	長さmm	幅mm	厚さmm	重さg	特 徴		登録 写真	
4		擦石器	擦石	95	135	50.9	370.6			Kd309	82-12
5		擦石器	擦石	59.5	35.3	8.4	24.4			Kd84	82-13
6	灰岩土状	擦石器	擦石	57.5	44	25	68.5			Kd81	82-14
7	床底	石製品		43.1	42.2	8.1	22.3			Kd82	83-10
8		剥片石器	不定形石器	21.6	15.0	6.2	1.7	黒曜石		Ka57	88-8

第73図 SI17 積穴住居跡出土遺物（2）



番号	地区・層位	種別	器種	長さcm	幅cm	厚さcm	重さg	特徴	登録	写真
1	ビット 1	鉄製品	針	72	15	8	19.2		N10	84-8
2		鉄製品	刀子 (26)	9	2	2.4		片端欠損	N12	84-9
3		鉄製品	鎌?		2.5	2.9			N11	84-10

第74図 SI17 積穴住居跡出土遺物（3）

cmのピットがある。

【周溝】周溝は検出されなかった。

【床面施設】新規の住居跡に伴う遺構としては、柱穴（P-1・3）・ビット・焼土遺構（焼土1・2）・テラス状の段差などがある。P-4は粘土溜と考えられる遺構で不整円形を呈し、規模は110×90cm、深さ45cmを計る。埋土下層に厚さ10cm程の粘土層があり、その下から粘土の受皿か捏ね鉢として転用されたものと考えられる須恵器底の破片が出土している。

古期の住居跡に伴う遺構としては、柱穴（SK2・6）・土坑（SK3・4・5・7）・焼土遺構（焼土3～5）などがある。

【出土遺物】堆積土・床面・土坑・掘り方より土師器（非ロクロ・ロクロ）・須恵器・碌石器・石製品・鉄製品・石製模造品・剝片石器が出土している。床面からはロクロ使用の土師器が出土している。須恵器は底部切り離し後に再調整が施されたものがある。須恵器蓋はカエリのないものである。第73図1の須恵器蓋は、内面の当て目的一部分に繩目が見られる（写真80-4）。第73図8は黒曜石の剝片石器である。上部に先端部を作り出そうとした可能性がある。

遺構の時期は、ロクロ使用の土師器が存在することから平安時代と考えられる。また、須恵器底の切り離しがへラ切りと糸切りが共存し、切り離し後の再調整があることから、平安時代でも前半期と考えられる。

SK1 土坑については若干ロクロ土師器が混入しているが、第72図1・2の壺の特徴より古墳時代後期の遺構の可能性がある。床面掘り方の調査中に検出されていることから住居とは別の遺構で、SI18に伴う遺構の可能性を考えられる。

②掘立柱建物跡（第75・76図）

SBO1

II区西（B・C-4）に位置している。SK 1・3・4・5・6・7・10・11・14・15によって構成される。北西角の柱穴1基をSD02によって切られている。桁行3間、梁行2間の南北棟建物跡である。建物の方向は東辺でN-7°-Wである。

桁行は、北側柱列では総長150cm以上（柱間寸法150cm）、南側柱列では総長300cm（柱間寸法150cm）を計る。梁行は、東側柱列では総長390cm（柱間寸法130cm）、西側柱列では総長250cm以上（柱間寸法120～130cm、平均125cm）を計る。

柱穴はほとんどが70×70cmの方形を基調としている。底面に径20cm程の柱痕跡の認められたものもある。確認面からの深さは20～40cmと幅がある。

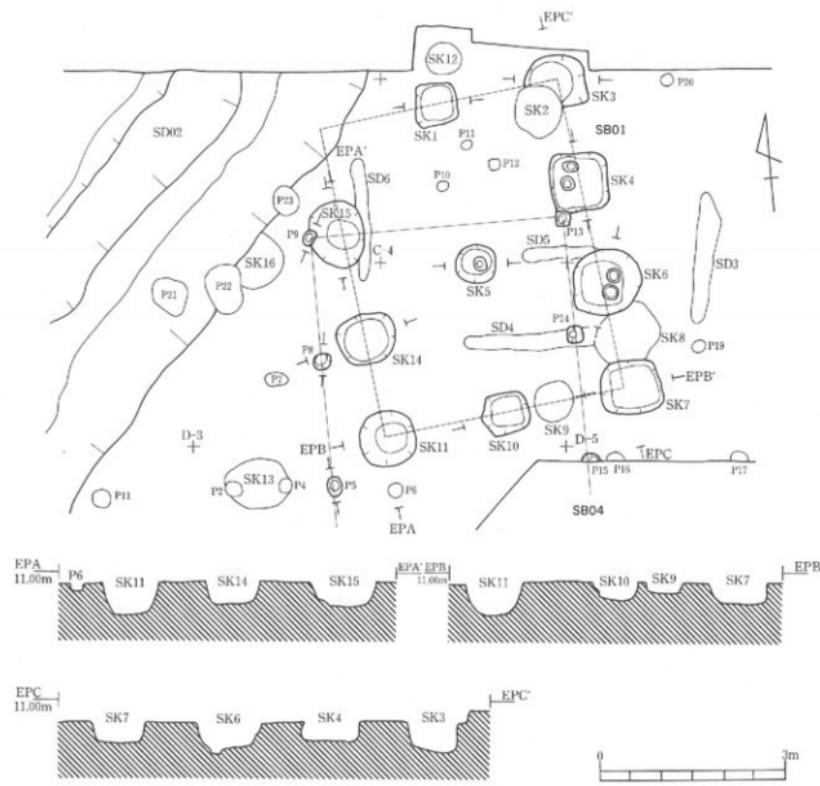
SBO4

II区西（B・C-4）に位置している。P-5・8・9・13・14・15で構成される。桁行3間以上、梁行1間の南北棟建物跡で、さらに南に延びる可能性が考えられる。建物の方向は東辺でN-1°-Wで、ほぼ真北方向を向いて

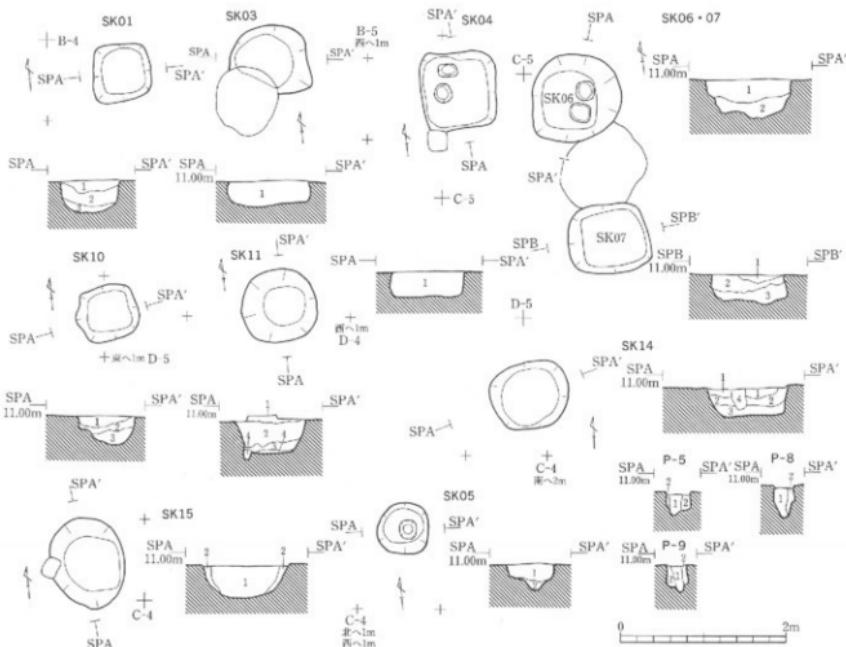
いる。

桁行は、北側柱列では総長（柱間寸法）310cmを計る。梁行は、東側柱列では総長300cm以上（柱間寸法150cm）、西側柱列では総長310cm以上（柱間寸法150cm）を計る。

柱穴はほとんどが20cmの隅丸方形を基調としている。確認面からの深さは20~40cmと幅がある。P-5・8・9には断面に柱痕跡がみられた。



第75図 SB01・04 建物跡平面図・断面図



SB01 墓土跡記表

SK01

層位	土色	土性	備考
1層	10YR3/2 黒褐色	シルト	細小颗粒若干混入
2層	10YR3/2 黑褐色	砂質シルト	10YR3/2に近い黄褐色土とのブロック層。炭化物粒子混入
3層	10YR3/2 黑褐色	砂質シルト	10YR3/4に近い黄褐色土とのブロック層

SK03

層位	土色	土性	備考
1層	10YR3/2 黑褐色	シルト	10YR3/4に近い黄褐色土とのブロック層。炭化物粒子混入

SK04

層位	土色	土性	備考
1層	10YR3/2 黑褐色	シルト	10YR3/4に近い黄褐色土とのブロック層。炭化物粒子若干混入

SK06

層位	土色	土性	備考
1層	10YR3/2 黑褐色	シルト	2.5Y5/4 黄褐色土とのブロック層

SK07

層位	土色	土性	備考
1層	10YR3/2 黑褐色	シルト	10YR4/4 黄褐色土とのブロック層。炭化物粒子若干混入

SK10

層位	土色	土性	備考
1層	10YR3/2 黑褐色	シルト	
2層	10YR3/2 黑褐色	シルト	10YR4/4 に近い黄褐色土とのブロック層
3層	10YR3/2 黑褐色	シルト	10YR3/4 に近い黄褐色土層状に混入。炭化物粒子若干混入

SK11

層位	土色	土性	備考
1層	10YR3/2 黒褐色	シルト	
2層	10YR3/2 深黒褐色	シルト	10YR3/2 黑褐色土とのブロック層
3層	10YR3/2 黑褐色	シルト	2.5Y5/4 黄褐色土とのブロック層
4層	10YR3/2 黑褐色	シルト	2.5Y5/4 黄褐色土層状に混入

SK14

層位	土色	土性	備考
1層	10YR3/2 深黒褐色	シルト	2.5Y5/4 黄褐色土とのブロック層
2層	10YR3/2 深黒褐色	シルト	10YR4/2 深黒褐色土とのブロック層
3層	10YR3/2 黑褐色	シルト	2.5Y5/4 黄褐色土とのブロック層
4層	10YR3/2 黑褐色	シルト	2.5Y5/4 黄褐色土層状に混入

SK15

層位	土色	土性	備考
1層	10YR3/2 深黒褐色	シルト	炭化物、熟土、板状に混入

SK05

層位	土色	土性	備考
1層	10YR3/2 深黒褐色	シルト	10YR4/2 深黒褐色土が混入。炭化物粒子若干混入

SK06

層位	土色	土性	備考
2層	10YR3/2 深黒褐色	シルト	砂子砂質

SK07

P-5・8・9の粗土部は角材表面層のこと。			
-----------------------	--	--	--

第76図 SB01・04 建物跡平面図・断面図

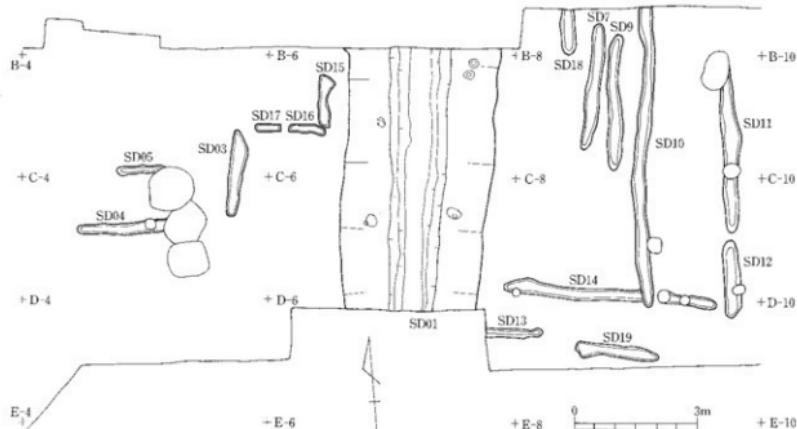
③小溝状遺構群 (第77図・第7表)

小溝状遺構群はII区で検出され、全体の方向と切り合いで2時期の変遷が考えられる。天地返しと畑の耕作によりかなり削平を受けており、特に西側の遺存状況はよくない。東西約16mの範囲で検出されているが、さらに南北に広がっているものと考えられる。

小溝状遺構群(新) 南北方向に走る細長い溝が7条検出された。方向はおおむね N-5°~10°-E である。これらの小溝の長さは多様で、長さ1.5~7m、幅約30cm、深さ6~15cmを計る。埋土はSD09以外は単層であった。

小溝状遺構群(古) 東西方向に走る細長い溝が6条検出された。方向はおおむね N-80°-E である。これらの小溝の長さは多様で、長さ1.5~5m、幅約20~30cm、深さ3~10cmを計る。埋土はすべて単層であった。

小溝状遺構の時期については出土遺物も少なくはっきりしないが、遺構の切り合いでSB01よりは古いものであろう。



第77図 小溝状遺構群平面図

遺構名	位置	長軸×短軸(cm)	深さ(cm)	方向	切合関係	埋土色	土性	しまり	粘性	噴 考
SD03	B-C-5	210×36	1.5~7.2	N-8°-E	P22, P23に切られている	10YR3/3 嫡褐色	シルト	良	低	炭化物粒子混入、遺物有り
SD04	C-4+5	210×25	0.6~8.2	N-86°-W	SK08に切られている	10YR3/4 嫡褐色	シルト	良	低	遺物有り
SD05	B-4+5	115×20	5.7~9	N-8°-W	SK06に切られている	10YR4/4 嫡色	シルト	良	低	炭化物粒子混入、遺物有り
SD06	B-3	200×20	8.7~9.6	N-0°-E	SK15に切られている	10YR4/6 嫡色	シルト	良	低	遺物有り
SD07	A+B-8	369×35	18.6~22.7	N-14°-E		10YR3/3 嫡褐色	シルト	良	低	遺物有り
SD09	A+B-8	329×36	6.8~19.6	N-7°-E	堆1層	10YR3/2 嫡褐色	シルト	良	低	遺物有り
SD09					堆2層	10YR3/3 嫡褐色	シルト	良	低	遺物有り
SD10	A-D-9	×25	9.5~14.8	N-10°-E		10YR3/3 嫡褐色	シルト	良	低	遺物有り
SD11	B-C-9	(400)×40	4~7.5	N-1°-E		10YR3/2 黒褐色	シルト	良	低	遺物有り
SD12	C-D-9	190×40	9.1~20.1	N-4°-E		10YR4/4 嫡色	シルト	良	低	炭化物粒子混入、遺物有り
SD13	D-7+8	(140)×22	5~14.9	N-85°-W	SD01に切られている	10YR3/3 嫡褐色	シルト	良	低	
SD14	C-D-7~9	514×36	1.2×6.2	N-79°-W	SD10に切られている	10YR3/3 嫡褐色	シルト	良	低	
SD15	B-6	125×30	1.6~8.6	N-5°-E	SD05を切る	10YR2/2 黒褐色	シルト	良	低	
SD16	H-6	86×20	2.5~5.9	N-80°-W	SD05を切る	10YR2/2 黒褐色	シルト	良	低	
SD17	B-5+6	58×17	1.7~7.9	N-85°-W	SD05を切る	10YR2/2 黒褐色	シルト	良	低	
SD18	A-8	(120)×25	9.9~16.2	N-35°-E		10YR3/2 嫡褐色	シルト	良	低	遺物有り
SD19	D-8+9	204×25	1.6~2.8	N-77°-W						

第7表 小溝状遺構集計表

(3) 中世～近世

①屋敷跡（第78図）

SD01によって西辺を区画され、SB02・03で構成される。このSD01は、南側隣接地の第17次調査で検出された、屋敷跡E・Fの西辺を区画するSD11(→06)と規模や方向等がほぼ一致し、同じ遺構と考えられる。この屋敷跡については後述のように、第17次調査での東辺南部の調査から、区画溝の変遷が確認されている。一辺半町規模（約55m）の方形で屋敷地を区画している溝と考えられるが、新期のSD06段階で南北規模が拡大している可能性が考えられる。屋敷として機能していた時期については、第17次調査の成果と合わせて屋敷跡Eは13世紀中頃～14世紀前半が考えられ、屋敷跡Fについては16世紀前半と考えられる。今回確認された遺構については、溝の出土遺物や重複して検出されている墓壙群との切り合い関係などから、屋敷跡F段階のものと考えられる。

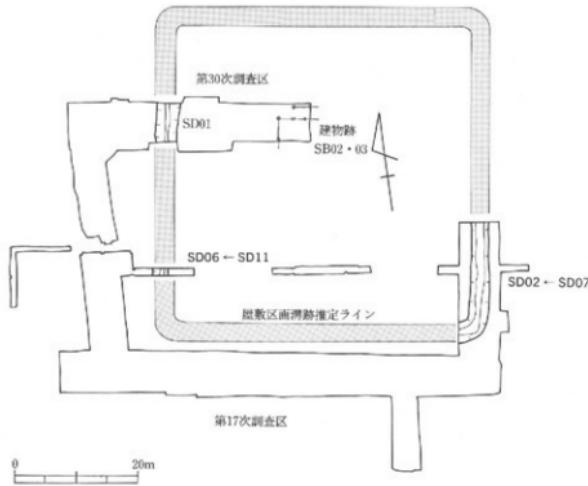
②区画溝跡（SD01）（第78・79・82図）

II区（B・C-6・7）に位置している。規模は上幅350～380cm、底面40～50cm、深さ125～140cmである。底面は南に向かってわずかに傾斜している。断面形は逆台形状を呈している。方向は西辺でN-7°-Eである。埋土中には酸化鉄を多く含み、底面に鉄分の集積層が認められた。断面図の検討から、底面レベルに達する改修をうけた可能性があることから、前述のSD11→06と同様の変遷が考えられる。

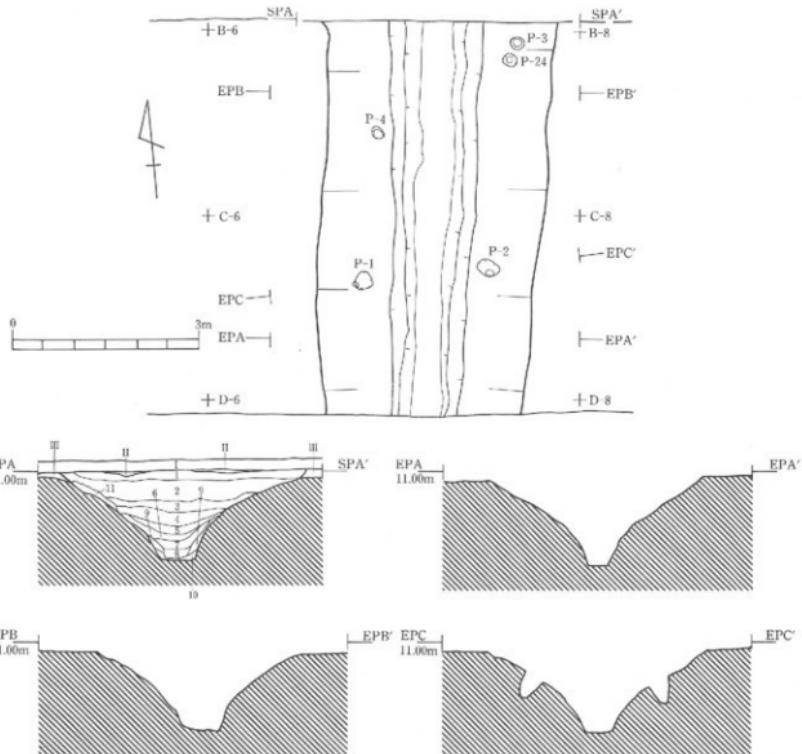
堆積土より陶器・瓦・土師器・石臼・礫石器・金属製品・石製品・弥生土器などが出土している。溝の年代については、埋土中層から16世紀頃の瓦質土器風炉（第80図1）が出土していることから、この時期に改修を受けたことが考えられる。また、2・3は13世紀後半から14世紀前半頃と考えられる在地の陶器鉢で、前段階の溝を掘込んだためと考えられる。4はとりべと考えられる小片で、内面が強い熱により溶融している。

③掘立柱建物跡（SB02・03）（第81図）

I区（B・C-13・14）に位置している。P-121・112・99・SK27で構成されるSB02と、P-114・125で構成されるSB03にわけているが、北側に縁もしくは張り出しをもつ建物跡を考えることもできる。調査区の北・南・東方



第78図 屋敷区画溝跡第30・17次調査区合成図



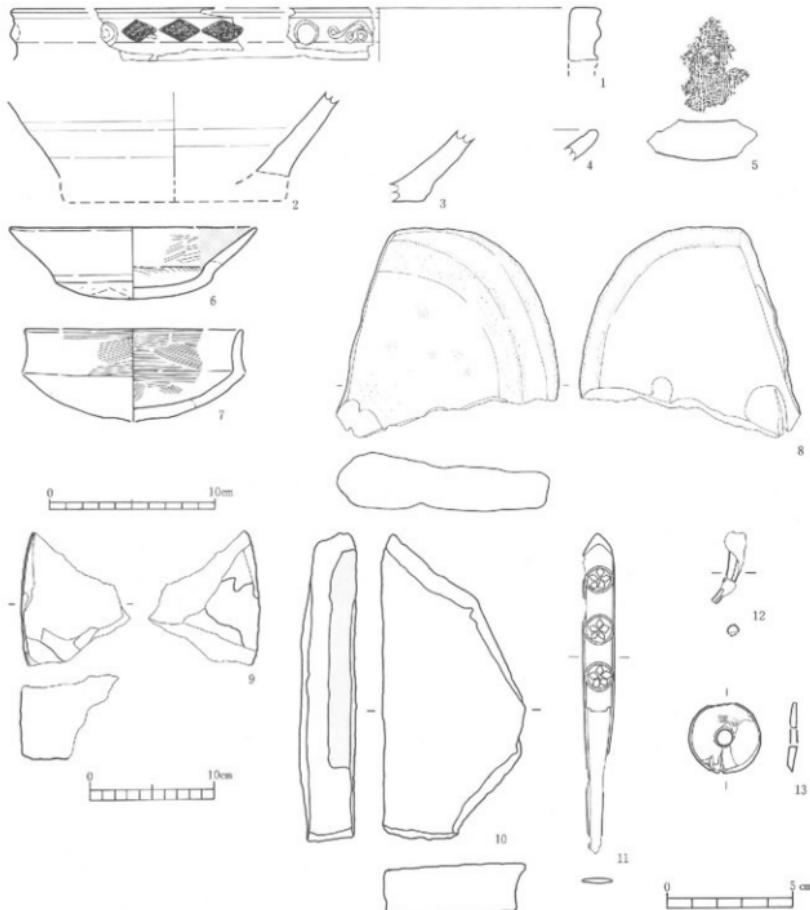
SD01 埋土柱記表

層位	土 色	土 性	備 考
1層	10YR3/2 黒褐色	シルト	10YR5/4 にぼい黒褐色を斑状に混入
2層	10YR2/2 黒褐色	シルト	10YR5/4 にぼい黒褐色を斑状に混入
3層	10YR3/2 黒褐色	シルト	2.5Y7/4 淡黄色鐵斑がブロック状に混入
4層	10YR3/1 黒褐色	粘質シルト	10YR4/1 黑灰色をブロック状に混入
5層	10YR4/1 黑灰色	粘質シルト	酸化鉄斑混入
6層	2.5Y4/1 黄灰色	粘質シルト	2.5Y7/2 灰黄色粘土質シルトをブロック状に混入
7層	10YR5/1 黑灰色	粘質シルト	酸化鉄斑混入
8層	2.5Y5/1 黄灰色	粘質シルト	酸化鉄斑混入
9層	2.5Y7/4 淡黄色	粘質シルト	酸化鉄斑混入、10YR5/1 黑灰色をブロック状に混入
10層	2.5Y5/1 黄灰色	粘質シルト	2.5Y7/4 にぼい黄橙色をブロック状に混入
11層	2.5Y5/4 黄褐色	砂質シルト	

壁面検出ピット埋土柱記表

ピットNo	土 色	土 性	備 考
P- 1	10YR3/2 黒褐色	シルト	炭化物粒子混入
P- 2	10YR3/2 黒褐色	シルト	炭化物粒混入
P- 3	10YR3/2 黒褐色	シルト	10YR3/1 黒褐色を斑状に混入
P- 4	7.5YR4/2 灰褐色	シルト	炭化物粒子、燒土粒混入

第79図 SD01 層敷区画溝跡平面図・断面図



番号	地区・層位	種別	胎種	Dia(mm)	測定値	測定値	測定値	残存	外 面	内 面	備考	想 定	写真
1	3層	瓦瓦上層	陶器						ロクロナデ		Kd3A	R1-7	
2	瓦上層-下層	陶器	鉢						ロクロナデ-ナデ、マメツ 5YS/1 深色		I 11	R1-8	
3	2層	陶器	鉢						マツメ 7.5YS/2 深褐色		在地	I 4	R1-9
4	1層		どう?						断続している		I 48	R1-II	
5		平瓦							丸目		II 1	R1-11	
6	土器器	牙	15.1	4.4	80%	(15) ハラケズリ			ヘラ1ガタ、黒色處理		C7B3	79-4	
7	被下層	土器器	牙	(13.3)	(5.7)	1/8	(17) ナデ (6) ハラケズリ		ナデ		C7D5		

番号	地区・層位	種別	胎種	測定値	測定値	測定値	特 徴	写真				
8	1層	礫石胎	石頭	122	131	34.9	556.3			Kd313	R2-16	
9	4層	礫石胎	石臼	42		7.1	419.2			Kd315	R2-17	
10		礫石胎	船石	133.5	58	20.5	218.6			Kd316	R2-18	
11	堆土上層	洞洞系	牙	132	6-13	1-1.6	12.6	格櫛文、魚子		N67	84-31	
12	2層	鉄製胎	釘	(30)	4.5	4	1.7	両端欠損		N22	84-15	
13	3層	石頭胎		29.2	28.7	3.0	2.7			Kd183	R2-13	

第80図 SD01 屋敷区画溝跡出土遺物

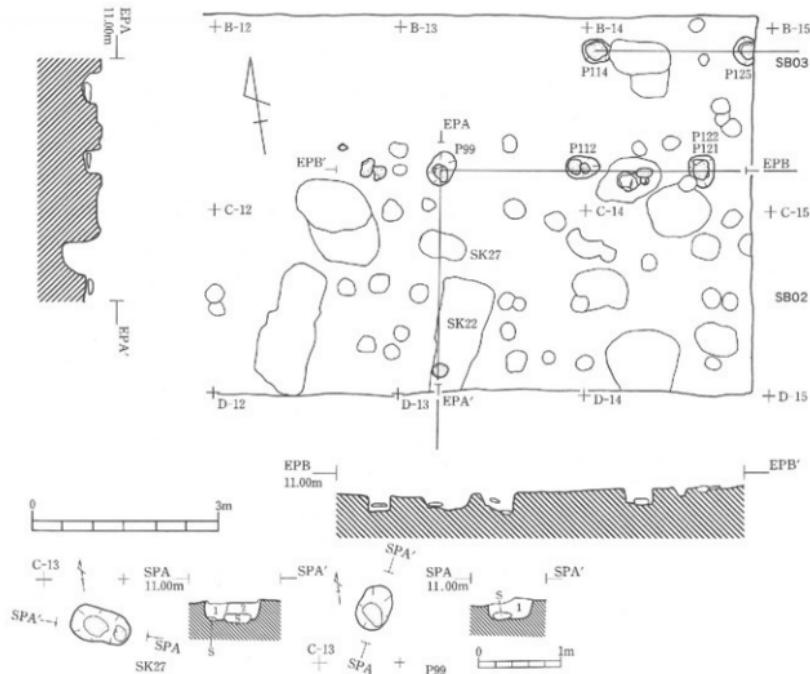
向に延びており、全体の規模は不明である。この建物跡は、屋敷地内の推定中軸線上の中央部北寄りに位置しており、柱穴に根石が入れられた大規模な建物と考えられることから、この屋敷の中軸的な建物と考えられる。

SBO2 枝行2間以上、梁行1間以上の東西棟建物跡である。建物の方向は西辺でN-6°-Eである。枝行は、北側柱列で總長320cm以上(柱間寸法150~170cm)を計る。梁行は、西側柱列では總長(柱間寸法)245cm以上を計る。柱穴は、ほとんどが40×30cmの楕円形を基調としている。底面には20~30cm大の石が根石として入れられている。確認面からの深さは20~30cmと幅がある。

SBO3 柱列で全体の規模や構造は不明であるが、柱間寸法は185cmを計る。柱穴は、径35cmの円形を基調としている。底面には20~30cm大の石が根石として入れられている。確認面からの深さは25~30cmである。

(c)30次調査区周辺の中世の屋敷跡・館跡の変遷について（第82図）

30次調査区の周辺では、これまでの調査によって中世の屋敷跡・館跡の変遷がとらえられてきている。特に第16次調査区では、大規模な堀と土塁を伴う城館跡や、その北側の第25・26次調査区とあわせて、その前段階と考えられる屋敷跡が発見され、屋敷から城館への変遷過程がとらえられている。



第81図 SB02・03 建物跡平面図・断面図

造耕名	層番	土 色	土 性	備 考
SK27	1層	10YR3/2 黒褐色	シルト	炭化物混入
	2層	10YR3/2 黒褐色	シルト	10YR6/4に似る、黒褐色土とのブロック層
P-99	1層	10YR3/2 黒褐色	シルト	10YR4/6 黒色土ブロック状に混入

第16・25・26次調査……屋敷跡A・Bおよび城館跡

屋敷跡Aは、幅2.5m、深さ1.2mの溝によりやや歪んだ方形に区画される。屋敷の規模はほぼ半町規模で、東辺の軸線はほぼ真北方向である。溝南辺と東辺に入り口施設をもっている。区画内のほぼ中央に、4×8間の東西棟の建物跡がある。三方に縁もしくは廻が、北辺に張り出しを持つ建物で、この屋敷の主屋と考えられる。

屋敷跡Bは、北辺を60m前後の溝で区画された屋敷跡で、13世紀中頃～14世紀前半にかけて2時期の変遷がある。14世紀前葉の新規段階で、柵・矢倉とみられる施設が造られ、溝を上幅9m、深さ1.5m以上へと拡張するなど防御性の増大がみられる。屋敷跡AとBは隣接しており、並立していた可能性も考えられることから、屋敷として一体となって機能していたことも考えられる。

城館跡は、幅14～15mの外堀と土塁で区画され、東西76m以上の大規模なものである。北辺の一部の調査であり城館の内部構造ははっきりしないが、時期的には14世紀後半～15世紀前半と考えられている。

第17次調査……屋敷跡C～F

屋敷跡Cは区画溝を伴わらず、建物跡と井戸跡・土坑で構成される。時期的には12世紀後半～13世紀初頭が考えられている。屋敷跡Dは溝で区画され、屋敷造営時に屋敷跡Cを埋め立てている。主要な遺構は不明だが、時期的には13世紀前半頃が考えられている。

屋敷跡Eは一辺半町規模の溝（SD07・11）で区画され、屋敷跡Dとほぼ重複する位置にある（第78図）。時期的には13世紀中頃～14世紀前半と考えられる。屋敷跡Fは屋敷跡Eの溝を改修し、ほぼ重複する位置にある。一辺半町規模の溝（SD02・06）で区画されているが、南北規模は拡大している可能性がある（第78図）。溝底面に陥れ穴や溝に沿った柵が造られるなど防御性が付与された屋敷（館）跡であるが土塁は確認されていない。時期的には16世紀前半頃と考えられている。

なお、南小泉遺跡における中世の屋敷跡・館跡の変遷については、南小泉遺跡第16～18次調査報告書（佐藤：1990）、南小泉遺跡第26次調査報告書（五十嵐：1998）に詳しい記述があるのでそれらを参照されたい。



第82図 30次調査区周辺で確認された中世屋敷跡

② 墓 壇（第83～85図）

墓壇は6基検出されたが、規模や主軸方向、出土遺物などの検討から、比較的小型で、主軸が東西方向を基調とする墓壇群Aと、大型で、主軸が南北方向を基調とする墓壇群Bに分けられる（第83図）。SK17・19・24・26から骨片もしくは齒が出土している。SK17に火葬骨が埋葬された可能性がある以外は土葬墓とみられる。

屋敷跡との関係では、SK24をSB03を構成するP-114が切っており、後述する階段付地下式坑としたSK22がSB02を構成するピットを切っている。時期的には、SK17・28から13世紀後半～14世紀の遺物が出土していることと、SK19から無文銭を含む六道銭が出土していることから、屋敷跡E廃絶後の14世紀段階と、屋敷跡F廃絶後の16世紀段階に作られたものと考えられる。

墓壇群A…屋敷跡E廃絶後

【SK17土坑】B-9に位置している。平面形は隅丸方形を呈し、長軸98cm、短軸60cm、深さ77cmを計る。断面形は細いU字形を呈している。主軸方向はN-25°-Eである。埋土は5層に分けられ、焼土ブロックを含む厚い炭の集積層（埋4層）が検出された。この層中から焼けた骨片と青磁碗が出土している。壁面や底面に焼け面は認められないことなどから、火葬墓というよりは、別の場所で焼かれたのちに埋められたことが考えられる。遺物としては、青磁碗が出土している（第85図2）。底部のみ残存し、高台にそって打欠かれている。龍泉窯系の製品で蓮弁文碗と考えられ、13世紀後半～14世紀前半のものと考えられる。

【SK24土坑】B-14に位置している。平面形は隅丸方形を呈し、長軸95cm、短軸63cm、深さ50cmを計る。主軸方向はN-80°-Eである。埋土は3層に分けられた。断面形は箱形を呈している。底面上10cmの埋3層の上面に、炭の薄い集積と15cm角の平坦な石が検出された。古銭の細片が出土している（銭種不明）。

【SK26土坑】C-14に位置している。平面形は不整梢円形を呈し、長軸105cm、短軸90cm、深さ50cmを計る。主軸方向はN-90°-Wである。埋土は3層に分けられた。断面形は舟底形を呈している。南壁側から齒が出土している。

【SK28土坑】C-12に位置している。平面形は梢円形を呈し、長軸116cm、短軸105cm、深さ114cmを計る。主軸方向はN-80°-Wである。埋土は3層に分けられた。断面形は逆台形を呈している。

底面上約10cmのところで、14世紀後半のものと考えられる完形の土師質土器壺が出土している（第85図1）。見込みはナデ調整されており、外底面には糸切り後の板目状圧痕がみられる。

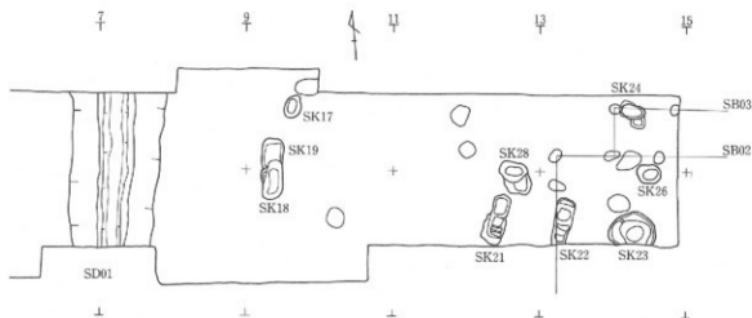
墓壇群B…屋敷跡F廃絶後

【SK18】C-9に位置し、SK19を切っている。平面形は長梢円形を呈し、長軸163cm、短軸90cm、深さ80cmを計る。主軸方向はN-5°-Eである。埋土は単層である。断面形は舟底形を呈している。遺物は出土していない。

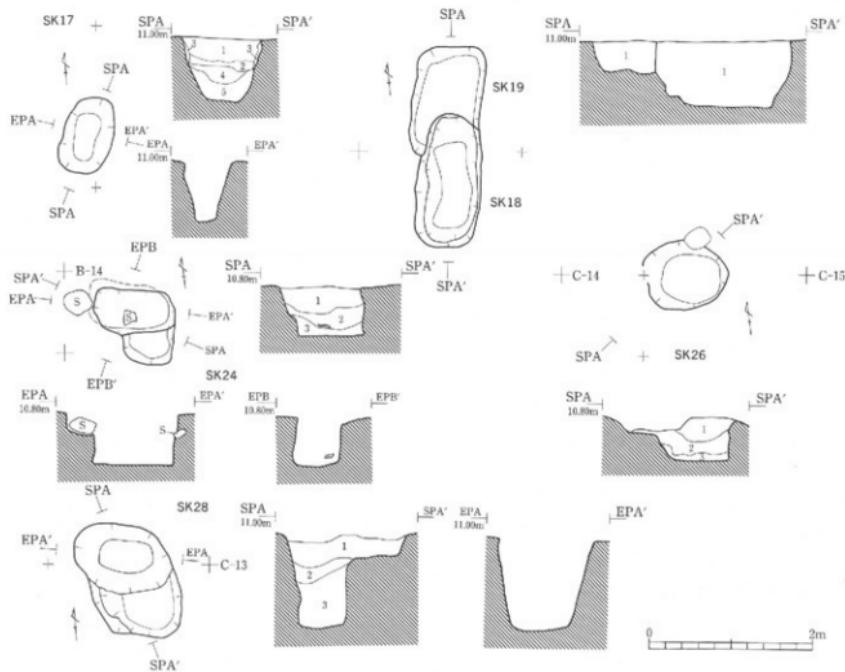
【SK19土坑】C-9に位置し、SK18に切られている。平面形は隅丸方形を呈し、長軸を推定140cm、短軸90cm、深さ80cmを計る。主軸方向はN-10°-Eである。埋土は単層である。断面形は舟底形を呈している。底面のやや北よりから古銭が重なった状態で出土している。銭を包んでいたと考えられる布のようなものの痕跡が認められた（写真54）。古銭は無文銭（飽銭）1枚を含み全部で6枚あり、いわゆる六道銭と考えられる（第85図3～8）。無文銭以外は渡来銭であり、いずれも北宋銭で、このうち最も新しいものは「政和通宝」で、初鋳年は1111年である。

③ 階段付地下式坑（第86図）

平面が長方形で、斜行して底面にいたる階段状の施設をもつ土坑2基を検出した。これに類似する遺構としては、第11次調査で土倉跡として報告された遺構2基がある（第86図上）。この遺構は、16～17世紀前半の屋敷地内部の遺構で、屋敷区画溝に沿った位置に1mの間隔で並列して検出された。階段を伴っている点では同じであるが、床面積や床面に柱穴をもつ点などに大きな違いがみられる。



第83図 墓壙・階段付地下式坑配置図

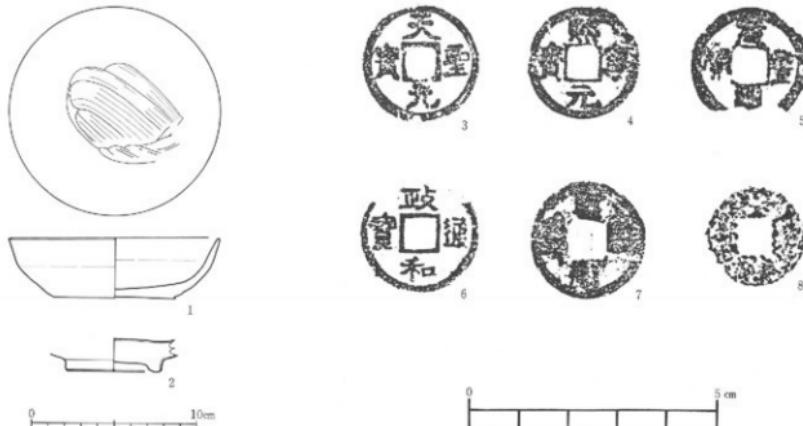


第84図 墓壙平面図・断面図

これまで報告されている中世以後の遺構とされている土倉跡や、半地下式の貯蔵施設とも異なり、明確な階段をもっていることから、関東地方に類例のみられる「階段付地下式坑」の名称を用いることとした。

【SK21 土坑】 C-12 に位置している。平面形は長方形を呈し、長軸210cm、短軸70cm、深さ110cmを計る。開口部は南を向いており、主軸方向は N-17°-E である。

天井部は確認されず、埋土に天井部の崩落を示すような痕跡は認められなかった。確認面から地下室に向かって、幅50cmの階段が3段構築されている。階段の上面は砂で覆われていた。地下室の平面形は、長軸100×短軸70cmの長方形を呈している。底面は平坦で、奥壁はほぼ直立し、側壁はやや内湾して立ち上がっている。



番号	地区・部位	種別	基盤	D径(cm)	細径(cm)	厚さ(cm)	残存	外面		内面		参考	寸跡	写真
								回転舟切り・板目質	見込みナメ	回転舟切り・板目質	SGY6/1 オーラブ灰色			
1	SK18 住棲壁	床	12.9	7.4	3.8	1	回転舟切り・板目質	見込みナメ				D39 参-3		
2	SK17 住棲中	青銅	鉄	5.7	—	1	(略)舟切り墨合	SGY6/1 オーラブ灰色				J 3 参-6		
3	SK19 古鉄	渡来鉄	23.7	23.7	1.0	2.5	天安光宝	北宋 (1023)				自-1		
4	SK19 古鉄	渡来鉄	23.5	23.6	1.3	3.5	熙寧元宝	北宋 (1068)				自-2		
5	SK19 古鉄	渡来鉄	—	23.6	1.3	2.6	元祐通宝	北宋 (1078)				自-3		
6	SK19 古鉄	渡来鉄	—	24.0	1.2	2.1	政和通宝	北宋 (1111)				自-4		
7	SK19 古鉄	渡来鉄	24.5	23.9	1.3	3.0	崇寧通宝	北宋 (1088)				自-5		
8	SK19 古鉄	渡来鉄	20.2	20.5	0.8	0.9	無文鉄					自-6		

第85図 墓壙出土遺物

墓壙埋土註記表

SK17

層位	土色	土性	備考
1層	10YR2/2 黒褐色	シルト	炭化物粒子混入
2層	10YR4/2 黑褐色	シルト	10YR2/2 黑褐色土ブロック状に混入、炭化物粒子混入
3層	2.5Y5/4 黄褐色	シルト	10YR2/2 黑褐色土ブロック状に混入
4層	10YR2/1 黑色	炭化植物	10YR4/2 黑褐色土ブロック状に混入、骨粉出土、施工ワッカ状に混入
5層	10YR4/2 黑褐色	シルト	炭化植物子、燃上粒子混入

SK19

層位	土色	土性	備考
1層	10YR3/2 黑褐色	シルト	10YR2/4 黑褐色土とのブロック層、骨片、施工土

SK18

層位	土色	土性	備考
1層	10YR3/2 黑褐色	シルト	10YR6/6 明黄色土とのブロック層、10YR2/2 黑褐色土大きなブロック状に混入

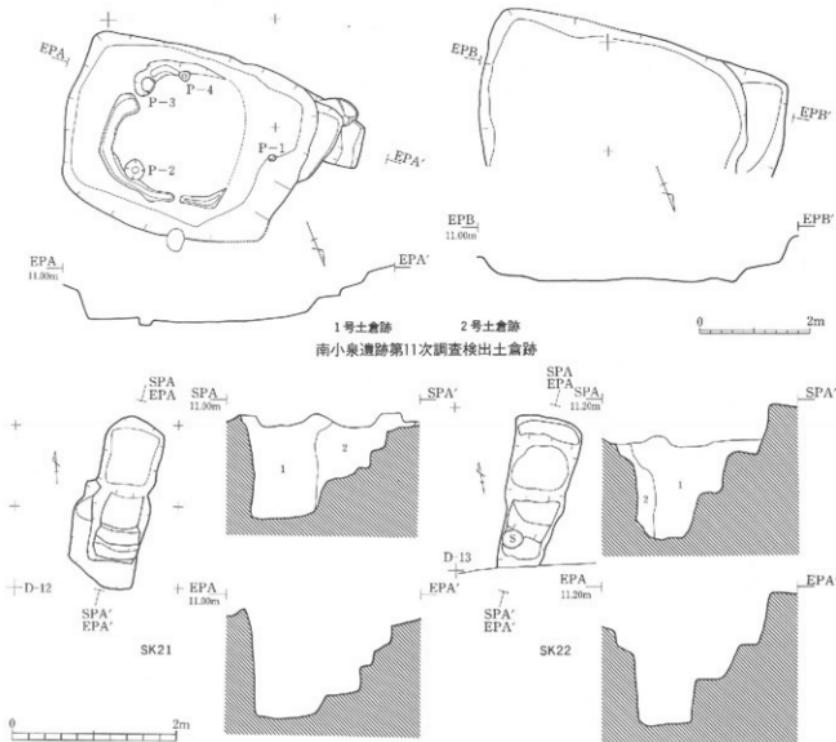
SK24

層位	土色	土性	備考
1層	10YK3/1 黑褐色	シルト	10YR5/1 黑褐色土ブロック状に混入、炭化物粒子混入
2層	10YR2/2 黑褐色	シルト	10YR5/1 に近い黒褐色土ブロック状に混入、炭化物粒子混入
3層	10YR3/2 黑褐色	シルト	10YR4/2 黑褐色土とのワッカ層、施工土には10YR2/2 黑褐色土が混入
SK26			
1層	10YR2/3 黑褐色	シルト	「施工土にかけて10YR5/3 に近い黄褐色が、下で黒褐色に混入」
2層	10YR2/2 黑褐色	シルト	10YR5/3 に近い黄褐色土斑状に混入
3層	10YR5/3 に近い黄褐色	シルト	10YR2/2 黑褐色土ブロック状に混入
SK28			
1層	10YR2/3 黑褐色	シルト	10YR5/6 黑褐色土ブロック状に混入、炭化物粒子混入
2層	10YR5/6 黄褐色	粘質シルト	10YR2/2 黑褐色土ブロック状に混入
3層	10YR3/2 黑褐色	粘質シルト	10YR5/6 黑褐色土とのブロック層

[SK22 土坑] C-13 に位置している。平面形は長方形を呈し、長軸190cm、短軸75cm、深さ110cmを計る。開口部は南を向いており、主軸方向は N-20°-E である。

天井部は確認されず、埋土に天井部の崩落を示すような痕跡は認められなかった。確認面から地下室に向かって、幅45cmの階段が2段構築されている。階段の上面は砂で覆われていた。地下室の平面形は、長軸80×短軸80cmの隅丸方形を呈している。底面は平坦で楕円形を呈し、奥壁はほぼ直立し、側壁はやや内湾して立ち上がっている。

2基の土坑の位置関係は、ほぼ同じ方向を向き、互いの存在を意識して構築されているようであり、規模や形態が類似していることから同時期に構築されたものと考えられる。機能的には、床面積も小さいことから貯蔵施設と考えるよりは、位置や主軸方向などからみて前述の墓壙群Bに伴う遺構で、墓葬に関わる施設であった可能性が高い。埋土の状況などから、掘り直しが行なわれていることも考えられる。



埋土記表

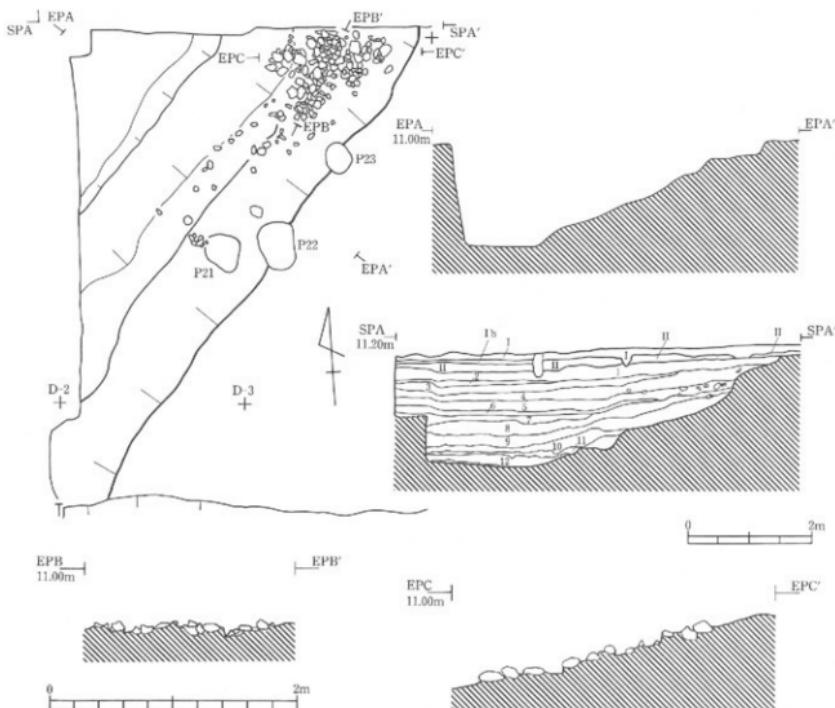
遺構名	層位	土 色	土 性	備 考
SK21	1層	10YR3/2 黒褐色	砂質シルト	10YR6/4 にぶい黄褐色土とのブロック層・炭化物混入
	2層	10YR3/2 黒褐色	砂質シルト	埋1層に比べ10YR6/4 のブロックが多く混入する
SK22	1層	10YR3/2 黒褐色	シルト	10YR6/4 にぶい黄褐色土とのブロック層・炭化物混入
	2層	10YR3/2 黒褐色	シルト	埋1層に比べ10YR6/4 のブロックが多く混入する

第86図 階段付地下式坑平面図・断面図

④溝跡

SD02 溝跡 (第87~89図)

III区(B・C-2・3)に位置している。SB01・SI03・04を切っている。調査区に東辺側の一部が検出されたのみで、全体の規模は不明である。検出面での規模は幅4m以上、深さ1.7mである。その規模や特徴から幅10m以上の大規模な溝(堀)跡と考えられる。方向は東壁でN-40°-Eである。埋土は12層に分けられ、下層部はグライ化



SD02 埋土柱記表

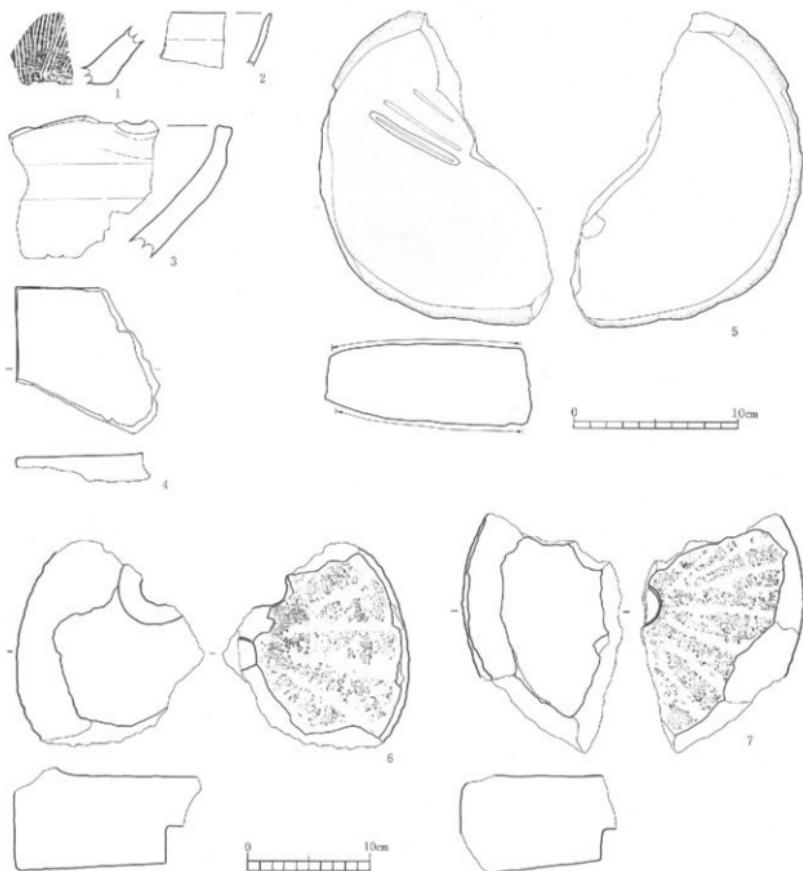
層位	土 色	土 性	備 考
1層	10YR3/2 黒褐色	シルト	10YR4/1 暗灰色土を斑状に混入
2層	10YR3/2 黒褐色	シルト	
3層	2.5Y3/2 黑褐色	シルト	
4層	10YR3/3 黑褐色	シルト	
5層	10YR3/2 黒褐色	シルト	
6層	10YR2/2 黑褐色	シルト	
7層	10YR4/3 にぼい黄褐色	シルト	
8層	10YR4/2 灰黒褐色	粘質シルト	
9層	10YR3/3 増褐色	粘質シルト	10YR6/4 にぼい黃褐色土をブロック状に混入
10層	10YR3/3 増褐色	粘質シルト	2.5Y6/2 暗灰色土をブロック状に混入、炭化物混入
11層	2.5Y6/1 黄褐色	粘土質シルト	酸化鉄頭を観入
12層	2.5Y5/1 黄褐色	粘土質シルト	2.5Y7/4 浅黄色土をブロック状に混入

第87図 SD02 溝跡平面図・断面図

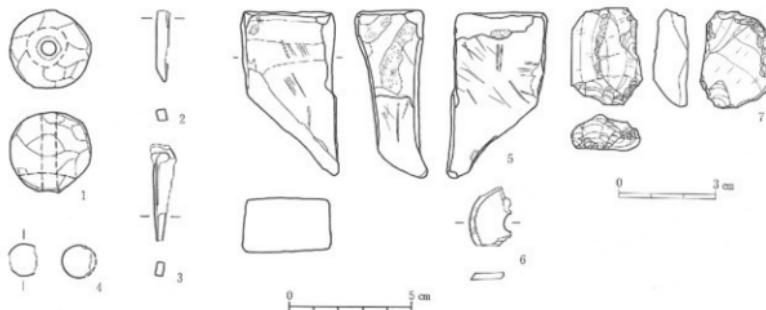
している。底面には鉄分の集積層が認められた。

堆積土より陶器・磁器・瓦・土師器・石臼・礫石器・土製品・石製品・鉄製品・剝片石器・弥生土器などが出土している。第88図1はすり鉢で、17世紀頃と考えられる。3は産地不明の鉢で、13世紀後半から14世紀前半頃と考えられる。2の白磁は17世紀頃と考えられる。第89図7は黒曜石の剝片石器で、一端に急角度の刃部が作出されている。表面の縁がつぶれている。

遺物からみて中世段階で開削されたが、17世紀前半頃には若干グライ化の進んでいる8層上面を底面とするほどに埋まり、浅い流れであったと考えられる。8層上面東壁に沿って検出された集石遺構は、洗い場のような足場固めのための石と思われる。17次調査の成果から、近世初期に中世以来の堀の改変が進行したことがわかつており、現在も使用され西側を南流している「佐久間堀」との関係が考えられる。



第88図 SD02溝跡出土遺物



番号	地区・層位	種別	基盤	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重さ(kg)	特徴	登録	写真
1	SD02 8層	土製品	上玉	32	33	32.5	31.1	孔径6mm	P 8	83-22
2	SD02 1~2層	鉄製品	釘	(29)	4	4	1.9	片頭欠損	N61a	84-16
3	SD02 1~2層	鉄製品	釘	(40)	3	6	5.9	両頭欠損	N61b	84-17
4	SD02 1~2層	鉄製品	丸				8.3		N24	84-18
5	SD10	摩訶器	磁石	67	37	28.5	29.1		Kd320	83-4
6	SD02 墓土	石製品		29.2	15.9	2.5	1.5		Kd186	83-13
7	SD02 3~5層	鉄工具	スクリュー	30.1	21.3	10.8	7.7	黒曜石、表面鋸歯づぶれ	Ka150	88-10

第89図 SD02・10溝跡出土遺物

SD02 溝跡出土遺物概要表 (第88図)

番号	地区・層位	種類	基盤	口径(cm)	底径(cm)	厚さ(cm)	残存	外観	内面	備考	登録	写真
1	埋土上層	四輪	筒体					ナゲ SYR4/3 にぶい赤褐色	おらし目 7.5YR5/3 にぶい褐色	常滑	I 23	H-12
2	1層	白玉	鏡					7.5Y7/2 淡白色	10Y6/2 オリーブ褐色		J 1	H-13
3	生石下	陶器	鉢					コクロナゲ SYR5/3 にぶい赤褐色	ロクロナゲ 7.5YR5/3 にぶい褐色	焼成跡	I 25	H-14
4	1~5層		瓦					くび出し			H 2	H-15

番号	地区・層位	種類	基盤	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	底径(cm)	特徴	登録	写真
5	堆土上層	礫石器	磨石	186	127	51	1780		Kd319	83-1
6	1層	礫石器	石臼			87	2330		Kd318	83-2
7	礫石器	石臼			84	2200			Kd317	83-3

⑤土坑・その他の遺構

(a)土坑 (第9・90~92図・第8表)

土坑として登録した遺構のうち、建物跡や墓壙を構成するものを除くと、土坑は21基である。これらは遺構の切り合ひなどからほとんどが古代～中世のものと考えられる。ほとんどの土坑は、径1m前後で平面形は円形を基調としている。その中で、SK23は規模も大きく、2基の階段付地下式坑に並列して検出しており、これらの遺構との関係が考えられる。また、SK38は白玉の出土状況から古代のものであり、SK35は形状的には土坑とは別の性格が考えられる。

[SK 2] A-4に位置し、SB01 (SK3) を切っている。平面形は円形を呈し、長軸85cm、短軸75cm、深さ49cmを計る。断面形は台形を呈している。

[SK 8] C-5に位置し、SB01 (SK 6・7) に切られるが、SD4を切っている。平面形は隅丸方形を呈し、長軸110cm、短軸90cm、深さ31cmを計る。断面形は台形を呈している。

[SK 9] C-4に位置している。平面形は円形を呈し、長軸67cm、短軸60cm、深さ19cmを計る。断面形は舟底形を呈している。

[SK12] A-4に位置している。平面形は円形を呈し、長軸58cm、短軸54cm、深さ19cmを計る。断面形は舟底形

を呈している。

[SK13] D-3に位置している。平面形は円形を呈し、長軸100cm、短軸80cm、深さ18cmを計る。断面形は舟底形を呈している。

[SK16] B-3に位置している。平面形は円形を呈し、長軸95cm、短軸92cm、深さ12cmを計る。断面形は舟底形を呈している。

[SK20] B-8に位置している。平面形は円形を呈し、長軸70cm、短軸55cm、深さ7cmを計る。断面形は舟底形を呈している。

[SK23] C-14に位置し、南半部分が調査区外にかかっている。平面形は不整円形を呈し、長軸120cm、短軸100cm以上、深さ148cmを計る。断面形は台形を呈している。

[SK25] B-14に位置している。平面形は不整形を呈し、長軸110cm、短軸73cm、深さ8cmを計る。断面形は舟底形を呈している。

[SK29] C-14に位置している。平面形は不整な楕円形を呈し、長軸73cm、短軸50cm、深さ27cmを計る。断面形は舟底形を呈している。

[SK30] C-14に位置している。平面形は椭丸方形を呈し、長軸90cm、短軸65cm、深さ19cmを計る。断面形は舟底形を呈している。

[SK31] C-14に位置しているが、天地返しにより東半部分を失っている。平面形は楕円形を呈していたと考えられる。長軸50cm以上、短軸50cm、深さ12cmを計る。断面形は浅い台形を呈している。

土坑番号	位 置	長軸×短軸(cm)	深さ(cm)	形 状	切合関係	備 考	出土遺物
SK 1	E - 4	70×70	-19	椭丸方形		SB01	C-B-E
SK 2	A - 4	85×75	-49.2	円 形	SK03 を切入		E
SK 3	B - 4	105×(85)	-48.9	不 整 形		SB01	C-B
SK 4	H - 5	90×93	-31.9	椭丸方形	P14 に切られる	SB01	C-B
SK 5	C - 4	62×82	-31.3	円 形		SB01	C
SK 6	C - 5	110×105	-44	円 形	SK08 を切る	SB01	C-B-E
SK 7	C - 5	98×85	-36	椭丸方形	SK08 を切る	SB01	C-B
SK 8	C - 5	110×90	-31.1	椭丸方形	SD04 を切る		
SK 9	C - 4	67×60	-19.3	円 形			
SK10	C - 4	77×68	-32.8	椭丸方形		SB01	C
SK11	C - 4	92×90	-55.1	円 形		SB01	C
SK12	A - 4	58×54	-19	円 形			
SK13	D - 3	100×80	-18	円 形			
SK14	C - 3	95×82	-39.2	円 形		SD01	C-B
SK15	B - 3	(100)×80	-44	円 形	SD06 を切る	SB01	C-B
SK16	B - 3	95×92	-12	円 形	P22 に切られる		
SK17	B - 9	98×60	-77.2	椭 圆 形			中世墓・椎骨・青磁碗底(14c)
SK18	C - 9	143×90	-80.4	椭 圆 形			中世墓
SK19	H - 9	(85)×90	-42.2	椭丸方形	SK16 に切られる		中世墓・骨・漆・油道跡
SK20	B - 8	20×55	-7.2	円 形			C-B-E
SK21	C - 12	217×70	-154.4	椭丸方形			C-B
SK22	C - 13	(176)×59	-189.3	椭丸方形			C-R
SK23	C - 14	120×(100)	-148.1	円 形			井口?
SK24	B - 14	95×63	-59.3	不 整 形			C-B-E
SK25	B - 14	110×73	-7.7	不 整 形			C-E
SK26	C - 14	165×90	-59.1	円 形	SK31 を切る		中世墓・陶
SK27	C - 13	73×40	-21	長 棒 円	P114 を切る	SB02	C-E
SK28	C - 12	116×105	-114.4	椭丸方形			中世墓・かわらけ(14C 前)
SK29	C - 14	73×50	-27.4	円 形			C-E
SK30	C - 14	90×65	-19.1	長 棒 円	P109 に切られる		
SK31	C - 14	300×70	-28.8	不 整 形	SK26 に切られる		
SK32	D - 8	(30)×40	-10.9	円 形			
SK33	A - 9	(95)×65	-24.1	長 棒 円			E
SK34	D - 4	(73)×90	-51.4	長 棒 円			
SK35	D - 6	(250)×(40)	-- 3 -- 5	不 明			
SK36	A - 8	(38)×70	-34	円 形			
SK37	D - 2	105×87	-54.5	長 棒 円	SD02 に切られる		
SK38	D - 10	(115)×(98)		片 形			E
SK39	B - 11	80×65	-18	不 整 形			E
SK40	B - 12	67×66	-20.2	円 形			

第8表 土坑集計表

[SK32] D-8に位置している。プランの大半が調査区外にかかっており平面形は不明である。検出した部分で長軸40cm以上、短軸30cm以上、深さ11cmを計る。

[SK33] A-9に位置し、東側が調査区外にかかっている。平面形は不整な方形を呈している。長軸95cm以上、短軸65cm、深さ24cmを計る。

[SK34] D-4に位置し、南側約1/2が調査区外にかかっている。平面形は長楕円形を呈していると考えられる。長軸73cm以上、短軸90cm、深さ52cmを計る。

SK34				
層位	土 色	土 性	備 考	
1層 10YR3/2 黒褐色	シルト	10YR4/1 塩化物粘土が混入。生化物粒子若干混入。		変化物多く混入。2.5Y5/4 黄褐色がプロック状に混入。
1b層 10YR4/3 に近い黄褐色	シルト			10YR6/4 に近い黄褐色が混入。
2層 10YR3/1 黒褐色	シルト	10YR5/4 に近い黄褐色土とのブロック層		変化物多く混入。10YR5/4 に近い黄褐色土が混入。
3層 2.5Y4/3 オリーブ褐色	シルト			10YR3/1 黑褐色がプロック状に混入。

SK35				
層位	土 色	土 性	備 考	
1層 2.5Y4/1 黄褐色	シルト			2.5Y6/1 黄褐色土がプロック状に混入。変化物多く混入。

SK36				
層位	土 色	土 性	備 考	
1層 10YR2/3 黑褐色	シルト	炭化物粒子若干混入。		
2層 10YR3/1 黑褐色	シルト			層間にかけて10YR6/4 に近い黄褐色土がブロック状に混入。

SK37				
層位	土 色	土 性	備 考	
1層 10YR2/3 黑褐色	砂質シルト			
2層 2.5Y3/4 黄褐色	砂質シルト			
3層 2.5Y3/2 オリーブ褐色	砂質シルト			
4層 2.5Y3/2 黑褐色	砂質シルト			

SK38				
層位	土 色	土 性	備 考	
1層 10YR2/2 黑褐色	シルト			
2層 10YR2/2 黑褐色	シルト			10YR6/6 明黄褐色土とのブロック層
3層 10YR3/1 黑褐色	シルト			10YR6/6 明黄褐色土とのブロック層
4層 10YR3/1 黑褐色	シルト			10YR6/6 明黄褐色土とのブロック層
5層 10YR3/1 黑褐色	シルト			10YR6/6 明黄褐色土とのブロック層
6層 2.5Y3/2 黑褐色	シルト			砂質層
7層 2.5Y3/1 黑褐色	シルト			砂泥層

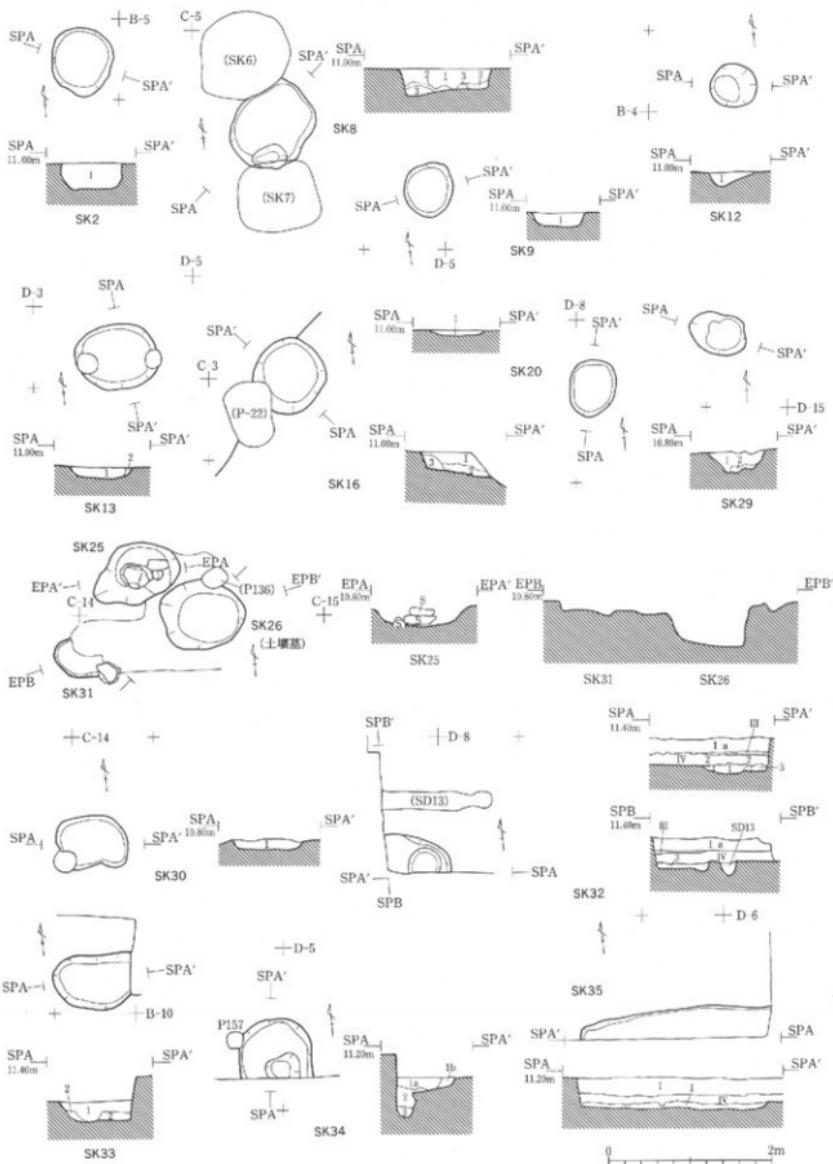
SK39				
層位	土 色	土 性	備 考	
1層 10YR2/2 黑褐色	シルト			炭化物粒子混入。
2層 10YR2/2 黑褐色	シルト			炭化物粒子混入。

SK40				
層位	土 色	土 性	備 考	
1層 10YR3/1 黑褐色	シルト	炭化物粒子混入。		
2層 10YR3/2 黑褐色	シルト			炭化物粒子混入。
3層 黄、純土混合層				
4層 10YR4/1 に近い黄褐色	シルト			

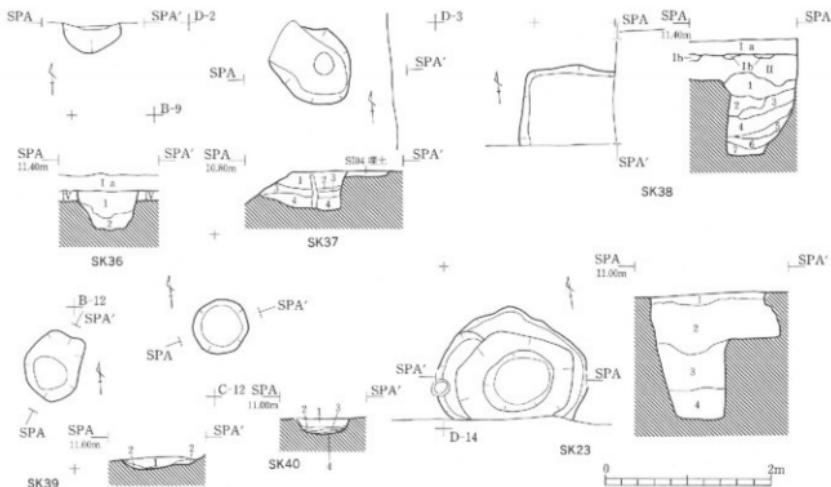
SK41				
層位	土 色	土 性	備 考	
1層 10YR3/1 黑褐色	シルト	10YR5/6 黄褐色土が斑状に混入。炭化物粒子混入。		10YR6/1 に近い黄褐色土が斑状に混入。中空部に炭化物粒子。
2層 10YR2/2 黑褐色	シルト			10YR6/1 に近い黄褐色土とのブロック層。
3層 10YR3/2 黑褐色	シルト			10YR6/1 に近い黄褐色土との互層・炭化物粒子混入。
4層 2.5Y3/2 オリーブ褐色	砂質シルト			10YR6/4 に近い黄褐色土がブロック状に混入。

SK42				
層位	土 色	土 性	備 考	
1層 10YR3/1 黑褐色	シルト	10YR5/4 に近い黄褐色土が斑状に混入。炭化物粒子混入。		
2層 10YR5/4 に近い黄褐色	シルト	炭化物粒子若干混入。		

第9表 土坑埋土註記表



第90図 土坑平面図・断面図（1）



第91図 土坑平面図・断面図（2）

[SK35] D-6に位置している。プランの大半が調査区外にかかっており平面形は不明である。検出した部分で長軸250cm以上、短軸40cm以上、深さ3~5cmを計る。

[SK36] A-8に位置し、北側約1/2が調査区外にかかっている。平面形は不整な円形を呈していると考えられる。長軸38cm以上、短軸70cm、深さ34cmを計る。

[SK37] D-2に位置し、西側をSD02に切られている。平面形は不整な楕円形を呈していると考えられる。長軸105cm以上、短軸87cm、深さ55cmを計る。

[SK38] D-10に位置している。プランの大半が調査区外にかかっており平面形は方形を基調としていると考えられるが不明である。検出した部分で長軸115cm以上、短軸98cm以上、深さ95cmを計る。

[SK39] B-11に位置している。平面形は不整な方形を呈し、長軸80cm、短軸65cm、深さ18cmを計る。断面形は舟底形を呈している。

[SK40] B-12に位置している。平面形は円形を呈し、長軸67cm、短軸66cm、深さ20cmを計る。断面形は舟底形を呈している。

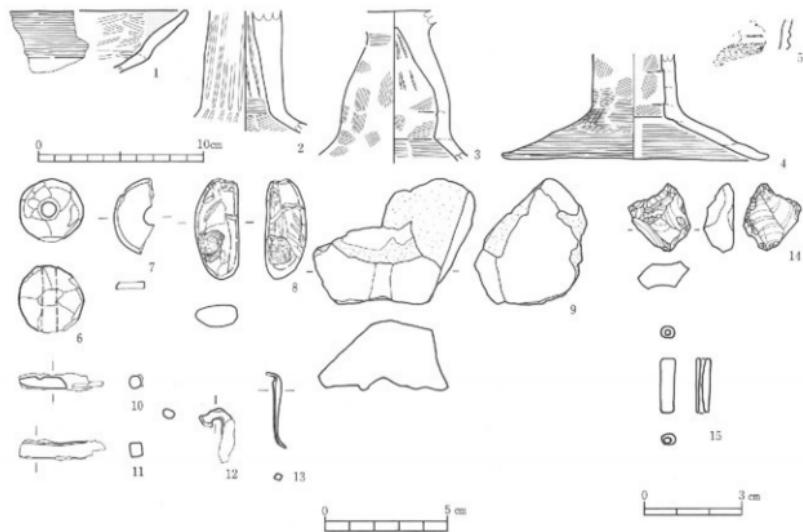
(b) ピット (第9図・第10・11表)

全域で約160基検出されている。屋敷を区画するSD01東側(屋敷跡内)に集中する傾向がみられる。これらの中には柱痕跡をもつものや柱列を構成するものもあることから、屋敷跡に関係する建物跡となることも考えられる。詳細については集計表を参照されたい。

ピット埋土分類 A:10YR2/1 黒色系 B:10YR2/2・10YR2/3 黑褐色(黒色)系

C:10YR3/1・10YR3/2 黑褐色(褐色)系 D:10YR3/3・10YR3/4 暗褐色系

E:10YR4/2・10YR4/3・10YR5/6・10YR4/1・10YR4/6 黄褐色系



土坑・ピット出土遺物

番号	地区・調査	種別	縦幅	横幅(m)	高さ(m)	横幅(m)	残存	外 面	内 面	備考	登録	写真
1	SK01	土器器	鉢					ヨコナヂ	ヘラミガキ、無色処理		C534	
2	SK21a	土器器	高杯					ヘルミガキ	ナヂ		C589	
3	SK08	土器器	高杯				1/2	ナヂ	ナヂ		C640	
4	SK17	土器器	高杯	16.2			1/2	ナヂ、ハケメ+ナヂ、ヨコナヂ	ナヂ、ヨコナヂ		C664	7b-7
5	ピット18	瓦器器						陰線、波状文	ヨコナヂ		E83	

番号	地区・調査	種別	形	類	直径(mm)	高さ(mm)	横幅(mm)	備考	特 徴	登録	写真
6	SK21b	土製品	土玉		26	25	27.5	15.4	孔径6.0mm	P 7	83-21
7	SK19	陶製品	円板B		31.3	16.6	3.6	2.1		Kd157	83-11
8	SK21b	石製品	板石?		41.7	17.0	9.8	8.3		Kd206	83-14
9	SK21	砂岩	板石?		58	50	44	23.5		Kd225	82-15
10	SK18	供製品	結婚車?	(35)				4.0	両端欠損、孔径5mm	N18	84-11
11	SK22	供製品	鉢?		34	6	5	3.3	両端欠損	N19	84-12
12	SK23	供製品	鉢?	(22)	4	5	2.6			N20	84-13
13	ピット127	供製品	鉢		31	3	2	1.1	環状完形	N28	84-14
14	SK30	剥片石器	空き骨器?		29.3	18.2	7.9	2.4	麻痺石	Ka49	88-9
15	SK38	石製品	管玉		16.5	直径4.4 64.2	9.5	孔径1.8mm、褐色、両端からの穿孔		Kd286	87-30

第92図 土坑・ピット出土遺物

ビットNo.	位置	平面形	高さ×延長(cm)	測定値(cm)	細	土	切口関係	出土遺物	備考
1	D-2	方 形	22×27	10.8	B		C		
2	D-3	小壠門形	25×24	36.5	B	SK13を切る	C		柱底跡有
3	D-3	方 形	19×18	10.5	C				
4	D-3	方 形	20×20	21.5	B	SK13を切る			
5	D-3	方 形	30×22	28.0	B				SB04 柱底跡有
6	D-4	方 形	20×24	12.6	E		C		
7	C-3	丸 方 形	35×20	25.0	C		C		
8	C-3	方 形	30×25	39.4	C		C		SB04 柱底跡有
9	B-3	方 形	25×18	35.1	B				SB04 柱底跡有
10	B-4	方 形	29×17	24.0	C		C		
11	B-4	圓角方形	17×16	20.0	C		C		
12	B-4	方 形	19×18	11.3	C		C・B		
13	B-4	方 形	25×22	22.6	B	SK04を切る			SM04
14	C-5	円 形	25×25	38.5	B	SK04を切る	C		SB04
15	D-5	円 形 ?	35×33	47.7	C	調査区外にかかる	C		SB04
16	D-5	円 形 ?	37×25	21.6	C	調査区外にかかる	C		
17	D-5	方 形 ?	29×(15)	46.3	C	調査区外にかかる	C		
18	C-6	方 形	23×18	30.8	B		C・E		
19	C-5	方 形	29×30	17.9	C		C		
20	B-5	円 形	29×18	12.0	C				
21	C-2	79×52		9.2			C・E		
22	C-3	80×53		11.7			C		
23	B-3	59×42		16.6			C		
24	B-7	圓丸方形	25×20	18.2	E	SD01の裏面にかかる	C		
25	D-3	円 形	20×20		D		C		
26	E-3	方 形	30×25	39.5	D		C		柱底跡有
27	K-3	方 形 ?	36×(22)	39.0	B	調査区外にかかる	C		
28	F-3	方 形	36×23	43.7	D		C		
29	F-3	方 形	33×27	33.1	D		C		
30	F-3	方 形	39×28	8.1	E				
31	G-3	楕 円	33×25	10.0	D				
32	G-3	方 形 ?	38×30	10.6	D		C		
33	G-3	方 形	28×25	9.3	E		C		
34	H-4	方 形	29×20	21.4	D				
35	H-3	円 形	18×13	29.6	E				
36	I-3	円 形	15×10	9.4	E				柱底跡有
37	I-3	円 形	26×20	16.9	E				柱底跡有
38	I-4	円 形	28×28	39.3	D				柱底跡有
39	I-4	方 形	25×20	10.5	D	調査区外にかかる			
40	F-3	円 形 ?	25×18	8.7	E				
41	C-8	方 形	49×33	29.6	C		C		
42	C-8	塊 円 形	35×30	35.0	C		C・E		
43	C-8	方 形	33×30	22.2	C		C・B		
44	C-8	不規 形	45×33	25.0	C		C		
45	C-8	方 形	32×28	19.8	C		C		
46	H-8	方 形	38×32	21.5	E		C		
47	C-8	方 形	33×30	27.5	E		C		
48	B-8	不規円形	27×27	49.7	D		C		柱底跡有
49	B-8	方 形	23×22	27.5	D		C		
50	B-8	不規円形	25×23	25.0	C		C		
51	H-8	方 形	21×18	30.7	D		C		
52	B-8	円 形	30×28	39.5	B		C・E		
53	B-8	円 形	23×26	38.2	B	P52を切る			
54	B-9	方 形	30×21	17.3	H		C		
55	B-9	円 形	23×23	20.7	C		C・E		
56	C-9	小壠門形	37×37	27.3	C		C		
57	C-9	方 形	28×25	28.6	C		C		
58	C-9	方 形	26×35	38.3	E		C		柱底跡有
59	C-10	方 形	45×28	42.3	E		C		柱底跡有
60	C-10	共楕円形	45×35	35.2	B	P62を切る	C		
61	C-10	円 形	23×22	23.7	B	P62を切る	C		
62	C-10	子壠門形	38×(23)	32.9	B	P60, 61に切られる	C		
63	C-10	円 形	28×22	42.4	B	P64を切る	C・E		
64	C-10	方 形	39×(12)	31.2	H	P63に切られる	C		
65	C-10	圓丸方形	32×26	37.9	B				
66	C-10	方 形	35×36	33.5	B				
67	C-10	円 形	39×18	19.8	B		C		
68	C-10	円 形	28×26	29.9	B		C		
69	C-9	方 形	35×25	41.3	B	P70を切る			
70	C-9	方 形	25×(12)	14.3	B	P69に切られる	C		
71	C-9	円 形	27×(10)	20.5	C	P58に切られる	C		
72	C-9	圓角方形	36×25	37.3	C	SD12を切る			
73	B-9	円 形	40×37	17.1	C	SD11を切る	C・E		
74	H-9	円 形	27×21	12.2	D		C		
75	C-9	方 形	27×25	19.7	C				
76	B-10	円 形	31×20	26.6	B		C		
77	C-10	円 形	27×(15)	31.3	H		C		
78	C-11	円 形	35×33	56.2	B		C		
79	C-11	方 形 ?	27×24	48.5	B		C		

第10表 ピット集計観察表(1)

ピット番	位	置	平	面	長幅×短幅(cm)	深さ(cm)	堆	土	切	合	開	様	出土	種	考
80	C-11	円	形	27×25	22.3	D		C						柱底跡有	
81	C-11	円	形	21×19	15.1	B		C							
82	C-11	円	形?	34×27	45.2	C		C							
83	C-11	円	形	18×15	18.0	C		C							
84	C-11	円	形	17×15	7.8	B									
85	C-11	方	形	30×26	10.7	B		C						柱底跡有	
86	C-12	円	形	26×20	10.1	C									
87	C-12	円	形	30×30	34.5	B		C							
88	C-12	円	形	32×30	36.3	C		C							
89	C-12	方	形	32×36	33.2	D		C							
90	C-13	円	形	30×28	16.1	C								柱底跡有	
91	C-13	方	形	28×26	22.1	C		C						柱底跡有	
92	C-13	円	形	25×25	15.7	D		C						柱底跡有	
93	C-13	円	形	25×25	18.5	C									
94	C-13	円	形	26×32	54.7	B	P.95を切る								
95	C-13	方	形	26×32	54.7	B	P.94に切られる								
96	B-13	方	形	22×20	9.1	B									
97	B-13	円	形	22×18	11.2	B									
98	B-13	方	形	30×22	11.9	C		C							
99	B-13	幅	円	57×49		C		C・E						SB02 横石	
100	C-13	方	形	35×36	41.8	C		C・E							
101	C-13	方	形	27×22	20.4	C		C							
102	C-13	方	形	25×25	19.3	C	P.103を切る								
103	C-13	方	形	26×30	17.6	B	P.102に切られる								
104	C-13	方	形	27×30	12.9	B		C							
105	B-13	方	形	28×22	23.0	B		C							
106		方	形			D									
107	C-14	円	形	22×20	20.8	C									
108	C-14	円	形	28×23	19.0	D		C						柱底跡有	
109	C-14	方	形	28×27	35.2	C		C							
110	C-14	円	形	25×25		B		C						横石	
111	C-14	方	形	35×36	32.4	C									
112	B-13	方	形	55×35		C		C・E						SB02 横石	
113	B-13	方	形	20×16	23.7	B									
114	B-14	方	形	45×38		C		C						SB03 横石	
115	B-14	方	形	30×20	24.3	B									
116	B-14	方	形	28×22	61.2	B									
117	B-14	方	形	18×15	6.2	C									
118	B-14	方	形	25×18	21.4	C	P.119、P.120に切られる								
119	B-14	方	形	30×30	22.3	C	P.118を切る								
120	B-14	方	形	30×26	27.9	B	P.118を切る								
121	B-14	方	形	50×35		B	P.122を切る							SB02 横石	
122	B-14	方	形			C	P.121に切られる								
123	B-14	方	形	17×16	17.0	C		C							
124	B-14	方	形	25×20	30.7	B		C							
125	H-14	方	形	26×(360)		B	調査区外にかかる							SB03 横石	
126	C-14	方	形	30×25	37.4	B		C・E							
127	C-14	方	形	35×(260)	23.9	C	調査区外にかかる								
128	C-14	方	形	30×25	26.6	B	P.129を切る								
129	C-14	方	形	35×27	32.1	D	P.128に切られる								
130	C-14	円	形	15×40	26.8	C	SK26を切る								
131	C-14	円	形	25×20	19.2	B		C							
132	C-14	円	形	27×25	51.7	B		C							
133	C-12	方	形	23×20	13.6	B	SK21Bを切る								
134	C-12	方	形	23×22	23.2	C	SK21Bを切る								
135		方	形			D									
136	B-14	円	形	28×24	17.9	C	SK2を切る								
137		円	形			C		C							
138	C-8	円	形	20×18	26.2	B	SD14を切る								
139	D-8	方	形	30×27	46.9	B		C							
140	D-8	円	形	25×30	22.7	B	調査区外にかかる								
141	D-8	不	規	30×28	7.7	C		C							
142	D-8	不	規	35×29	28.5	C		C・E							
143	C-9	方	形	32×30	19.9	B	SD14を切る								
144	D-9	円	形	17×12	13.3	C		C							
145	D-9	方	形	22×31	22.8	B		C							
146	D-9	方	形	52×46	25.5	B		C							
147	C-7	方	形	30×25	39.2	B		C							
148	B-8	方	形	25×32	22.7	C		C							
149	B-7	方	形	60×40	18.4	B		C							
150	B-8	方	形	33×35	14.7	B		C							
151	B-8	方	形	30×22	30.4	B		C							
152	A-8	方	形	24×26	16.3	C		C							
153	A-8	方	形	24×26	13.1	B									
154	B-9 (西)方	形	32×22	37.1	B										
155	E-6	方	形	42×36	10.4	C	SK6を切る							C・E	
156	B-6	円	形	37×33	14.8	C	SK6を切る							C	
157	D-4	方	形	20×20	19.9	D	SK7を切る							C	

第11表 ピット集計観察表(2)

(4) 遺構外出土遺物（第93・94図）

遺構検出面までの基本層中や天地返しより土師器・須恵器・鍛石器・石製品・鉄製品・土製品・剝片石器・弥生土器などが出土している。特に、土師器は多量に出土している。

第93図9・10・11は黒曜石の石器である。9は辺縁に急角度の刃部を作出したスクレイパーである。11は微細な二次加工が施されている。12は石核である。

①弥生土器（第95・96図）

基本層や遺構堆積土より弥生土器が出土している。すべて破片資料であり器形復元できたものはないが、口縁部資料を中心に図化し、器種ごとに分類している。

壺類（第95図1～13） 1・2は、平行沈線文が施された胴部破片である。3は、内外面ともミガキ調整を施された短頸壺の口縁部破片である。4・5は、口縁部から胴部にかけての破片であり、4は、胴部に変形工字文と充填繩文が施されており、赤色顔料が付着している。6～11は胴部破片であり、重四角文（8・10・11）、渦文（7・12）、重三角文（9）などの文様が施されている。14の底面には織布痕がみられる。

高环類（第95図15～19） 平行直線文又は、平行直線文+三角文が施され、その間には充填繩文が施されている。17の外面には、赤色顔料が付着している。

蓋類（第95図20／第96図1・2） 20は、変形工字文に充填繩文が施されている。1は、連弧文に植物茎回転文が施されている。

深鉢・鉢類（第96図3～7・8～11） 3～7は、平行直線文と植物茎回転文が施された深鉢の口縁部破片で、3～5は同一個体のものと思われる。8は高環の可能性もある。9～11は鉢の口縁部破片であり、8・9は、平行直線文と三角文の組合せで充填繩文が施されている。10は、四角文に植物茎回転文が施されている。

壺類（第96図12～18） 12～14は、胴部と口縁部の境に刺突文が施されている。18は深鉢の可能性も考えられるが、連続山形文が施され、内外面に炭化物が付着している。

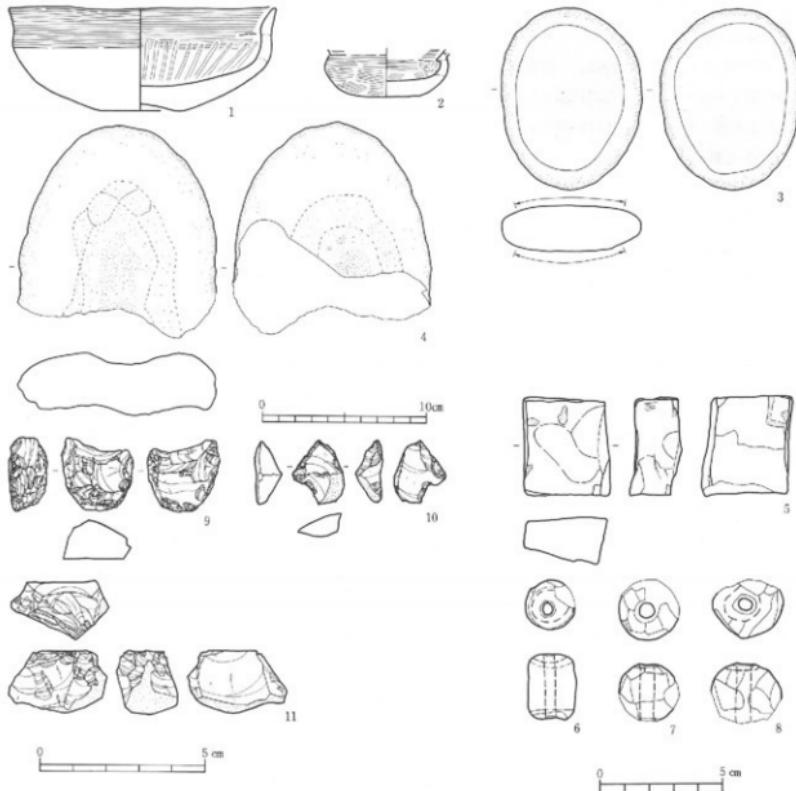
器種不明（第96図19～21）

遺物の所属時期 第95図1・2は、半裁竹管状の工具による沈線文が描かれており、十三塙式にあたると考えられる。それ以外の土器は從来より南小泉遺跡で出土している土器や、中在家南遺跡の主体を占める土器に類似しており、拊形匣式にあたると考えられる。

②弥生時代の石器

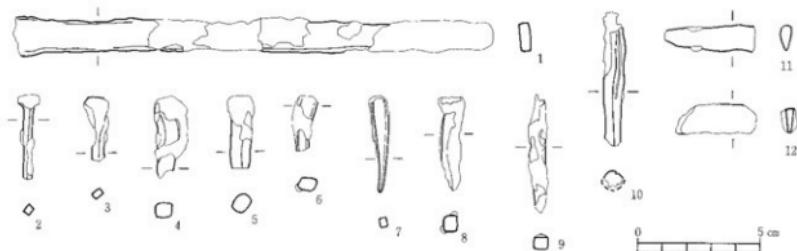
基本層や遺構堆積土より剝片石器などが出土している。土師器以外の土器が弥生土器、そのなかでも拊形匣式が主体を占めているため、石器類もほぼ弥生時代拊形匣式に属すると考えられる。第97図1は扁平片刃石斧である。剝離により整形した後、敲打は行わず研磨している。2はノミ形石斧の刃部片である。3～6は石鎌である。石鎌の形状は、厚手で、素材の剝離面を残さない3・4のようなタイプが多い。また、長さ1センチ程度の非常に小さなものもある（写真87-17）。6はアメリカ式石鎌である。他に、石錐・不定形石器・石核などがある。

石材は流紋岩が比較的多く、硅質頁岩、玉髓なども見られる。



番号	地区・層位	種別	器種	C径(cm)	底径(cm)	厚さ(cm)	現存	外　面	内　面	番号	登録	写真
1	D-4・5	土器類	杯	16.3	4.8	6.4	2/3	(□)ヨコナゾ(体)ヘラミガキ?	ヨコナゾ→ヘラミガキ(抜削式)		C798	79-5
2	I区	土器類	小形				1	ナデ	ナデ			C789
3	I区・大蛇返し	礫石器	磨石	109.6	83.8	29.6	410.5				Kd523	83-7
4	土上	礫石器	磨石	118	120	46	501.4				Kd522	83-6
5	II区・日置	礫石器	砾石	40	35	19.5	32.4				Kd525	83-5
6	I区・II層	土製品	土瓦	20	20	28.8	11.0	孔φ5.5cm		P 9	83-23	
7	III区・大蛇返し	土製品	土瓦	24	24	24	12.9	孔φ6.0cm		P 13	83-24	
8	D8・9・II層下	土製品	土瓦	25	29	24.5	11.0	孔φ6.0cm		P 15	83-25	
9	IV区・日置	剥片石器	スクレイパー	21.7	21.8	11.6	7.2	萬葉77		Ka29	88-11	
10	I区・II層天井返し	剥片石器	不定形石器	19.1	16.9	7.8	1.6	萬葉石		Ka51	88-12	
11	BC7～9 II層下	剥片石器	石核	18.7	39.1	15.7	19.1	圓錐石		Ka66	88-13	

第93図 遺構出土遺物 (1)



番号	地区・層位	種別	器種	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重さ(g)	特徴	遺跡	写真
1	CII-II層中	鉄製品	馬具の鑓?	(187)	12	4	44.9	片端欠損	N22	84-30
2	I区・II層天地返し	鉄製品	釘	(26)	4	3	2.7	両端欠損	N32	84-19
3	第1トレンチ天地返し	鉄製品	釘	(26)	4	3	2.4	両端欠損	N40	84-20
4	I区・II層	鉄製品	釘	(34)	7	6	5.8	両端欠損	N29	84-21
5	I区・II層天地返し	鉄製品	釘	(26)	8	6	4.8	両端欠損	N30	84-22
6	I区・II層天地返し	鉄製品	釘	(23)	7	5	2.1	両端欠損	N33	84-23
7	II区・II層	鉄製品	釘	(46)	3	4	4.7	片端欠損	N27	84-24
8	I区・II層天地返し	鉄製品	釘	(38)	6	7	4.6	両端欠損	N31a	84-25
9	I区・II層天地返し	鉄製品	釘	(39)	6	5	3.8	両端欠損	N31b	84-26
10	III区・天地返し	鉄製品	釘	(56)	8	8	6.9	両端欠損	N38	84-27
11	DII-III層	鉄製品	刀子	(37)	19	4.5	4.3	両端欠損	N45	84-28
12	第1トレンチ天地返し	鉄製品	刀子?	(31)	12	3	7.0	両端欠損	N41	84-29

第94図 遺構外出土遺物（2）

石器観察表（第97図）

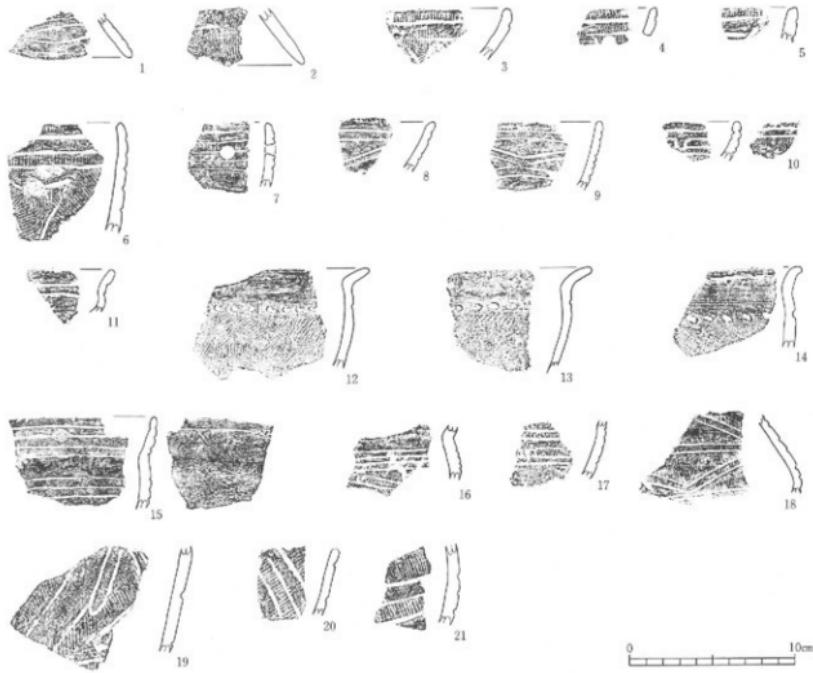
番号	地区・層位	器種	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重さ(g)	石材	特徴	遺跡	写真
1	SH4・SK02	磨製石斧	79.1	33.0-2 214.5	13.5	49.4			Ka 7	87-7
2	SH6・07 墓土上層	ノミ形石斧	26.2	20.9	11.0	7.7	パリ付	基部欠損	Ka26	87-8
3	SH5 墓土上層	石鏟	27.0	12.1	5.2	1.1			Ka 8	87-9
4	SI11 墓土	石鏟	25.6	11.8	6.2	1.4			Ka 5	87-10
5	II区・II層	石鏟	22.9	11.4	3.6	0.8	質地		Ka34	87-11
6	SK32 墓土	石鏟	33.7	16.7	5.0	2.7	質地	先端欠損	Ka23	87-12
7	III区・II層	石鏟	33.0	7.9	5.7	1.5	質地	基部欠損	Ka25	87-18
8	SD92	石鏟	26.3	9.3	5.2	2.0	瓦砾		Ka21	87-19
9	SK38	石鏟	31.3	21.6	6.3	2.9	泥付	先端欠損	Ka18	87-20
10	D4・3 II層	石鏟	73.8	54.1	18.4	33.3	質地		Ka31	87-21
11	SK35 墓土	石鏟	24.7	21.1	9.1	4.0	玉體		Ka17	87-23
12	SK34	不定形石鏟	54.8	30.1	16.1	19.5	質地		Ka16	87-22
13	SK08	不定形石鏟	25.5	19.0	6.3	2.9	質地		Ka15	87-24
14	SI14 墓土上層	不定形石鏟	28.5	34.4	11.6	8.1	洪武岩	ノッチ	Ka35	87-26
15	III区・II層	不定形石鏟	55.3	33.7	17.0	13.1	質地		Ka38	87-27
番号	地区・層位	種別	器種	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重さ(g)	特徴	遺跡	写真
16	B・C5 III層	石核	32.9	55.0	38.7	48.2	泥鐵岩		Ka42	87-28



弥生土器（1）

番号	地区・調査位	断面	外 面	内 面	備 考	測定	写真
1	田区・日堀	直?	沈縫、ミガキ	ミガキ		B328	86-1
2	SI32 墓土下層	直?	沈縫、ミガキ	?		B79	86-2
3	B+C-4 田畠	直	ココナガのちミガキ	ハケメのちミガキ		B351	86-3
4	SI27 麻糸	直	沈縫、ヘラミガキ、鶴文	ミガキ	表面に鶴文	B111	86-4
5	SI27 麻糸	直	沈縫、ミガキ	ミガキ、ミガキ		B107	86-5
6	SI09	直	沈縫、ミガキ	ナデ		B331	86-6
7	SI01 菊池	直	沈縫、ミガキ、鶴文	ヘクチテ		B324	86-7
8	SK07	直	充張、鶴文 LR、沈縫、ミガキ	?	外側に炭化物付着	B164	86-8
9	SK22	直	沈縫、ミガキ?	?		B172	86-9
10	SK35	直	沈縫、ミガキ、鶴文(充張)LR	ナデ	外側に赤色酸化物付着	B181	86-10
11	SI09 墓土上-牛堀	直	沈縫、鶴文 LR			B329	86-11
12	TS-13+14 田畠	直or斜斜?	ミガキ、沈縫、鶴文(充張)LR	ミガキ	内・外側に炭化物付着	B322	86-12
13	B+C-4 区 田畠	直or直	鶴文 LR (直部?)	ミガキ		B352	86-13
14	SH02 広畠中部	直	ミガキ (底) 目板(縫合板)	ハク擦		B382	86-14
15	SK35 墓土	高环	白加青鶴文(充張)、ミガキ、沈縫	ミガキ、沈縫、鶴文 LR		B336	86-15
16	SH05 墓土	高环	鶴文 LR、ミガキ、沈縫	ミガキ、沈縫、鶴文 LR		B325	86-16
17	SH05+マツ西、他土内	高环	鶴文(充張)LR、沈縫、ミガキ(ココ)	ミガキ、沈縫	外側赤色酸化物付着	B36	86-17
18	SH08 広畠土	高环	植物茎葉鶴文、沈縫、ミガキ	ミガキ、沈縫		B327	86-18
19	SK30、SK1	高环	沈縫、ミガキ	ミガキ		B75	86-19
20	SH06+07 墓土	直	ミガキ、沈縫、鶴文(充張)LR	ミガキ、沈縫		B48	86-20

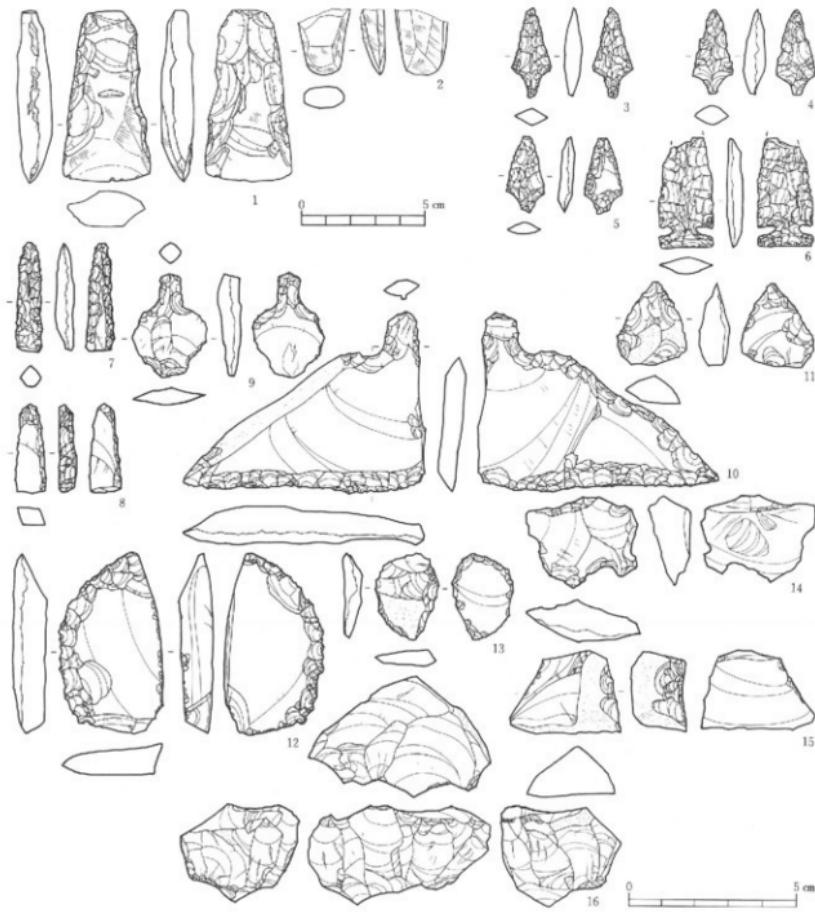
第95図 弥生土器（1）



弥生土器（2）

番号	地区・層位	形種	外面	内面	参考	登録	写真
1	B・C-5 田辺	壺?	ミガキ、沈縫、植物茎回転文	ミガキ		B254	86-21
2	II区・Ⅱ層	蓋	縹文	ミガキ		B306	86-22
3	SIIIG カマF埋土	深鉢	植物茎回転文、沈縫	ヘラナデ、ミガキ		B37a	86-23
4	SIDS カマF埋土	深鉢	植物茎回転文、沈縫、刺突文	ナデ		B37b	86-24
5	SIIOS カマF埋土	深鉢	植物茎回転文、沈縫、ナデ?	ナデ		B37c	86-25
6	SIIIS 埋土中層	深鉢	植物茎回転文、沈縫	ヘラナデのちミガキ		B95	86-26
7	SDOI 1 潜	深鉢	ミガキ、沈縫、植物茎回転文、鉢跡孔	ミガキ		B333	86-27
8	SII9 潜底	新波高脚	ミガキ、沈縫、縹文LR(充填)	ミガキ		B64	86-28
9	SII7	鉢	ミガキ、沈縫、縹文LR	ミガキ		B115	86-29
10	SII9 焼土中層	鉢	ミガキ、植物茎回転文、沈縫	ミガキ、沈縫		B330	86-30
11	SII9	鉢	ミガキ、沈縫、口唇部に縹文	ミガキ		B332	86-31
12	B・C-5 田辺	壺	植物茎回転文、ヨコナデ、ミガキ、刺突文	ミガキ		B268	86-32
13	II区・Ⅱ層	壺	ヨコナデ、縹文LR、刺突文	ミガキ		B227	86-33
14	SII9 焼土	壺	ヨコナデ、ハケメ、刺突文	ミガキ		B118	86-34
15	SII3	壺	沈縫、ミガキ	ミガキ、沈縫		B133	86-35
16	SD02 1+2 層	壺	沈縫、ミガキ、縹文	ミガキ		B334	87-1
17	SII1	壺	ミガキ、沈縫、植物茎回転文	ミガキ?		B100	87-2
18	SD00、床上～中層	壺or深鉢	ミガキ、沈縫、縹文LR(充填)	ミガキ		B338	87-3
19	SII6・07 埋土	不明	ミガキ、沈縫、植物茎回転文	ヘラナデのちミガキ		B326	87-4
20	II区・Ⅱ層	不明	植物茎回転文、沈縫	ミガキ		B235	87-5
21	II区・Ⅱ層	不明	沈縫、植物茎回転文、ミガキ	ミガキ		B72	87-6

第96図 弥生土器（2）



第97図 刮削石器

IV 第31次調査

1. 調査の方法と調査経過

今回の調査地点は、南小泉遺跡の西端部、若林城の北側に位置している。調査区の現状は南西に向かって緩やかな傾斜をもつ標高13m前後の畠地であり、開発対象面積は約2,130m²である。このうち現在使われている道路の西側拡幅工事部分約150m²を調査した（第98図）。

表土の排除は重機によって行い、その後人力により遺構検出作業を行ないながら、一部調査区の拡張を行なっている。

発掘調査は平成8年9月17日に開始され、11月14日に終了した。

2. 調査区の設定

対象区は、第98図のように設定した。調査区の北東部を原点として、これから調査区の方向にあわせて基準線を設け、これを元にして調査区内に3×3mのグリットを設定し、遺構実測を行なったほか、基準線で3mに区画されるグリットを遺構外遺物の取り上げ単位とした。グリット名称は、原点から南に1、2、3……、西にA、B、C……とした。南北基準線は、真北に対してN-12°-Wである。

その後基準点測量を委託し、国家座標に位置付けた。

C-6 X=-195776.023 km Y=6431.127 km

C-18 X=-195811.987 km Y=6429.015 km

3. 調査の概要

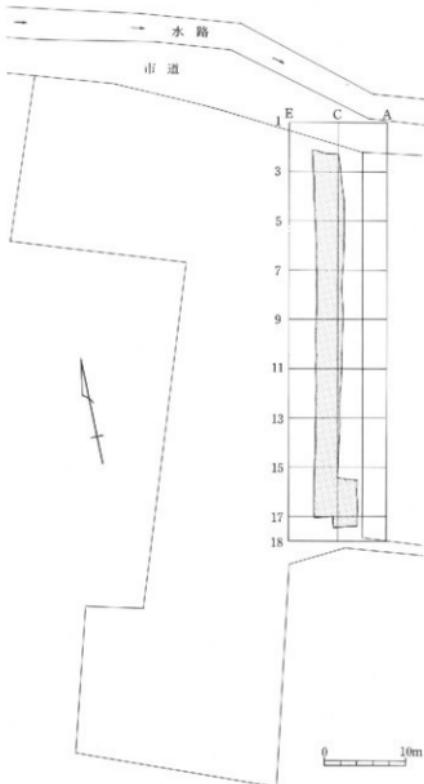
今回の調査区は、南小泉遺跡の西端部で、若林城の北約300mに位置している。これまでに、南東側で都市計画道路建設による第22次調査、南西側で第23次調査が行なわれている（第99図）。

調査区は畠地であったが耕作による影響が比較的少なく、遺構面が良好な形で検出された。しかし、試掘調査時のトレンチにより一部検出面が削平された遺構もある。

検出された遺構は、古墳時代後期～平安時代の堅穴住居跡及び堅穴遺構8軒、溝跡5条、土坑33基、小溝状遺構群、ピット約180基があった。この他、奈良時代以降の鍛冶遺構と考えられる堅穴遺構1基、関連するピット群などが検出されている（第101図）。

遺物は、平箱で約10箱出土している。ほとんどは土師器の破片であるが、第22次調査と同様に関東系の土師器がまとまって出土している。

今回の調査は、第22次調査とともに、これまであまり調査の行なわれていない南小泉遺跡の西端部の様相を考えるうえで貴重な成果となった。



第98図 第31次調査区配置図

4. 基本層序

南小泉遺跡の立地する地域は、一般的にはシルト質の土壤が主体をなしている。調査区の現況は畑地であり、I層は耕作土、II層は黒褐色土、III層上面が遺構検出面である（第100図）。I～III層は調査区全域に共通した層序である。調査区断面の観察によれば、小溝状遺構群やピットの多くはIII層を切って埋込まれている。

下層については、調査区を設定しての掘り下げは行なわずSD03の壁面での観察によった。にぶい黄褐色～にぶい黄橙色のシルト層と砂質シルトが互層になって連続している。遺構検出面下1.4m（標高11.4m）となるSD03の底面に礫面がみられたが、これが礫層面としてとらえられるものかは不明である。

I層：層厚20～25cm 耕作土。5Y3/1 オリーブ黒色

II層：層厚10～15cm 2.5Y3/2 黒褐色

III層：層厚5～10cm 10YR3/1 黒褐色 部分的に10YR3/3暗褐
色土を含む。遺構検出面。

5. 発見された遺構と出土遺物

調査区北側をI区、中央部をII区、南側をIII区として調査に入った。特にI区からII区にかけて遺構が集中しており、南に行くに従って遺構の密度は低くなる傾向がみられた。また、耕作等の影響も少なく比較的良好な遺存状況であった。しかし、調査区の幅が3m前後と狭いため住居跡及び竪穴状遺構については、その一部しか調査できなかった。

（1）古墳時代から平安時代

古墳時代から平安時代に属する遺構としては、竪穴住居跡6軒、竪穴遺構2基、土坑等がある。

①竪穴住居跡・竪穴遺構

SI 02 竪穴住居跡（第102～105図）

【位置】 I区南（C-5・6）に位置し、SI07・09・11を切っている。

【平面形・規模】 東側の一部を検出したのみで、そのほとんどが調査区外にかかっているが平面形は方形を呈するものと考えられる。規模は、東壁460cm、北壁100cm以上を計る。方向は、東壁でN-12°-Eである。

【堆積土】 墓土は、6層に分けられた。埋土中3層は、炭化物の集積層となっている。

【壁・床面】 壁はほぼ垂直に立ち上がり、残存する壁高は北壁30～40cm、東壁10～30cmを計る。

【柱穴・ピット】 ピットは1基検出された。

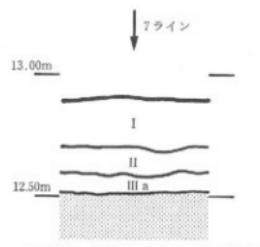
【周溝】 周溝は、東壁沿いに検出された。幅8～35cm、深さ3～11cmを計る。

【床面施設】 北東のコーナー部でSK1・2、南西部の調査区壁側でSK3を検出した。SK1は、平面形は円形を呈し、大きさは100×85cm、深さは30cmを計る。SK2は、平面形は隅丸方形を呈し、大きさは85×55cmで、深さは16cmを計り、周溝を切る。SK3は、西側が調査区外にかかっているが円形を呈するものと考えられる。大きさは、185×65cm以上である。深さは19cmである。SK1・2からは、須恵器の壺等（第105図）が出土しており貯蔵穴の可能性もある。

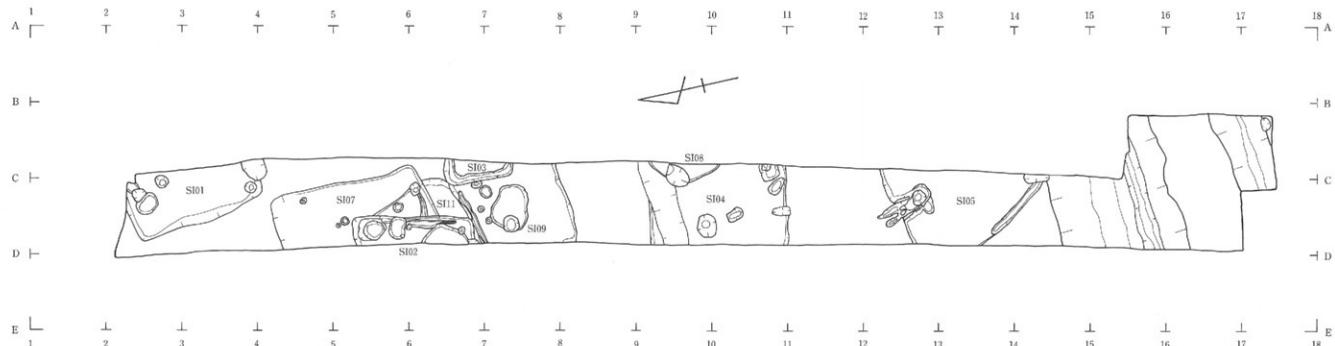
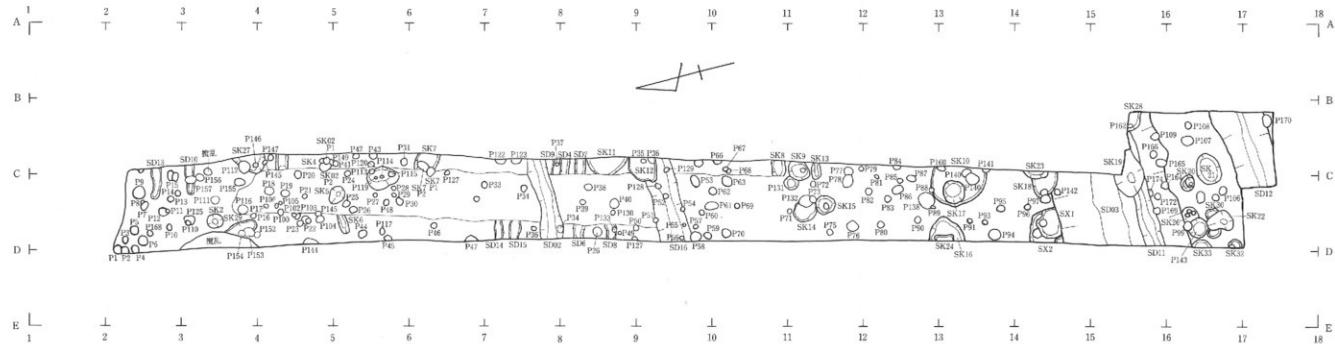
【カマド】 カマドは検出されなかった。



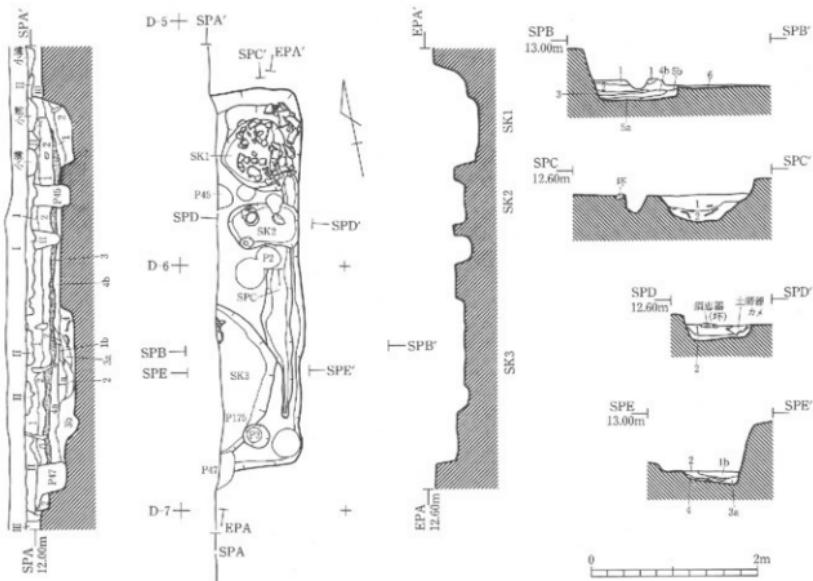
第99図 31次調査区位置図



第100図 基本層序（7ライン東壁）



第101図 第31次調査遺構配置図



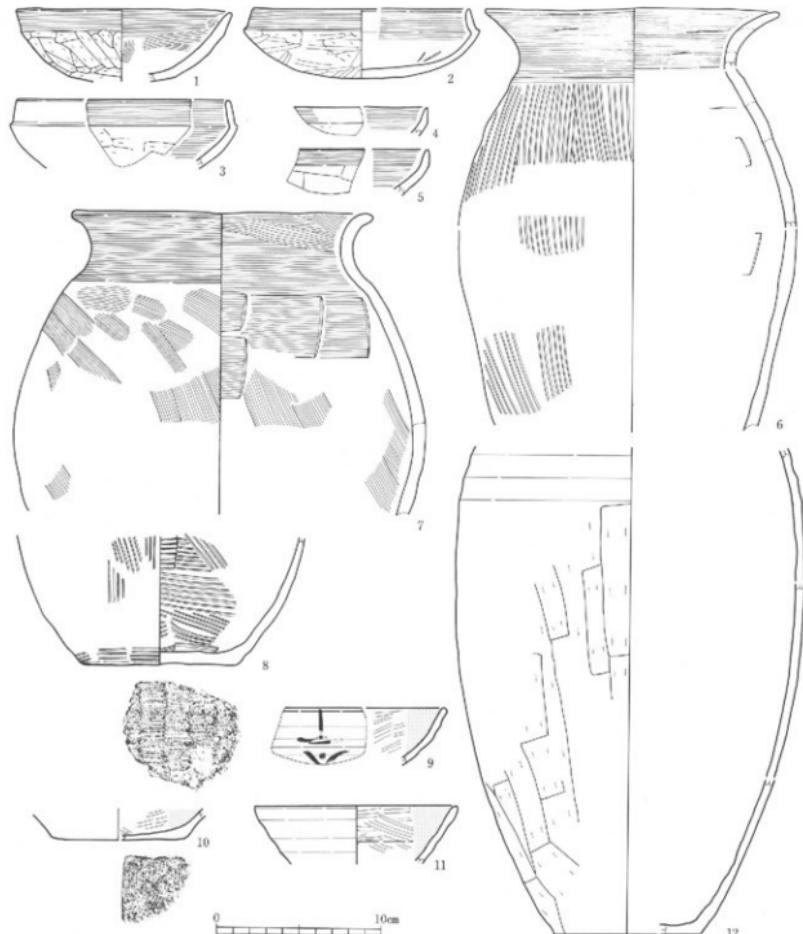
SI02 墓土註記表

層位	土色	土性	備考
1層	10YR2/2 黒褐色	シルト	炭化物粒混入する
2層	10YR3/2 黒褐色	シルト	炭化物粒が多量に混入する、西壁側で10YR5/3 ブロック状に混入する
3層	10YR2/1 黒色	シルト	炭化物粒・焼土粒混入する
4 a 層	2.5Y3/2 黒褐色	シルト	焼土粒・炭化物粒混入する
4 b 層	2.5Y3/3 達オリーブ褐色	シルト	炭化物粒若干混入する
5 a 層	10YR2/3 黒褐色	シルト	焼土粒・炭化物粒混入する
5 b 層	10YR2/2 黒褐色	シルト	焼土粒・炭化物粒混入する
6層	10YR3/2 黒褐色	シルト	炭化物粒混入する、10YR6/4 が若干混入する

SI02 床面検出造構縦断表

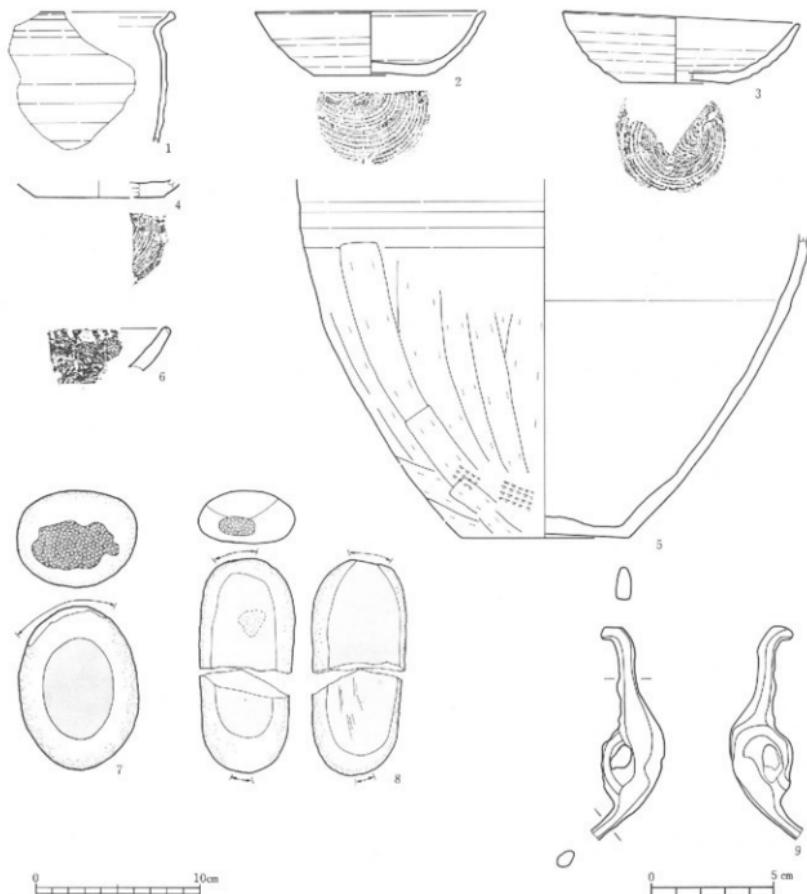
造構名	平面形	規模(cm)	高さ(cm)	層位	土色	土性	備考	
							上層	下層
土坑	SK1 円形	85×80	-30.0	1層	10YR2/2 黒褐色	シルト	焼土・炭混層	
				2層	10YR2/2 黒褐色	シルト	炭化物粒混入	
	SK2 長椭円形	85×50	-16.0	1層	10YR3/2 黒褐色	砂質シルト	炭化物・焼土粒混入、上層に焼土・炭混層	
				2層	10YR2/2 黒褐色	砂質シルト	炭化物粒が若干乱層	
	SK3 不整円形	185×(65)	-4.5~19	1 a 層	5YR3/2 暗赤褐色	シルト	炭化物粒・繊維状混入	
				1 b 層	7.5YR3/3 暗褐色	シルト	炭化物粒混入	
ピット	P-3 円形	32×28	-17.8	1層	10YR3/2 黒褐色	シルト	10YR4/2 にいえ黄褐色	シルト
					10YR4/2 暗黃褐色	シルト	焼土粒・炭化物粒混入	
				3 a 層	10YR4/2 暗褐色	シルト	10YR5/1 がブロック状に混入	
				3 b 層	10YR4/2 暗褐色	シルト	炭化物粒子混入、10YR6/4 ブロック状に混入	
				4層	2.5Y3/2 黒褐色	シルト	10YR5/6 ブロック状に混入、炭化物粒混入	

第102図 SI02 穫穴住居跡平面図・断面図



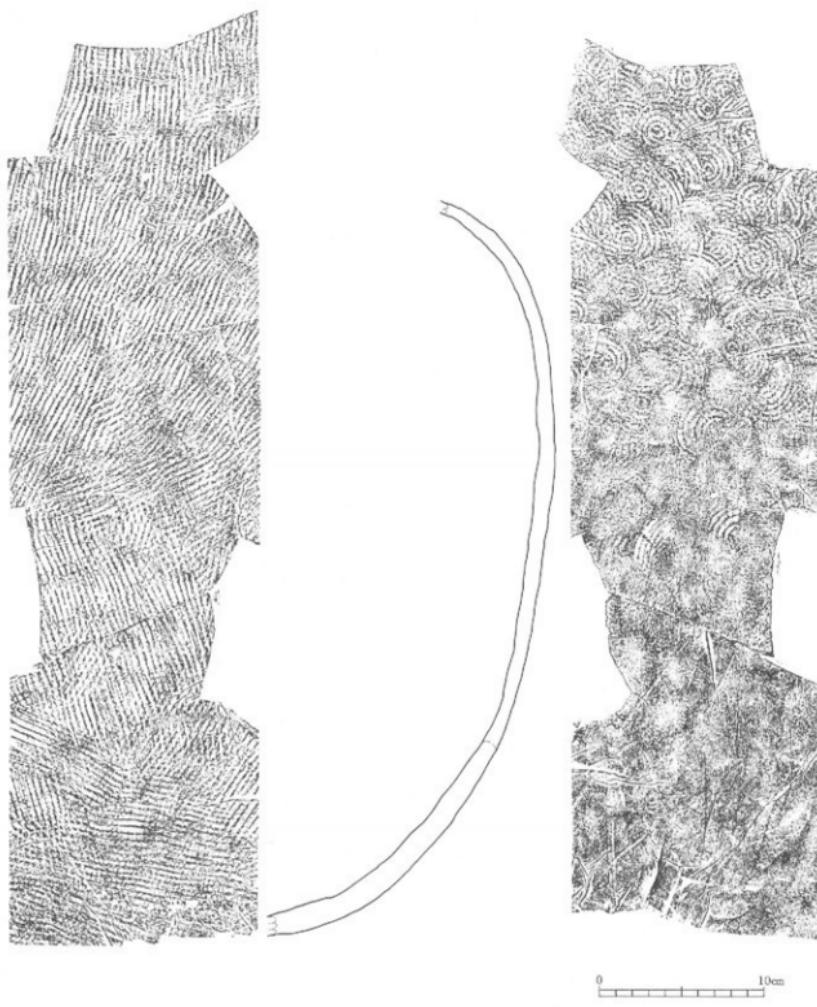
番号	地区・層位	判別	器體	L径(cm)	幅(cm)	高さ(cm)	残存	外　面		内　面	個号	登錄	写真
								左	右				
1	床面 土脚邊	坪	(13.0)				1/4	(□)ココナデ (体)ヘラケズリ		(□)ココナデ、ナデ	C 2		
2	SK3 土脚邊	坪	(13.2)	4.3	3/4		(□)ココナデ (体)ヘラケズリ→ヘラミズキ			(□)ココナデ (体)ヘラナデ	C14	115-1	
3	床面 土脚邊	坪	(13.0)		1/8		(□)ココナデ (体)ヘラケズリ?			(□)ココナデ	C18	115-2	
4	SK1 土脚邊	坪					(□)ココナデ (体)ヘラケズリ?			(□)ココナデ	C26	115-3	
5	SK1 土脚邊	坪					(□)ココナデ (体)ヘラキズキ			(□)ココナデ	C15	115-4	
6	SK1+SK6 土脚邊	壁	17.8		1		(□)ココナデ (体)ハケメ			(□)ココナデ (体)ヘラナデ	体下は四 上は元	C 1	115-5
7	SK3+P3 土脚邊	壁	(17.7)		1/4		(□)ココナデ (体)ヘラナデ、ナデ			(□)ココナデ (体)ヘラナデ	C14B	115-6	
8	SK1 土脚邊	壁	(9.5)		1/4		(骨)ハケメ (3)縄繩物質			(骨)ハケメ (3)ヘラナデ	C 3		
9	SK1 土脚邊	坪					コクナデ			ヘラミズキ、黑色処理	D 4		
10	SK1 土脚邊	坪	(8)		1/4		(骨)回転赤切り			ヘラミズキ、黑色処理	D 1		
11	SK1 土脚邊	坪	(12.4)		1/6		コクナデ			ヘラミズキ、黑色処理	D 2		
12	PS+SK3 土脚邊	壁	9.0		Ku1		(骨)ココナデ (体)ヘラケズリ			(骨)ココナデ (壁)ナデ	D23		

第103図 SI02 穴竪住居跡出土遺物 (1)



番号	地区・層位	施別	縦幅	横幅(cm)	厚さ(cm)	重さ(g)	現存	外　面		内　面	備考	空缺	写真
								左	右				
1	SK1 P5	土師器	壺					ロクロナゲ		ロクロナゲ		D14	
2	SK1+SK3 P9	陶器	壺	14.0	7	4.0	1/2	ロクロナゲ(底)斜面糸切り		ロクロナゲ		E1	115-7
3	SK1 P30	陶器	壺	14.5	6.6	4.3	1/2	ロクロナゲ、斜面糸切り		ロクロナゲ		E2	115-8
4	埋下下層	土師器	壺	(10)			1/6	斜面糸切り				C296	
5	SK1+SK3	陶器	壺	10			底1	(底)ロクロナゲ(体下)平行テテキ→ハラケズリ (底)平行テテキ→ハラケズリ		ロクロナゲ		E13	115-9
6	埋下上層	土器?						ナゲ(口唇)キサミ		ヨコナゲ		G8	
<hr/>													
番号	地区	層別	施別	縦幅	横幅(cm)	厚さ(cm)	重さ(g)	現存	特　徴	内　面	備考	空缺	写真
7	埋石器	38-1段			70	57	31	300				Kd19	119-1
8	SK 2	埋石器	壺+蓋	99.2	21.2	96.6	515					Kd20	119-2
9	SK 1	鉢形壺		(87)	5~7	8~13	37.2	片端欠損				N19	120-9

第104図 SI02 積穴住跡出土遺物 (2)



第105図 S102 竪穴住居跡出土遺物（3）

番号	地区・測位	種別	始期	L(件)	幅(メ)	深さ(メ)	現存	外 出	内 面	備考	物語	写真
SK 1	立窓部	壁					平行タタキ		(体)W(心)W(アメ) (体上)アメーナギ		E14	

【出土遺物】堆積土・床面・土坑より土師器（ロクロ・非ロクロ）・須恵器・赤焼土器・礫石器・鉄製品・石製模造品が出土している。第103図8は底面に編み物のような圧痕がある。第103図9は墨書きが認められる。「卒」の可能性がある。第104図6は口唇部にキザミが施されている土器片である。第105図はSK1 土坑出土の須恵器壺である。底部から体部上半にかけて約1/5の破片である。

SI 07 積穴住居跡（第106・107図）

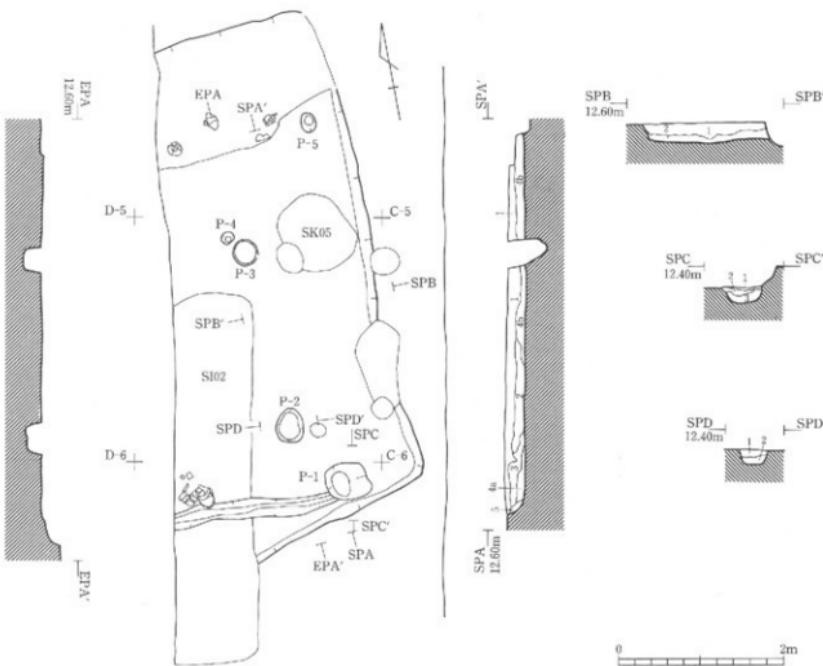
【位置】I 区中央（C-4～6、B-5・6）に位置している。南西部を SI02 に切られているが、SI11 を切っている。西側が調査区外にかかっている。

【平面形・規模】東側の一部を検出したのみで、北壁ラインは推定である。平面形は方形を呈するものと考えられる。規模は、東壁500cm、南壁240cm以上を計る。方向は、東壁で N-3°-E である。

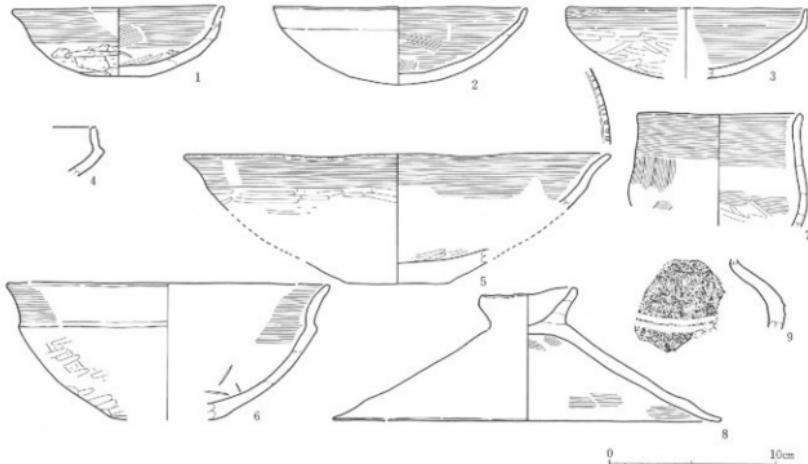
【堆積土】埋土は5層に分けられた。

【壁・床面】壁はほぼ垂直に立ち上がり、残存する壁高は、東壁13～16cm、南壁10～13cmである。床面は堅くしまっており平坦である。

【柱穴・ピット】ピットは5基検出された。P-2は、43×33cmの不整円形を呈し、検出面では柱痕跡があり、柱穴と考えられる。また、P-3は、柱痕跡は確認できなかったものの、その位置、大きさ、深さがP-2とほぼ一致することからこれも柱穴の可能性が考えられる。



第106図 SI07 積穴住居跡平面図・断面図



SI07 住居跡出土遺物

番号	地区・層位	断面	断面	L(㎝)	W(㎝)	H(㎝)	既存	外 面	内 面	備 考	登 録	写 真
1	P 5	土師器	坏	(13.0)	3.6	4.8	既存	(□)ヨコナデ (体)ヘラケズリ	(□)ヨコナデ (体)ヘラテデ→ヘラミガキ	C165	19-9	
2	P 1	土師器	坏	15.4		4.8	1		ナデ	C165	19-9	
3	埋土 1 段	土師器	坏	(14.6)		4.3	1/4	(□)ヨコナデ (体)ヘラミガキ	ヨコナデ	C164	19-8	
4	P 3	土師器	坏					(□)ナデ (体)ヘラケズリ?	ナデ	C151	19-8	
5	P3+P4	土師器	坏	(26.0)	6.4		既存	(□)ヨコナデ (体)ヘラミガキ	推定復元 C147	19-1		
6	P 6	土師器	坏	(19.8)			1/4	(□)ヨコナデ (体)ヘラケズリ→ヘラミガキ	(□)ヨコナデ	C166	19-2	
7	埋土 1 段	土師器	壞	16.0			1/2	(□)ヨコナデ (体)ヘラナデ	(□)ヨコナデ (体)ナデ→ヘラミガキ	益密均斑 C168	19-4	
8	P 2	土師器	壞	(23.6)		8.2	1/3		ナデ	C146	19-3	
9	埋土下層	陶質土						施釉下に波状文	ロコロナデ	該?	E48	

第107図 SI07 積穴住居跡出土遺物

SI07 埋土記録表 (第106回)

層 位	土 色	土 性	備 考
1 層	10YR3/3 暗褐色	シルト	
2 層	10YR5/4 にぼい黄褐色	シルト	10YR3/3 暗褐色をブロック状に混入
3 層	10YR5/4 にぼい黄褐色	シルト	10YR3/3 暗褐色を斑状に混入
4 a 層	10YR3/2 黒褐色	シルト	
4 b 层	10YR3/2 黒褐色	シルト	10YR5/2 灰黄褐色をブロック状に混入
5 層	10YR5/6 黄褐色	シルト	10YR3/2 黑褐色を斑状に混入

SI07 床面検出遺構発表表

遺構名	平面形	規模(cm)	深さ(cm)	層位	土 色	土性	備 考
ピット	P-1 楕円形	55×45	-24.3	1層	10YR3/3 暗褐色	シルト	炭化物混入
				2層	10YR5/3 にぼい黄褐色	シルト	10YR3/3 暗褐色をブロック状に混入
				3層	10YR4/3 にぼい黄褐色	シルト	10YR5/1 暗褐色をブロック状に混入
	P-2 楕円形	43×33	-18.9	1層	10YR3/1 黒褐色	シルト	10YR6/1 暗褐色をブロック状に混入
	P-3 円形	32×32	-23.1	1層	10YR6/1 暗褐色	シルト	10YR6/1 黑褐色、10YR5/4 にぼい黄褐色を斑状に混入
P-4	円形	18×15	-17.5	1層	10YR3/2 黒褐色	シルト	
P-5	楕円形	25×20	-12.0	1層	10YR3/2 黒褐色	シルト	

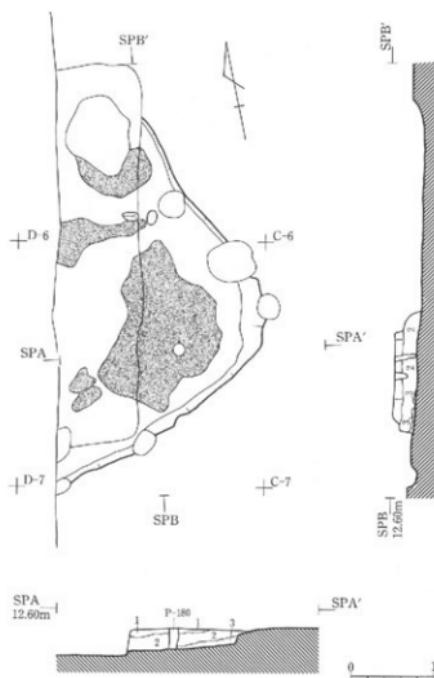
【周溝】周溝は住居南側で検出されたが、南壁とは方向が異なり、北側へ入りこんでいる。幅は15~25cm、深さは4~10cmを計る。

【カマド・床面施設】カマド及び床面施設は検出されなかった。

【出土遺物】堆積土・床面より土師器（非クロロ）・須恵器・石製模造品が出土している。第107図1は、周溝側の床面で出土した土師器環である。2・8は、住居北側の床面で出土した土師器環及び蓋である。

SI 11 積穴住居跡（第108図）

【位置】I区南側（C-5・6）に位置している。SI02及びSI07に切られている。西側が調査区外にかかっている。



【平面形・規模】南東コーナー部を検出したのみであるが、その形状から平面形は方形を呈するものと考えられる。規模は、東壁380cm以上、南壁300cm以上を計る。方向は、東壁でN-21°-Wである。

【堆積土】埋土は3層に分けられた。

【壁・床面】壁は、なだらかに立ち上がる。残存する壁高は、東壁12~17cm、南壁4~9cmを計る。床面の残りはわるく、北に向かって傾斜している。南側の床面が若干高くなっている、北側床面との比高差は、14cm程である。床面全域に炭化物が広がっていたことから焼失構造の可能性もある。

【柱穴・ピット】ピットは検出されなかった。

【周溝】周溝は検出されなかった。

【床面施設】床面施設は検出されなかった。

【出土遺物】堆積土及び床面から土師器片等が出土しているが図示できるものはない。

SI 11 墓土記表

層位	土色	土性	備考
1層	2.5Y3/3 遷オリーブ褐色	シルト	
2層	2.5Y4/3 オリーブ褐色	シルト	
3層	2.5YR3/2 黒褐色	シルト・炭化物混入	

SI 11 住居跡出土遺物（第109図）

番号	地区・層位	種別	測量	U深(㎝)	透視(㎝)	断面(㎝)	現存	外 面	内 面	備考	登録	写真
1	縄土上層	土師器	杯	(14.0)			1/8	(□) ヨコナダ (実) ヘラミガキ	ヨコナダ		C16	3-3
2	縄土上層	土師器	杯					(□) ヨコナダ (実) ヘラミガキ	ヨコナダ		監門1号	C17
3	灰土	神石類	結石?	73	69	22	90				Kd21	119-3

第108図 SI 11 積穴住居跡平面図・断面図

SI 03 穫穴住居跡（第109図）

【位置】 II区北側 (B- 6・7) に位置している。SI09 を切っている。東側の大半が調査区外にかかっている。新旧2時期が考えられる。

【平面形・規模】西側の一部を検出したのみであるが、平面形は方形を呈するものと考えられる。規模は、西壁280cm、北壁110cm以上を計る。方向は西壁でN-0°-Eである。

【堆積土】埋土は5層に分けられ、古段階の埋土は2層に分けられた。

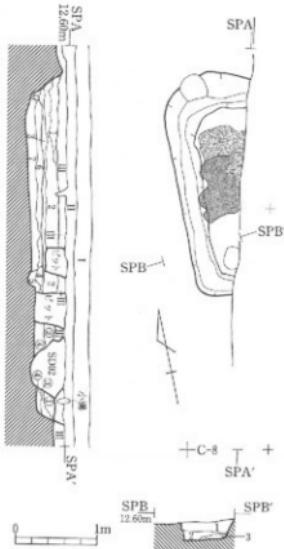
【壁・床面】壁はほぼ垂直に立ち上がり、壁高は、西壁8~13cm、北壁20cmを計る。床面の直上に焼土及び炭化物が5cm程の厚さにほぼ全面に堆積していた。このことから焼失住居の可能性も考えられる。SI09の床面精査時にSI03の古段階と考えられるプランが検出された。古段階の住居はほぼ同じ平面形を呈し、新段階の床下14cmで古段階の床面が検出されている。西壁沿いで周溝の一部を検出し、長さ140cm、幅16~20cm、深さ3~5cmを計る。

【柱穴・ピット】ピットは検出されなかった。

【周溝】壁面に沿って周回する周溝が検出された。幅は30~34cm、深さは8~11cmを計る。

【床面施設：カヌード】床面施設及びカヌードは検出されなかった。

【出土遺物】堆積土・床面より土師器（非ロクロ）・須恵器・石製模造品
が出土している

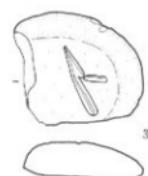
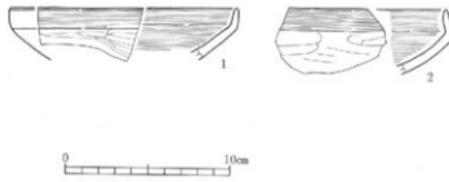


8103

SH03 土理計測表				
層	土 色	土 性	傳	考
1 層	10YR3/2 黒褐色	シルト	10YR5/6 黄褐色土ブロック状に混入	
2 層	10YR2/2 黒褐色	シルト	下部に模倣物粒・純土粒混入、10YR5/6 ブロック状に混入	
3 層	10YR2/1 黒色	炭集積層	純土ブロック混入	
4 層	10YR3/2 黒褐色	シルト	純土粒混入、10YR5/4 に黒褐色土混入	腐溝埋土
5 層	10YR2/3 黒褐色	シルト	炭化物粒混入	
6 层	10YR3/2 黑褐色	シルト	炭化物粒子混入、10YR4/2 灰黒褐色土混入	古階段埋土
7 层	10YR2/3 黑褐色	シルト	炭化物土粒混入	

S109 摺土柱記表

層位	土色	土性	備考
①層	10YR4/6 褐色	シルト	炭化物粒子がわずかに混入
②層	10YR3/2 黒褐色	シルト	炭化物粒子がわずかに混入
③層	10YR4/4 褐色	シルト	炭化物粒子がわずかに混入
④層	10YR3/4 黑褐色	シルト	10YR5/2 灰黃褐色土ブロック状に混入



第109図 SI03 竪穴住居跡・出土遺物

SI 09 穫穴住居跡（第110・111図）

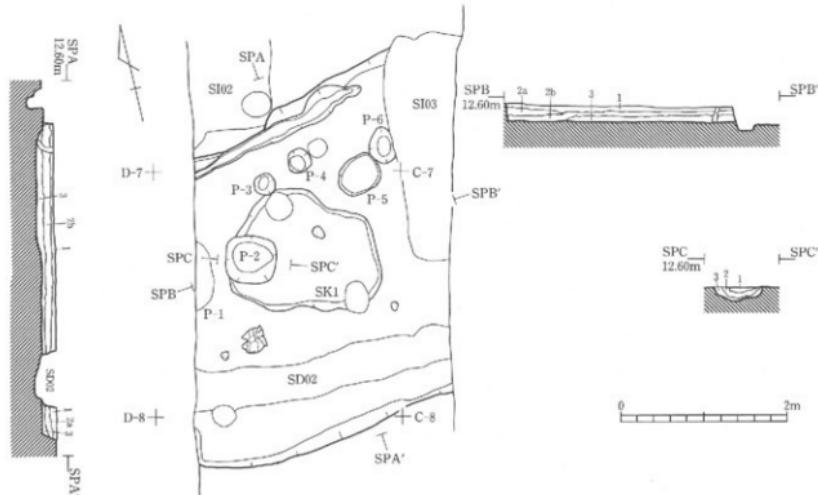
【位置】II区北側（B-7、C-6～8）に位置している。SI02・03及びSD02に切られる。調査区を横断するよう検出され、東側と西側は調査区外にかかっている。

【平面形・規模】東西両端が調査区外に延びるため不明である。規模は北壁270cm以上、調査区西側壁面375cmを計る。方向は、南壁でN-81°-Eである。

【堆積土】埋土は3層に分けられた。

【壁・床面】壁はほぼ垂直に立ち上がっており、残存する壁高は北壁9～16cm、南壁16～18cmである。床面は堅くしまっておりほぼ平坦である。中央部に貼り床が施されていた。

【柱穴・ピット】ピットは6基検出された。そのうちP-1は、調査区壁面での断面観察によってSI09を切る新しいものであることが分かった。他の5基は、SI09に伴うものと考えられるが、掘りこみも浅く、位置的にも柱穴と



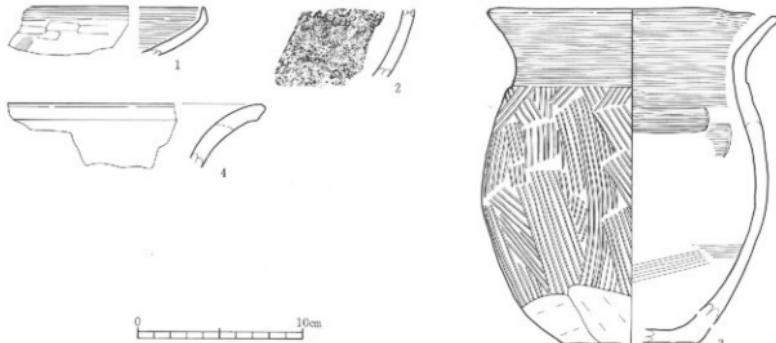
SI09 墓土註記表

層位	土色	土性	備考
1層	10YR3/3 暗褐色	シルト	
2a層	10YR3/3 暗褐色	シルト	10YR5/4 による黄褐色斑状に混入
2b層	10YR3/3 暗褐色	シルト	10YR5/4 による黄褐色ブロック状に混入
3層	10YR3/2 黒褐色	炭化物鉱・焼粒鉱わずかに混入	

SI09 床面検出遺構観察表

遺構名	平面形	規模(cm)	深さ(cm)	層位	土色	土性	備考
ピット	P-2 方形	60×60	-20.0	1層	10YR3/2 暗褐色	シルト	10YR5/4 による黄褐色斑状に混入
				2層	10YR5/1 暗灰色	シルト	10YR3/3 暗褐色ブロック状に混入
				3層	10YR3/3 暗褐色	シルト	
	P-3 円形	27×26	-16.1	1層	10YR3/2 黑褐色	シルト	
P-4 不整形	28×28	-14.2	1層	10YR3/2 黑褐色	シルト		
P-5 不整形	54×46	-3.0	1層	10YR3/2 黑褐色	シルト		
P-6 不整形	46×(30)	-6.5	1層	10YR3/2 黑褐色	シルト		
土坑	SK1 不整形	(190)×150	-3.5	1層	10YR3/2 黑褐色	シルト	

第110図 SI09 穫穴住居跡平面図・断面図



番号	地区・部位	種別	断面	口幅(cm)	底径(cm)	高さ(cm)	既存	外 面	内 面	名前	参考 写真
1	溝3期	土師器	坪					(□)ヨコナメ(体)ヘラミガキ、ナデ	ヨコナメ		C109
2	P 2	土師器						(□)ヨコナメ			C84
3	P 2	土師器	底	17.6	7.8	20.8	③④⑤	(□)ヨコナメ(底)ハケメ(体)ヘラケズ	(□)ヨコナメ(体)ヨコナメ(底)ヘナデ		C89 116-7
4	P 2	土師器	底					ヨクロナメ	ヨクロナメ		C86

第111図 SI09 積穴住居跡出土遺物

認められるものはなかった。P-2は隅丸方形で、大きさは60×60cm、深さは20cmを計る。

【周溝】周溝は北壁沿いで検出された。幅は5~10cm、深さは8~15cmを計る。

【床面施設】貼り床部分の下に不整形な土壟状の浅い凹みが検出された。P-2に切られ、大きさは、長軸が約190cm、短軸が約150cm、深さは3~4cm程度で、掘り方と考えられる。

【出土遺物】堆積土・床面より土師器（非ヨクロ・ヨクロ）・須恵器・鉄滓が出土している。第111図3は、床面に横位で出土したほぼ完形の土師器甕である。

SI 04 積穴住居跡（第112・113図）

【位置】II区中央部（B-C-9・10）に位置しており、SI08及びSD16に切られる。

【平面形・規模】調査区を横断するように検出され、東側と西側は調査区外にかかっている。規模は、北壁200cm以上、南壁317cm以上で、調査区西壁面で530cmを計る。方向は、南壁でN-80°-Wである。

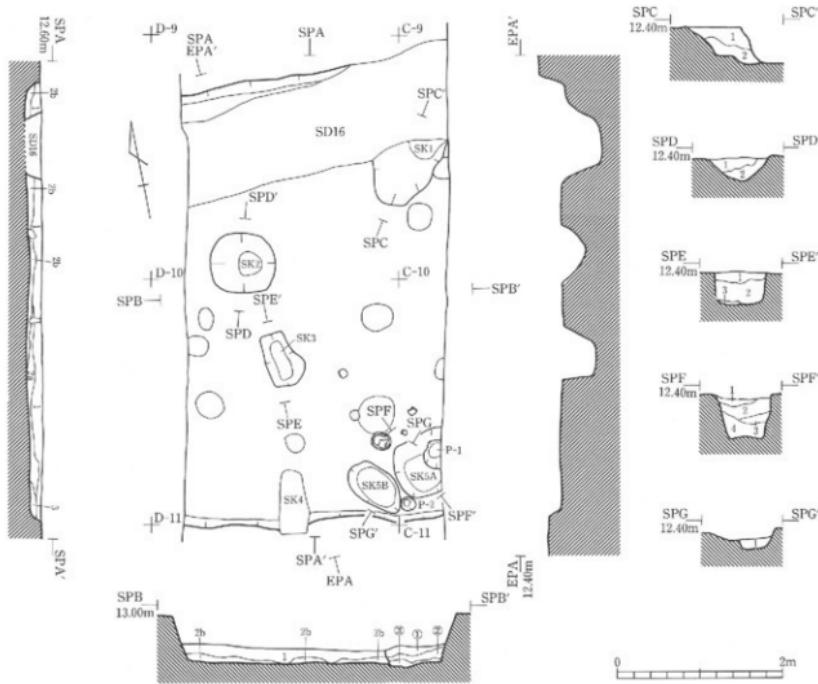
【堆積土】埋土は2層に分けられた。

【壁・床面】壁はほぼ垂直に立ち上がり、残存する壁高は、北壁16~20cm、南壁11~18cmである。床面はほぼ平坦で堅くしまっている。中央部には白色粘土の広がりがあった。

【柱穴・ピット】ピットは2基検出された。P-1は、SK5Aを切っており、平面形は円形を呈し、34×20cm、深さ26cmを計る。位置的に柱穴の可能性がある。

【周溝】周溝は検出されなかった。

【床面施設】5基の土坑を検出した。このうちSK3は、この住居を切る新しいものである。SK1は北側がSD16に切られており平面形は不明である。大きさは東西が73cm、南北が85cm以上、深さは45cmを計る。SK2は大きさが80×73cm、深さは30cmを計る。底面に直径30cm程度の窪みが見られた。SK5は、2基の土坑の重複であることが分かり、新しいものをSK5A、古いものをSK5Bとした。SK5Aは大きさが70×57cm以上で、深さ54cm、SK5Bは大きさが80×45cm、深さ12cmを計る。SK5Aの北側の床面から第113図5の土師器甕が出土している。



SI04 墓土記表

層位	土色	土性	備考
1 層	10YR4/2 淡黄褐色	シルト	固くしまった層
2 a 層	10YR3/2 黑褐色	シルト	
2 b 層	10YR3/3 暗褐色	シルト	10YR5/4 黄褐色がブロック状に混入
① 層	10YR4/2 淡黄褐色	シルト	10YR3/1 黑褐色が斑状に混入
② 層	10YR3/1 黑褐色	シルト	炭化層、10YR4/3 にぼい黄褐色が若干混入
③ 層	10YR3/1 黑褐色	シルト	10YR6/4 にぼい黄褐色とのブロック層

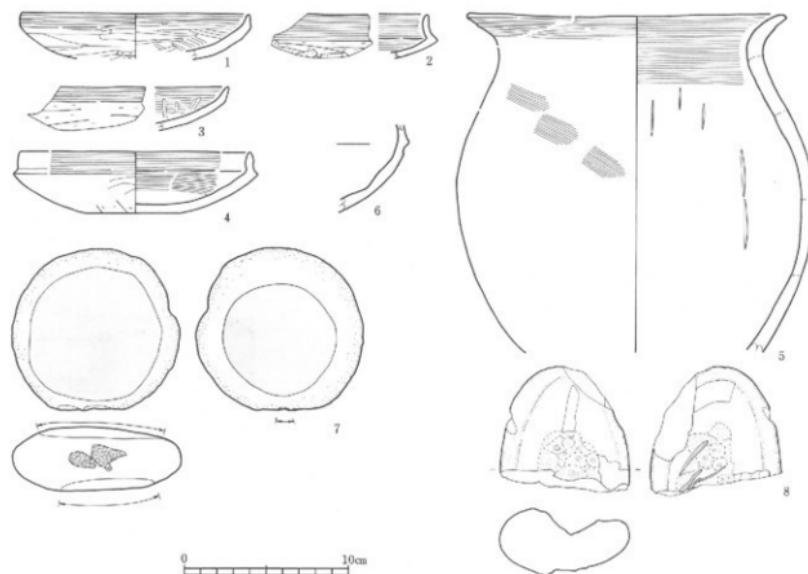
SI04 床面検出遺構記表

遺構名	平面形	規模(cm)	高さ(cm)	層位	土色	土性	備考
SK 1	不整形	(8.5) × 73	-45	1層	10YR3/2 黑褐色	シルト	炭化物混入
				2層	10YR3/1 黑褐色	シルト	炭化物混入、下層に10YR4/1 グライ士ブロック状に混入
SK 2	円形	80 × 73	-30	1層	10YR3/3 暗褐色	シルト	10YR5/4 にぼい黄褐色斑状に混入
				2層	10YR3/2 黑褐色	シルト	10YR5/1 暗灰色、グライ土、ブロック状に混入
SK 3	不整形	62 × 45	-42	1層	10YR3/3 暗褐色	シルト	10YR5/1 暗灰色、グライ土、ブロック状に混入
				2層	10YR3/1 黑褐色	シルト	10YR5/1 海灰色、グライ土、ブロック状に混入
				3層	10YR4/3 にぼい黄褐色	砂質シルト	
SK5A	方形	70 × (57)	-54	1層	10YR2/2 黑褐色	シルト	10YR5/4 にぼい黄褐色ブロック状に混入
				2層	10YR2/2 黑褐色	シルト	
				3層	10YR5/4 にぼい黄褐色	砂質シルト	
				4層	10YR2/2 黑褐色	シルト	10YR5/3 にぼい黄褐色斑状に混入
SK5B	横円形	80 × 45	-12	1層	10YR3/3 黑褐色	シルト	10YR5/4 にぼい黄褐色ブロック状に混入
P - 1	円形	34 × 20	-26				
P - 2	円形	18 × 16	-11				

第112図 SI04 積穴住居平面図・断面図

【カマド】カマドは検出されなかった。

【出土遺物】堆積土・床面・土坑より土師器（非ロクロ）・須恵器・礫石器・石製模造品・鉄滓が出土している。



番号	地区・層位	種別	断面	D(㎝)	H(㎝)	幅(㎝)	高さ(㎝)	外 面	内 面	備考	世紀	写真
1 SK5	上部層	环		(14.0)			1/4	(□)ヨコナデ(体)ヘラケズリ→ヘラミガキ	ヨコナデ→ヘラミガキ	C119	18世	
2	土師器	环						(□)ヨコナデ(体)ヘラケズリ	ヨコナデ	C225	18世	
3 地土	土師器	环						(□)ヨコナデ(体)ヘラケズリ	ヨコナデ→ヘラミガキ	C223	17世	
4 墓上下層	上部層	环	(14.0)		(3.8)	1/8	(□)ヨコナデ(体)ヘラミガキ、ヘラケズリ	ヨコナデ		C220	17世	
5 P'1	土師器	裏	19.6			1	(□)ヨコナデ(体)ナデ	(□)ヨコナデ(体)ヘラナデ	C184	17世		
6 地土上層	須恵器							ロクロナデ、陶鐵	ロクロナデ	通?	E49	

番号	地区・層位	種別	重 量	幅(㎝)	高 さ(㎝)	厚さ(㎝)	状 態	特 徴	世 紀	写 真	
7	床面	礫石器	磨+敲	98.5	102	39.5	585		Kd24	119-4	
8 SK1	礫石器	凹石		74	79	39.9	190		Kd23	119-5	

第113図 S104 積穴住居跡出土遺物

SI 08 積穴造構（第114図）

【位置】II区（B-9）に位置しており、SI04を切る。

【平面形・規模】北西のコーナー部を検出したのみで平面形は不明である。規模は、北壁で135cm以上、西壁で180cm以上を計る。方向は、西壁でN-10°-Eである。

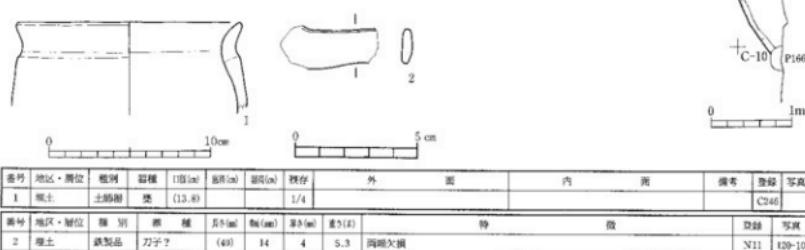
【堆積土】埋土は3層に分けられた（第112図）。

【壁・床面】壁は垂直に立ち上がり、壁高は北壁8~10cm、西壁10~14cmである。

【柱穴・ピット】ピットは検出されなかった。

【周溝・床面施設】周溝、床面施設は検出されなかった。

【出土遺物】堆積土より土師器（非ロクロ）・鉄製品が少量出土している。



第114図 SI08 積穴造構・出土遺物

SI 05 積穴住居跡（第115~117図）

【位置】III区北側（B・C-12・13）に位置し、SK23に切られる。

【平面形・規模】平面形は、方形、若しくは圓丸方形を呈するものと推測されるが、北辺と西辺の方向が鋭角に近いことからカマドの作りかえにともなって改築を行っていることも考えられる。規模は北壁330cm以上、西壁240cm以上を計る。方向は、北壁でN-76°-E、西壁でN-37°-Eである。

【堆積土】埋土は5層に分けられた。

【壁・床面】壁は緩やかに立ち上がっている。残存する壁高は北壁15~20cm、西壁20~22cmを計る。床面は堅くしまっておりほぼ平坦である。

【柱穴・ピット】ピットは検出されなかった。

【周溝】周溝は西壁沿いに検出された。幅は20~30cm、深さは6~9cmを計る。

【床面施設】床面施設は検出されなかった。

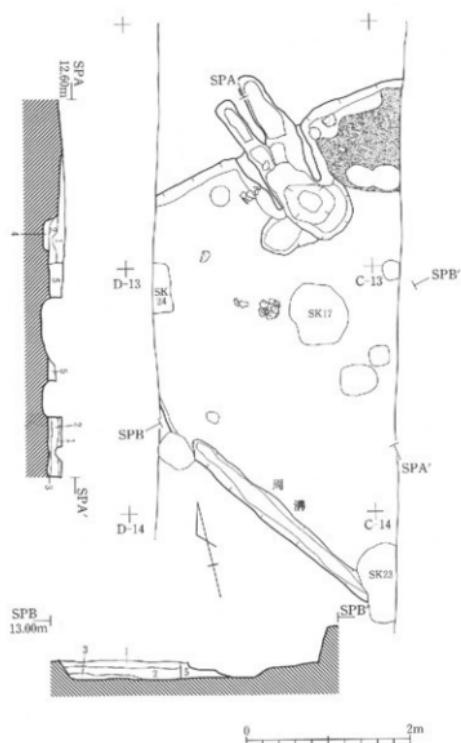
【カマド】北壁のほぼ中央部と考えられる位置で燃焼部と煙道の一部が検出された。煙道部は2本検出され、カマドの作り替えが行われている。2本の煙道の新旧関係については、検出時の状況や方向から見て西側の煙道を作りかえて東側の煙道を作ったものと考えられる。なお、カマド平面図については、調査時の最終段階の図としたことから、新旧関係が逆のかたちになっている。

カマド（新） 天井部ではなく、側壁のみ残存している。規模は、長さ145cm、幅100cmを計る。煙道部は長さ85cm、幅35cmを計る。燃焼部の底面に60×50cm、深さ8cm程の不整形の凹みがみられ、底面が若干変色していた。カマド西側に焼土を伴う50×50cm、深さ6cmの土坑状の浅い凹みが検出された。燃焼部手前に、カマドからの焼土を溜めたと思われる不整円形を呈する土坑を検出している。規模は70×60cm、深さ30cmを計り、底面にはピット状の落ち

こみも見られた。焼土を入れた後に暗褐色土を貼って床面としている。また、カマド東側の床面に100×100cmの範囲で焼土・炭化物が広がっていた。カマドのそで付近から第117図1・6・8の土師器坏が出土している。

カマド(古) カマド(新)の燃焼部底面から10~15cm下で燃焼部の掘りこみが検出され、規模は150×70cmを計る。側壁等ではなく、煙道部は長さ70cm、幅22cmを計る。

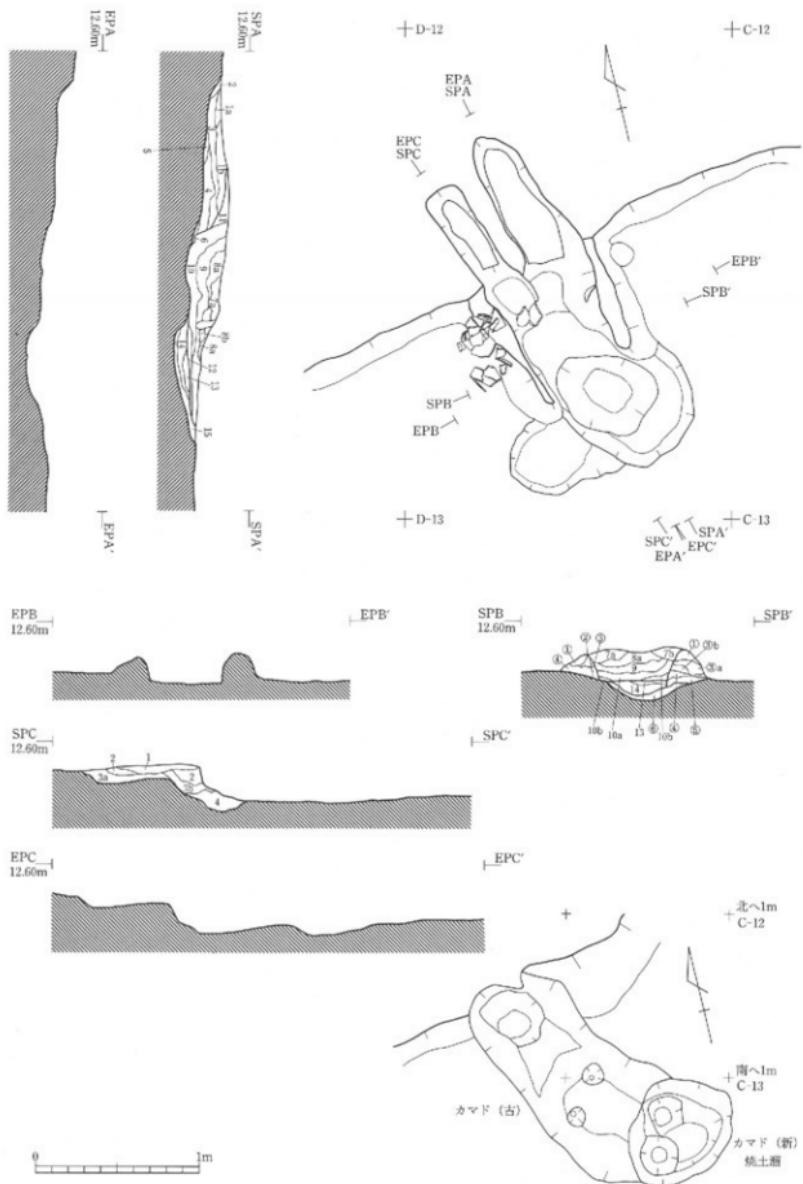
【出土遺物】堆積土・床面・カマドより土師器(非ロクロ)・須恵器が出土している。第117図1は内面に黒色の付着物が施された後、放射状にミガキを施している。7は、住居中央部の床面で出土したほぼ完形の土師器甕である。



SI056 墓土性記表

層位	土色	土性	備考
1層	10YR2/3 黒褐色	シルト	焼土、炭化物混入
2層	10YR3/1 黒褐色	シルト	焼土、炭化物混入
3層	2.5Y3/3 黒褐色	シルト	
4層	10YR2/2 黒褐色	シルト	焼土をブロック状に混入、炭化物混入(カマド埋土)
5層	10YR5/3 にぼい黄褐色	シルト	マンガン斑混入(列遺構埋土か)

第115図 SI05 積穴住居跡平面図・断面図



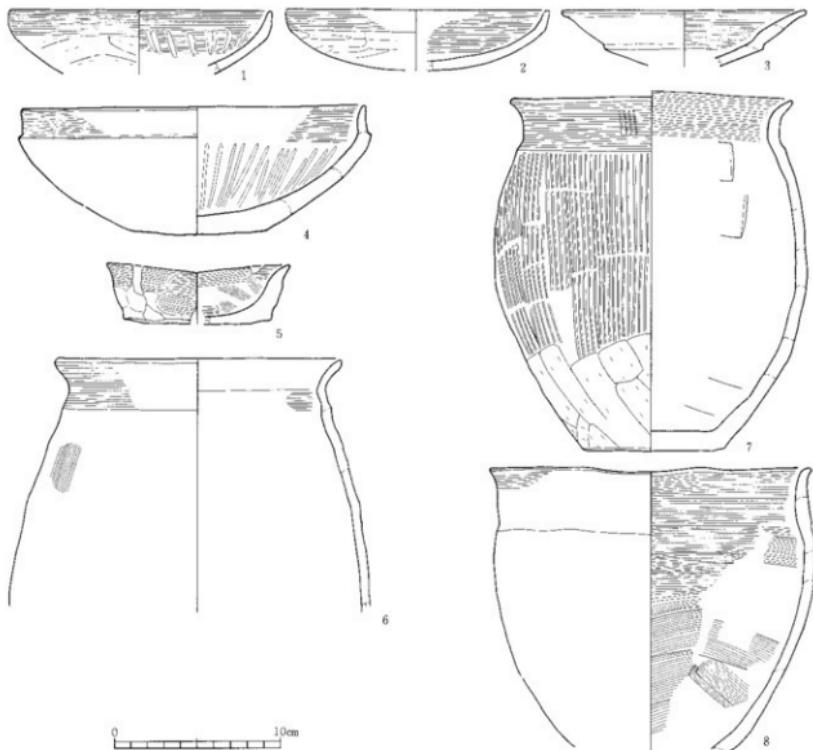
第116図 SI05 カマド平面図・断面図

SI05 カマド（新）埋土柱記表（第116回）

層位	土色	土性	備考	
1 a 層 1 b 層	10YR3/2 2.5Y3/2	黒褐色 黒褐色	シルト シルト 炭化物粒子若干混入 炭化物粒子混入	
煙道部 埋土	2 層	10YR4/2	灰黃褐色	
	3 層	2.5Y3/2	黒褐色	
	4 層	5YR2/2	無褐色	
	5 層	10YR5/4	にぶい黄褐色	
	6 層	2.5Y5/4	黄褐色	
	7 a 層 7 b 層 8 a 層 8 b 層 9 層 10 a 層 10 b 層 11層 12層	10YR3/3 10YR2/3 10YR4/2 5YR3/3 7.5YR2/1 7.5YR2/2 7.5YR2/2 10YR4/3 2.5YR3/4	暗褐色 黒褐色 灰黃褐色 暗赤褐色 黒褐色 黒褐色 黒褐色 にぶい黄褐色 暗赤褐色	シルト シルト シルト シルト シルト シルト シルト シルト シルト シルト 炭化物粒子混入 燒土ブロック混入、10YR5/6 黄褐色がブロック状に混入 燒土混入、10YR7/4 にぶい黄褐色混入 燒土層 燒土粒・炭化物粒混入 燒土粒・炭化物粒混入 炭化物混入 7.5YR2/3 暗褐色がブロック状に混入 燒土層
燃焼部 埋土	13層 14層 15層	10YR3/4 5YR3/3 10YR5/3	暗赤褐色 暗赤褐色 にぶい黄褐色	燒土層 燒土層 砂質シルト 燒土ブロック混入、下層は火熱により変容している
	①層 ②層 ③a 層 ③b 層 ④層 ⑤層 ⑥層	10YR4/2 10YR6/4 7.5YR2/2 2.5Y6/4 10YR4/3 2.5Y4/2 10YR3/3	灰黃褐色 にぶい黄褐色 黒褐色 にぶい黄色 にぶい黄褐色 暗灰黃褐色 暗褐色	シルト シルト シルト シルト シルト シルト シルト 10YR6/4 にぶい黄褐色がブロック状に混入 燒土粒・炭化物粒混入 燒土・炭化物混入 燒土層 燒土粒・炭化物粒混入 燒土層 燒土がブロック状に混入

SI05 カマド（古）煙道部埋土柱記表（第116回）

層位	土色	土性	備考
1 層	2.5Y4/3	オリーブ褐色	シルト
2 層	2.5Y3/1	黒褐色	シルト
3 a 層	2.5Y3/2	黒褐色	砂質シルト 燒土粒・炭化物粒混入
3 b 層	2.5Y3/2	黒褐色	シルト 焼土がブロック状に混入
4 層	7.5YR2/3	極略褐色	燒土粒・炭化物粒混入



番号	地区・海位	種別	形態	口径(cm)	底径(cm)	厚さ(cm)	残存	外 面	内 面	曲 線	丸 真
1	P14+847	土師器	环	(15.8)		1/4	(□)ヨコナデ(体)ヘラケズリ	ヨコナデ+ヘラミガキ	直円筒形	C256	II-5
2	P 9	土師器	环	(15.8)		1/4	(□)ヨコナデ(体)ヘラミガキ	ヨコナデ	直円筒形	C249	II-4
3	P 9	土師器	环	(15.0)		1/4		ヨコナデ		C251	II-3
4	P 5	土師器	环	(26.8)	8.3	7.8	超1 (□)ヨコナデ	(□)ヨコナデ(体)ヘラミガキ(微削伏)		C248	II-7
5	カマド	土師器	小形	(11.0)	(9.0)	(3.7)	1/4 (1)ナデ(底)木葉施+ヘラケズリ	ナデ		C250	
6	P14+847	土師器	甕	(17.0)		1/4	(□)ヨコナデ(体)ナデ	ナデ		C253	
7	P 1	土師器	甕	17	8.6	22	1 (1)ナデ(底)木葉施 (2)ヘラケズリ	(1)ヨコナデ(体)ヘラナデ (□)ヨコナデ(体)ヘラナデ		C256	II-8
8	P 7	土師器	甕	19.5		1	(□)ヨコナデ			C255	II-1

第117図 SI05 出土遺物

(2) 古代

① 錫冶遺構

調査区北部（I区）で錫冶遺構に関係すると考えられる竪穴遺構1基、土坑・ピットが検出された。それぞれ、埋土中から鉄滓・鉄製品などが出土していることから、土壤サンプルを採取して水洗選別を行っている。

SI 01 竪穴遺構（第119図）

【位置】 I区北側（C-2・3、B-2）に位置している。東側が調査区外にかかる。

【平面形・規模】 平面形は、方形を呈するものと考えられる。規模は、北壁150cm以上、西壁530cmを計る。方向は西壁でN-9°-Wである。

【堆積土】 埋土は4層に分けられた。

【壁・床面】 壁はほぼ垂直に立ち上がり、残存する壁高は北壁28~35cm、西壁27~46cmである。床面はほぼ平坦で堅くしまっている。鉄滓・小鉄片・湯玉などを選別するために、床面を50cmグリッドに区切って土壤サンプル採取を行った（第118図）。その結果、数は多くないがSK1土坑の東、床面中央西壁側などから小鉄片・鉄滓が出土している。

水洗選別遺物集計

小鉄片出土——ロ（1）、ホ（2）、ル（1）、ヲ（2）、ヨ（2）、タ（2）、ネ（2）、ム（2）、ヰ（4）、ノ（4）、オ（2）、ヤ（1）、マ（3）、フ（1）、コ（2）

鉄滓出土——ノ・ヤ

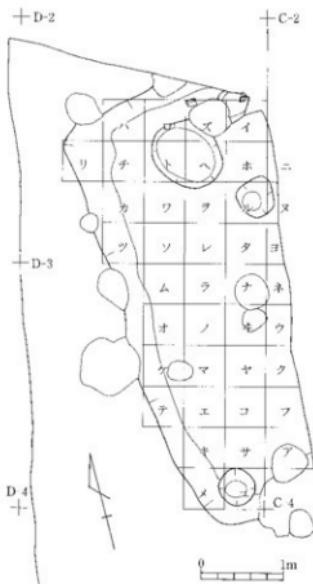
（ ）は出土点数

【柱穴・ピット】 ピットは2基検出された。P-1は、平面形が不整形で大きさが45×45cm、深さが40.8cmである。

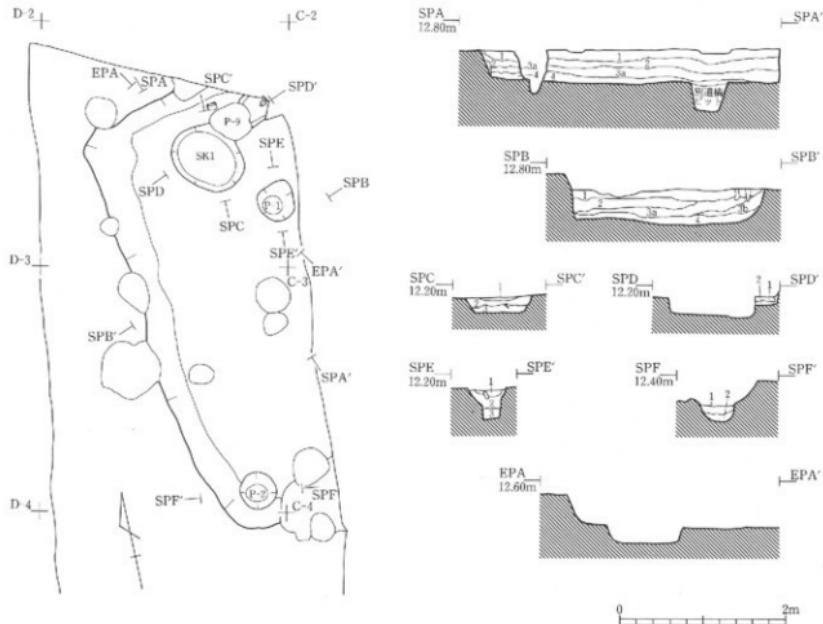
P-2は、平面形が円形で大きさが42×42cm、深さが26.8cmである。P-1はその断面の形状から、P-2はその位置から柱穴である可能性が考えられる。

【床面施設】 床面施設としては土坑が2基検出されている。SK1は、平面形が長楕円形で、大きさが92×67cm、深さが21.8cmである。断面形は逆台形を呈し、底面は平坦である。埋土は3層に分けられた。底面や壁面が直接熱の影響を受けた様子は見られないが、埋土中に焼土や炭化物が混じっていたこと、SK1の北側の床面から羽口が出土していることから、炉に付随する施設であった可能性がある。SK2は、北東部が調査区外にかかり、さらに西側が後世のピットに切られているため平面形は不明である。大きさは40×25cm以上、深さは15cmである。

【出土遺物】 堆積土・床面より土器（ロクロ・非ロクロ）・須恵器・羽口・鉄製品・鉄滓・石製模造品が出土している。第120図4は、床面出土の羽口で、先端部は溶融によって灰色に変色している。形状は先端がやや細い漏斗状のもので、長さ12cm、先端部内径25mm、吸気部外径7.5cm、内径40mmである。また、同図5・6は、床面から出土した釘・刀子と見られる鉄製品である。



第118図 SI01 床面土壤サンプル採取グリッド配図



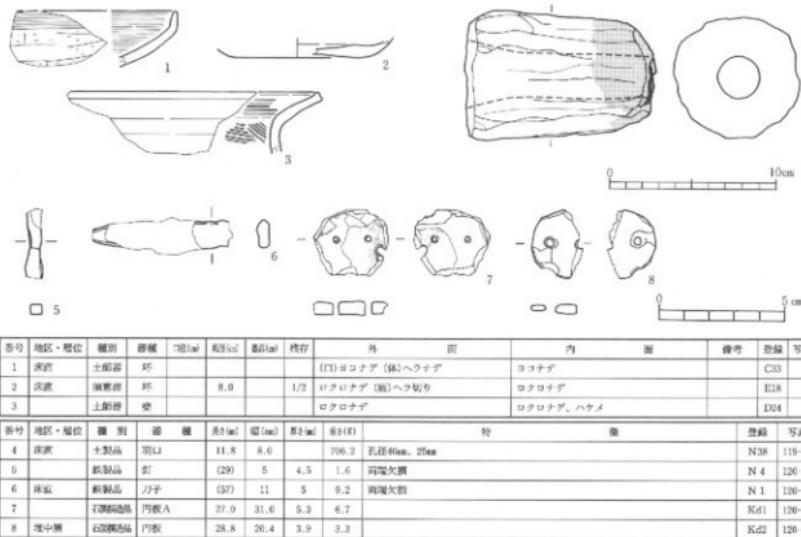
SI01 埋土記表

層位	土色	土性	備考
1層	2.5Y3/2 黒褐色	シルト	10YR5/1 暗灰色を斑状に混入、マンガン鉱混入
2層	10YR3/2 黒褐色	シルト	
3 a層	2.5Y3/2 黒褐色	シルト	10YR6/4 に近い黄褐色をブロック状に混入
3 b層	10YR2/3 黒褐色	シルト	埋2層に近い色調
4層	10YR3/2 黒褐色	シルト	10YR5/1 暗灰色を斑状に混入、炭化物粒子混入

SI01 床面検出遺構観察表

遺構名	平面形	規模(cm)	深さ(cm)	層位	土色	土性	備考
土壤	SK 1 無構円形	92×62	-21.8	1層	10YR3/2 黒褐色	シルト	
				2層	10YR3/2 黒褐色	シルト	10YR5/3 をブロック状に混入、焼土粒を混入
				3層	10YR2/3 黒褐色	シルト	焼土粒、炭化物粒混入
柱穴	SK 2 形不明	40×25	-15.0	1層	10YR3/3 暗褐色	シルト	10YR5/3 に近い黄褐色をブロック状に混入
				2層	10YR3/3 暗褐色	シルト	焼土粒混入
	P-1 円形	45×45	-40.8	1層	10YR3/3 暗褐色	シルト	10YR5/3 斑状に混入、炭化物部入
				2層	10YR3/3 暗褐色	シルト	炭化物粒混入
	P-2 円形	42×42	-26.8	1層	10YR3/3 暗褐色	砂質シルト	10YR5/3 に近い黄褐色を斑状に混入
				2層	10YR3/3 暗褐色	シルト	炭化物粒子混入

第119図 SI01 穫穴構造平面図・断面図



第120図 SI01 積穴遺構出土遺物

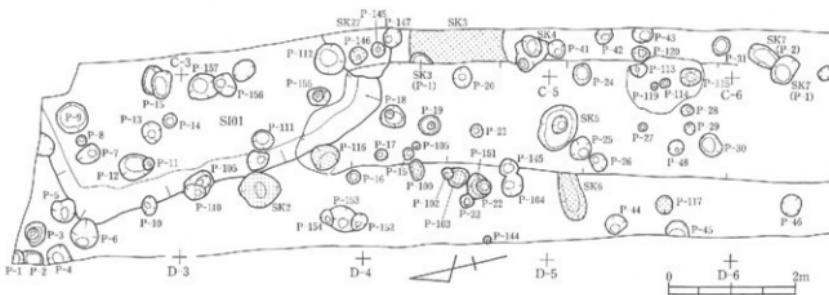
鍛冶遺構関連ピット群 (第121図)

SI01の南側の土坑やピットの埋土から鉄片・鉄滓・鉱滓・鉄製品等が出土している。また、SK3・6、P-22・115・120からは粒状滓(湯玉)が出土している(写真119)。これらの土坑・ピットは、ほぼ200cmの間隔で検出されていることから、南北3間以上、東西1間以上の建物となる可能性がある。

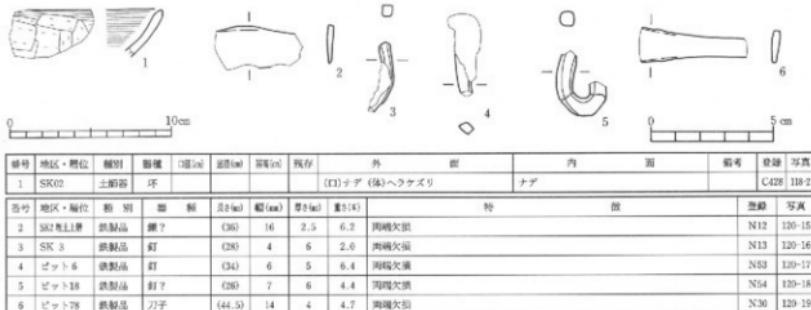
小鉄片・鉄滓・鉱滓出土——SK2 (9)・3 (57)・6 (20)・19・26、P-6・22 (36)・41・75・100・103 (12)・115 (86)・116 (7)・117 (8)・120・146

鉄製品出土——SK2・3・19、P-6・18・78・107

() は出土点数



第121図 鍛冶遺構関連ピット群平面図



第122図 錫冶遺構出土遺物

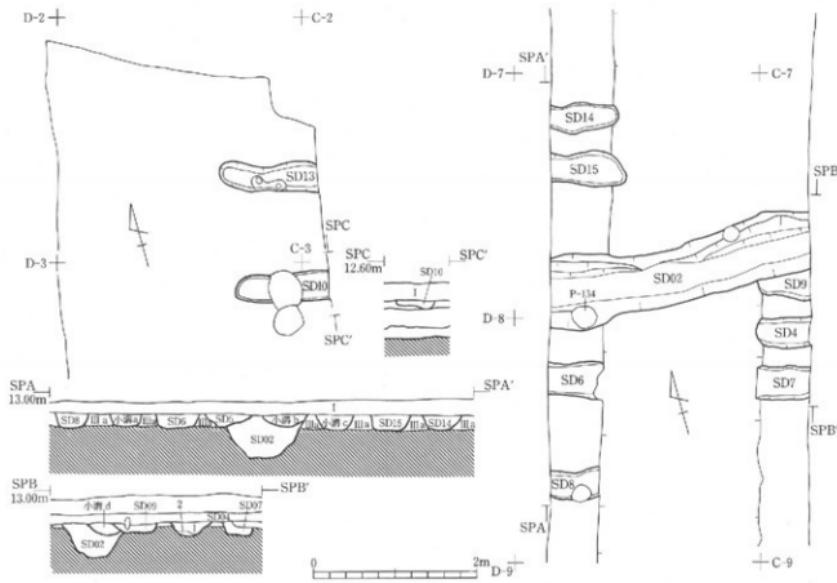
②小溝状遺構群（第123図・第12表）

I 区小溝狀遺構 (SD10・13)

I 区では 2 条の小溝状遺構が検出された。SI01 を切っており、方向は N-81°-W である。幅は約30cmほどで、深さは10cm程である。

II区小溝状遺構 (SD4・5・6・7・8・9・14・15)

II区では8条の小溝状遺構が検出された。また、調査区壁面で確認されたものも数条ある。SD02-SI09を切っている。方向はおおむねN-79°-Wである。また幅は、平均して30cm程度、深さは約20cm程度である。方向や規模からみて、これら的小溝状遺構群はI区のものを含め同時期のものと考えられる。



第123図 小溝状構造群平面図・断面図

遺構番号	位 置	長×幅(cm)	深さ(cm)	方 向	切 合 間 隔	堆 土 土 色	土 种	しまり	粘 性	礫 等	山 上 通 物
SD04	D-8	(66)×38	-8.0	N-78°-W		堆1層10YR2/2 黒褐色 堆2層10YR2/2c, a+1 黄褐色	シルト	良	低		C・E
SD05	C-7	-	-		SD02 を切る	10YR2/2 黑褐色	シルト	良	低		
SD06	C-8	(58)×40	-2.5	N-72°-W		10YR2/2 黑褐色	シルト	良	低		C
SD07	B-8	(64)×38	-9.0	N-80°-W		10YR2/2 黑褐色	シルト	良	低		C
SD08	C-8	(58)×32	3.0	N-83°-W		10YR2/2 黑褐色	シルト	良	低		C・E
SD09	B-7	(64)×4	-7.1	N-69°-W	SD02 を切る	10YR2/2 黑褐色	シルト	良	低		C・E
SD10	C-3	(110)×32	-6.0	N-81°-W	P.257 に切られる	10YR2/2 黑褐色	シルト	良	低		C
SD11	C-2	(120)×34	-9.5	N-77°-W		10YR2/2 黑褐色	シルト	良	低		C
SD14	C-7	(60)×34	-3.5	N-78°-W		10YR2/2 黑褐色	シルト	良	低		C
SD15	C-7	(94)×42	-4.6	N-76°-W		10YR2/2 黑褐色	シルト	良	低		C

第12表 小溝状遺構群集計表

(3) 中世～近世

中世～近世の遺構としては、溝跡・土坑などが検出されている。

①溝 跡

溝跡は5条検出された。5条とも東西方向に検出され、方向はおおむね N-80°～90°-E のなかにおさまっている。調査区を横断する形になるため、ごく一部しか調査できなかった。

SD02 (第124・126・127図)

II区(B-C-7)に位置する。SI09を切る。方向はN-88°-Eである。確認された長さは3.2m、上端幅は約80cm、下端幅は約35cm、深さは約37cmである。断面形は、U字型で、底面はやや東に傾斜している。堆積土は7層に分けられた。この内、2層の下部から3層上面にかけて灰白色火山灰が混じる。土器類(非クロロ・ロクロ)・須恵器・鉄製品が出土している(第126図1・第127図2)。

SD16 (第124・126・127図)

II区(C-9)に位置する。SI04を切る。方向は、N-86°-Eである。確認できた長さは3.2mである。上端幅は約125cm、下端幅は35cm、深さは68cmである。断面形は逆台形で、堆積土は6層に分けられた。底面にはピット状の落ち込みも見られた。土器類(非クロロ・ロクロ)・鉄製品・鐵滓・石製模造品が出土している。(第126図10～12、第127図11)

SD03 (第125～127図)

III区(B-15、C-15・16)に位置する。SD11の作り替えの可能性があり、また、SK18・19に切られ、SK26を切る。方向はN-83°-Eである。確認された長さは5.75m、上端幅は約4.7m、下端幅は約1.0mで、深さは約1.0mである。断面形は開いたU字型で南側の開きが大きい。堆積土は13層に分けられた。7層以下の層では酸化鉄が互層状に堆積し、底面には拳大ほどの礫石が多数あり、礫層面まで掘り込まれた可能性がある。土器類(非クロロ・ロクロ)・須恵器・瓦・土製品・鉄製品・鐵滓・弥生土器・動物の骨片が出土している。(第126図3・4・8・13、第127図3)

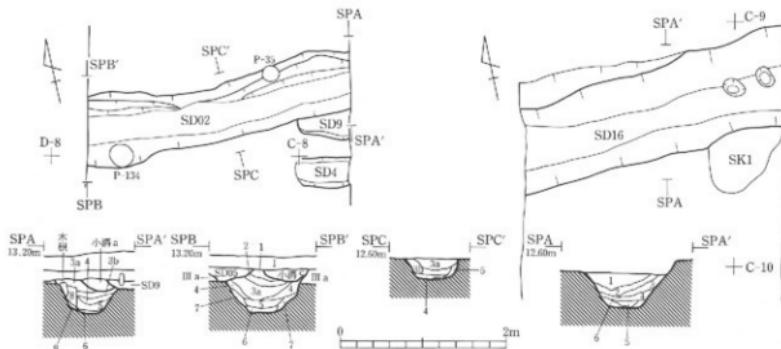
SD11 (第125図)

III区(B-C-15)に位置する。SD03の南壁側で切られる。方向はN-83°-EでSD03とほぼ並行する。確認された長さは4.7mで、上端幅は約70cm、下端幅は約30cm、深さは約30cmである。断面形は逆台形で、堆積土は7層に分けられた。SD03の直下に位置することまた、方向がほぼ並行することからSD11を拡張してSD03を作り替えたものと考えられる。

SD12 (第125～127図)

III区南端(B-16・17)に位置する。調査区の南端に位置しているため、調査区を3×1.3m拡張して両端を検出した。方向は、N-81°-EでSD03・11などとほぼ並行する。確認できた長さは3.0m、上端幅は約1.8m、下端幅は

約30cm、深さは93cmである。断面形は開いたU字型で北壁に段がつく。南壁は調査区壁面に接するため完全には掘りきっていないことから、両側に段がつく可能性も考えられる。堆積土は9層に分けられた。土師器（非ロクロ・ロクロ）・須恵器・磁器・陶器・瓦・石臼・礫石器・鉄製品・銅製品・石製模造品が出土している（第126図5～7・9、第127図5～9）。第126図6は在地窯陶器甕の肩部と考えられる。7是中国製青白磁梅瓶で、6・7共に13世紀代のものと考えられる。



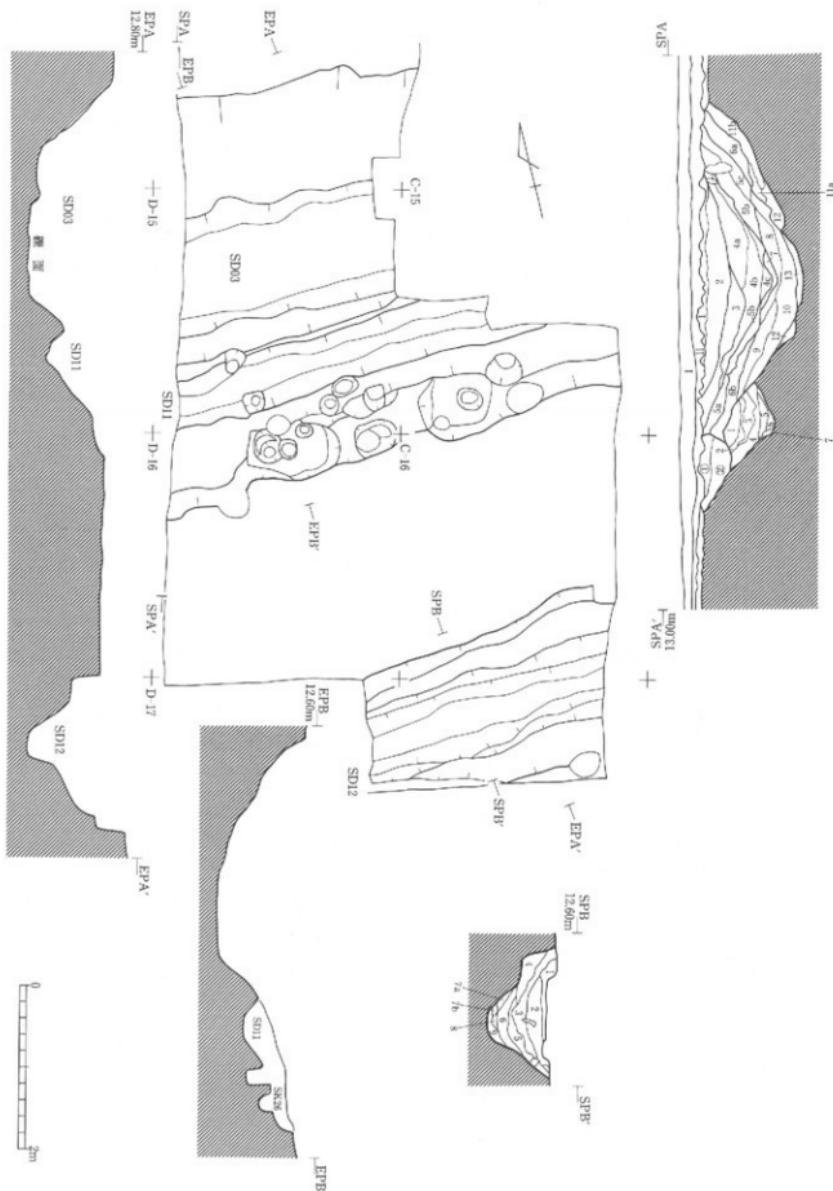
SD02 墓土註記表

層位	土 色	土 性	備 考
1層 10YR3/2	黒褐色	シルト	10YR1.7/1 黒色土をブロック状に混入
2層 10YR3/1	黒褐色	シルト	下層部に灰白色火山灰が混入
3 a層 10YR3/1	黒褐色	シルト	10YR4/1 細褐色土が斑状に混入、上層部に火山灰粒状に混入
3 b層 10YR3/2	黒褐色	シルト	
4層 10YR3/1	黒褐色	シルト	炭化物粒混入、10YR4/3 にぼい黄褐色土ブロック状に混入
5層 10YR2/2	黒褐色	シルト	炭化物粒混入、10YR4/3 にぼい黄褐色土ブロック状に混入
6層 10YR2/2	黒褐色	シルト	10YR4/3 にぼい黄褐色土、10YR4/1 細褐色土ブロック状に混入
7層 10YR2/2	黒褐色	シルト	10YR4/3 にぼい黄褐色土とのブロック層
8層 10YR3/2	黒褐色	シルト	10YR1.7/1 黒色土ブロック状に混入
9層 2.5Y5/3	黄褐色	シルト	

SD16 墓土註記表

層位	土 色	土 性	備 考
1層 10YR3/2	黒褐色	シルト	10YR5/1 細灰色グライ士がブロック状に混入、炭化物混入
2層 10YR2/2	黒褐色	シルト	10YR6/3 にぼい黄褐色土が斑状に混入、炭化物混入
3層 10YR2/2	黒褐色	シルト	10YR6/3 にぼい黄褐色土とのブロック層、炭化物混入
4層 2.5Y3/2	黒褐色	シルト	10YR6/3 にぼい黄褐色土が混入、炭化物混入
5層 10YR3/2	黒褐色	シルト	10YR4/2 灰黄褐色土が混入、炭化物混入
6層 10YR3/3	暗褐色	砂質シルト	10YR6/4 にぼい黄褐色土がブロック状に混入

第124図 SD02・16 溝跡平面図・断面図



第125図 SD03・11・12 溝跡平面図・断面図

SD03 塗土註記表

層位	土 色	土 性	備 考
1 層	10YR2/3 黒褐色	シルト	炭化物粒子混入、小礫
2 層	10YR3/2 黒褐色	シルト	炭化物混入、1cm大的混入
3 層	2.5Y3/1 黒褐色	シルト	
4 a 層	10YR3/2 黒褐色	シルト	10YR2/2 黑褐色土とのブロック層、1cm大的小礫混入
4 b 層	10YR3/2 黒褐色	シルト	10YR2/2 黑褐色土ブロック状に混入、1cm大的小礫混入
4 c 层	2.5Y3/2 黒褐色	シルト	10YR2/2 黑褐色土ブロック状に混入、炭化物粒子1cm大的小礫混入
5 a 层	10YR4/2 黄褐色	シルト	
5 b 层	2.5Y3/2 黑褐色	砂質シルト	
5 c 层	2.5Y3/3 暗オリーブ褐色	砂質シルト	
6 a 层	10YR3/2 黑褐色	シルト	下層部に10YR6/4 に近い黄褐色土混入
6 b 层	10YR2/3 黑褐色	シルト	
7 层	2.5Y4/1 黄灰色	粘質シルト	酸化鉄粒状に混入
8 层	10YR6/1 灰灰色	粘質シルト	酸化鉄粒状に混入
9 层	10YR4/1 灰灰色	粘質シルト	酸化鉄斑状に混入
10 层	10YR5/1 灰灰色	粘質シルト	10YR6/4 砂との互層、酸化鉄粒状に混入
11 a 层	10YR4/4 棕色	砂	10YR5/1 灰灰色土混入
11 b 层	10YR4/3 に近い黄褐色	砂	北壁側:5a 混入
12 层	10YR4/1 灰灰色	粘質シルト	2.5Y5/2 砂混入、酸化鉄粒斑状に混入
13 层	2.5Y4/1 黄灰色	粘質シルト	酸化鉄粒状に混入
①層	10YR2/2 黑褐色	シルト	別置構造
②層	10YR3/2 黑褐色	シルト	炭化物粒子混入

SD11 塗土註記表

層位	土 色	土 性	備 考
1 層	10YR3/2 黑褐色	シルト	
2 層	10YR4/2 黄褐色	シルト	
3 层	2.5Y5/1 黄灰色	シルト	2.5Y4/1 黄灰色土ブロック状に混入、酸化鉄多量に混入
4 层	10YR4/1 灰灰色	シルト	酸化鉄粒状に混入
5 层	2.5Y3/3 暗オリーブ褐色	シルト	2.5Y4/1 黄灰色土ブロック状に混入、2.5Y3/2 砂混入
6 层	2.5Y4/2 暗灰黄色	シルト	2.5Y5/1 黄灰色土ブロック状に混入、酸化鉄粒状に混入
7 层	2.5Y3/2 黑褐色	砂	

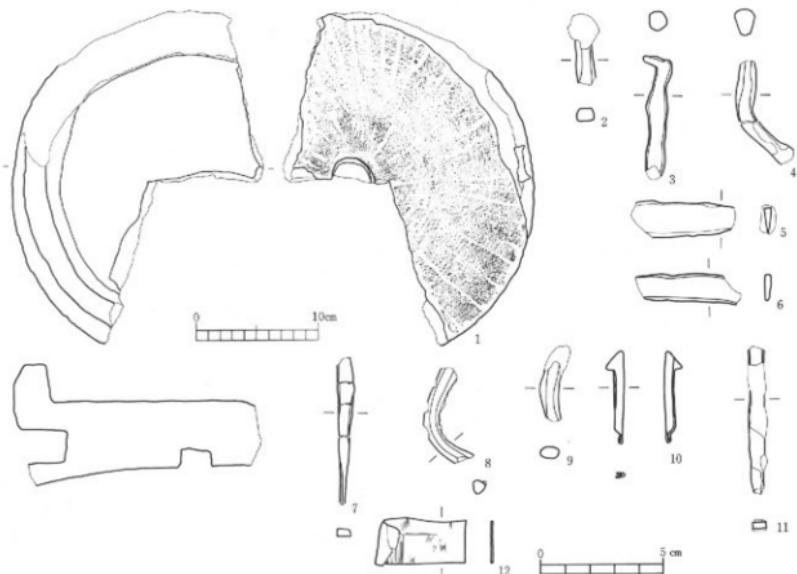
SD12 塗土註記表

層位	土 色	土 性	備 考
1 層	2.5Y3/1 黑褐色	シルト	
2 層	10YR2/2 黑褐色	シルト	炭化物粒子混入
3 層	10YR3/1 黑褐色	シルト	炭化物粒子混入、両壁側に2.5Y3/3 砂が混入
4 层	2.5Y3/2 黑褐色	砂	
5 层	5Y2/2 オリーブ黒色	シルト	5Y4/1 黄色土ブロック状に混入
6 层	5Y4/1 灰色	砂質シルト	2.5Y3/2 砂混入、酸化鉄混入
7 a 层	10YR3/3 黑褐色	砂	5Y4/1 砂粒状に混入
7 b 层	5Y4/4 暗オリーブ色	砂	
8 层	5Y4/1 灰色	砂質シルト	2.5Y3/2 砂混入、酸化鉄混入
9 层	7.5Y4/1 灰色	砂	酸化鉄混入



番号	地区・遺物	種別	形状	直徑(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	残存	外観		備考	登錄	写真
								内面	外側			
1	SD01 墓土層	土師器	环					(全体)ヘラケズリヘラミガキ	ヨコナデ		C315	IB-3
2	SD01 墓土層	土師器	环	(15.4)	6	4.4	底	圓輪余切り、マメツ	マメツ		D55	
3	SD01 墓土層	陶質器						ロコナデ、波状文			E59	
4	SD01 墓土層	陶質器	環					ロコナデ、波状文	ロクロナデ		E76	
5	SD01 墓土層	土師器	环	(7.0)		1/4	(底)圓輪余切り	ヘラミガキ、黒色処理			D37	
6	SD12	陶器	甕					ナデ、ヘラナデ、2.5GYR/2灰赤色	ナデ	左地	H 2	IB-4
7	SD01 墓土層	青白磁	梅瓶					2.5GYI/1明オリーブ灰色	7.5YT/1灰白色		J 5	IB-5
8	SD01 墓土層	瓦						ナデ	布目		H 1	IB-7
9	SD12	瓦						ナデ	布目		H 3	IB-9
番号	地区・遺物	種別	形	直径(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重量(g)	特徴		登錄	写真	
								内面	外側			
10	SD01 墓土層	縫石器	刺形A	41	74	35.4	260			Kd30	IB-4	
11	SD01 墓土層	石製品	刺形A	48.2	24.4	8.6	11.2			Kd14	IB-4	
12	SD01 墓土層	石製品	刺形B	46.2	19.5	9.2	5.7			Kd13	IB-5	
13	SD01 墓土層	土製品	土玉	27.5	31	24	18.2	孔径6mm		P 1	IB-1	

第126図 满跡出土遺物(1)



番号	地区・層位	種別	形	大きさ	幅(cm)	高さ(cm)	厚さ(cm)	重さ(g)	特	記	登録	写真
1	SD-12	鉄石器	石臼	274	203	100	2,466			Kd29	119-9	
2	SD02 墓土上層	鉄製品	釘?	(29)	7	7	5.6	圓錐欠損		N17	120-20	
3	SD03 墓土上層	鉄製品	釘?	(31)	8	9	8.9	片端欠損		N19	120-21	
4	SD04	鉄製品	釘?	(43)	8	11	6.7	圓錐欠損		N47	120-22	
5	SD12 墓土上層	鉄製品	手刀	(43)	12	6	11.9	圓錐欠損		N22	120-23	
6	SD12 墓土上層	鉄製品	刀子?	(43)	12	2.5	4.6	圓錐欠損		N21a	120-24	
7	SD12 墓土上層	鉄製品	釘	61	6	3	1.1	圓錐欠損		N21b	120-25	
8	SD12	鉄製品	釘?	(39)	5.5	6	3.8	圓錐欠損		N48	120-26	
9	SD12 墓土上層	鉄製品	釘?	(32)	8	5	5.5	圓錐欠損		N24	120-27	
10	SD12 墓土上層	鉄製品	釘	38	3	3	1.0			N26	120-28	
11	SD12 墓土上層	鉄製品	釘?	(62)	6	4.5	5.4	圓錐欠損		N27	120-29	
12	SD12	鉄製品	釘?	(47)	17.5	5	5.1			N49	120-30	

第127図 溝跡出土遺物（2）

②土坑・その他の遺構

（a）土坑（第128・129図・第13表）

〔SK 1〕 C-4に位置し、西半部は調査区外にかかっている。平面形は長楕円形若しくは、闊丸方形を呈するものと考えられる。長軸は60cm以上、短軸は26cm以上、深さ23cmを計る。断面形は、V字形を呈している。

〔SK 2〕 C-3に位置している。平面形は長楕円形を呈し、長軸70cm、短軸60cm、深さ51cmを計る。断面形はU字形である。断面には柱痕跡が見られ、また、埋土より鉄滓が出土していることから鍛冶遺構に関連するものと考えられる。

〔SK 4〕 C-4に位置し、東半部は調査区外にかかっている。平面形は不整形を呈し、長軸60cm以上、短軸58cm、深さ71cmを計る。

[SK 5] C-5に位置している。平面形は円形を呈し、長軸80cm、短軸60cm、深さ40cmを計る。断面形は、逆台形で、直径約30cmの柱痕跡が見られ、その部分は、底面よりさらに20cm程下がる。

[SK 6] C-5に位置している。平面形は、隅丸方形を呈し、長軸80cm以上、短軸38cm、深さ42cmを計る。断面形はU字形を呈する。

[SK 8] B-11に位置し、東半部は調査区外にかかっている。平面形は隅丸方形を呈し、長軸60cm以上、短軸50cm、深さ50cmを計る。断面形は逆台形を呈し、北側に段が付く。

[SK 9] B-11に位置し、一部は調査区外にかかっている。平面形は方形を呈し、長軸85cm、短軸75cm、深さ50cmを計る。断面形は舟底形を呈し、直径20cm程の柱痕跡が見られる。

[SK10] C-13に位置し、SK17に切られる。東半部は調査区外にかかっている。平面形は円形を呈するものと考えられる。長軸220cm、短軸160cm以上、深さ7cmを計る。

[SK11] B-8に位置し、SK12と小溝に切られるが、SD07を切る。東側1/2が調査区外にかかる。平面形は円形を呈するものと考えられる。長軸156cm、短軸62cm以上、深さ15cmを計る。断面形は、開いたU字形を呈している。

[SK12] B-9に位置している。東半部は調査区外にかかる。平面形は不整形を呈し、長軸110cm以上、短軸84cm、深さ25cmを計る。断面形は箱形を呈し、上部が開いて立ち上がる。

[SK13] B-11に位置し、東半部は調査区外にかかる。平面形は不整形を呈し、長軸60cm以上、短軸40cm、深さ20cmを計る。

[SK14] C-11に位置し、SK15、ピットに切られる。平面形は梢円形を呈し、長軸80cm、短軸65cm、深さ11cmを計る。断面形は逆台形を呈している。

[SK15] C-11に位置し、SK14を切る。平面形は不整円形を呈し、長軸75cm、短軸70cm、深さ29cmを計る。断面形は逆台形を呈している。

[SK16] C-13に位置し、西半部は調査区外にかかり、SK24に切られる。平面形は不整形を呈し、長軸135cm、

井戸番号	位 置	長軸 × 短軸(cm)	深さ(cm)	形 状	切 口 開 口 体	備 考	出 土 通 物
SK01	C - 4	60× 25	-23.2	不 整 形			
SK02	C - 3	70× 60	-31.2	長 横 円			C・D・鉄鋤
SK03	C - 4						
SK04	H - 4	60× 50	-71.9	不 整 形	P149を切る		C・E
SK05	C - 5	80× 60	-40.2	長 横 円			C・E
SK06	C - 5	80× 38	-42.3	長 横 円			C・鉄鋤
SK07	矢 留						
SK08	B - 11	60× 50	-50.6	不 整 形			C・E
SK09	H - 10	80× 75	-50.8	方 形			C・E
SK10	C - 13	220×190	-7.5	円 形			C
SK11	B - 8	156× 62	-15.0	円 形			C
SK12	B - 9	110× 84	-25.6	不 整 形			C
SK13	B - 11	80× 49	-39.2	斜 横 円			C
SK14	C - 11	80× 65	-11.7	長 横 円	P132, P73に切られる		C
SK15	C - 11	75× 70	-28.9	円 形	SK14に一部切られる		C
SK16	C - 13	135× 95	-21.3	不 整 形	SK14に切られる		C
SK17	C - 15	100× 90	-33.7	円 形	SK10を切る		C・E
SK18	C - 14	80× 90	-28.4	不 整 形	P97, SK23に切られる		C・E
SK19	B - 15	200×120	-40.4	長 横 円	SD03を切る		C・E
SK20	C - 16	78× 60	-53.9	長 横 円			C・E
SK21	B - 16	125×100	-32.8	長 横 円			C・E
SK22	C - 16	110× 60	-43.2	不 整 形	SK30を切る		C・E
SK23	B - 14	95× 35	-46.2	不 整 形	P132に一部切られる		C
SK24	C - 13	75× 25	-31.2	不 整 形	SK16を切る		
SK25	矢 留						
SK26	C - 16	100× 70	-60.7	不 整 形			C・D・E
SK27	B - 4	125× 84	-41.9	不 整 形	P112, P148に切られる		C・E
SK28	B - 15	85× 49	-30.2	不 整 形			C・E
SK29	C - 3	130× 50	-19.7	不 整 形	複瓦, P154に切られる		C・E
SK30	C - 16	127× 65	-11.0	不 整 形	SK22に切られる		C
SK31	C - 16	75× 45	-26.4	長 横 円	P99に切られる		
SK32	C - 16	50× 26	-16.9	円 形			
SK33	C - 16	70× 28	-17.6	円 形			

第13表 土坑集計表

短軸95cm以上、深さ21cmを計る。断面計は舟底形を呈する。

〔SK17〕 C-13に位置し、SK10を切る。平面形は円形を呈し、長軸100cm、短軸90cm、深さ34cmを計る。断面形は逆台形を呈する。

〔SK18〕 C-14に位置し、SK23、SD03を切る。東半部は調査区外にかかる。平面形は長楕円形を呈するものと考えられる。長軸90cm以上、短軸90cm、深さ28cmを計る。断面形は箱形を呈している。

〔SK19〕 B-15に位置し、SD03を切っているが、底面に石をおいたピットに切られている。東半部は調査区外にかかる。平面形は長楕円形を呈するものと考えられる。長軸200cm以上、短軸120cm、深さ40cmを計る。断面形は舟底形を呈しており、東側が緩やかに立ち上がる。埋土は、大別5層、細別8層に分けられた。このうち、1~3層までは、黒褐色系の土に焼土・炭化物がブロック状又は、粒状に混じり、焼土が層状に堆積している部分(3b層)もあった。4層以下は、暗灰色系の埋土である。また、調査中に破損してしまったため図示していないが、埋土中より、古錢「天聖元宝」1枚が出土している(写真120-8)。

〔SK20〕 C-16に位置している。平面形は楕円形を呈し、長軸78cm、短軸60cm、深さ53cmを計る。断面形はV字形を呈している。

〔SK21〕 B-16に位置している。平面形は楕円形を呈し、長軸125cm、短軸100cm、深さ32cmを計る。断面形は逆台形を呈し、断面には直径約20cm程の柱痕跡が見られる。

〔SK22〕 C-16に位置し、SK30を切る。平面形は不整形を呈し、長軸110cm、短軸60cm、深さ43cmを計る。断面形は、逆台形を呈し、底面には、ピット状の落ち込みが見られる。

〔SK23〕 B-14に位置し、SK18に切られる。東半部は調査区外にかかる。平面形は不整形を呈しているものと考えられる。長軸95cm、短軸35cm以上、深さ46cmを計る。断面形は逆台形を呈し、底面には凹凸が見られる。

〔SK24〕 B-13に位置し、SK-16を切る。西半部は調査区外にかかる。平面形は方形を基調としたものであると考えられる。長軸75cm、短軸25cm以上、深さ32cmを計る。断面形は、逆台形を呈している。

〔SK26〕 C-16に位置し、SD03の南壁に切れ、SD11を切る。SD03に先行トレーナーを入れた際に西側半分を削除してしまったため、平面形は不明であるが残存する部分から円形若しくは長楕円形を呈するものと考えられる。長軸100cm、短軸70cm以上、深さ61cmを計る。底面で4基のピットを検出している。

〔SK27〕 B-4に位置し、東半部は調査区外にかかる。平面形は、不整な楕円形を呈するものと考えられる。長軸85cm、短軸45cm以上、深さ30cmを計る。断面形は舟底形を呈している。

〔SK28〕 B-15に位置し、SD03を切る。調査区外にかかるため平面形は不明である。長軸85cm以上、短軸40cm以上、深さ30cmを計る。断面形は逆台形を呈している。

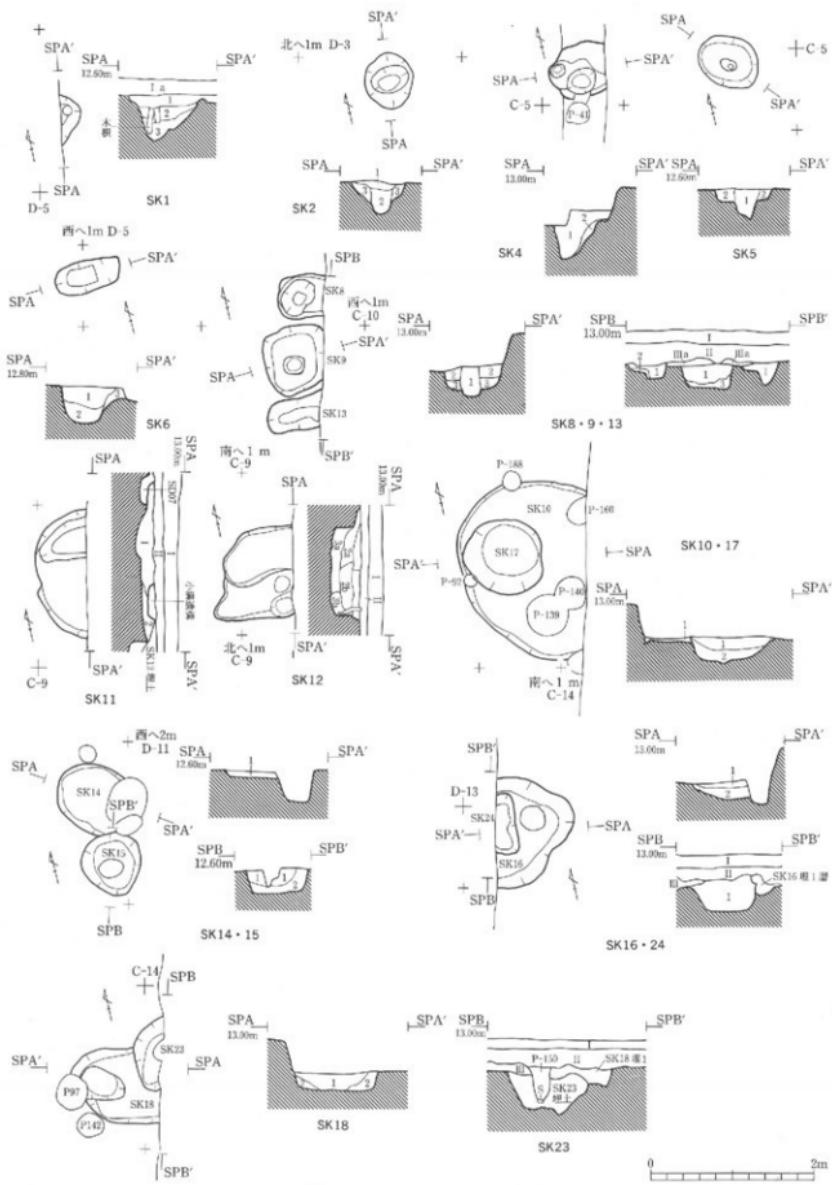
〔SK29〕 C-3に位置し、西半部は擾乱を受けている。平面形は、不整形を呈している。長軸150cm以上、短軸50cm以上、深さ20cmを計る。断面形は逆台形を呈している。

〔SK30〕 C-16に位置し、SK-22を切られる。平面形は円形を呈するものと考えられる。長軸65cm以上、短軸48cm、深さ12cmを計る。断面形は舟底形を呈している。

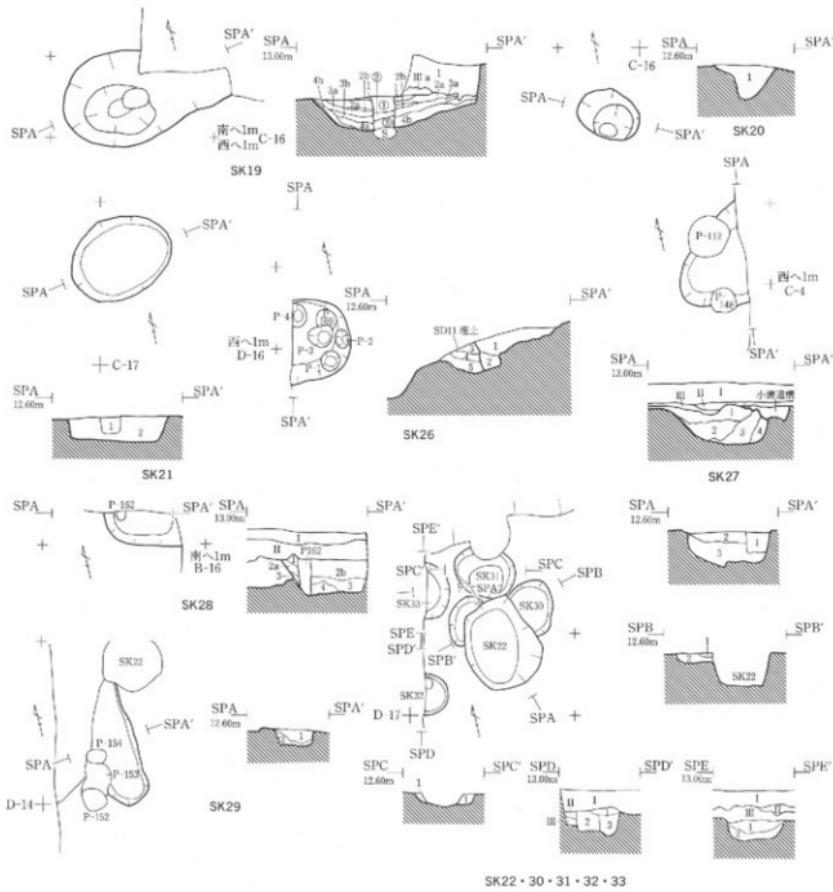
〔SK31〕 C-16に位置し、P-99に切られる。平面形は楕円形を呈し、長軸75cm、短軸45cm、深さ26cmを計る。断面形は、逆台形を呈している。埋土や位置関係からP-99は、SK31の一部であった可能性も考えられる。

〔SK32〕 C-16に位置し、西半部は調査区外にかかる。平面形は、円形を呈するものと考えられる。長軸50cm、短軸26cm以上、深さ17cmを計る。断面形は逆台形を呈している。

〔SK33〕 C-16に位置し、西半部は調査区外にかかる。平面形は、円形を呈するものと考えられる。長軸70cm、短軸28cm以上、深さ18cmを計る。断面形は逆台形を呈している。



第128図 土坑平面図・断面図（1）



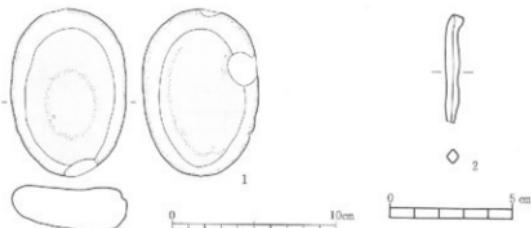
第129図 土坑平面図・断面図（2）



第14表 土坑埋土註記表 (1)

SK29				SK32			
層位	土 色	土 性	備 考	層位	土 色	土 性	備 考
1 層	10YR2/2 黒褐色	シルト		1 層	10YR3/3 嫌褐色	シルト	10YR3/1 黒褐色を塊状に混入
2 層	2.5Y3/2 黒褐色	シルト	砂質シルトに混入	2 層	10YR3/3 嫌褐色	シルト	10YR3/1 黑褐色をブロック状に混入
SK22				SK33			
層位	土 色	土 性	備 考	層位	土 色	土 性	備 考
1 層	10YR2/2 黑褐色	シルト	炭化物鉱子若干混入	1 層	10YR3/4 c.2.5 黄褐色	シルト	10YR3/1 黑褐色をブロック状に混入
2 層	10YR3/2 黑褐色	シルト		2 層	10YR3/1.17.2.5 黄褐色	シルト	10YR3/1 黑褐色を夾状に混入
3 層	10YR2/2 黑褐色	シルト	10YR4/1 黑褐色を夾状に混入 10YR4/1.2.5 黑褐色をブロック状に混入	3 層	10YR2/2 黑褐色	シルト	10YR3/5 に2.5 黄褐色を塊状に混入
SK30				SK35			
層位	土 色	土 性	備 考	層位	土 色	土 性	備 考
1 層	10YR3/3 嫌褐色	シルト	10YR3/2 黑褐色をブロック状に混入	1 層	10YR2/2 黑褐色	シルト	炭化物鉱子若干混入
2 層	10YR3/2 黑褐色	シルト		2 層	10YR3/3 黑褐色	シルト	10YR3/1 黑褐色をブロック状に混入 炭化物鉱子若干混入
SK31				3 層	10YR3/7 黑褐色	シルト	10YR3/4 c.2.5 黄褐色をブロック状に混入
層位	土 色	土 性	備 考	4 层	10YR2/2 黑褐色	シルト	10YR3/3 黑褐色をブロック状に混入
1 層	10YR3/1 嫌褐色	シルト	粘土混入				

第15表 土坑埋土註記表(2)



第130図 土坑・ピット出土遺物(1)

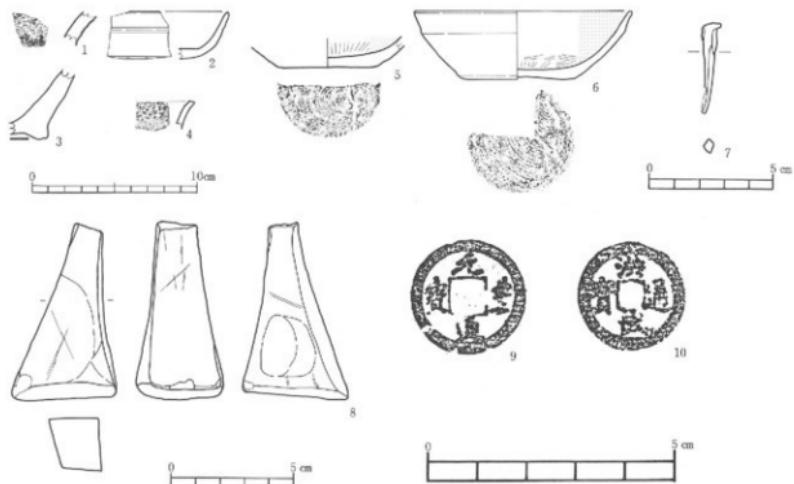
性格不明遺構

SX1・2 C-9に位置し、SD03に切られる。検出時には、竪穴遺構(SI10)として登録したが、遺構の重複としてとらえられたことから、SX01・SX02とした。

[SX01]SX02を切り、SD03に切られる。平面形は調丸方形を呈し、長軸120cm、短軸100cm、深さ42cmを計る。断面形は、逆台形形を呈し、底部には凹凸が見られる。

[SX02]南半部をSD03、SX01に切られ、西半部は調査区外にかかる。平面形は方形を基調とするものであると考えられるが不明である。長軸140cm以上、短軸140cm以上、深さ50cmを計る。断面形は舟底形を呈し、3つの段が付き、緩やかに落ち込んでいる。

番号	地区・層位	種 別	器 様	Bx(m)	Hx(cm)	Nx(cm)	Bx(E)	特 徴	登録	写真
1		礫石器	礫石	104	71	28	179		Kd28	119-6
2	埋土上層	透型法	釧	(45)	5	5	2.7	片闊欠損	N28	120-13



番号	地区・層位	種別	器種	口径(cm)	底径(cm)	高さ(cm)	性状	外 面	内 面	参考	写真
1	SK11	須恵器					ロクロナデ、波状文	ロクロナデ		E99	
2	SK19	須恵器					ロクロナデ、波線(波)羽輪ケズリ	ロクロナデ		E102	
3	SK26	須恵器	甕?				ロクロナデ	ロクロナデ		I 1 IB-1	
4	SK29	須恵器					(口付)波綱(口)波状文	(口付)波綱		E114	
5	ピット118	土師器	环	(6)		1/2	(底)回転余切り・側縁ナデ			D48	
6	ピット117	土師器	环	[13.3]	6.7	4.2	回転余切り	ヘラミダキ、刷毛処理		D51	

番号	地区・層位	物別	器種	口径(cm)	底径(cm)	高さ(cm)	性状	特 徴	参考	写真
7	SD3埋土層	鉄製品	釘	CB3	5	6	1.9	片端欠損	N15	120-12
8	ピット1	漆器	漆石	72	42	32.5	100		Kd21	119-7
9	ピット1	漆器	漆朱紙	23.8	23.8	1.9	2.38	光輝漆室 北宋 (1078)		120-6
10	ピット7	古鉄	鍛朱鉄	22.6	22.5	1.4	3.08	洪武宝刀 明 (1368)		120-7

第131図 土坑・ピット出土遺物（2）

(b) ピット（第16～18表）

ピットは、調査区のほぼ全面にわたって約180基検出されている。分布をみると、調査区北側I区と中央部に集中する傾向がみられる。これらの中には、柱痕跡をもつものや柱列を構成するものもあるが、調査区が狭く全体の構成等は不明である。詳細については集計表を参照されたい。

ピット埋土分類

- A : 10YR2/1 黒色系 B : 10YR2/2, 10YR2/3 黒褐色（黒色）系
- C : 10YR3/1, 10YR3/2 黒褐色（褐色）系 D : 10YR3/3, 10YR3/4 暗褐色系
- E : 10YR4/2, 10YR4/3, 10YR5/6, 10YR4/1, 10YR4/6 黄褐色系

(4) 遷構外出土遺物（第132図）

遷構外の遺物としては基本層などから、土師器、須恵器、陶器、磁器、鉄製品、羽口、石製模造品などが出土している。また、確認調査の際にも土師器などが出土している。そのうち、3点を図示した。また、SD03 埋土から出土した弥生土器 1 点もここに図示した。1 は、確認調査の際に出土した土師器環である。2 は、SD03 出土の弥生土

位置	平面形	長軸×短軸(cm)	深さ(cm)	埋上	切合開錠	出土遺物	備考
1 C-2-1 円形	20×20	9.1	B	P2を切る	C		
2 C-2 條形	30×20	9.0	B	P1を切られる	C		
3 C-2 方形	40×34	21.3	B		C		
4 C-2 円形	40×30	58.4	B		C		
5 C-2 円形	40×40	57.5	C		C・E		
6 C-2 円形	50×44	70.6	C	SI-01を切る	C・E		
7 C-2 円形	40×35	54.3	C	SI-01を切る	C・E		
8 C-2 條形	38×14	14.0	C	SI-01を切る	C		
9 C-2 方形	52×48	59.0	C	SI-01を切る	C・I		
10 C-2 方形	32×32	27.3	C	SI-01を切る	C		
11 C-2 方形	30×18	26.0	C	SI-01を切る	C		
12 C-2 方形	50×40	56.2	C	SI-01を切る	C		
13 C-2 方形	36×32	21.7	D	SI-01を切る	C		
14 C-2 方形	24×20	12.8	B	SI-02を切る	C		
15 C-2 方形	50×44	11.2	C	SI-01を切る	C		
16 C-3 方形	22×18	13.4	C		C		
17 C-4 方形	24×18	26.5	C		C		
18 C-4 方形	40×34	37.2	C		C		
19 C-4 方形	36×32	22.6	H		C		
20 C-4 方形	36×32	39.1	C		C		
21 C-4 円形	22×20	23.0	E		C		
22 C-4 方形	24×24	42.9	C		C・H・鉄牌		
23 C-4 方形	20×29	7.6	B		C		
24 C-5 円形	34×39	31.3	C		C		
25 C-5 円形	36×34	24.8	E		C		
26 C-5 方形	34×24	27.8	B		C		
27 C-5 方形	14×14	3.9	C		C		
28 C-5 方形	20×18	49.9	C		C		
29 C-5 方形	22×18	35.8	B		C		
30 C-5 方形	10×34	22.1	C		C		
31 B-5 円形	24×24	12.0	C		C		
32 C-6 円形	36×30	31.0	C		C・E		
33 C-7 方形	38×34	42.0	C		C		
34 C-7 方形	34×34	58.0	C		C・E		
35 C-7 方形	20×18	22.0	D		C		
36 C-7 円形	24×22	28.0	E		C		
37 H-7 円形	14×12	D					
38 C-8 円形	26×32	29.4	D		C		
39 C-8 方形	20×20	40.2	C		E		
40 C-8 方形	40×36	31.2	C		C		
41 B-5 円形	32×26	65.6	C		E		
42 B-5 方形	30×20	22.9	C		C		
43 B-5 方形	34×24	18.6	C		C		
44 C-5 円形	36×34	26.6	B		C・E		
45 C-5 円形	40×24	41.9	C		C・E		
46 C-6 円形	36×34	19.2	C	SI-02を切る	C・E		
47 C-6 円形	50×(20)	28.2	H	SI-02を切る	C		
48 C-5 円形	24×24	17.8	D		C		
49 C-5 方形	20×18	22.1	C		C		
50 C-9 方形	30×30	9.8	C		C		
51 C-9 方形	24×20	12.8	C		C		
52 C-9 方形	26×22	15.9	C		C・E		
53 C-9 方形	48×22	26.8	C		C・E		
54 C-9 方形	22×22	11.5	E		C		
55 C-9 方形	18×16	19.6	H		C		
56 C-9 方形	24×22	30.6	D		C・E		
57 C-9 方形	24×22	20.7	C		C		
58 C-9 方形	60×40	39.8	B		C		
59 C-9 方形	30×30	50.7	C		C		
60 C-9 方形	18×14	11.9	C		C		
61 C-9 方形	44×34	55.1	D	SI-04を切る	C		
62 C-9 方形	39×28	26.9	D	SI-01を切る	C		
63 C-10 方形	46×44	41.3	C	P72に切れる	C・E		
64 C-10 方形			C	P63に切られる	C		
65 B-9 方形	36×36	28.6	C	SI-04を切る	C		
66 B-10 方形	40×(20)	17.3	B	SI-04を切る			
67 H-10 円形	22×20	15.5	C	P68を切る	C		
68 B-10 方形	22×20	11.6	C	P67に切られる			
69 C-10 円形	24×22	42.8	E	SI-04を切る	C		
70 C-10 円形	42×40	27.8	B		C・E		
71 C-11 方形	22×20	20.2	B		C		
72 C-11 方形	24×22	28.9	B		C		
73 C-11 條形	26×30	29.8	E		C		
74 C-11 円形	32×22	30.7	B		C		
75 C-11 円形	34×22	25.1	D		C		
76 C-11 円形	50×44	35.2	B		C・E		
77 B-11 方形	59×46	35.8	D	P79に切られる	C		
78 C-11 方形	59×42	46.7	C	P77に切る	C・E		
79 B-11 方形	18×14	18.2	B		E		

第16表 ピット集計観察表(1)

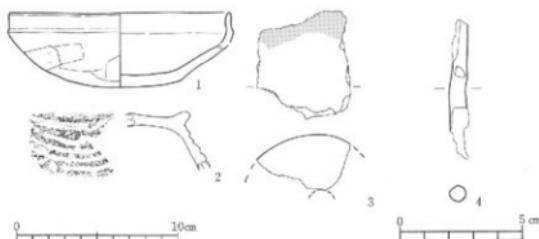
ビット名	位 置	平 面 形	長軸×短軸(cm)	深さ(cm)	埋 土	切 合 関 係	出 土 遺 物	備 考
80	C-12	円 形	20×30	12.1	D			
81	C-12	円 形	18×16	11.9	C			
82	C-12	円 形	24×24	19.4	B			
83	C-12	円 形	28×25	38.8	B			
84	B-12	円 形	30×(22)	27.9	C		C	調査区外にかかる
85	C-12	円 形	30×22	28.2	B		C	
86	C-12	椭 圆 形	50×36	39.6	E	C		
87	C-12	円 形	37×30	48.5	E		C・E	
88	C-12	円 形	25×21	25.3	C		C・E	
89	C-12	円 形	20×28	16.5	C			
90	C-12	円 形	30×23	35.2	D		C	
91	C-13	円 形	31×21	28.6	B	SI-05を切る	C	
92	C-13	円 形	15×15	13.5	C	SK-16を切る	D	
93	C-13	円 形	22×26	39.8	C		C	
94	C-13	円 形	43×46	33.2	C		C・D	
95	C-13	円 形	30×27	19.7	C		C	
96	C-14	円 形	18×18	28.9	D		C	
97	C-14	円 形	45×37	26.0	C	SK-18を切る	C	
98	C-14	円 形	43×49	17.5	C	SI-10を切る	C	
99	C-16	円 形	42×48	49.1	C	SD-03を切る	C	
100	C-4	円 形	32×22	37.8	D		C・鉄津	
101	C-4	椭 圆 形	22×16	11.0	E			
102	C-4	円 形	20×29	31.8	E	P103を切る	C	
103	C-4	円 形	30×24	23.3	E	P102に切られる	C・鉄津	
104	C-4	円 形	35×35	65.3	B		C・E	
105	C-4	円 形	14×12	13.1	C			
106	C-16	円 形	35×33	24.6	D		C	
107	B-16	円 形	45×37	61.3	D		C	
108	H-4	円 形	32×36	18.0	C		C	
109	B-15	円 形	40×38	36.8	C		C	
110	C-3	円 形	38×34	47.0	C	SI-01を切る	C	
111	C-3	円 形	36×34	61.5	D	SI-01を切る	C	
112	B-3	円 形	52×50	50.9	D		C・E	
113	C-5	円 形	29×29	16.5	C	螺旋の底盤	C	
114	C-5	方 形	20×15	19.8	C	螺旋の底盤	C	
115	C-5	円 形	35×28	37.8	C	螺旋の底盤	C・鉄津	
116	C-9	円 形	46×44	64.6	D	SI-01を切る	C	
117	-	円 形			C	SI-02を切る	C・鉄津	
118	-	円 形			C	SI-02を切る	C・D	
119	C-5	円 形	13×11	10.5	C	螺旋の底盤	C	
120	H-3	方 形	28×26	45.9	D	P121を切る	C・鉄津	
121	次番							
122	B-7	円 形	42×(19)	46.4	C	SI-03を切る	C	調査区外にかかる
123	B-7	円 形	40×(19)	31.0	C	SI-03を切る	C	
124	B-7	円 形	26×20	55.0	C			
125	C-3	円 形	42×30	28.8	D	P110に切られる	C	
126	C-8	円 形	42×42	45.4	C		C	
127	C-8	円 形	30×(17)		D			調査区外にかかる
128	C-9	円 形	30×27	14.0	B	SI-04を切る	C	
129	B-9	円 形	30×26	26.0	D	SI-04を切る	E	
130	C-8	円 形	17×15	25.3	D	SI-09を切る	C	
131	C-11	椭丸形	60×55	37.6	B	SK-19に切られる	C	
132	C-11	椭丸方形	69×47	41.2	B	P171に切られる	C	
133	C-8	円 形	25×25	16.8	C	SD-08に切られる	C	
134	C-7	円 形	30×30	38.0	C	SD-02を切る	C・E	
135	B-9	円 形	22×17	19.6	C	SK-12を切る	C	
136	B-9	方 形	291×27	25.7	C	SK-12底盤	C	
137	C-13	円 形	29×28	27.3	C	SI-05に切られる	C	
138	C-12	円 形	60×58	27.8	D	P109に切られる	C	
139	C-13	円 形	50×50	34.6	B	SK-10に切る P140を切る	C・E	
140	H-13	円 形	40×35	56.8	C	SK-10に切る P140を切る	C・E	
141	B-13	円 形	30×(20)	27.5	C	SK-10を切る	C	調査区外にかかる
142	C-14	円 形	33×28	41.7	D	SD-03を切る	C	
143	C-16	円 形	53×50	26.3	D	SK-31を切る	C	
144	C-4	円 形	13×13	21.0	C	SD-01を切る	C	
145	C-4	円 形	32×25	65.4	C	SD-01に切る P104に切られる	C	
146	B-3	円 形	30×24	24.1	B	SD-01を切る	C・E	
147	B-4	円 形	32×32	18.0	C	P146を切る	C	
148	H-4	椭 圆 形	32×24	60.5	B	P147に切られる	C	
149	B-4	不 明	18×12	32.6	C	SK-04とP171に切られる		
150	B-14	不 明	30×(16)	40.9	D	SK-18を切る		
151	C-4	方 形	42×42	37.3	B	SD-01を切る		
152	C-3	円 形	30×24	37.1	C	P153を切る	C・D	
153	C-3	椭 圆 形	42×34	54.5	C	P152に切られる		
154	C-3	円 形	24×20	35.1	C		C	
155	C-3	椭 圆 形	40×30	59.9	C		C・E	
156	C-3	不規則形	36×36	69.8	C		C・E	
157	C-3	不規則形	44×49	76.5	C	小溝を切る	C・H	
158	C-3	手動円盤	32×20	25.2	C	SK-02に切られる	C	

第17表 ピット集計観察表(2)

器の蓋で、弥生時代前期頃の可能性が考えられる。3は、表上除去中に出土した羽口の破片である。端部に溶融した痕が見られる。

ゾク番	位 置	平 面 形	頂點と側面(cm)	底面(cm)	備 考	内 合 四 面	周 土 壁 面	備 考
159	C - 3	円 形	54×24	46.8	C	P'111に切られる	C	
160	村 - 13	椭 圆 形	36×(25)	43.6	E	SK-10を切る	C+E	
161	B - 15	円 形	(15)×13	16.6	C	SD-63を切る		
162	B - 15	円 形	15×13	13.5	C	SK-38を切る		
163	C - 16	円 形	23×(18)	22.1	C			
164	C - 16	円 形	30×25	29.2	C	SD-63に切られる	C	
165	B - 15 椭 圆 形		20×16	16.7	E	SD-63に切られる		
166	B - 15 椭 圆 形		30×25	13.6	C	SD-63に切られる		
167	欠 番							
168	C - 2	円 形	27×25	11.6	C	SI-01を切る		
169	C - 15	円 形	28×25	10.9	C	SK-26を切る		
170	B - 17	円 形	37×30	29.1	C	SD-12を切る		
171	欠 番							
172	C - 15	円 形	25×22	31.8	C	SD-93に切られる		
173	欠 番							
174	C - 15	円 形	33×22	44.4	E	SD-93に切られる SD-12に切られる		
175	C - 8	円 形	37×33	40.0	C	SI-02を切る		
176	C - 8	円 形	35×30	32.6	C	SI-02を切る		
177	C - 5	円 形	25×23	14.9	C	SI-02を切る		
178	B - 2	円 形			C	SI-01を切る		
179	B - 5	円 形	26×(29)	47.1	B			
180	C - 6	円 形	15×15	27.0	SI-11を切る			
181	D - 6	椭 圆 形	(40)×50	11.6	B			
182								調査区外にかかる

第18表 ピット集計観察表 (3)



番号	地区・位臵	種別	縦幅	横幅(cm)	高さ(cm)	厚さ(cm)	残存	外 面	内 面	備考	登録	写真
1	試掘	土師器	环	(13.7)	4.6	1/4	(体)ヘラケツリ				C633	
2	SD03環6箇	条状	?				挫継	1ミリ			B 1	III-4
番号	地区・位臵	種 別	縦 幅	横 幅(cm)	高さ(cm)	厚さ(cm)	残 存	特 徴	寸 法	備 考	登録	写 真
3	发挥	土製品	羽口	68	58	34	105.9	焼落崩壊			N37	II-9-11
4	IT区	土製品	灯	(56)	7	7	5.5	両側火被			N59	II-21

第132図 造構外出土遺物

登録番号	地名・埋没	分 類	高さ	幅(cm)	厚さ(cm)	底面	形	ID	写真	登録番号	地名・埋没	分 類	高さ	幅(cm)	厚さ(cm)	底面	形	ID	写真
Kd 1	SH1	四脚A	27.0	31.0	5.3	6.7				120-2	Kd10	SK34	日 玉	4.6	4.6	1.9	0.1		
Kd 2	SH1 球土中脚	円 板	28.8	26.4	3.9	2.3				120-3	Kd11	SD12	日 玉	49.3	39.0	2.6	0.4		
Kd 3	SH1 球土上脚	白 瓦	5.3	8.1	2.9	0.9				Kd12	SD06球土下脚	白 瓦	5.5	5.5	3.9	0.5			
Kd 4	SD02-SK3	板 瓦	4.5	4.5	2.4	0.1				Kd13	SD06球土上脚	樂形A	40.2	35.5	5.2	5.7			
Kd 5	SD05-SK5 球土上脚	円 板	6.7	5.1	0.9	0.1				Kd14	SD09球土上脚	樂形A	40.2	24.4	6.0	11.2			
Kd 6	SD10球土上脚	円 板	7.9	8.7	2.6	1.4				Kd15	SD10球土上脚	日 玉	4.6	4.1	2.2	0.1			
Kd 7	SD14球土上脚	白 瓦	4.6	4.4	2.4	0.1				Kd16	Tm 43	瓦踏品	30.0	6.6	1.3	0.1			
Kd 8	SH07球土中二脚	日 玉	6.2	6.0	3.4	0.2				Kd17	Tm 27 球土	日 玉	5.0	5.0	1.7	0.1			
Kd 9	SK06	日 玉	4.1	4.0	2.2	0.1				Kd18	C-3グリフ	日 玉	4.5	4.5	2.0	0.1			

第19表 石製模造品集計表

V 考 察

1. 出土遺物の検討

(1) 第30次調査

①古墳時代の土師器について

主に住居跡より土師器が出土している。調査区の関係から住居跡は全掘したものはなく、出土遺物については本来の一括遺物のごく一部を示しているにすぎない。そこで、比較的出土量が多くなおかつ共通の雰囲気を持つ次の遺構出土の遺物をピックアップし、おおまかな傾向性を示すことにとどめたい。

まず、大きく二つのグループに分けることができる。

Aグループ：SI32・14・26 出土遺物

Bグループ：SI11・12・25 出土遺物

AとBの違いは环で顕著である。Bはいわゆる有段丸底であり、内面が黒色処理される場合がある。Aは丸底、凹み底が多い。また、Aは高环が多く含まれるが、Bには含まれない。両者を宮城県における土師器編年（氏家：1957）に当てはめると、Aは南小泉式、Bは住社式にあたると考えられる。

Aグループの器種は、高环、环、壺、甌、瓶、蓋がある。高环は、环部に段もしくは稜をもち、脚部が外反気味に開く円錐台状のものと、脚上半が円筒形で、下半が開くものがある。环は口縁部が内湾するもの、外反するものがあり、底部は丸底、平底、凹み底がある。壺は口縁部の厚い大型のものと、丸い胴をもち口縁部が長く直立気味に外反する小型のものがある。甌は体部にふくらみを持つ。

宮城県内の南小泉式の変遷については、丹羽茂（宮城県：1983）、加藤道男（加藤：1982）、白鳥良一、古川一明（白鳥・古川：1991）らにより検討されている。それらを参考に考えると、Aグループは南小泉式でも比較的古い段階に位置づけられそうである。少なくとも、台ノ山5号住居（宮城県：1980）の段階までは下らないものと考えられる。

遺物の時期は、以下のように大まかに分けられると考えられる。

南小泉式期：SI 2・6・7・9・10・27・32・14・35・16・31・19・21・26

住社式期：SI30・8・5・11・12・25・13・15・18

②須恵器の技法の認められる土師器について

SI14、15住居跡から出土した土師器甌の製作技法に須恵器の技法が認められる。SI14出土の甌（第45図11）は、体部下半にタタキ、上半には回転ハケメが認められる。色調は土師器のものである。SI15出土の甌（第50図6）は、外面にタタキが認められ、色調は黄橙色で土師器に近く、黒斑がある。このように、土師器の色調の土器に須恵器の技法の認められるものは、南小泉第4次調査（仙台市：1982）でも指摘されている。

③平安時代の遺物

SI17住居跡からはロクロ土師器、須恵器が出土しており、遺物の所属時期は平安時代と考えられる。須恵器環は、底部の切り離しがヘラ切りと回転糸切りがあり、切り離し後再調整がされるものもある。体部は直線的に立ち上がり、底径／口径比が0.47～0.63である。このような特徴から、須恵器の時期は9世紀後半頃と考えられる。

④黒曜石石器

基本層、遺構などから黒曜石の石器が出土している。その出土状況は以下の表にまとめた（第20表）。器種にはスクレイパー、ビエス・エスキュー、不定形石器がある。スクレイパーは刃部角が大きなものがある。剝片の中には、両極削離痕を持つものがある。石材は2種類認められる。Aは黒っぽく、縞が見られ、夾雜物が混じる。Bはやや茶色っぽく、透明感があり、夾雜物がない。大多数がAであり、Bは微細な剝片2点のみである。また、石器の中

には使用痕の見られるものがある。

古墳時代の遺跡から出土する黒曜石器は、南小泉遺跡の他に岩切溝ノ堀遺跡などにも例がある。これらは、北海道から東北地方北半に分布する北大式に伴う黒曜石器との関連が考えられている（佐藤：1984）。

登録	器種	石材	出土位置	登録	器種	石材	出土位置
Ka1	スクレイバー	A	SI 2 ピット1	Ka55	剝片	A	SI14 墓土
Ka11	スクレイバー	A	SI19 床直	Ka56	剝片	A	SI17 墓土
Ka12	ビエス・エスキュー?	A	SI20 床直	Ka57	不定形石器	A	SI17 床直
Ka29	スクレイバー	A	III層 II層	Ka58	剝片（両極）	A	SI17 墓土
Ka43	剝片	A	SI 5 墓土	Ka59	剝片	A	SI20 墓土
Ka44	ビエス・エスキュー?	A	SI 5 墓土	Ka60	剝片	B	SI26 床直
Ka45	スクレイバー	A	SI 6・7 墓土	Ka61	剝片	A	SI32 墓土
Ka46	剝片	A	SI13 墓土	Ka62	剝片	A	SI32 墓土
Ka47	不定形石器	A	SI14 墓土	Ka63	剝片（両極）	A	SE32 床直
Ka48	ビエス・エスキュー?	A	SI15 墓土	Ka64	剝片	A	SK38
Ka49	ビエス・エスキュー?	A	SK30	Ka65	剝片	A	SD 2 墓土
Ka50	剝片	A	SI 2 墓3～5層	Ka66	石核	A	II区B・C 7～9 II層
Ka51	不定形石器	A	I区II層天井返し	Ka67	剝片	B	III区II層
Ka52	剝片	A	SI 5 ピット1	Ka68	剝片	A	夷拵
Ka53	剝片	A	SI10 墓土	Ka69	剝片	A	SI13 墓土
Ka54	剝片	A	SI13 墓土				

第20表 黒曜石の出土状況

(2) 第31次調査

①古墳時代の土師器について

今回の調査では主に住居跡から土師器が出土している。しかし、調査区が狭いため、住居跡の一部を掘りあげたにとどまり、出土量も少ない。そのため、ここでは遺物の概略を述べるにとどめたい。

住居跡のうち、SI03・09・11・04は遺構に伴う遺物が少量で特徴が少なく、積極的に所属時期を比定できない。SI02 住居跡は、遺構に伴う遺物が平安時代のものと考えられる（後述）。SI05・07は床面出土の遺物が比較的多いので、検討してみたい。

SI05・07からは、壺・甕・蓋が出土している。壺は浅い丸底で口縁部が屈曲し内傾するものと、直立するものと、やや外傾するものがある。調整は口縁部外面がヨコナデ、体部外面がヘラケズリもしくはヘラミガキ、内面はナデ調整される。器面に黒色の付着物のあるものもある（漆を付着させたとされている）。胎土は黄褐色でほとんど砂粒を含まず、粉っぽい印象を受ける。

甕は体部が長胴で、口縁部と体部の境に段を持ち、調整は口縁部がヨコナデ、体部がナデかハケメである。SI07には小型の甕があり、口縁と体部との境は特になく、ナデ調整で、黒色付着物がある。

蓋はつまみがあり、裾が円錐状に広がる。

SI05・07に類似する壺は他の遺構の堆積土などからも多く出土している。これらは在地の土師器の製作技法と異なるものであり、関東地方の土師器に関係を求める、いわゆる「関東系土器」と呼ばれてきた。同様の土器は今回の調査区の南に位置する南小泉22次調査で多く出土しており、報文中で詳しい分析がなされている（仙台市：1994）。ここでは、SD3 溝跡で共伴している須恵器より、これらの土器の年代観を6世紀末葉から7世紀初頭としている。南小泉11次調査第46号溝跡では、6世紀中葉の年代が考えられている（仙台市：1984）。また同様の土器は、郡山遺跡24次調査SI260より出土している（仙台市：1983）。SI260はI期官衙の遺構より古く、郡山遺跡の第2段階にあたり、7世紀前半～中葉（仙台市：1986）とされている。また、藤田新田遺跡からも同様の壺が出土しており、その年代を6世紀後葉から7世紀前半頃としている（宮城県：1994）。

甕については、住社式から夷拵式の特徴を有している。また、蓋は甕遺跡に類似がある（仙台市：1979・1982）。

ここでは、遺構一括遺物のうちごく一部の資料ということから、土師器については東北地方の編年では住社式から栗原式にあたり、絶対年代を与えるとすれば、6世紀後半から7世紀前半の間と、おおまかにとらえておきたい。

②平安時代の遺物について

SI02 住居跡では、床面検出の SK1 土坑よりクロ土師器、回転糸切り無調整の須恵器坏、赤焼土器が出土しており、遺物の時期は平安時代と考えられる。須恵器は、底部切り離しが回転糸切りで、体部がやや丸みをもって立ち上がり、底径／口径比が0.5と0.46である。このような特徴から、須恵器の時期は9世紀後半頃と考えられる。

③鍛冶遺構の出土遺物について

SI01 穫穴遺構からは、土師器坏（関東系）と、須恵器坏が出土している。須恵器坏は、底部切り離しがヘラ切りで、底径が大きく、底部と体部へ丸みをもって立ち上がるという特徴をもつ。坏の時期は、8世紀頃と考えられる。床面から出土した羽口の形状は、先端がやや細い漏斗状のものである。製作技法からみると、粘土紐を巻き上げた痕跡がみられないことから、輪木に粘土を巻き付けて成形し、外側の調整は指によるオサエとナデにより仕上げられたものと思われる。福島県新地町武井地区製鉄遺跡群（寺島：1989）では、大量に出土した羽口について 形態・調整技法からの分類を行なっている。そのなかで漏斗状で指ナデによるものは、共伴した土器から8世紀中頃～9世紀前半の年代が考えられている。

遺構の時期については、出土遺物が少ないとことから、奈良時代かそれ以降としておきたい。

2. 検出された遺構の検討

（1）第30次調査

今回の調査で発見された遺構には、竪穴住居跡・竪穴遺構・掘立柱建物跡・墓壙・階段付地下式坑・土坑・溝跡・小溝状遺構などがあり、そのほかに中世の屋敷跡に伴う区画溝跡・掘立柱建物跡がある。ここではその中で主体となる遺構について概略的にふれてみたい。

①竪穴住居跡について

竪穴住居跡は28軒があるほか、竪穴遺構7基がある。このうち出土遺物が少なく時期決定が難しいものもあるが、前述したように各遺構の出土遺物の検討から次のような年代が考えられる。

南小泉式期：SI 2・(6・7)・9・10・27・32・14・35・16・31・19・21・26

住社式期：SI30・(8)・5・11・12・25・13・15・18

平安期：SI17

*（ ）は竪穴遺構

古墳時代中期～後期の竪穴住居跡は21軒検出されたが、南側に隣接する第17次調査で検出された32軒を合わせると極めて高い密度を示している。未調査部分に予想される遺構の存在を考えると、南小泉遺跡のなかでこの時期の中心となる集落の存在が考えられる。

21軒の竪穴住居跡はいずれも平面形は隅丸方形に近く、主軸方向にはややばらつきがあるものの、真北方向を基準として東西それぞれ20°の範囲内におさまっている。

改築を行なっている竪穴住居が2軒認められた。SI14はSI35の西辺側を拡張し、床を上げている。SI17も若干拡張を行なっているようである。

SI02・11・12・26について、床面での焼土・炭化物（材）の検出状況から焼失家屋である可能性が高い。

②屋敷跡について

SD01によって区画された屋敷地内から、SB02・03という中枢的な建物が発見された。第17次調査の成果と合わせて、一辺半町規模の方形の屋敷跡の変遷がとらえられ、14世紀前半に一度廃絶した屋敷の区画溝の一部を、16世紀前半に改修し屋敷地を拡張していることが考えられる。

これまでの南小泉遺跡での調査成果から、この地域での中世段階の屋敷・館跡の変遷がとらえられており、12世

紀末には、区画溝をもたない、建物跡・井戸・土坑といった遺構組成からなる「屋敷」が成立している。その後、13世紀中頃～14世紀後半には、今回確認された屋敷跡のような、ある程度の防護機能をもった溝によって区画される半町規模の方形を基準とする屋敷へと発展している。

この時期、第16次調査で確認されている屋敷跡Bと今回の屋敷跡（17次調査屋敷跡E）が、時期的に並立している可能性が考えられる。屋敷跡Bは遺構の内容がはっきりしないが、北辺で60m前後の溝で区画され、後期には区画溝が、上幅・深さともに拡張されている。出土遺物の量や内容から当地での最有力者層の屋敷と考えられるもので、並立を考えた場合、あるいは主従関係のような形があったことも想定される。

成立の遅い屋敷ほど区画溝の幅や深さが拡大し、櫛などの防御施設が増す傾向がみられるが、この屋敷跡Bが14世紀後半には、大規模な土塁と巨大な堀を巡らす城館へと発展した可能性が考えられている。この城館については、国人領主クラスの存在が考えられ、「古城書上」など江戸時代の文献に記録のある「小泉村、古城」との記載や、在地の領主である同分氏との関係が考えられよう。

③墓壙群と階段付地下式坑について

斜行する階段状の施設をもつ土坑について、従来土倉跡や半地下式の貯蔵施設として報告されている遺構とは形態的に異なり、貯蔵施設とするには床面積も小さいことから、関東地方での類似した遺構の名称である「階段付地下式坑」の語をもちいた。

地下式坑の用語について、中世の墓壙については「地下式墳」の語を用い、地下式土倉などを含めた総称としては「地下式土坑」と整理すべきとの考えもある。一般的に、地下式坑は墓地に関係している場合が多いようであり、その場合「地下式墳」の語が多く使われているが、今回はその機能について多様な様相が考えられることから「地下式坑」の語を用いている。

今回検出された遺構は、16世紀前半に成立した屋敷跡内にあるが、その屋敷の中核的な建物を切って構築されていることから、屋敷に伴う施設とは考えられない。その機能について、遺跡のなかでの他の遺構との関連を考えれば、周辺にほぼ同時期のものと考えられる墓壙などが存在していることから、これらの墓壙と一緒にとなった葬送に関わる施設であった可能性が考えられる。

また、2基の階段付地下式坑とその東に位置するSK23は、ほぼ同じ方向を向いており、それぞれの間隔が約2mと一定していることから互いの存在を意識して構築されているようである。土坑としたSK23は、深さが約150cmと井戸跡とするには浅いものの、他の土坑とは形状や規模がまったく別のものであり、形態的には井戸跡のような形状を呈している。

今回の遺構が墓地に伴うもので、SK23の井戸跡としての可能性を考えた場合、斎藤 弘氏が「北関東地方では、中世の墓地のなかで井戸と地下式坑が検出されることが多い（斎藤：1996）。」としていることは、遺構組成を考える上で注目される内容である。

斎藤氏は栃木県内の事例から、地下式坑について墓地や葬送儀礼に関わる機能を考えている。また、地下式坑の構築方法について、北関東では地下室が浅く、埋土の観察から露天掘りの可能性がある地下式坑が存在することを指摘している。堅坑状に掘りこんだのちに渡し板でふたをして土を盛る、いわばオープカット工法によるもので、低地の微高地などで天井を掘りのこすためのロームの厚さが確保できないための工夫と考えている。

今回検出された階段付地下式坑についても、堆積土には天井部の崩落を示す痕跡は認められない。また、現地表面から遺構検出面までは40～50cm程度で、後世の削平や表土の流失等によって天井部が失われたとは考えにくいことから、構築にあたってこの露天掘りのような工法がとられた可能性が考えられる。

地下式坑の研究は比較的新しく、中田 英・半田堅三の両氏が関東地方を中心に地下式坑を集成し、分布・立地・機能・時期について整理したことにはじまっている（中田：1977・半田：1979）。地下式坑の定義については、「地

表面下に堅坑を掘り下げて入り口部とし、その底面から横に掘り抜げて本体である地下室を築いた遺構（中田：1977）で、近世のムロや江戸時代の地下室は除外されている。

半田氏は中田氏による地下式坑の分類をすこめて、斜坑に階段を有する地下式坑について「有段III類」として分類し、「堅坑底が主室底面より深く、1段以上の段差をもって地下室に至るもの」としている。地下式坑の機能については、「中世初頭に発生し一定の機能を持って展開し、中世末にその終末を迎える遺構」であり、「中世仏教を背景に発生した墓地の内部で機能している施設の一つで、再葬のための第一次葬としての施設等も含め広い意味での墓であろう」と位置づけ、「地下式壙」の語を用いている。

その後小山裕之氏が、従来の地下式坑の形態概念とは異なる、入口部に堅坑の意識がなく、階段最下部から地下室への段差の認められない斜行階段付きの地下式坑について、はじめて「階段付き地下式坑」と分類している。地下式坑の定義についても、「地表面から地下に向かって何らかの入り口施設を設け、その底面から横方向に地下室を築いた中世期の遺構」と広義にとらえている。形態的特徴としては、「単室の地下室を持ち、入口部が地表面から地下室まで連続する階段で構成されるために入口部は斜道化する。」とし、入口部が長大化し、地下室も大型のものから、入口部はあまり長大化せず、地下室も小型のものへという、規模縮小化の変遷を想定している（小山：1995）。機能については、形態的に恒常的出入りを意識したもので、地下室の専有面積も一定量の物品を貯蔵するには十分であるとして貯蔵施設としての役割を考えている。

地下式坑の機能について、従来の「堅坑型」を分類した半田氏が墳墓説をとっているのに対し、小山氏は「階段付き」について貯蔵施設と考えていることは、地下式坑のなかで形態差によってその機能に多様性がある可能性を示している。しかし、ともにこうした地下式坑の時期については、中世から近世の所産と考えている。

今回検出された遺構は、小山氏によって分類されたものに比べて地下室の規模が小型ではあるものの、形態的には「階段付き」地下式坑の概念に含まれるものと考えられる。

機能的には前述のように、貯蔵施設とするには床面積がともに0.7m²程度であることからも考えにくく、周辺に墓壙群がある事からも、いわゆる葬送に関わる施設であった可能性が高い。階段を付けるという行為は、恒常的ではないにせよある程度再びこの遺構を利用する想定したものといえ、その意味では、改葬のような行為を前提とした施設であった可能性が考えられる。

階段付地下式坑の作られた時期については出土遺物がなくはっきりしないが、16世紀前半の屋敷の建物を切って構築されており、この時期を大きく下らないものと考えられる。墓壙からは、無文銭1枚と波来銭（北宋銭）5枚による六道銭が出土している。この無文銭は、銭径に対する孔径が大きいもので厚さも薄く、このような特徴は無文銭のなかでも新しい要素とされている。また、六道銭の銭数が6枚に定着するのは中世末と考えられていることからも階段付地下式坑とほぼ同時期の遺構と考えられる。

関東地方では、こうした地下式坑は14世紀後半～16世紀中頃のものとされているが、今回検出された階段付地下式坑と墓壙の時期については16～17世紀初頭としておきたい。今後県内での類例の増加をまって、関東地方の「堅坑型」・「階段付き」地下式坑との比較・検討を行なったうえで遺構の性格・時期を考える必要があろう。

（2）第31次調査

今回の調査で発見された遺構には、堅穴住居跡・堅穴遺構・銀治関連遺構・土坑・溝跡・小溝状遺構などがある。ここではその中で堅穴住居跡について概略的にふれてみたい。

①堅穴住居跡について

堅穴住居跡は7軒があるほか、堅穴遺構1基がある。このうち出土遺跡が少なく時期決定が難しいものもあるが、前述したように各遺構の出土遺物の検討から次のような年代が考えられる。

築造式期：SI05・07

南小泉遺跡周辺の名取川下流域では、第11・22次調査地点や、藤田新田遺跡、郡山遺跡などで、いわゆる「関東系土器」が出土している。特に今回の調査区の南東側で行われた第22次調査では、幅7mの大溝で居住域を区画する集落が発見されている。この集落は大溝の西方へと展開しているが、居住域の拡がりについては不明である。報告者は、関東系土器の背景として関東方面から人の移住を伴う居住形態と、広瀬川を挟んで対岸に位置している郡山遺跡との関連性を考えている。大溝を伴う集落の機能が、郡山遺跡Ⅰ期官衙の成立する時期に終わっていることから、その初期に重要な役割を果たした集落に位置付けられる可能性を指摘している（斎野：1994）。

南小泉遺跡では遺跡範囲の広さも関わって、時期的に中心となる地点の違いが認められている。今のところ関東系土器が出土しているのは遺跡南西部での調査にとどまっている。南小泉遺跡と郡山遺跡の関連性については、これまであまり調査が行われてこなかった遺跡南西部の調査が進み様相が明らかになるなかで、時期差を含めた検討をしていく必要があろう。

VI まとめ

今回の調査は、宅地造成工事（第30次）、集合住宅建築工事（第31次）に伴う調査として行なわれた。第30次調査区は遺跡内のほぼ中心に位置し、第31次調査区は西端に位置している。今回の調査で以下のことが明らかとなった。

第30次調査

1. 弥生時代の遺構は検出されなかったが、これまでの調査と同じく楕円形圓式を主体とする土器が出土している。
2. 古墳時代の遺構としては、竪穴住居跡27軒があるほか、竪穴遺構7基がある。このうち出土遺物の検討から、南小泉式期の住居跡13軒、住社式期の住居跡8軒が確認された。

南側に隣接する第17次調査でも、中期から後期の住居跡が32軒検出されており、遺跡内でも極めて高い密度を示していることから、この時期の中心となる集落の存在が考えられる。

注目される遺物としては、北海道から東北地方北半に分布する北大式に伴うとされる黒曜石石器がある。仙台市内では、南小泉遺跡の他に岩切鴻ノ巣遺跡などに出土例がある。

3. 奈良・平安時代の遺構・遺物はこれまでの調査でも希薄であり、今回の調査でもその傾向は変わらなかった。平安時代の住居跡は1軒があるだけで、出土した須恵器の時期は9世紀後半頃と考えられる。
4. 中世の遺構としては、屋敷を区画する溝跡とその中枢的な建物跡が検出された。第17次調査の成果と合わせると、一辺半町規模の溝によって区画された方形の屋敷跡の変遷が確認された。
5. 屋敷跡以外の中世の遺構として、墓壙群と階段付地下式坑がある。墓壙群は14世紀段階の墓壙群Aと、16世紀段階の墓壙群Bの2時期に分けられる。2基の階段付地下式坑は、形態や規模が一致していることから、ほぼ同時期に構築されたもので、墓壙群Bに伴う葬送に関わる施設であったと考えられる。県内ではこれまで階段付地下式坑については類例がなく、今回が初めての検出例となった。関東地方では、こうした階段付地下式坑は14世紀後半～16世紀中頃のものとされている。今後県内での類例の増加をまって、他地域の地下式坑との比較・検討を行なって遺構の性格を考える必要があろう。
6. 屋敷跡と墓壙群との関係については、14世紀前半に屋敷が廃絶した後に墓地が作られ、その後16世紀前半に再び屋敷地として利用されたのち、廃絶後に再び墓地として利用された変遷が考えられる。

第31次調査

1. 古墳時代の遺構としては、竪穴住居跡5軒があるほか、竪穴遺構2基がある。このうち出土遺物の検討から栗井式期の住居跡2軒が確認された。

注目される遺物としては、いわゆる「関東系土器」が出土している。今回の調査区の南東側で行なわれた第22

次調査では、関東系土器をもつ集落跡の調査から、広瀬川を挟んで対岸に位置している郡山遺跡との関連性が考えられている。南小泉遺跡と郡山遺跡の関連性については、これまであまり調査が行なわれてこなかった遺跡南部の調査が進み様相が明らかになるなかで、時期差を含めた検討をしていく必要があろう。

2. 平安時代の遺構としては竪穴住居跡1軒があるほか、鍛冶関連遺構がある。竪穴遺構1基と土坑4基・ピット10基が検出され、土坑・ピットは建物跡となる可能性がある。主な出土遺物としては、羽口・鉄製品・小鉄片・鉄鋤・鉄鎌等があるほか、土坑やピットの埋土から粒状滓（湯玉）なども出土している。

第30次調査引用・参考文献

- 氏家和典：1957 「東北土師器の型式分類とその編年」 『歴史』 第14巻 東北史学会
佐藤信行：1984 「宮城県内の北海道系遺物」 『宮城の研究』 第1巻考古学編 清文堂
白鳥良一・吉川一明：1991 「土師器の編年 東北」 『古墳時代の研究6』 雄山閣
加藤道男：1989 「宮城県における土師器研究の現状」 『考古学論叢』 芹沢長介先生還暦記念論文集刊行会
半田堅三：1979 「本邦地下式壙の類型学的研究－特に関東地方を中心として－」
小山裕之：1995 「阶段付き地下式坑」について 『考古論叢 神奈川』 第4集
篠生 衡：1995 「東国における中世墓地の諸相－勇武の事例を中心に－」 『研究紀要』 第16号 （財）千葉県文化財センター
斎藤 弘：1996 「地下式壙と葬送儀礼－橋木県下の事例を中心に－」 『研究紀要』 第4号 （財）栃木県文化振興事業団埋蔵文化
化財センター
田中則和：1995 「仙台市域の中世城館・集落跡」「古代から中世へ」 中世都市研究2 新人物往来社
田中則和：1996 「宮城県南小泉遺跡」「東北の貿易陶磁」貿易陶磁研究集会平泉大会資料集 日本貿易陶磁研究会
宮城県文化財調査報告書第35集：1974 「岩切鴻ノ堀遺跡」 東北新幹線関係遺跡調査報告書
宮城県文化財調査報告書第62集：1980 「台ノ山遺跡」 東北新幹線関係遺跡調査報告書
宮城県文化財調査報告書第96集：1983 「朽木横穴古墳群 宮前遺跡」
宮城県文化財調査報告書第140集：1990 「合戦原遺跡ほか」
宮城県文化財調査報告書第161集：1994 「山王遺跡」
福島県棚倉町教育委員会：1985 「松並平遺跡」
福島県文化財調査報告書第215集：1989 「相馬開発関連遺跡調査報告I」
仙台市文化財調査報告書第35集：1982 「南小泉遺跡 都市計画街路建設工事関係第1次調査報告」
仙台市文化財調査報告書第140集：1990 「南小泉遺跡第16～18次発掘調査報告書」
仙台市文化財調査報告書第164集：1992 「南小泉遺跡第21次発掘調査報告書」
仙台市文化財調査報告書第182集：1994 「中田南遺跡」
仙台市文化財調査報告書第196集：1985 「南小泉遺跡第2・5次調査報告書」

第31次調査引用・参考文献

- 長谷川厚：1993 「関東から東北へ 一律令制成立前後の関東地方と東北地方の関係について－」「二十一世紀への考古学」 横井清彦先生古希記念会
村田晃一：1992 「多賀城周辺における奈良・平安時代の須恵器生産」「東日本における古代・中世窯業の諸問題」 大戸空検討のための会津シンポジウム資料集
宮城県文化財調査報告書第163集：1994 「藤田新田遺跡」
仙台市文化財調査報告書第14集：1979 「仙台市中田町窯遺跡発掘調査報告書」
仙台市文化財調査報告書第43集：1982 「栗遺跡」
仙台市文化財調査報告書第46集：1983 「郡山遺跡III」
仙台市文化財調査報告書第86集：1986 「郡山遺跡VI」
仙台市文化財調査報告書第192集：1994 「南小泉遺跡第22・23次調査報告書」

写 真 図 版

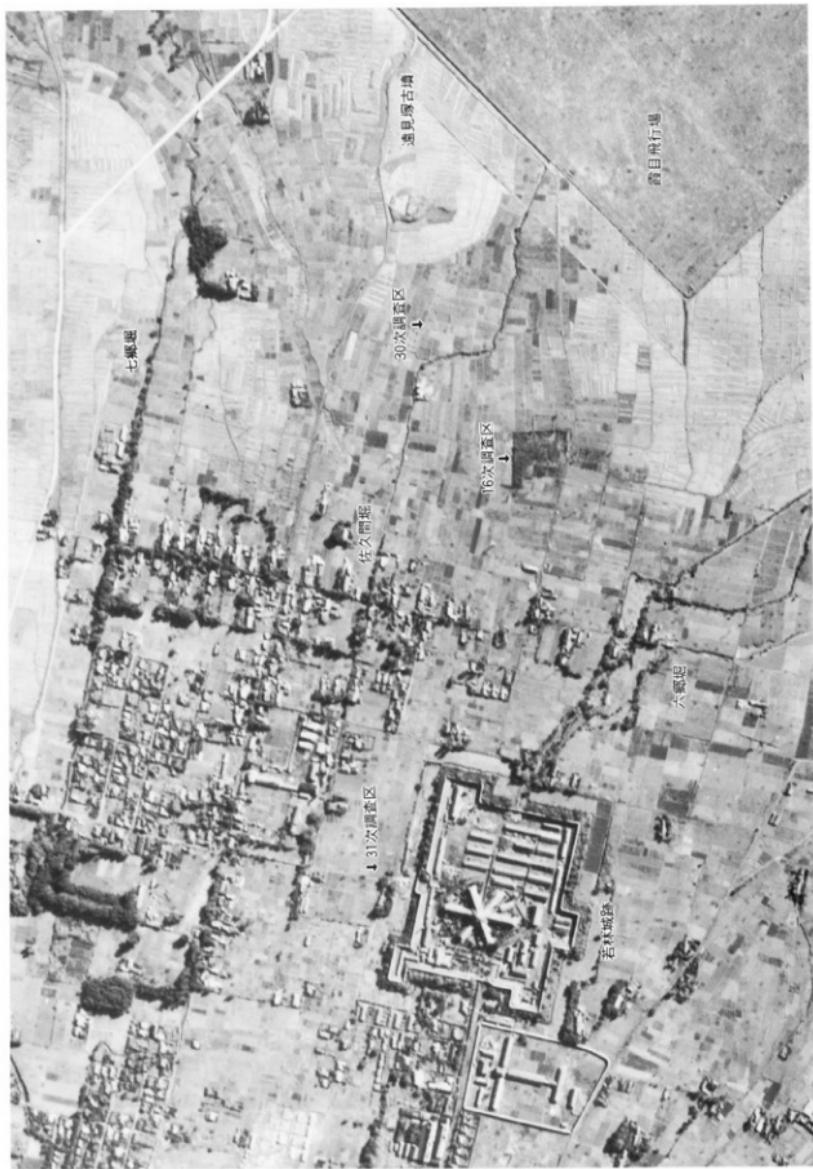




写真2 30次調査区遠景（西から）



写真3 II区中近世遺構全景（東から）

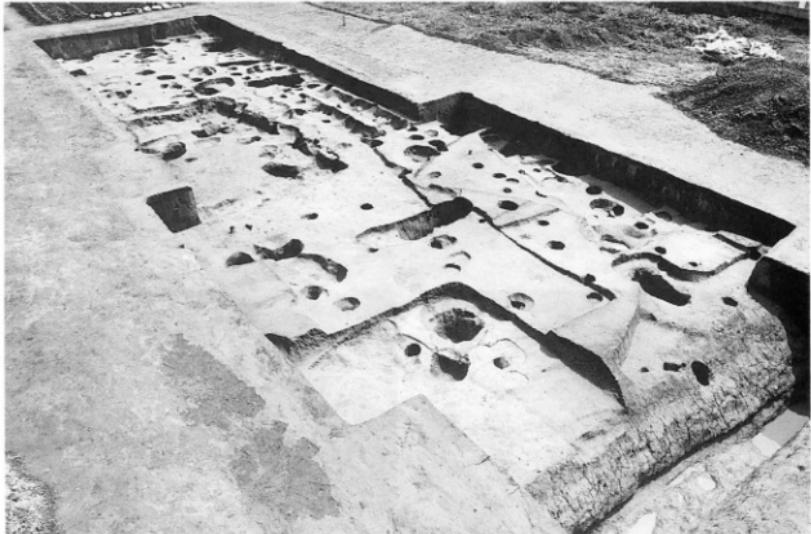


写真4 I区住居跡群全景（西から）



写真5 II・III区住居跡群全景（東から）

第30次調査

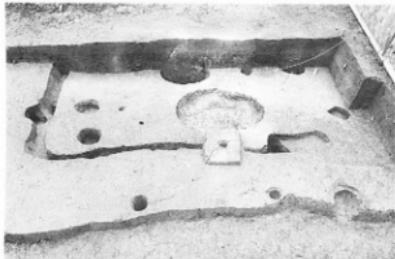


写真6 SI-01全景（西から）



写真7 SI-30全景（西から）



写真8 SI-02全景（西から）

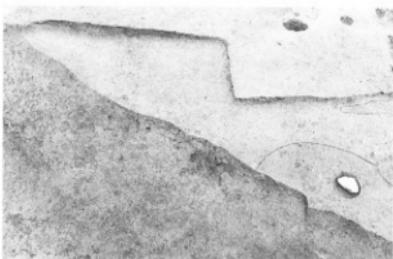


写真9 SI-03・04全景（西から）



写真10 SI-06・07全景（東から）



写真11 SI-08全景（西から）



写真12 SI-05全景（南から）



写真13 SI-05カマド（南から）



写真14 SI-05 カマド遺物出土状況（北から）



写真15 SI-09 全景（南から）



写真16 SI-10 全景（南から）



写真17 SI-22 床面検出状況（南から）



写真18 SI-27 全景（南から）



写真19 SI-29 床面検出状況（東から）



写真20 SI-28 床面検出状況（南から）



写真21 SI-33 全景（南から）

第30次調査



写真22 SI-11 全景（南西から）



写真23 SI-11 遺物出土状況（東から）



写真24 SI-12 床面検出状況（南から）



写真25 SI-12 遺物出土状況（南から）



写真26 SI-25 床面検出状況（南から）



写真27 SI-25 遺物出土状況（南から）



写真28 SI-13 全景（南から）



写真29 SI-13 カマド（南から）



写真30 SI-32 全景（南から）



写真31 SI-32 遺物出土状況（東から）

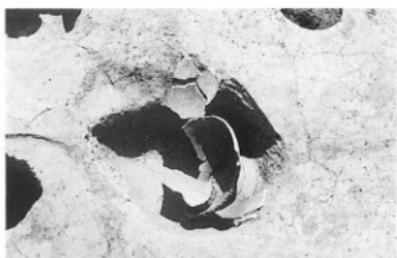


写真32 SI-32 遺物出土状況（北から）



写真33 SI-14 全景（南から）



写真34 SI-14 カマド（南から）



写真35 SI-14 遺物出土状況（南から）



写真36 SI-15 全景（西から）

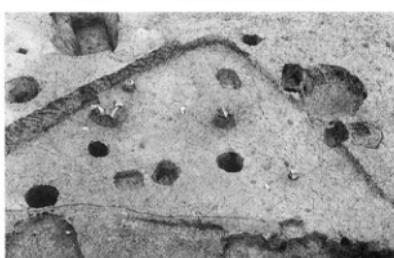


写真37 SI-16 全景（南から）

第30次調査



写真38 SI-23 全景（東から）



写真39 SI-31 全景（北から）

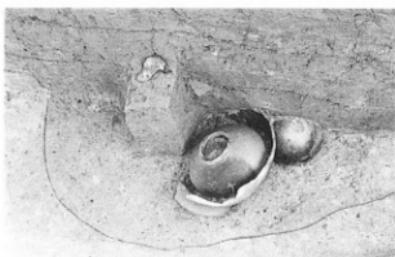


写真40 SI-31 遺物出土状況（北から）

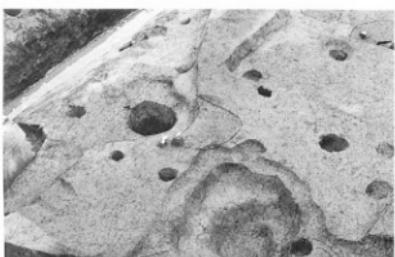


写真41 SI-34 全景（南から）



写真42 SI-18 全景（北から）



写真43 SI-18・SK-1（北から）



写真44 SI-19 全景（南から）



写真45 SI-21 全景（南から）



写真46 SI-24 床面検出状況 (北から)



写真47 SI-26 全景 (南から)



写真48 SI-26 遺物出土状況 (西から)



写真49 SI-20 全景 (南から)



写真50 SI-17 全景 (南から)



写真51 SB-01 全景 (北から)

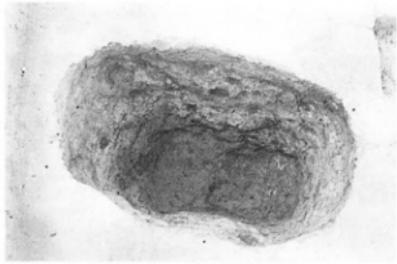


写真52 SK-17 全景 (西から)

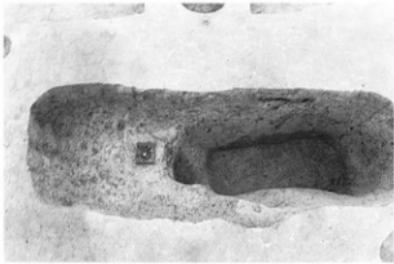


写真53 SK-18・19 全景 (西から)

第30次調査



写真54 SK-19 遺物出土状況（南から）



写真55 SK-24（北から）

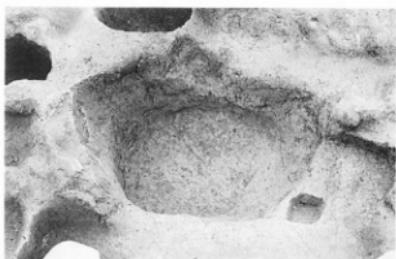


写真56 SK-26 全景（北から）



写真57 SK-28 全景（南から）

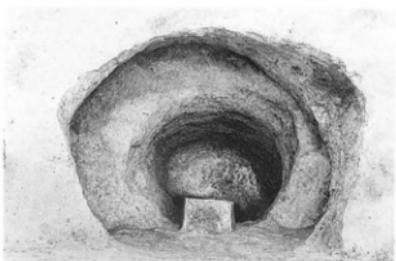


写真58 SK-23 全景（南から）



写真59 SD-01 全景（北から）



写真60 SD-01 北壁セクション（南から）



写真61 SB-02・03 全景（南から）



写真62 SD-02 全景（南西から）



写真63 SD-02 北壁セクション（南から）



写真64 SD-02 集石部（南から）

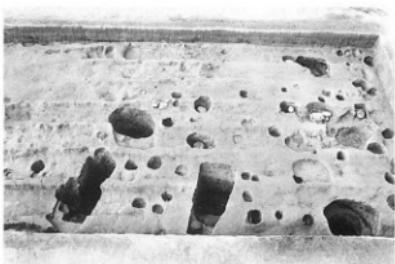


写真65 SK-21・22 全景（南から）



写真66 SK-21 全景（南から）



写真67 SK-22 全景（南から）

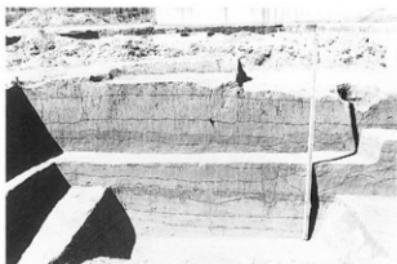


写真68 下層調査区西壁セクション（東から）



写真69 第30次調査参加者

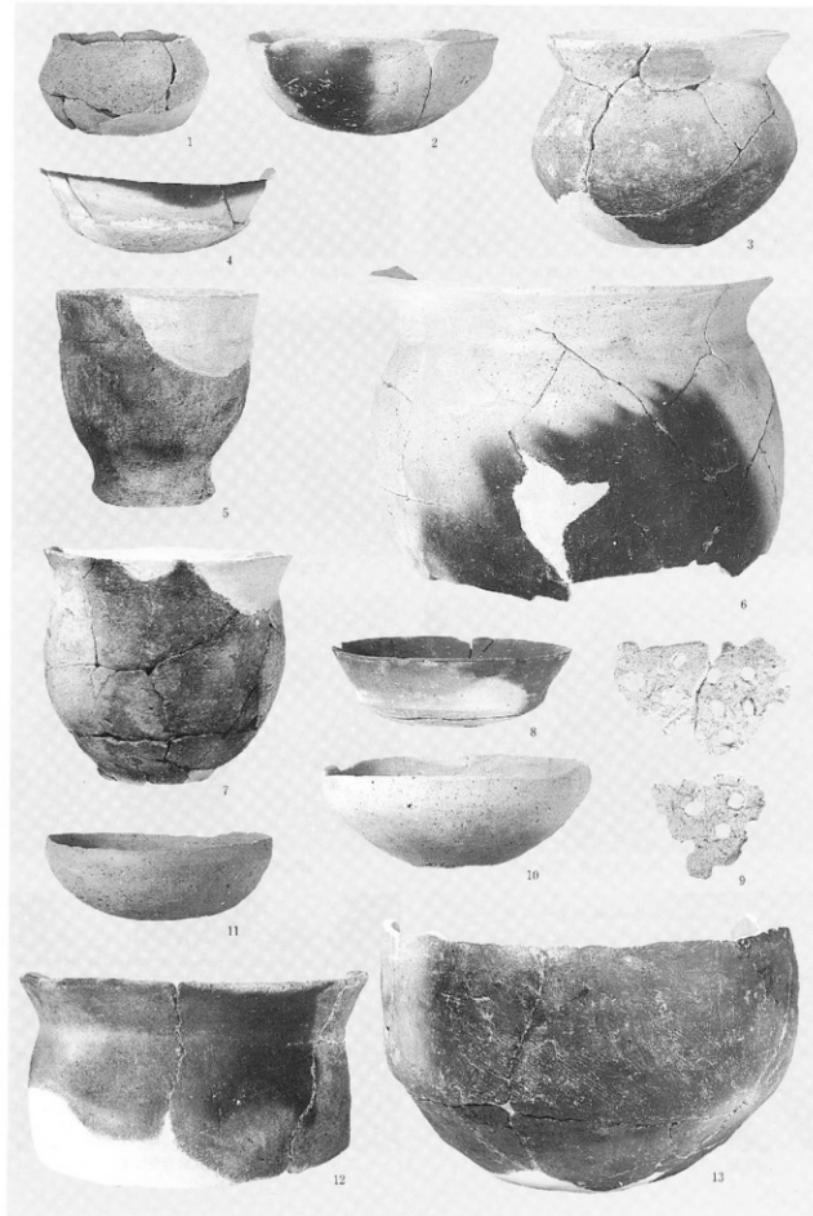


写真70 土師器 (1)

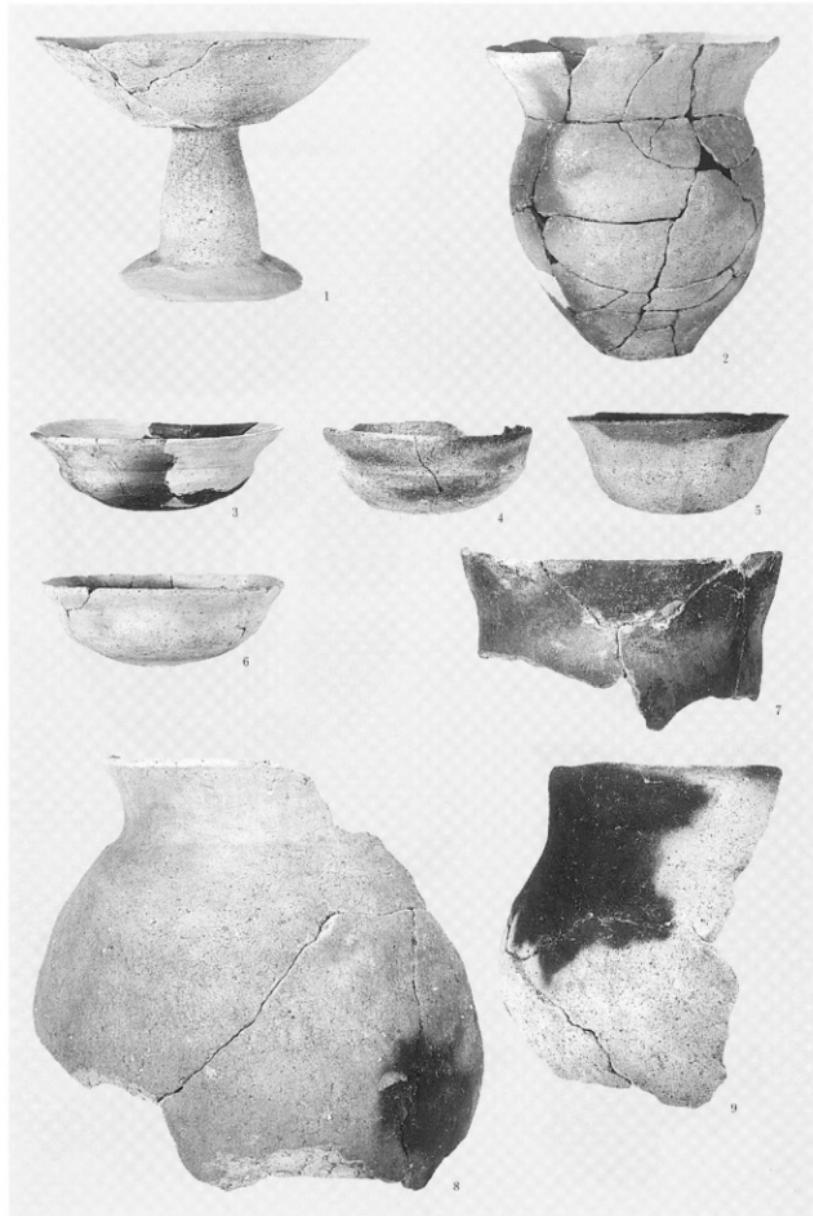


写真71 土器 (2)

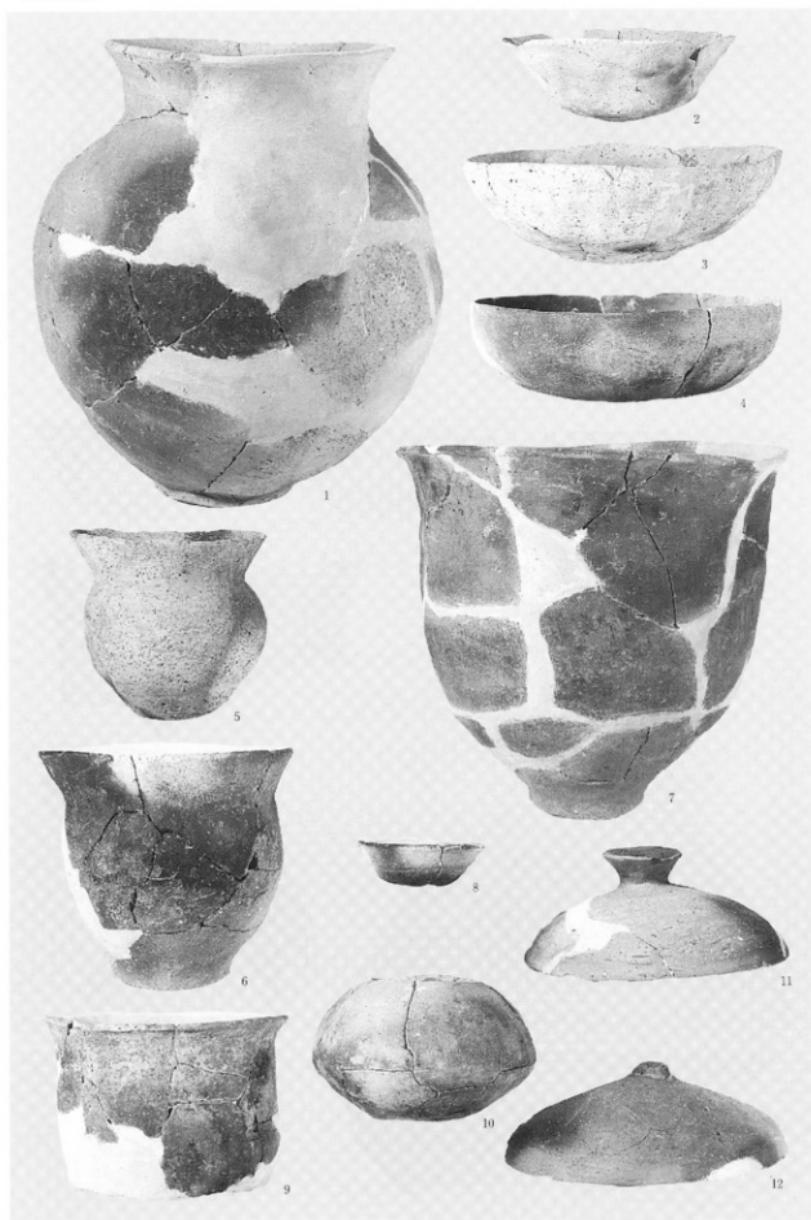


写真72 土器 (3)

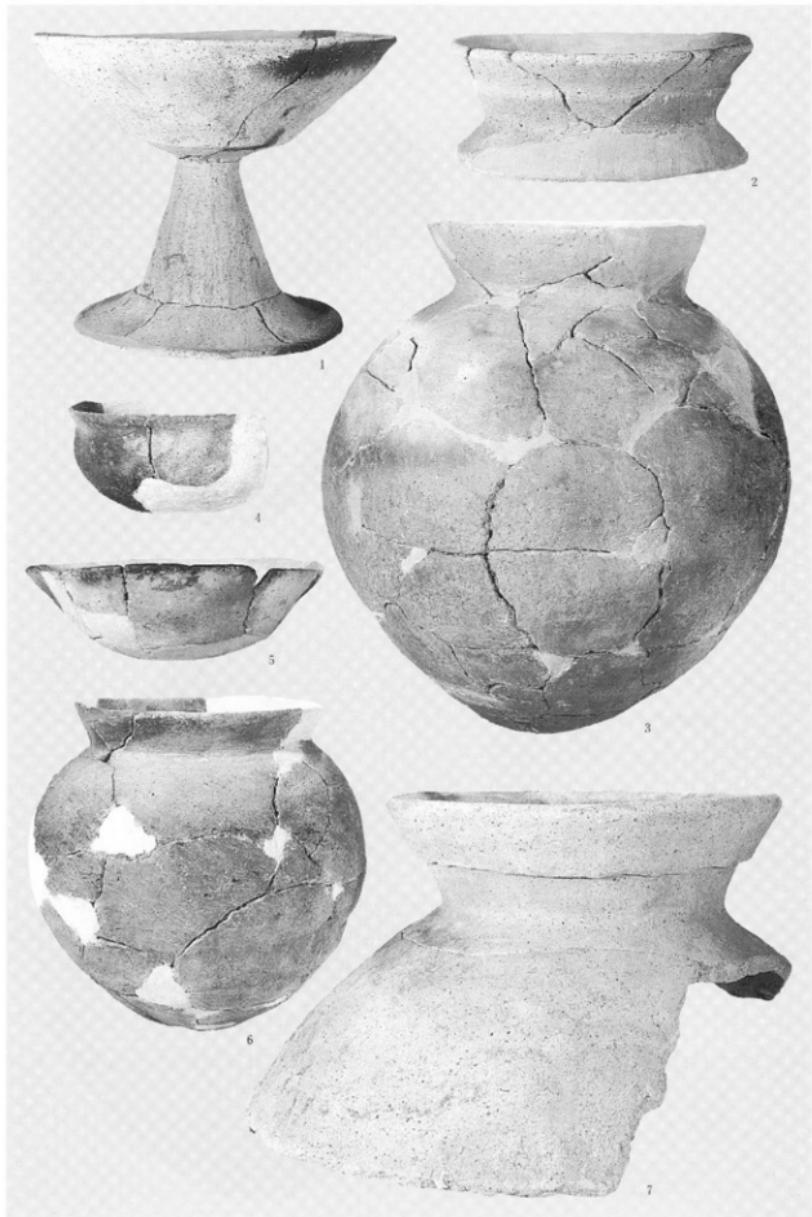


写真73 土器 (4)

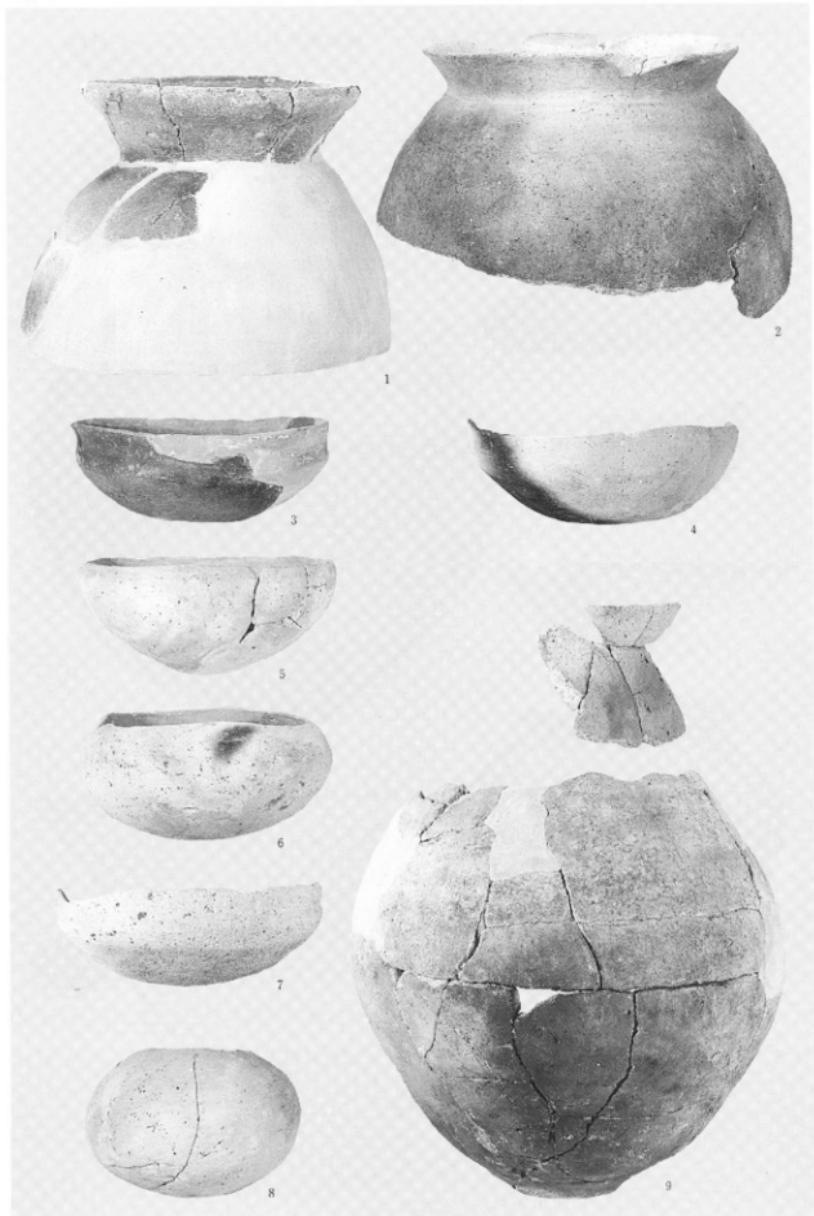


写真74 土師器 (5)

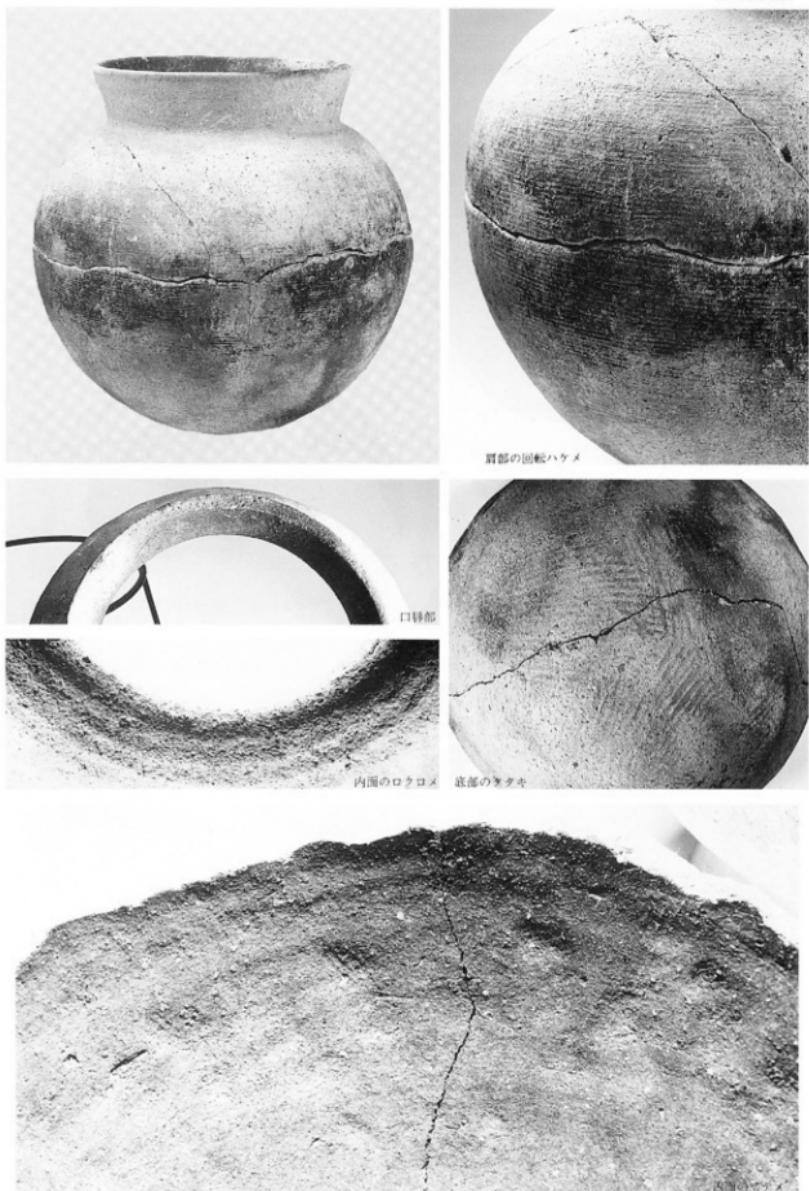


写真75 土師器 (6)

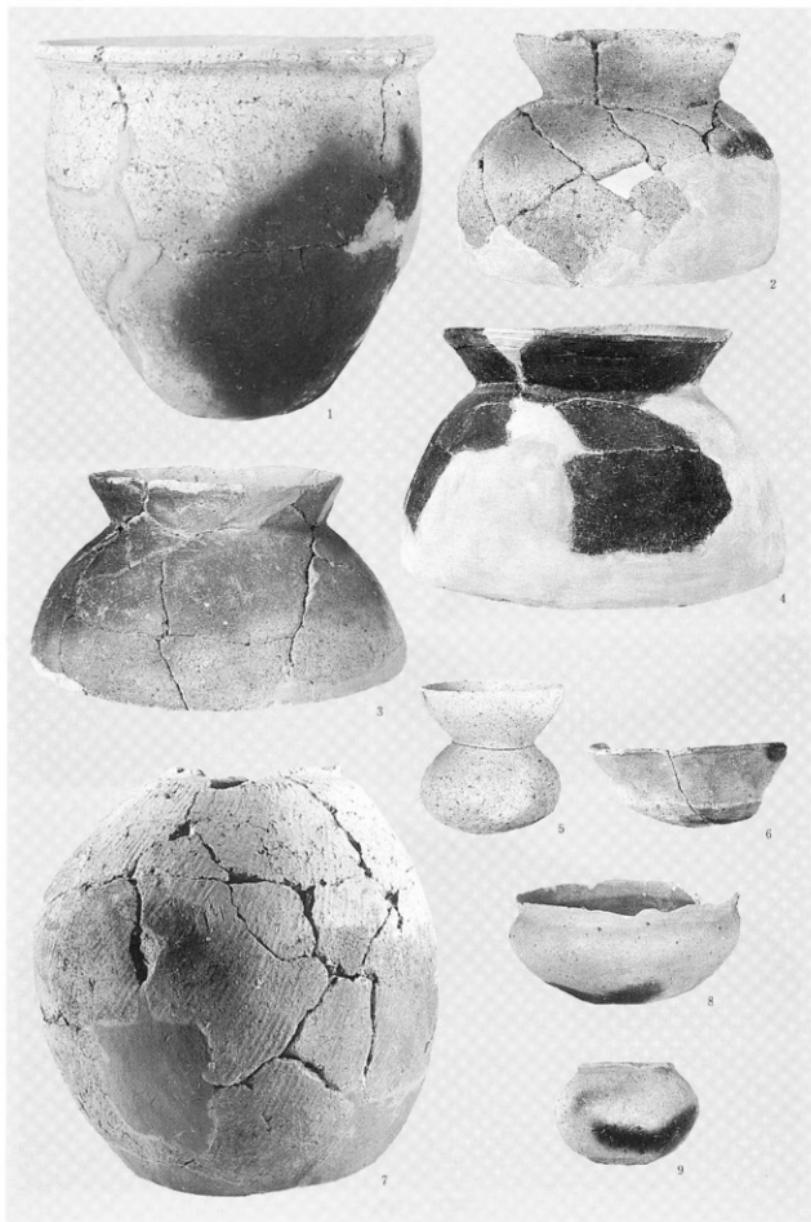


写真76 土師器 (7)

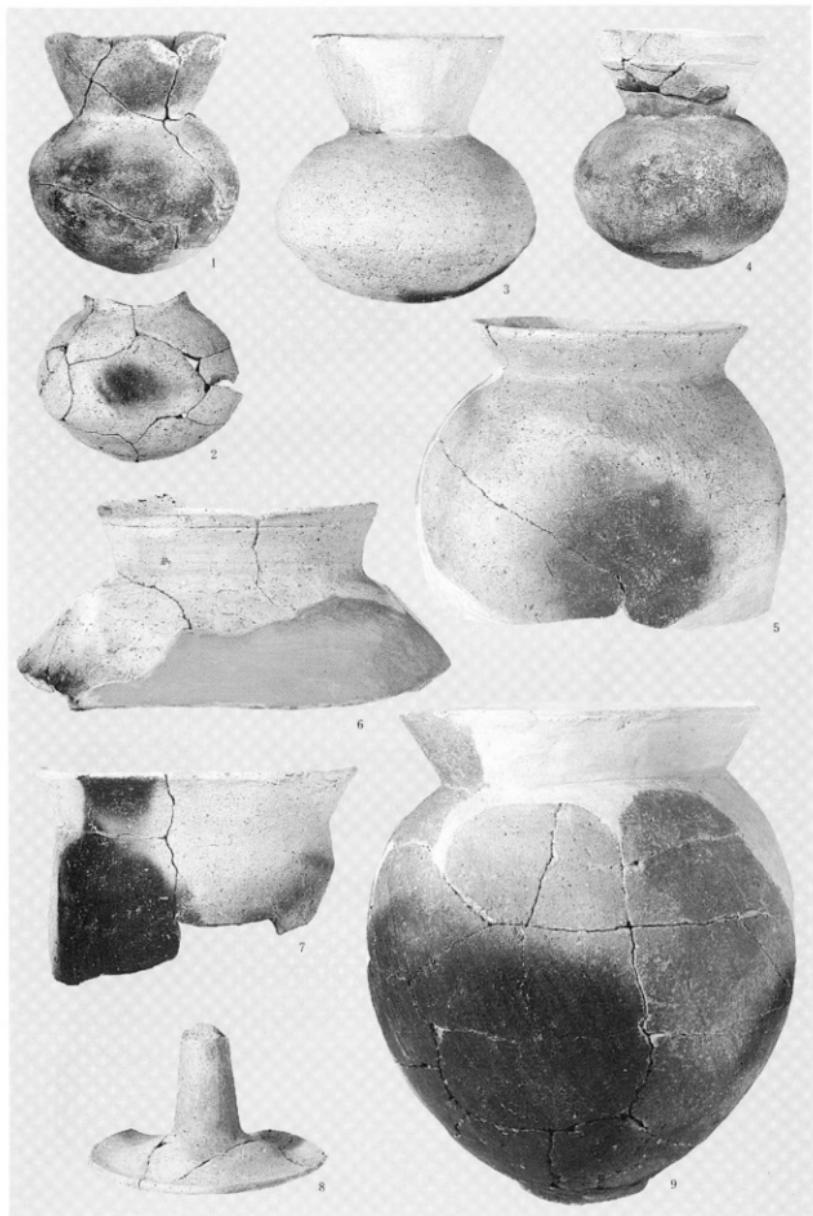


写真77 土師器 (8)



写真78 土師器 (9)

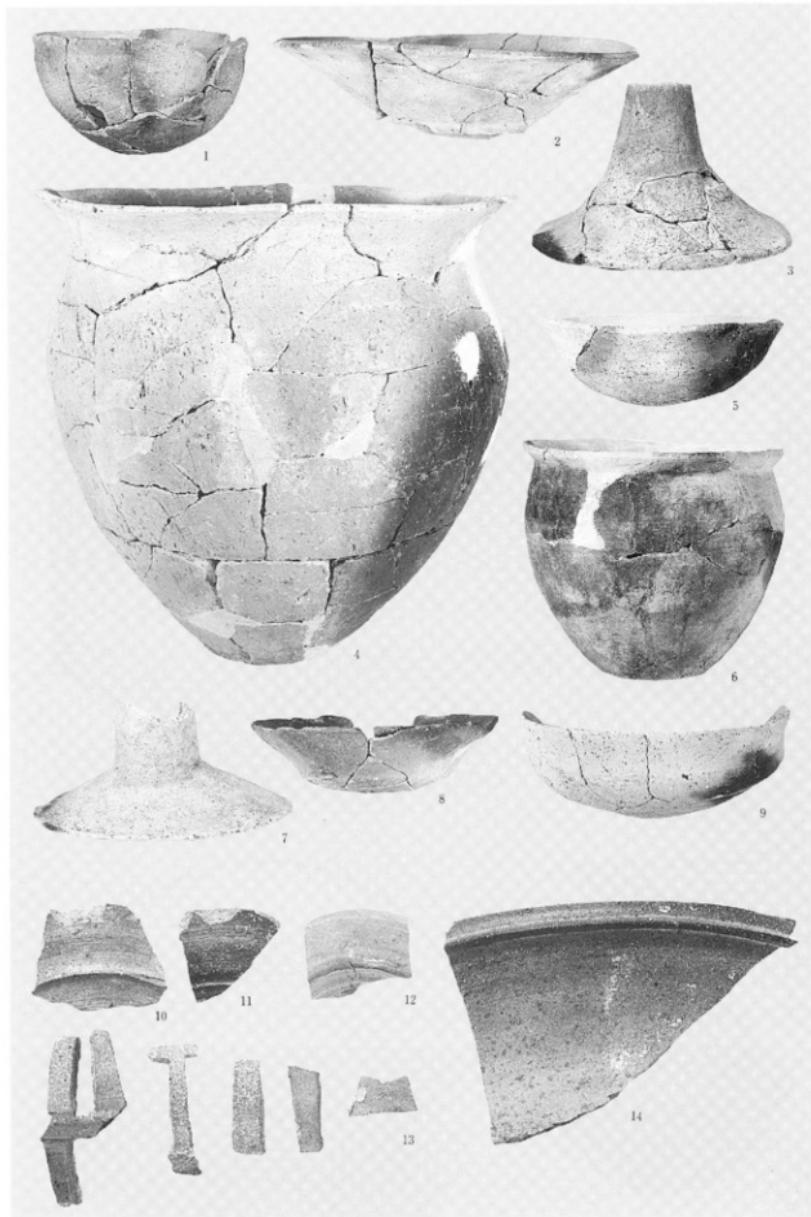


写真79 土器・須恵器

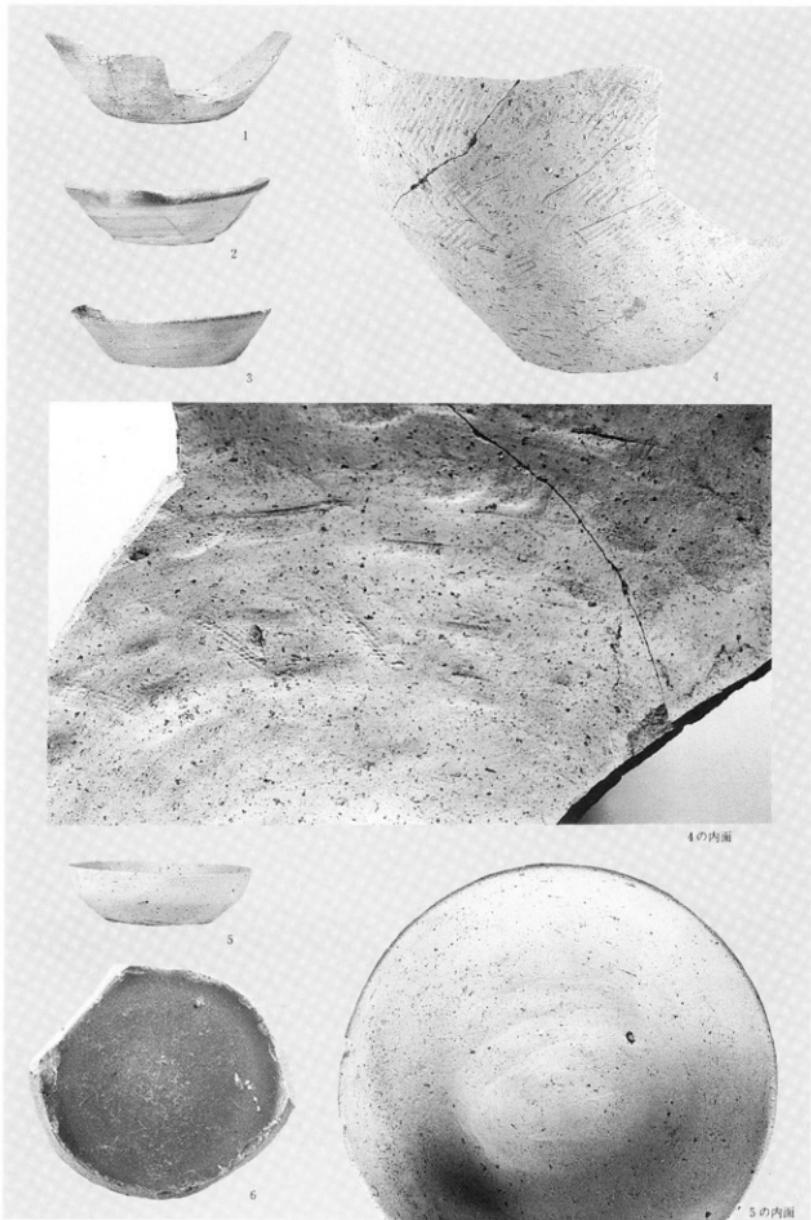


写真80 須恵器・土師質土器・磁器

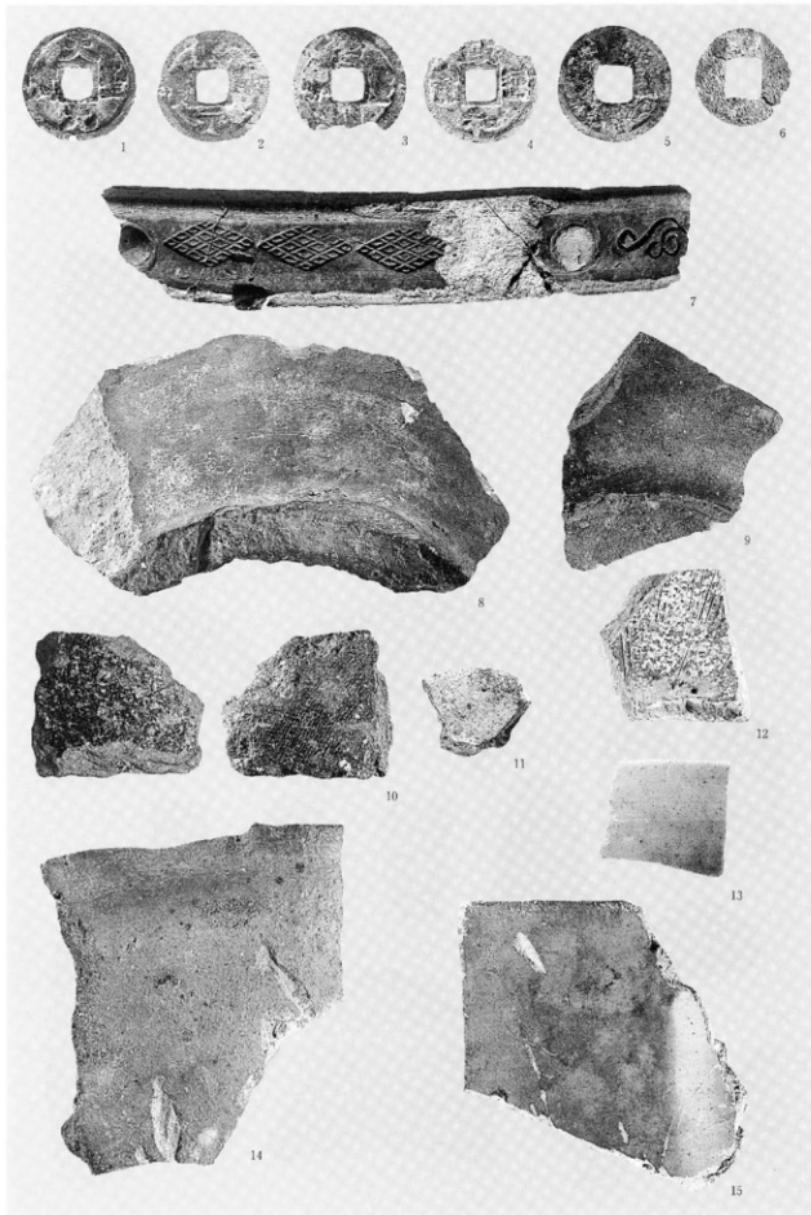


写真81 古銭・陶磁器・瓦

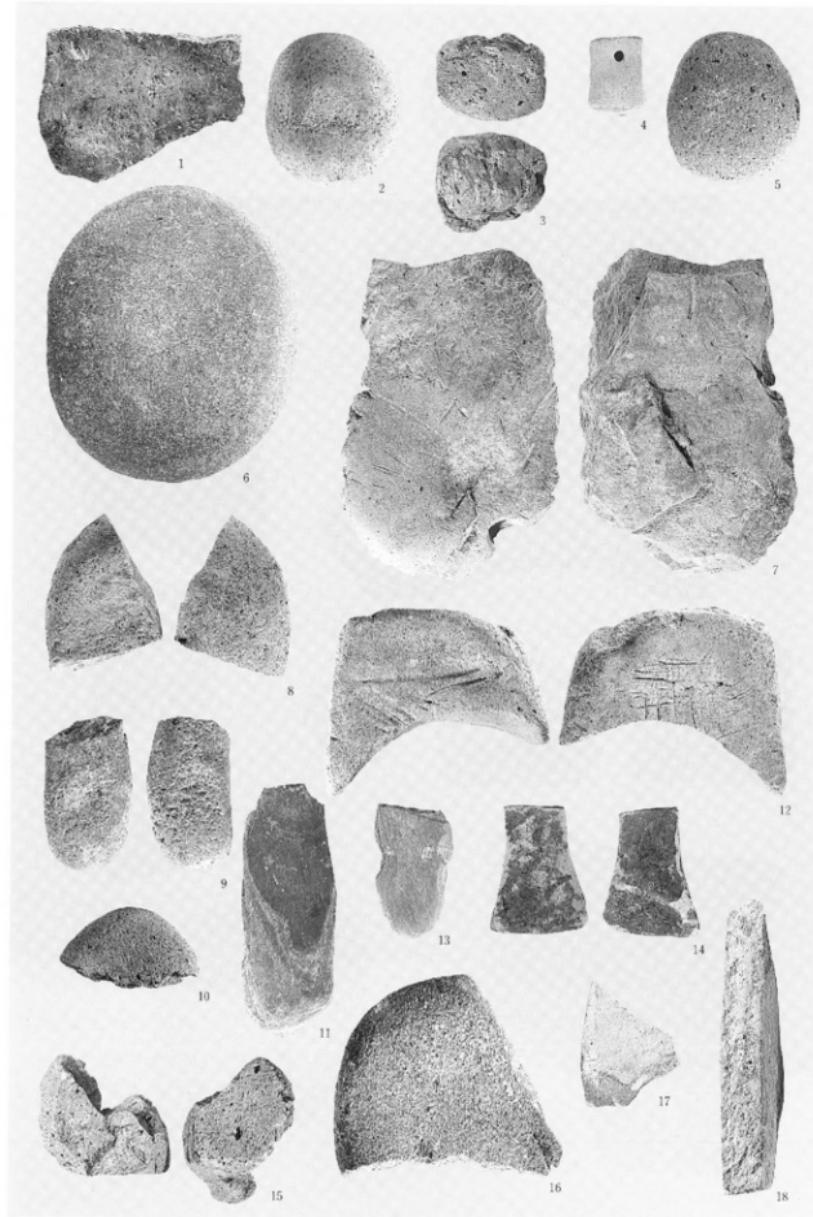


写真82 積石器



写真83 磚石器・石製品・土製品

第30次調査

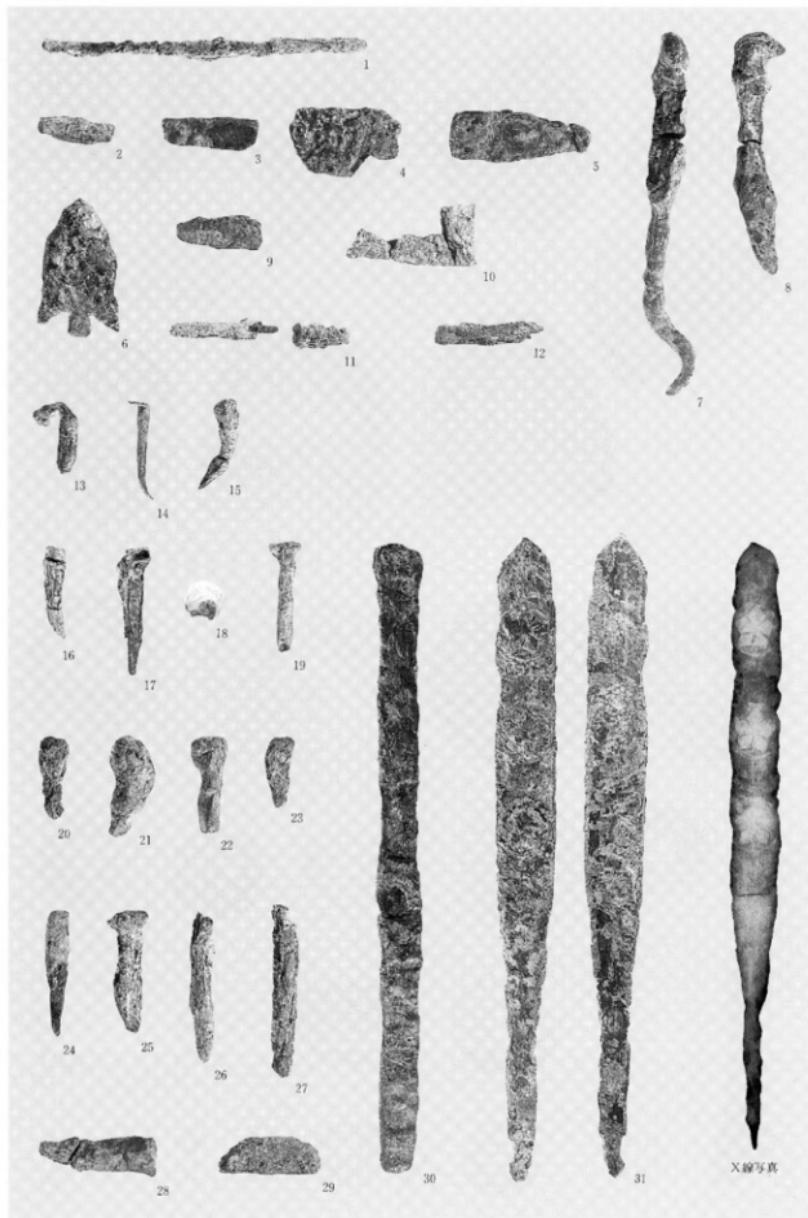


写真84 鉄 製 品

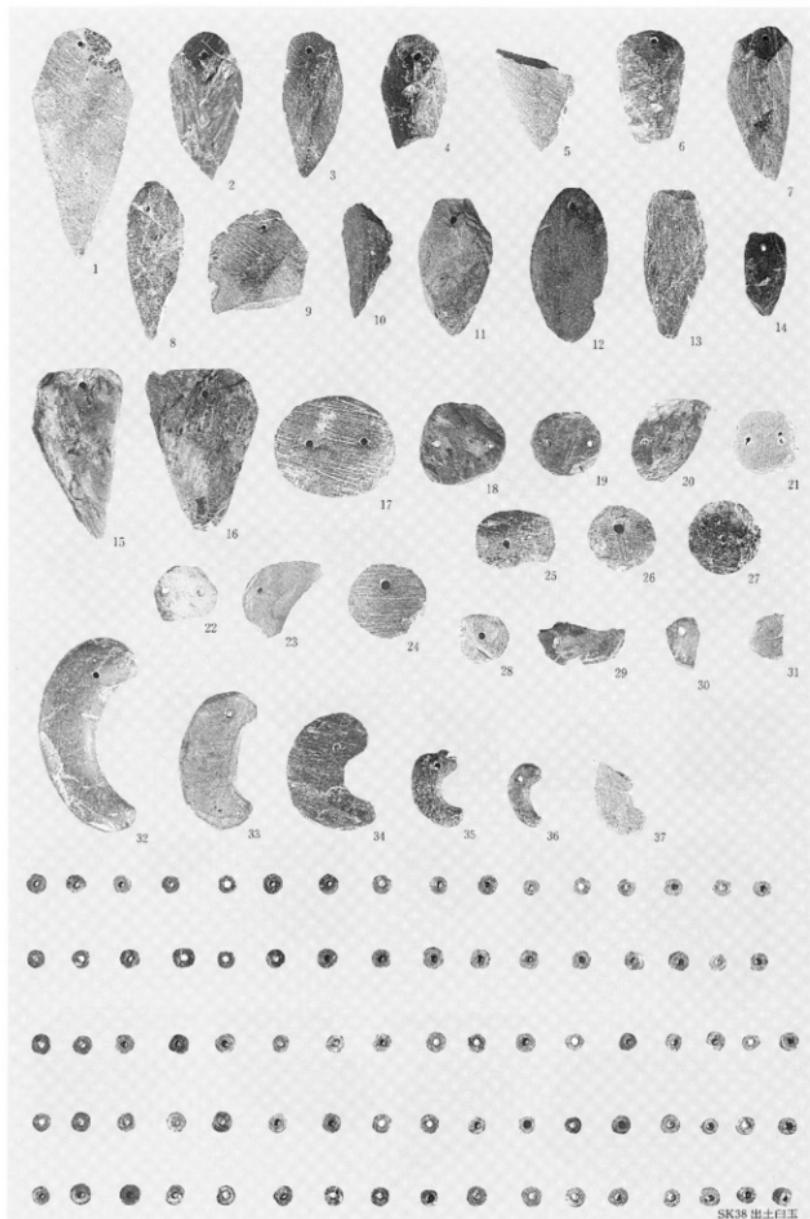


写真85 石製模造品

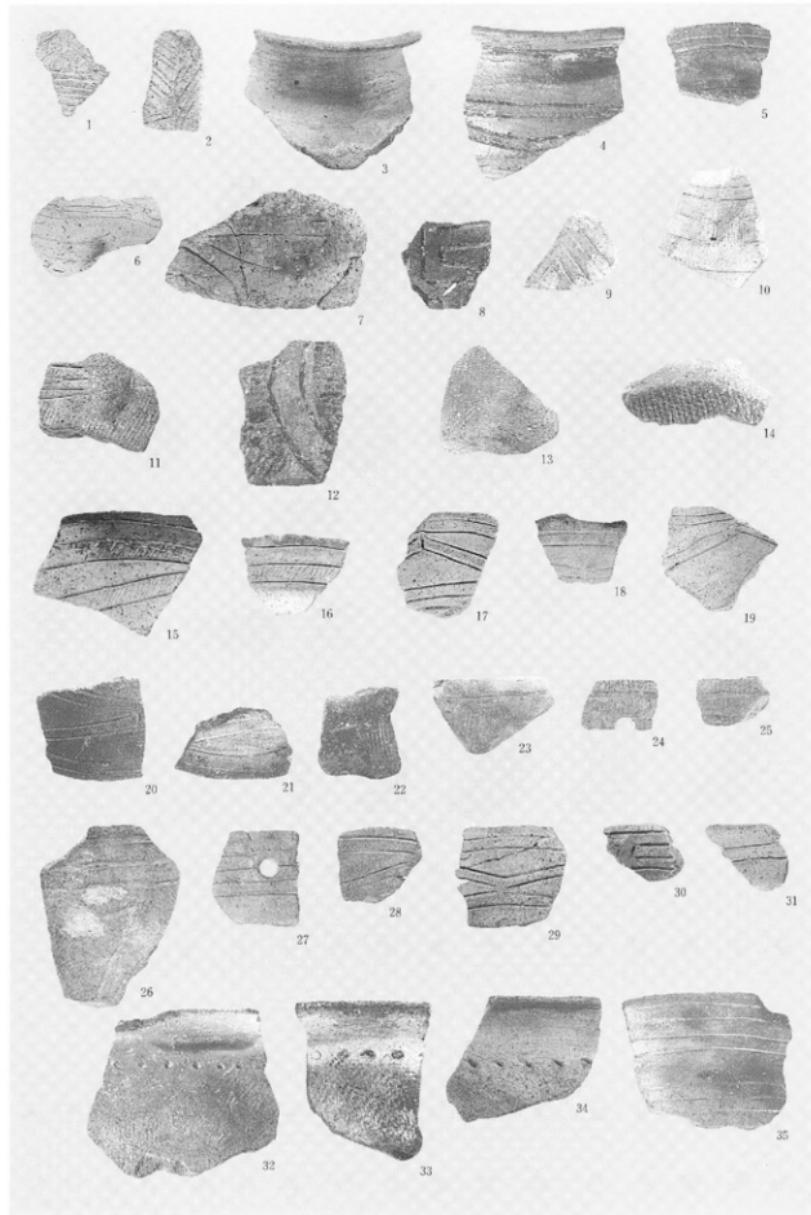


写真86 弥生土器

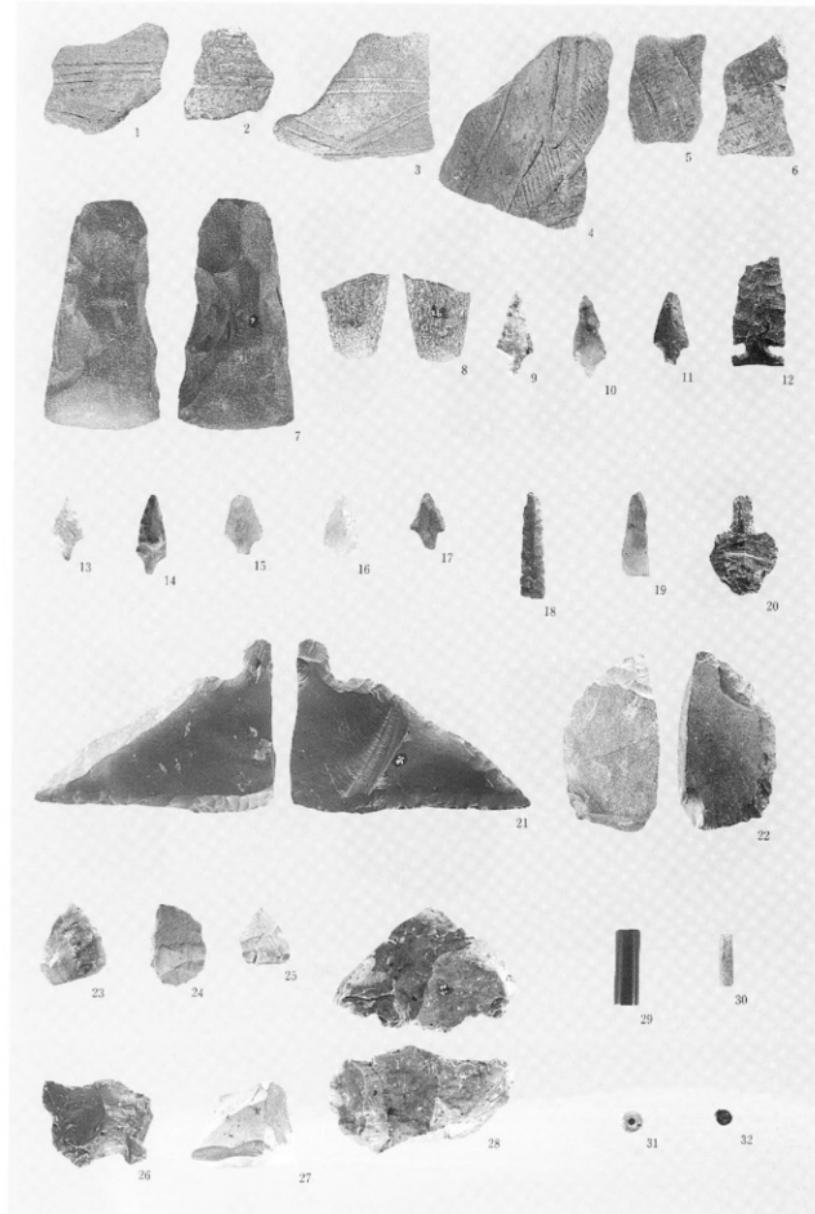


写真87 弥生土器・剥片石器・管玉・ガラス玉

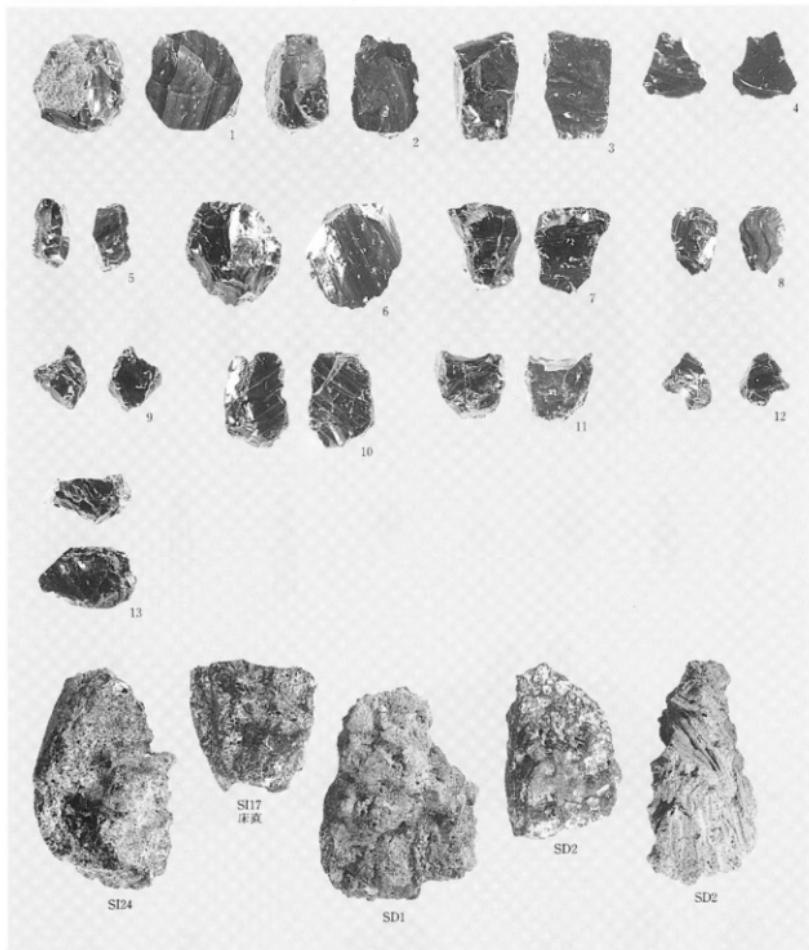


写真88 黒曜石の石器・鉄滓



写真89 II・III区中近世遺構全景（北から）



写真90 I・II区住居跡群全景（南から）

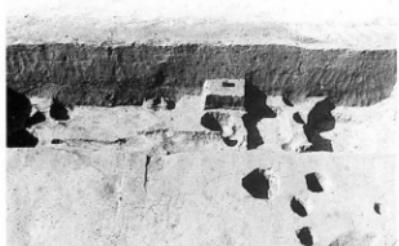


写真91 SI-02 全景（東から）

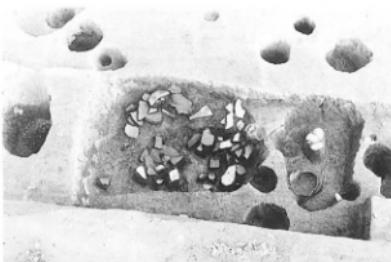


写真92 SI-02 遺物出土状況（西から）



写真93 SI-02・SK-3（北から）



写真94 SI-07 床面検出状況（西から）



写真95 SI-11 全景（西から）



写真96 SI-03 全景（西から）

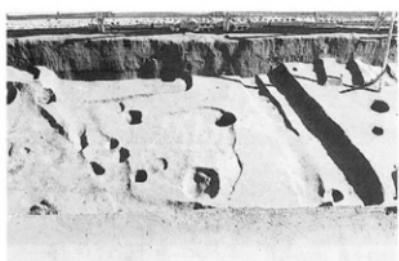


写真97 SI-09 全景（西から）



写真98 SI-09 遺物出土状況（西から）

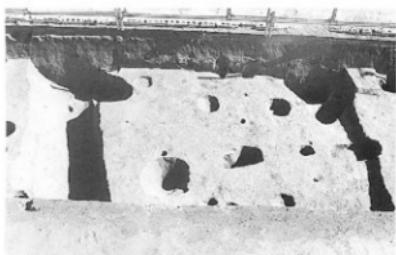


写真99 SI-04 全景（西から）

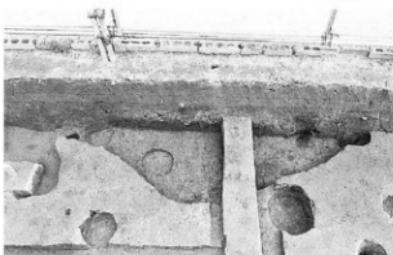


写真100 SI-08 床面検出状況（西から）

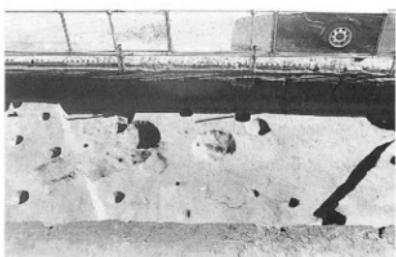


写真101 SI-05 全景（西から）



写真102 SI-05 カマド（南から）



写真103 SI-05 カマド（南から）



写真104 SI-05 遺物出土状況（南から）



写真105 SI-01 全景（西から）

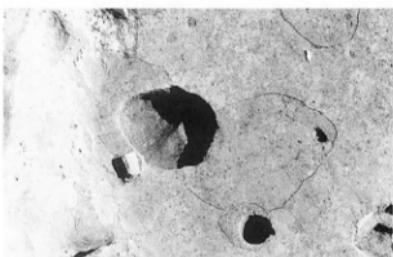


写真106 SI-01 遺物出土状況（西から）

第31次調査

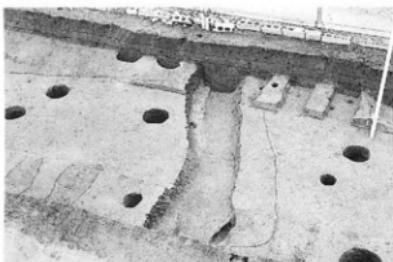


写真107 SD-02 全景（西から）

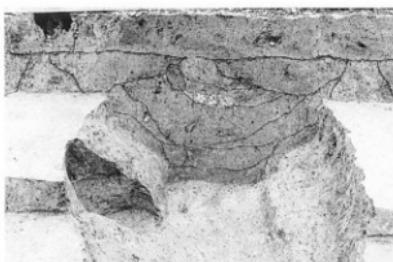


写真108 SD-02 西壁セクション（東から）



写真109 SD-16 全景（西から）



写真110 SD-16 セクション（東から）



写真111 SD-03・11・12 全景（南から）



写真112 SD-03・11 全景（西から）



写真113 SD-03・11 西壁セクション（東から）



写真114 SD-12 セクション（西から）

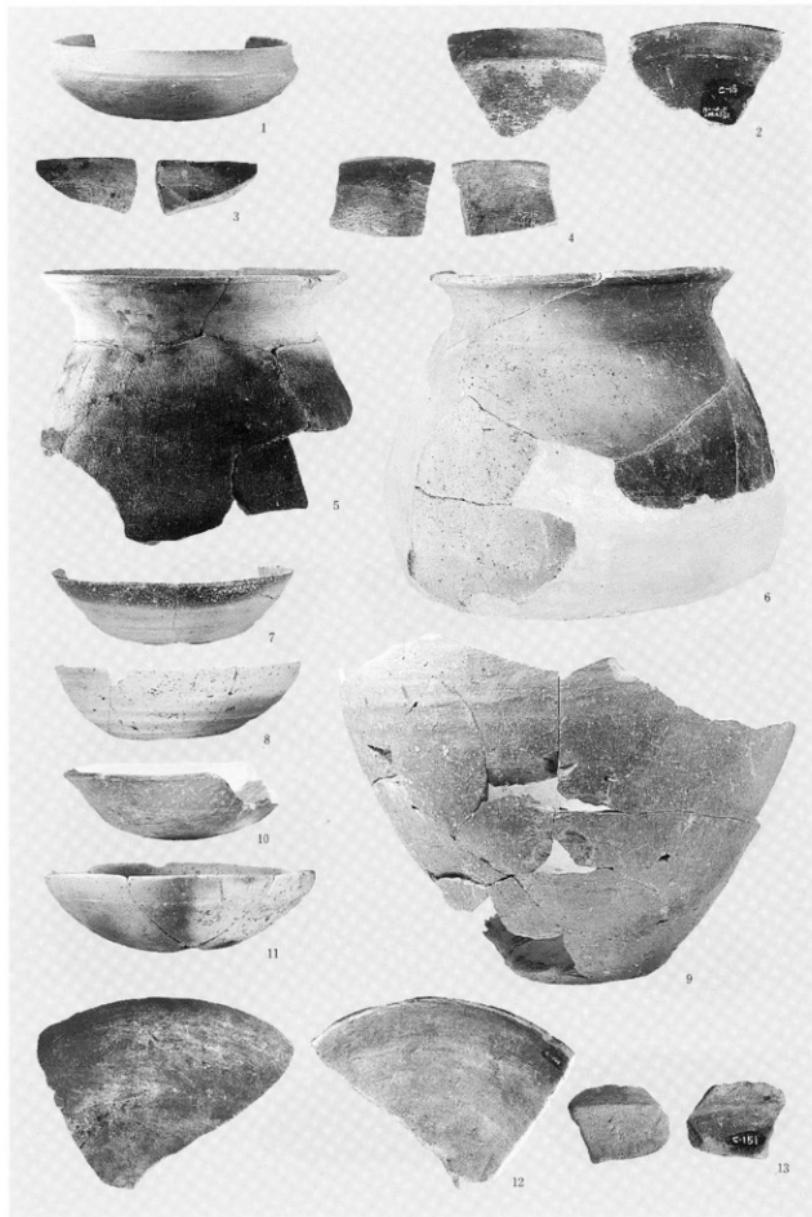


写真115 土器・須恵器

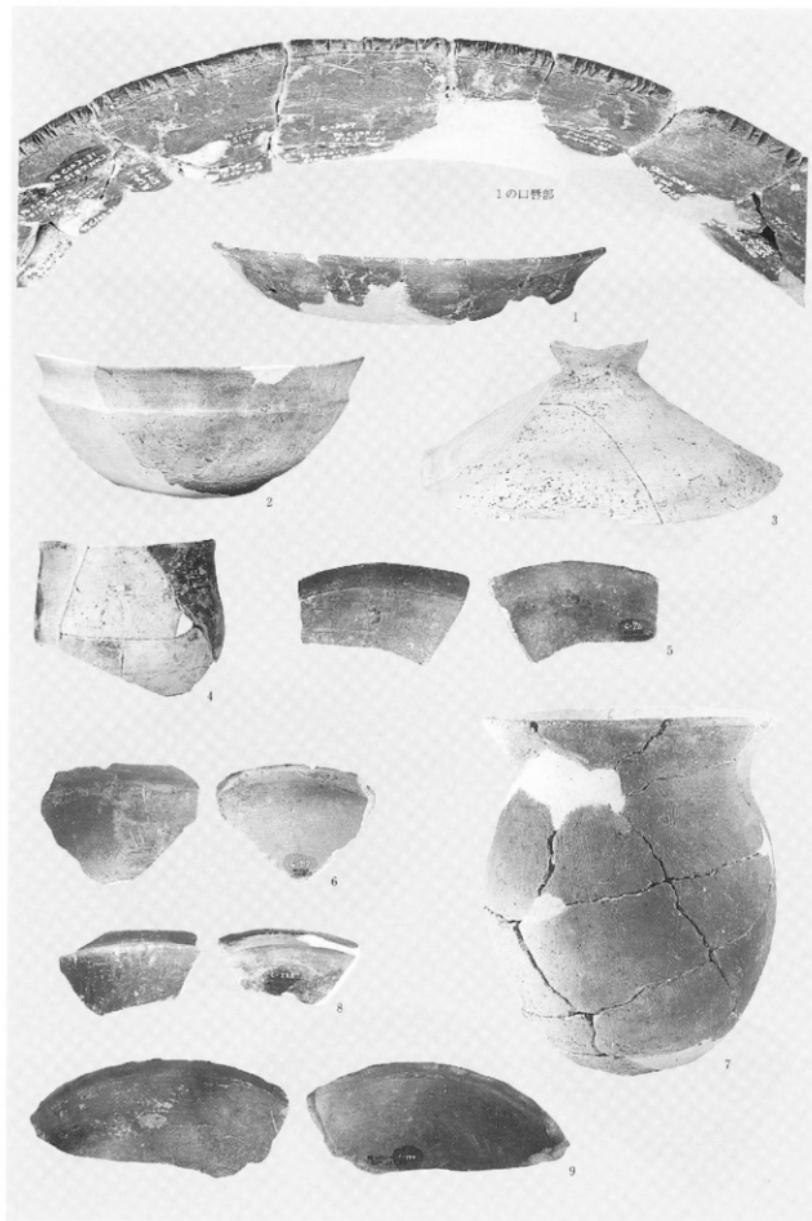


写真116 土師器 (2)



写真117 土器 (3)

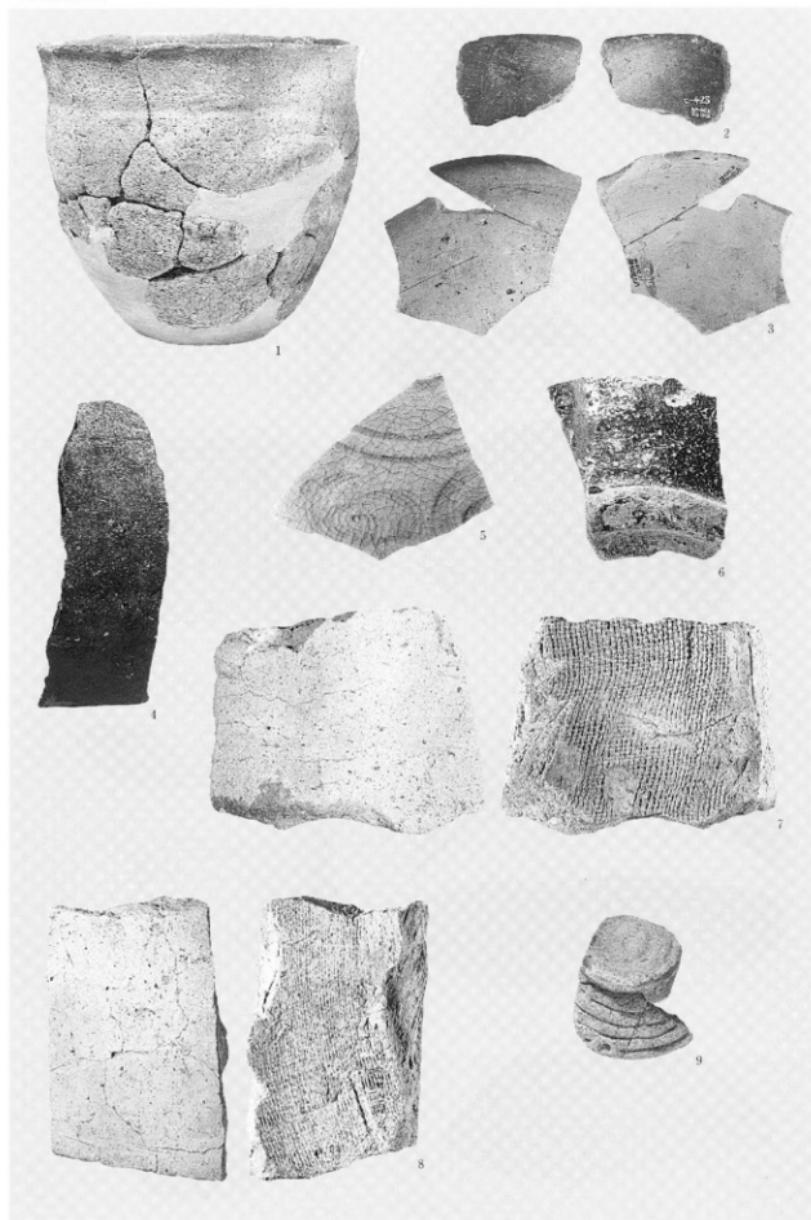


写真118 土師器・陶磁器・瓦・弥生土器

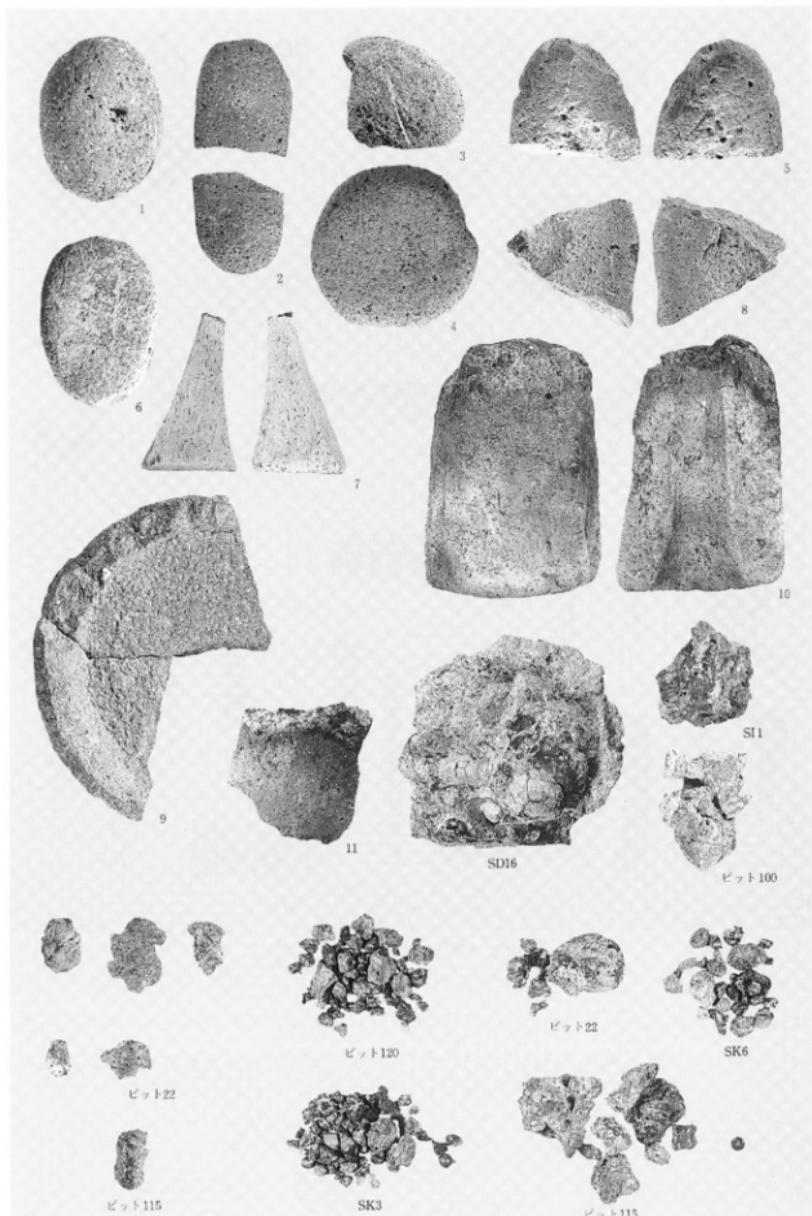


写真119 磬・石器・石臼・羽口・鉄津など



写真120 土製品・石製品・鐵製品・古銭

報告書抄録

ふりがな	みなみこいづみいせき						
書名	南小泉遺跡						
副書名	第30・31次発掘調査報告書						
巻次							
シリーズ名	仙台市文化財調査報告書						
シリーズ番号	第226集						
編著者名	工藤信一郎・渡部 記・根本光一						
編集機関	仙台市教育委員会						
所在地	〒980-8083 仙台市青葉区国分町三丁目7-1 TEL 022-214 8893~8894						
発行年月日	1998年3月31日						
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード 市町村	北緯	東經	調査期間	調査面積m ²	調査原因
みなみこいづみいせき 南小泉遺跡 第30次調査	宮城県仙台市 若林区遠見塚 ・丁目242-4他	041009 01021	38°14'10"	140°54'50"	1996.5.7 1996.9.13	400	宅地造成工事に伴う事前調査
南小泉遺跡 第31次調査	宮城県仙台市 若林区南小泉 四丁目27-1他	041009 01021	38°14' 5"	140°54'20"	1996.9.17 1996.11.14	150	集合住宅建設工事に伴う事前調査
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項		
南小泉遺跡 第30次調査	集落跡	古墳時代	古墳時代中期の集落跡 中世の屋敷跡・中世墓	土師器・須恵器・石器 石製品・土製品	階段付地下式坑2基 黒曜石石器出土		
南小泉遺跡 第31次調査	集落跡	古墳時代	古墳時代後期の集落跡 鍛冶関連遺構	土師器・須恵器・石器	関東系土師器出土		

仙台市文化財調査報告書第226集

南小泉遺跡

—第30・31次発掘調査報告書—

1998年3月

発行 仙台市教育委員会

仙台市青葉区国分町三丁目7-1

文化財課 022(214)8893

印刷 株式会社 東北プリント

仙台市青葉区立町24-24

TEL 263-1166
